

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会  
外国語ワーキンググループ（第10回）議事次第

1. 日 時 令和8年3月23日（月）16：30～19：00

2. 場 所 文部科学省東館5F6会議室

※WEB会議と対面による会議を組み合わせた方式

3. 議 題

（1）「資質・能力の構造化」等について

（2）「活動を通じた指導の在り方」について

（3）その他

4. 配付資料

進行資料 外国語ワーキンググループ（第10回）の流れ（イメージ）

資料1 「資質・能力の構造化」等について

資料2 「活動を通じた指導の在り方」について

参考資料 各教科等WGにおける資質・能力の構造化等に関する検討状況

## 1 開会

|             |         |
|-------------|---------|
| 16:30～16:35 | 進行上の確認等 |
|-------------|---------|

## 2 議題（1） 「資質・能力の構造化」等について

|             |         |
|-------------|---------|
| 16:35～16:55 | 事務局より説明 |
|-------------|---------|

|             |      |
|-------------|------|
| 16:55～17:45 | 意見交換 |
|-------------|------|

～休憩（5分）～

## 3 議題（2） 「活動を通じた指導の在り方」について

|             |         |
|-------------|---------|
| 17:50～18:10 | 事務局より説明 |
|-------------|---------|

|             |      |
|-------------|------|
| 18:10～18:55 | 意見交換 |
|-------------|------|

## 4 閉会

|             |              |
|-------------|--------------|
| 18:55～19:00 | 次回以降についての連絡等 |
|-------------|--------------|

# 「資質・能力の構造化」等について



## 1. 外国語を学ぶ意義

- ・ AI時代に外国語を学ぶ意義の再定義と、外国語の「見方・考え方」の見直し

## 2. 目標・内容の一層の構造化

- ・ 「学びに向かう力・人間性等」の整理等を踏まえた目標の示し方
- ・ 「高次の資質・能力」（「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」）を中心とした内容の一層の構造化

## 3. 発信力強化

### （1）グローバル・多文化共生社会の担い手の育成 （外国語で他者とコミュニケーションを図る意欲等の育成）

- ・ 英語を学ぶ動機付けや児童生徒の目標設定の在り方
- ・ 動機付けを強化するための話題・活動の在り方

### （2）英語の使い手の育成（英語運用能力の育成）

- ・ 校種間接続の課題等を踏まえた指導内容（話題・活動等）の段階的な示し方
- ・ 5領域の活動を通じた知識及び技能の指導の在り方（語彙や文法の指導を含む）
- ・ 科学的知見を踏まえた学習プロセスを意識した指導の在り方
- ・ 高等学校の科目（特に「論理・表現」）の在り方
- ・ AIを含むデジタル学習基盤の活用の在り方

## 4. 児童生徒の英語力の把握・評価

- ・ 「学びに向かう力・人間性等」の評価の新しい整理を踏まえた評価等の在り方

## 5. 柔軟な教育課程

- ・ 義務教育における調整授業時数制度や高校における科目の柔軟な組み替えや履修の免除を可能とする仕組みを前提とした場合に、考えられる教育課程・学習指導の工夫の在り方

## 6. 指導体制・環境整備等

- ・ AI時代の教師・ALT等の役割の再定義
- ・ 教員の資質（英語力・授業力）向上のための方策と、ALT等との連携の在り方
- ・ 外国語を使う機会の充実の在り方

## 7. 英語運用能力に関する社会全体の課題

- ・ 英語運用能力に関する社会全体の課題と、学校教育において取りうる対応の方向性

## 8. 英語以外の外国語

- ・ 英語以外の外国語の推進方策





# **「資質・能力の構造化」について**



## 【現状と課題】

### 教育企画特別部会における議論

- 教育企画特別部会において「資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性」として示された事項のうち、特に以下の点については、第6回外国語WGでの意見と併せ、検討が必要と考えられる
- 学習指導要領の記述が、教師にとって分かりやすく、学校を通じて保護者や地域住民等に伝えやすいものであるという視点から見れば、整理されている「見方・考え方」や「高次の資質・能力」の中には依然として記載が冗長であったり、理解が難しい用語を用いて表現されているものも散見されるため、一層分かりやすくシンプルに示すことが可能かどうか、引き続き各WGで検討してはどうか
- 「思考力・判断力・表現力等」については、これまでに習得した知識や技能を活用して、実社会・実生活などの場面を想定した課題解決に近い形で資質・能力を発揮するという性質の柱であり、「知識及び技能」とりわけ技能との適切な整理が必要

※ なお、上記「資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性」で示された事項のうち、「高次の資質・能力を踏まえた個別の資質・能力の精査」や「趣旨を実現するための教科書の在り方の検討」については、児童生徒がコミュニケーションにおいて使用頻度の高い重要な語彙や文法等を繰り返し扱うことで、それらを着実に身につけ、使うことができるようにする観点から、語彙リストの作成やそれに伴う語彙数の精選、中学校で指導すべき文法事項の焦点化、中学校の話題の見直し等、関連する事項が検討されてきたところ引き続き議論が必要な事項がないか、検討が必要



## 【方向性と具体的論点（案）】

### 検討の方向性

- 現在の「見方・考え方」の案は、他教科と比較して記載が冗長となっているため、わかりやすく簡潔に示すべきではないか
- その際、「見方」に示されている要素は、外国語を学ぶ本質的意義（言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと）を具体化している部分であり、目標や高次の資質・能力への位置づけとの重複もないことから、原案を維持し、「考え方」を簡潔に示すべきではないか

【案1】「考え方」に示されている受容と発信の要素は、高次の資質・能力や目標の学びに向かう力、人間性等においても位置づけられており、より簡潔に示すことが可能ではないか

（案）外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、（見方）  
他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること（考え方）

【案2】「考え方」に示されている「多様な他者との相互理解を図ること」は、外国語を学ぶ本質的意義を具体化している一方で、「考え方」としては抽象度が高いことから、受容と発信の要素を残すべきではないか

（案）外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、（見方）  
多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信すること  
多様な他者との相互理解を図ること（考え方）

【案3】「考え方」に示されている受容と発信の要素及び多様な他者との相互理解をより簡潔に示すことが可能ではないか。「表現等を工夫して」は、「多様な他者」とすることでその趣旨を表せるのではないか。

（案）外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、（見方）  
多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること（考え方）

- 上記と併せ、目標や高次の資質能力についても、一層分かりやすく簡潔に示すよう検討すべきではないか

※「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の整理については、評価の在り方と併せて別途議論。



# 資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）

令和8年2月2日  
教育課程企画特別部会  
資料 2 - 2  
(会議後修正) P1

- 各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況を一覧化し、本部会の論点整理で示した資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえ検討したところ、以下1～7については共通して精査を要するのではないかと
- ✓ これら以外に、各WGに対して個別に指摘すべき事項や、各WG共通で検討を要する事項はないか
- ✓ 本日の議論を踏まえて、引き続き総則・評価特別部会や各WGにおいて資質・能力の構造化の具体についてさらに検討を深めることとしてはどうか

## 1. 資質・能力の深まりの可視化

- 今般の構造化を通じ、「深い学び」が実現したイメージを教師が具体的に持つことができるようにすることが重要。**（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」B関連）**
- こうした視点で見た際に、抽出された「高次の資質・能力」のうち特に「統合的な理解」については、依然として個別の知識及び技能が不足なく身に付いた状態を「要約」して示すに留まっているものも見られる。
- 個々の知識・技能が単に網羅されているかではなく、「指導を通じて学びが深まったときの児童生徒の姿をイメージできるような確に示しているか」といった観点から、各WGで記載を見直し、個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、「統合的な理解」となった児童・生徒の姿を描き出せるよう更に検討すべきではないか。

## 2. 分かりやすさ、シンプルさの一層の追究

- 「深い学び」を実現する具体的なイメージを持つことができるようにするためには、学習指導要領の記述が、教師にとって分かりやすく、学校を通じて保護者や地域住民等に伝えやすいものであることも重要。**（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」D関連）**
- こうした視点で見た際に、整理されている「見方・考え方」や「高次の資質・能力」の中には依然として記載が冗長であったり、理解が難しい用語を用いて表現されているものも散見される。
- 各教科等の本質や育みたい資質・能力を十分に表現可能な範囲において、解説との役割分担も含め（教科等の本質的な意義に焦点化できているかという視点から精査）、一層分かりやすくシンプルに示すことが可能かどうか、引き続き各WGで検討してはどうか。

## 3. 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査

- 総則・評価特別部会においては、「高次の資質・能力」の全体を暫定的に整理した後、それらを基に各教科等WGにおいて個別の資質・能力の検討を行う際の方向性として以下を示した。**（【資料1】P7）**

「各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるか」といった視点からも検討」

- 今後、上記の方向性に加え、下記の留意点も踏まえつつ、各教科等WGで個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を進めてはどうか
  - ✓ 暫定的に現行学習指導要領の内容に基づき、高次の資質能力を整理してきたWGもあることから、今後の検討にあたっては、現行の指導内容が全て等しく重要であると安易に判断しないように留意する必要
  - ✓ 個別の資質・能力を検討していく中で「高次の資質・能力」の在り方についても往還しながら更に改善を図っていく必要

## その他「高次の資質・能力」での構造化に当たり留意すべきポイントについて

### （「高次の資質・能力」について）

- 単学年ごとに「高次の資質・能力」を示している場合などで、「高次の資質・能力」が個別の内容事項と近接してしまい資質・能力の深まりが示せていないものもあり、そういった場合は複数の「高次の資質・能力」をまとめて水準を上げることも考えられるのではないかな
- 特に「総合的な発揮」については、学びの成果として達成して欲しい姿として重要であると同時に、学習過程において、状況に応じて思考力・判断力・表現力を選択したり組み合わせたりしながら、繰り返し発揮される中で育成されていく側面を有するという視点も踏まえた示し方とすべき（一方、学習過程自体を記述するものではないことに留意が必要）
- 「高次の資質・能力」については、深い学びを実現する授業のイメージを教師が持てるようにする視点に加えて、児童生徒の多様性を包摂する授業づくりを進めるために活用するという視点も重要。このため、児童生徒の多様性を踏まえた多様なアプローチが許容されるものとなっている必要があります、そのためにも、特定の活動を想起させる狭い記載ではなく、できる限りスリムで骨太な記載とすべき

### （学校段階の特性を踏まえた共通性の確保について）

- 多くの教科を指導する小学校の教員から見ると、教科間の記載にばらつきが大きすぎると理解が進まない恐れ。各教科等の特性を踏まえつつも、各学校段階では一定の共通性を持って見られるよう抽象度の高さを含め一定の平準化が必要。他の学校段階や他教科等の表現も参考にしつつ、当該学校段階の発達段階を踏まえた「深い学び」の姿を具体的にイメージできるようになるかという共通の視点をもって検討が必要

### （資質・能力の3つの柱の性質を踏まえた整理について）

- 並列パターン、並行パターンといった形式上の違いはあれど、資質・能力の整理は本質的なところで共通している必要。特に「思考力・判断力・表現力等」については、これまでに習得した知識や技能を活用して、実社会・実生活などの場面を想定した課題解決に近い形で資質・能力を発揮するという性質の柱であり、「知識及び技能」とりわけ技能との適切な整理が必要。「学びに向かう力・人間性等」は「思考力・判断力・表現力等」の中で見取る方向で検討していることも踏まえ、異なる整理をしている教科においては、引き続き検討が必要



## 4. 今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化

- 「高次の資質・能力」を基にした今般の構造化・表形式化は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」について学びの深まりを可視化するとともに、それらを一体的に育成する学習の在り方を示し、教師一人一人が「深い学び」を具現化しやすくすることを目指すもの。
  - 一方で、整理・構造化された資質・能力について理解を深めることと、それらを活用して実際の単元・授業づくりに活かすこととの間には依然としてギャップがあるものと考えられる。「資質・能力」の深まりを捉えた後、それを実現する単元・授業をどのように構想し、実践に繋げていけばよいかを考えることは、特に経験の浅い教師にとっては、難しい場合もある。
  - そのため、構造化・表形式化する学習指導要領について、単元・授業づくりのこういった場面でのように活用することで授業改善に繋げていくことができるのか、各教科等ごとに参考イメージを示すことにより、指導主事や経験が豊かな教師が、経験の浅い教師を指導する際のイメージを共有できるようにすることを検討してはどうか。（補足イメージ参照）
- ※ このことに関わって、前回改訂時の中教審答申においては各教科等固有の「深い学び」を実現する学習過程を精緻に示す試みが行われたが、多くの要素が盛り込まれ、教科等によっては複雑で実現が難しいものとなったとの指摘もある。また今般、個別最適な学びの実現の観点も踏まえ、「個に応じた学習過程」の充実を目指すこととしている。これらを踏まえると、今回は単一の学習過程を整理するのではなく、子供一人一人が深い学びを実現するための専門職としての教師の多様な単元・授業づくりを支えるという視点から、上記のように、構造化・表形式化された学習指導要領の活用イメージとして、参考資料を示すことが適当ではないか。
- ※ その際、このイメージはあくまでも参考の一つとして示し、現場の実践を過度に縛るものにならないよう留意が必要。実践者が子供の実態を踏まえて、多様で豊かな単元・授業づくりを行う際の足掛かりの一つと位置づけてはどうか。

## 5. 用語の一層の整理・検討（高次の資質・能力）

- 企画特別部会では、今回の学習指導要領の一層の構造化の核となるものとして、「知識及び技能」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思考力・判断力・表現力等」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んで整理していたところ。
- これらの用語について、総則・評価特別部会では、新たな用語が増えることを避け、一人一人の教師が現行の学習指導要領の延長線上に今回の構造化を理解することができるようにする観点から、資質・能力の深まりを示すものを「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」、それらをまとめて「高次の資質・能力」と呼ぶことと整理した。（【資料1】P3参照）
- 「統合的な理解」「総合的な発揮」の呼称については、今回の構造化の趣旨の理解を進める上で効果的に働いている一方、「高次の資質・能力」という語については、各教科等WGでは、学校現場には単に「レベルの高い高度な資質・能力」として受け取られる等の誤解を招くのではないかといった懸念もあったところ。
- こうしたことも踏まえ、「高次の資質・能力」という用語については、今回の構造化を検討・議論する上の「足場」としては重要であり引き続き使用することとしつつも、実際に学習指導要領を告示する段階に向けて、更に適切な語があればそれを用いることとするか、または告示文の中ではあえて用いない（「統合的な理解」「総合的な発揮」のみで説明）こととしてはどうか。

## 6. 趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討

- 企画特別部会の論点整理においては、今般の構造化の趣旨を踏まえて教科書の内容は「統合的な理解」「総合的な発揮」をつかみ取りやすくなるものに精選していくとともに、その分量の在り方に関しては、調整授業時数制度の下で、調整後の時数で十分に指導可能なものとなるよう検討すべきとの方針を示している。
- 一方で、教科書会社からは、そうした「高次の資質・能力」をつかみ取りやすい教科書は具体的にどのようなものかイメージが湧きにくいという声もあり、総則・評価特別部会においては、各教科等WGにおいて「高次の資質・能力をつかみやすい当該教科等の教科書の在り方について、内容の精選の在り方も含めて検討を行う」方針が示されているところ。（【資料1】P7）
- これらの方針を踏まえつつ、各教科等WGにおいては、
  - 3. に示す個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を着実に進めていくとともに、
  - 「高次の資質・能力」をつかみ取りやすい単元・授業づくりに資する観点から、現在の教科書のどういった内容を精選対象とすることが考えられるか、またどういった構成上の工夫が考えられるかといった点についてのアイデア出しを行い、教科書会社における教科用図書の編纂の参考となるよう検討を進める
 こととしてはどうか。
- 中央教育審議会におけるこれらの検討状況も踏まえつつ、調整授業時数制度を活用して標準を下回って時数を設定した後の授業時数でも、教科用図書の内容を適切に取り扱った指導が可能となるような教科書編纂を促すための仕組み作りなどについて、検定調査審議会において具体的に検討することとしてはどうか。

## 7. 構造化・表形式化・デジタル化・調整授業時数・個に応じた学習過程の関係性の整理

- これまで、学習指導要領の構造化・表形式化と、デジタル化、調整授業時数制度をはじめとする柔軟な教育課程編成を促す仕組み、個に応じた学習過程の充実については、それぞれ一定の検討時間を要するものであったため、トピックを分けて具体化の議論を進めて来た。
- もとより、これらの方策はいずれも密接に関連している（※）ものであることから、トピックごとに一定の具体化が進んできた現段階において、相互の関係を改めてしっかりと可視化し、学校現場が一体的に理解できるよう示していくことが重要ではないか。

（※）相互の密接な関連の例

- ・「高次の資質・能力」に基づく構造化・表形式化は、各教科等の「深い学び」を実現しやすくするために重要であるだけでなく、各学校が子供の実態に応じた柔軟な教育課程を編成したり、個に応じた多様な学習過程を充実する中にあっても、外してはならない教育課程の「軸」を明確化する役割も有している。
- ・「高次の資質・能力」で示した教育課程の「軸」をおさえつつ、子供の実態に合わせた柔軟な教育課程を編成・実施していく上では、系統性を確保しながら多様な実践アイデアを練る必要がある。このため、学習指導要領に示された内容を様々な角度から比較・参照して理解することや、データで出力して進捗管理に活用することを可能とするなど、学習指導要領のデジタル化による利便性の向上・活用幅の拡大が効果的と考えられる。
- ・多様な子供一人一人に深い学びを実現していくためには、調整授業時数制度を用いて学校レベルでの教育課程を柔軟化することも重要であるが、その先に個々の児童生徒のレベルでの学習過程の質が個に応じたものとして改善していくことが求められる。そのためには、学習方略の指導等を含め、個に応じた学習過程の充実を支える方策の充実が重要となる。
- そのため、今後総則・評価特別部会において、これらの方策がどのように相互に関連しているかを一層明らかにしつつ、その結果としてどのような単元・授業づくりを目指そうとしているのかを取りまとめにおいて可能な限り示していくことが考えられるのではないか。

## 見方・考え方

見方  
考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

## 英語の目標

## 小学校 外国語活動

英語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、【P】聞くこと、話すことの言語活動を通して、次のとおり育成することを旨とする。

## 小学校 外国語

英語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、次のとおり育成することを旨とする。

## 中学校

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、次のとおり育成することを旨とする。

## 高等学校 (英コミュ(総合) I) (仮称)

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらをつなぎ付けた統合的な言語活動を通して、次のとおり育成することを旨とする。

## 内容

## 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

## 小学校 外国語活動

ごく身近な事柄話題について、  
・情報などを聞き、内容を捉える推測することに慣れ親しむことができる。【理解する】  
・相手を意識しながら、自分の考えや気持ちなどを話して伝えることに慣れ親しむことができる。【表現する】  
・相手を意識しながら、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことに慣れ親しむことができ、相手を理解しようとする。【伝え合う】

## 小学校 外国語

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、  
・聞いて情報を整理し捉え、考えを形成するとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現等の意味を考えながら読むことができる。【理解する】  
・自分の考えや気持ちなどを整理し、語句や表現等を選んで相手に話して伝えるとき、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現等を用いて、書いて伝えることができる。【表現する】  
・相手の考えなどが話した内容を踏まえ、自分の考えや気持ちなどを、語句や表現等を選んで伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】

## 中学校

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、  
・聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などや経験と関連付けたり比較したりして、考えを形成することができる。【理解する】  
・情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、表現等を工夫して他者に伝えることができる。【表現する】  
・相手の考えなど相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、相手に分かりやすいように表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図る深めることができる。【伝え合う】

## 高等学校(英コミュ(総合) I) (仮称)

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、  
・聞いたり読んだりして、情報や基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に捉え、整理したり、既存の知識などや経験と関連付けたり比較したりして、考えを形成してまとめることができる。【理解する】  
・情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して他者に適切に伝えることができる。【表現する】  
・相手の考えなど相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、相手に分かりやすいように論理性に注意しながら内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して適切に伝え合うことができ、相互理解を図る深めることができる。【伝え合う】

## 知識及び技能に関する統合的な理解

## 小学校 外国語活動

英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。

## 小学校 外国語

音声、語彙、表現及び文構造並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせることで、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

## 中学校

音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせることで、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

## 高等学校(英コミュ(総合) I) (仮称)

音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせることで、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

※小学校外国語活動においては、音声や基本的な表現への慣れ親しみを旨としており、上記「～でき／できる」については支援があって可能となるものである点を内容の取扱いで示してはどうか

※「知識及び技能に関する統合的な理解」における英語と日本語との違いについては、活動を通じた知・技の指導の在り方において別途議論



# 構造化のイメージ（小・外国語活動の例）

※黄マーカー：企画特別部会報告時に修正  
※緑マーカー：今回修正

| 外国語の目標 | 知識及び技能                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                      | 学びに向かう力・人間性等                                                      |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 見方・考え方 | 外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること |                                                   |                                                                   |
| 英語の目標  | 知識及び技能                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                      | 学びに向かう力・人間性等                                                      |
|        | 英語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。                                                | ごく身近な事柄について、英語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 | 英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。 |

## 内容

|              | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                 | 領域           | 第3学年相当                                                                                                                                                                                                                                                                                | 第4学年相当                                                       |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 思考力、判断力、表現力等 | <b>ごく身近な事柄について、</b><br>・情報などを聞き、内容を捉えることに慣れ親しむことができる。【理解する】<br>・相手を意識しながら、自分の考えなどを話して伝えることに慣れ親しむことができる。【表現する】<br>・相手を意識しながら、自分の考えなどを伝え合うことに慣れ親しむことができ、相手を理解しようとする。【伝え合う】 | 聞くこと         | 話題 相手のことや身の回りの物について<br>条件 ごく身近な事柄について ※後半以降を想定<br>できること ゆっくりはっきりと話されれば<br>(ア) 簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることに慣れ親しむことができる                                                                                                                                                                         | (思・判・表) 第4回の議論を踏まえ、<br>現行の英語の領域別目標を元に、<br>話題とできることについて段階的に示す |
|              |                                                                                                                                                                          |              | 話題 基本的なやり取りに関する事柄について<br>条件 自分や相手のこと及びごく身近な事柄について ※後半以降を想定<br>できること 簡単な語句や基本的な表現を用いて<br>(ア) 挨拶、感謝、指示をしたりそれらに応じたりすることに慣れ親しむことができる（※基本的なやり取りに関する事柄に対応）<br>(イ) 動作を交えながら、自分の考えや気持ちを伝え合うことに慣れ親しむことができる（※自分のことや身の回りの物に対応）<br>(ウ) サポートを受けて、質問をしたり質問に答えたりすることに慣れ親しむことができる（※自分や相手のこと及びごく身近な事柄） |                                                              |
|              |                                                                                                                                                                          |              | 話題 身の回りの物について<br>条件 自分や相手のこと及びごく身近な事柄について ※後半以降を想定<br>できること 簡単な語句や基本的な表現を用いて<br>(ア) 人前で実物などを見せながら、話すことに慣れ親しむことができる                                                                                                                                                                    |                                                              |
|              |                                                                                                                                                                          | 話すこと（やり取り）   |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                              |
|              |                                                                                                                                                                          |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                              |
|              |                                                                                                                                                                          |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                              |
| 知識及び技能       | <b>音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、</b><br><b>言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。</b>                                                                                     | 英語の特徴等に関する事項 | ア 音声 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く<br>イ 文字 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かる<br>・文字の名称を表す読み方を聞いて、大文字や小文字と結びつけられる<br>・身の回りの物を表す語句の発音を聞いて、何を指しているか分かる                                                                                                                                | 文字の取扱い（知・技）について丁寧に示す                                         |
|              |                                                                                                                                                                          |              | 【P】言語の働きに関する事項<br>次の事項について、使用される場面やその働きに、体験的に気付く<br>ア …                                                                                                                                                                                                                               |                                                              |
|              |                                                                                                                                                                          | 文化に関する事項     | ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く<br>・異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める                                                                                                                                                                                                       |                                                              |
|              |                                                                                                                                                                          |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                              |

※小学校外国語活動においては、音声や基本的な表現への慣れ親しみを目指しており、上記「～でき／できる」については支援があって可能となるものである点を内容の取扱いで示してはどうか

※高次の資質・能力以外の内容の具体的な文言及び学年内における「できること」の段階付けについては、告示にあたり別途検討

※第4回で議論した、校種間の接続のための留意事項（各学校段階で確実に身に付けさせるべき事項と、前学校種からの学びの接続のために重点をおいて指導すべき事項）については主として「内容の取扱い」に記載してはどうか（小学校外国語科、中学校も同様）



# 構造化のイメージ（小・外国語の例）

※黄マーカー：企画特別部会報告時に修正  
※緑マーカー：今回修正

| 外国語の目標                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                             | 知識及び技能                                                                                                     |              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                   |  | 学びに向かう力・人間性等                                    |  |        |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------------------|--|--------|--|
| 見方・考え方                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                             | 外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること          |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |                                                 |  |        |  |
| 英語の目標                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                             | 知識及び技能                                                                                                     |              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                   |  | 学びに向かう力・人間性等                                    |  |        |  |
| 英語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 |                                                                                                                                                                                                                                             | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ英語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして伝え合うことができる基礎的な力を養う。 |              | 英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。                                                                                                                                                                                          |  |                                                 |  |        |  |
| 内容                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                             | 高次の資質・能力                                                                                                   |              | 領域                                                                                                                                                                                                                                                                             |  | 第5学年相当                                          |  | 第6学年相当 |  |
| 思考力、判断力、表現力等                                                                                     | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、<br>・聞いて情報を整理し、音声で十分に慣れ親しんだ表現等の意味を考えながら読むことができる。<br>【理解する】<br>・自分の考えなどを整理し、表現等を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ表現等を用いて、書いて伝えることができる。【表現する】<br>・相手の考えなどを踏まえ、自分の考えなどを、表現等を選んで伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】 | 聞くこと                                                                                                       | 話題           | 自分のことや相手のことについて<br>身近な事柄について                                                                                                                                                                                                                                                   |  | (ウ) 短い話の概要を捉えることができる                            |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                            | 条件           | ゆつりはつきりと話されれば                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |                                                 |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             | 読むこと                                                                                                       | できること        | (ア) 簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる<br>(イ) 具体的な情報を聞き取ることができる ※後半以降を想定                                                                                                                                                                                                                  |  | (イ) 簡単な語句や基本的な表現から具体的な情報を読み取る得ることができる           |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                            | 話題           | 自分のことや相手のことについて<br>身近な事柄について ※後半以降を想定                                                                                                                                                                                                                                          |  |                                                 |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             | 話すこと<br>(やり取り)                                                                                             | 条件           | 音声で十分に慣れ親しんだ上で                                                                                                                                                                                                                                                                 |  | 自分のことや相手のこと及び身近な事柄について                          |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                            | できること        | (ア) 簡単な語句や基本的な表現を読んだ上でその意味を理解することができる<br>(イ) 簡単な語句や基本的な表現から具体的な情報を読み取る得ることができる                                                                                                                                                                                                 |  |                                                 |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             | 話すこと<br>(発表)                                                                                               | 話題           | 基本的なやり取りに関する事柄について<br>自分のことや相手のこと及び身近な事柄について                                                                                                                                                                                                                                   |  | 自分のことや相手のこと及び身近な事柄について                          |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                            | 条件           | 簡単な語句や基本的な表現を用いて<br>(ア) 挨拶をしたり、指示や依頼に応じたりすることができる (※基本的なやり取りに関する事柄に対応)<br>(イ) 自分の考えや気持ちなどを述べ合うことができる (※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応)<br>(ウ) その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる (※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応)                                                                                   |  |                                                 |  |        |  |
| 知識及び技能                                                                                           | 音声、語彙、表現及び文構造並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。                                                                                                                                                            | 書くこと                                                                                                       | 話題           | 自分のことや身近な事柄について                                                                                                                                                                                                                                                                |  | (イ) 自分の考えや気持ちを伝えようとする内容を整理した上で、話すことができる         |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                            | 条件           | 簡単な語句や基本的な表現を用いて<br>(ア) 自分の考えや気持ちを話すことができる                                                                                                                                                                                                                                     |  |                                                 |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             | 英語の特徴等に関する事項                                                                                               | 話題           | 自分のことや相手のことについて<br>身近な事柄について ※後半以降を想定                                                                                                                                                                                                                                          |  | (イ) 例となる語句や表現を参考に、自分の考えや気持ちを表す語句や表現を選んで書くことができる |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                            | 条件           | 音声で十分に慣れ親しんだ上で<br>(ア) 自分の考えや気持ちなどを表す語句や表現の一部を書き写すことができる<br>(イ) 例となる語句や表現を参考に、自分の考えや気持ちを表す語句や表現を選んで書くことができる                                                                                                                                                                     |  |                                                 |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             | 【P】言語の働きに関する事項                                                                                             | ア 音声         | 音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。また、聞いたり話したりする際に、音声の特徴に気付き、場面に応じて活用できる                                                                                                                                                                                                    |  | 文字の取扱いについて丁寧を示す                                 |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                            | イ 文字及び符号     | 英語の文字を識別し、その読み方を発音したり、大文字、小文字を書いたりできるようにすることができる。また、符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面に応じて活用できる<br>・大文字や小文字の形を認識し、名称の読みができる<br>・音声と語句や表現を結びつけたり、音声と文字との関係に慣れ親しんだりすることができる<br>・コミュニケーションを行うために文字を書くことを意識させ、文字の形や長さなどを理解して、丁寧に語句や表現を書き写すことができる<br>・終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号の使い方を理解することができる |  |                                                 |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             | ア …                                                                                                        | ウ 語、連語及び慣用表現 | 語、連語及び慣用表現が用いられる場面において、音声を中心に意味や使い方を理解することができる                                                                                                                                                                                                                                 |  | 文化等の理解については内容の取扱いや活動の例示で示す                      |  |        |  |
|                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                            | エ 文及び文構造     | 日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、場面に応じて活用できる。なお、文を書き写す際には、語と語の区切りに注意して書き写すことができる<br>・文 …<br>・文構造 …                                                                                                                                                                                        |  |                                                 |  |        |  |
| 次                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                             | 次の事項について、使用される場面と関連付けながら、コミュニケーションを通して意味や働きを体験的に理解し、活用できる                                                  |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |                                                 |  |        |  |
| イ …                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                             | …                                                                                                          |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |                                                 |  |        |  |

※高次の資質・能力以外の内容の具体的な文言及び学年内における「できること」の段階付けについては、告示にあたり別途検討 ※文化等の理解については内容の取扱いや活動の例示で示す

# 構造化のイメージ（中学校の例）

※黄マーカー：企画特別部会報告時に修正  
※緑マーカー：今回修正

| 外国語の目標 | 知識及び技能                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                              | 学びに向かう力・人間性等                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 見方・考え方 | 外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること |                                                                                           |                                                                                            |
| 英語の目標  | 知識及び技能                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                              | 学びに向かう力・人間性等                                                                               |
| 内容     | 英語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。                        | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | 英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。 |

| 高次の資質・能力       |                                                                                                                                                                                                                        | 領域         | 第1学年相当                                                                              |                                                                                                                                                              | 第2学年相当                                                                                                                                             | 第3学年相当                                                                      |  |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--|
| 思考力、判断力、表現力等   | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、<br>・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、考えを形成することができる。【理解する】<br>・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】<br>・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】 | 聞くこと       | 話題                                                                                  | 日常的な話題について<br>身近な社会的な話題について ※後半以降を想定                                                                                                                         |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
|                |                                                                                                                                                                                                                        |            | 条件                                                                                  | 簡単な語句や文で、はっきりと話されれば                                                                                                                                          |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
|                |                                                                                                                                                                                                                        |            | できること                                                                               | (ア) 必要な情報を聞き取ることができる<br>(イ) 概要を捉えることができる<br>(ウ) 要点を捉えることができる                                                                                                 |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
|                |                                                                                                                                                                                                                        | 読むこと       | 条件                                                                                  | 簡単な語句や文で書かれた                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
|                |                                                                                                                                                                                                                        |            | できること                                                                               | (ア) 必要な情報を読み取ることができる<br>(イ) 概要を捉えることができる<br>(ウ) 要点を捉えることができる                                                                                                 |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
|                |                                                                                                                                                                                                                        |            | 話題                                                                                  | 日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について）<br>身近な社会的な話題について ※後半以降を想定                                                                                       |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
|                |                                                                                                                                                                                                                        | 話すこと（やり取り） | 条件                                                                                  | 簡単な語句や文を用いて<br>(ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない）<br>(イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し伝え合うことができる<br>(ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
|                |                                                                                                                                                                                                                        |            | 話すこと（発表）                                                                            | できること                                                                                                                                                        | (ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない）<br>(イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる<br>(ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを話すことができる |                                                                             |  |
|                |                                                                                                                                                                                                                        |            |                                                                                     | 書くこと                                                                                                                                                         | (ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる<br>(イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる<br>(ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる                      |                                                                             |  |
|                |                                                                                                                                                                                                                        | 知識及び技能     | 音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。 | 英語の特徴やきまりに関する事項                                                                                                                                              | ア 音声                                                                                                                                               | 音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる<br>... |  |
| イ 符号           | 符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面や状況に応じて活用できる<br>...                                                                                                                                                                        |            |                                                                                     |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
| ウ 語、連語及び慣用表現   | 語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に、文脈に応じて活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、場面や状況に応じて活用できる<br>...                                                                                                                       |            |                                                                                     |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
| エ 文、文構造及び文法事項  | 文、文構造及び文法事項の意味、形式及び働きを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる<br>・文 ...<br>・文構造 ...<br>・文法事項 ...                                                                                                                      |            |                                                                                     |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
| 【P】言語の働きに関する事項 | 次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる<br>ア ...                                                                                                                                     |            |                                                                                     |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
|                | ...                                                                                                                                                                                                                    |            |                                                                                     |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |
|                |                                                                                                                                                                                                                        |            |                                                                                     |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                    |                                                                             |  |

（思・判・表）第4回の議論を踏まえ、  
現行の英語の領域別目標を元に、  
話題とできることについて段階的に示す

（思・判・表）第4回の議論を踏まえ、  
現行の英語の領域別目標を元に、  
話題とできることについて段階的に示す

# 構造化のイメージ（高・英語コミュニケーション（総合）（仮称）Ⅰの例）

※黄マーカー：企画特別部会報告時に修正  
※緑マーカー：今回修正

| 外国語の目標           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 知識及び技能                                                                                            |                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                             |  | 学びに向かう力・人間性等                                                                                              |  |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 見方・考え方           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること |                |                                                                                                                                                                                          |  |                                                                                                           |  |
| 英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）の目標 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 知識及び技能                                                                                            |                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                             |  | 学びに向かう力・人間性等                                                                                              |  |
| 内容               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 英語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて【P】適切に活用できる技能を身に付けるようにする。                |                | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを、的確に理解したり、これらを活用して、情報や考え、気持ちなどを、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して論理性に注意しながら適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 |  | 英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。 |  |
| 高次の資質・能力         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 領域                                                                                                |                |                                                                                                                                                                                          |  |                                                                                                           |  |
| 思考力、判断力、表現力等     | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、考えを形成してまとめることができる。<br>【理解する】<br>・情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝えることができる。<br>【表現する】<br>・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。<br>【伝え合う】 | 聞くこと                                                                                              | 話題             | 日常的な話題について<br>身近なものを含む社会的な話題について<br>社会的話題に中学校との接続の観点から「身近なもの」を位置づけ                                                                                                                       |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   | 条件             | 話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、対話や基本的な構成の叙述、説明、放送、意見などを聞いて、                                                                                                                  |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   | できること          | (ア) 話し手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応）<br>(イ) 概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）<br>領域別目標に位置づけていた「支援」を引き続き位置づけ                                                                         |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 読むこと                                                                                              | 条件             | 使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な構成の叙述文、説明文、意見文などを読んで、                                                                                                                             |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   | できること          | (ア) 書き手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応）<br>(イ) 概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）<br>「聞くこと」「読むこと」ではテキストのバリエーションを示す                                                                      |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 話すこと（やり取り）                                                                                        | 条件             | 使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて、<br>(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを、即興で話して伝え合うやり取りを続けることができる（※日常的な話題に対応）                                                                         |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   | できること          | (イ) 聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識論理性に注意しながら表現等を工夫して話して伝え合うやりとりができる                                                                                             |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 話すこと（発表）                                                                                          | 条件             | 使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて、<br>(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識論理性に注意しながら表現等を工夫して話して伝えることができる                                                                |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   | できること          | (イ) 聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識論理性に注意しながら表現等を工夫して話して伝えることができる                                                                                                |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 書くこと                                                                                              | 条件             | 使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて<br>(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識論理性に注意しながら表現等を工夫して書いて伝えることができる                                                                 |  |                                                                                                           |  |
| できること            | (イ) 聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識論理性に注意しながら表現等を工夫して書いて伝えることができる                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                   |                |                                                                                                                                                                                          |  |                                                                                                           |  |
| 知識及び技能           | 音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。                                                                                                                                                                                                                | 英語の特徴やきまりに関する事項                                                                                   | ア 音声           | 音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる                                                                                                                     |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   | イ 符号           | 符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面や状況に応じて活用できる                                                                                                                                                 |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   | ウ 語、連語及び慣用表現   | 語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に、文脈に応じて活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、場面や状況に応じて活用できる                                                                                                |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   | エ 文、文構造及び文法事項  | 文、文構造及び文法事項の意味、形式及び働きを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる                                                                                                                           |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   |                | ・文 …<br>・文構造 …<br>・文法事項 …                                                                                                                                                                |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   | 【P】言語の働きに関する事項 | 次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる                                                                                                                |  |                                                                                                           |  |
|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                   | ア …            | …                                                                                                                                                                                        |  |                                                                                                           |  |



# 構造化のイメージ（高・英語コミュニケーション（発信）（仮称）Ⅰの例）

※黄マーカー：企画特別部会報告時に修正  
※緑マーカー：今回修正

| 外国語の目標           | 知識及び技能                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                   | 学びに向かう力・人間性等                                                                                              |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 見方・考え方           | 外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること |                                                                                                                                |                                                                                                           |
| 英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）の目標 | 知識及び技能                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                   | 学びに向かう力・人間性等                                                                                              |
| 内容               | 英語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて【P】適切に活用できる技能を身に付けるようにする。                | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、必要に応じて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、英語で情報や考え、意見や主張などを、論理の構成や展開及び表現等を工夫して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | 英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。 |

|              | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                    | 領域              |                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 思考力、判断力、表現力等 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して、伝えることができる。【表現する】<br>・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】 | 話すこと（やり取り）      | 話題                   | 日常的な話題について<br>身近なものを含む社会的な話題について<br>「話すこと（やりとり）」に日常的な会話を位置づけ                                                                                                                                                                                                                                                      |
|              |                                                                                                                                                                             |                 | 条件                   | 使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて<br>(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合うやり取りが円滑に進むように方策を講じながら、会話を継続することができる<br>(※日常的な話題に対応)                                                                                                                                                                              |
|              |                                                                                                                                                                             |                 | できること                | (イ) やり取りを通して必要な情報を得ることができる (※日常的な話題に対応)<br>(ウ) ディスカッションやディベートにおいて、聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、論理の構成や展開及び表現等を工夫して、情報や意見、主張などを話して伝え合うことができる                                                                                                                                                                        |
|              |                                                                                                                                                                             | 話すこと（発表）        | 条件                   | 使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて<br>(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、論理の構成や展開及び表現等を工夫して話して伝えることができる<br>(※日常的な話題に対応)                                                                                                                                                                                      |
|              |                                                                                                                                                                             |                 | できること                | (イ) スピーチやプレゼンテーションなどにおいて、聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、論理の構成や展開及び表現等を工夫して、情報や自分の意見、主張などを話して伝えることができる                                                                                                                                                                                                                    |
|              |                                                                                                                                                                             |                 | 条件                   | 使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて<br>(ア) オンライン上などで、情報や自分の考え、気持ちなどを書いて伝え合うやり取りを行うことができる (※日常的な話題に対応)<br>(イ) 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、論理の構成や展開及び表現等を工夫して叙述文、説明文、意見文などを書いて伝えることができる<br>(ウ) 聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、論理の構成や展開及び表現等を工夫して、叙述文、説明文、意見文などの形式で、情報や意見、主張などを書いて伝えることができる<br>「書くこと」にやり取りを位置づけ |
| 知識及び技能       | 音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせることで、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。                                                                                                 | 英語の特徴やきまりに関する事項 | ア 音声                 | 音声の特徴を理解し、話す際に、場面や状況に応じて活用できる<br>…                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|              |                                                                                                                                                                             |                 | イ 符号                 | 符号の意味や使い方を理解し、書く際に活用できる<br>…                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|              |                                                                                                                                                                             |                 | ウ 語、連語及び慣用表現         | 語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる<br>…                                                                                                                                                                                                                                                           |
|              |                                                                                                                                                                             |                 | エ 文、文構造及び文法事項        | 文、文構造及び文法事項の意味と形式及び働きを理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる<br>…                                                                                                                                                                                                                                                        |
|              |                                                                                                                                                                             |                 | オ 文章の論理の構成、論理の展開及び表現 | 様々な論理の構成・展開及びそれらに応じた表現を理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる<br>…<br>論理の構成・展開の具体的な内容を充実                                                                                                                                                                                                                                 |
|              |                                                                                                                                                                             |                 | 【P】言語の働きに関する事項       | 次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる<br>ア … …                                                                                                                                                                                                                                         |



# 高・英語コミュニケーション（総合）（仮称）の目標と高次の資質・能力（Ver.2）

見方・考え方

見方  
考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

※黄マーカー：企画特別部会報告時に修正  
※緑マーカー：今回修正

## 英コミュ（総合）（仮称）Ⅰ

※下線は高・外国語の目標との主な相違点

| 英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                  |                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                        | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                     | 学びに向かう力・人間性等                                                                                              |
| 目標                                                                                     | 英語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて【P】適切に活用できる技能を身に付けるようにする。                                                                                                                                                                                                 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | 英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。 |
| 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮                                                                    | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、考えを形成してまとめることができる。【理解する】<br>・情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】<br>・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】 |                                                                                                                                                  |                                                                                                           |
| 知識及び技能に関する統合的な理解                                                                       | 音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                  |                                                                                                           |

## 英コミュ（総合）（仮称）Ⅱ

| 「英コミュ（総合）Ⅰ」で育成した資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。 |                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                              |                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                                                                                        | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                 | 学びに向かう力・人間性等      |
| 目標                                                                                     | ※英コミュ（総合）（仮称）Ⅰと同様                                                                                                                                                                                                                                                        | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | ※英コミュ（総合）（仮称）Ⅰと同様 |
| 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮                                                                    | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、考えを形成してまとめることができる。【理解する】<br>・情報や自分の考えなどを整理し、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】<br>・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】 |                                                                                                                                              |                   |
| 知識及び技能に関する統合的な理解                                                                       | ※英コミュ（総合）（仮称）Ⅰと同様                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                              |                   |

## 英コミュ（総合）（仮称）Ⅲ

| 「英コミュ（総合）Ⅱ」で育成した資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的・発展的な言語活動を通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。 |                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                            |                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                                                                                            | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                               | 学びに向かう力・人間性等      |
| 目標                                                                                         | ※英コミュ（総合）（仮称）Ⅰと同様                                                                                                                                                                                                                                               | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語でやや複雑で多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、構成や表現等を工夫して詳しく表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | ※英コミュ（総合）（仮称）Ⅰと同様 |
| 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮                                                                        | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・やや複雑で多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、考えを形成してまとめることができる。【理解する】<br>・情報や自分の考えなどを整理し、構成や表現等を工夫して詳しく伝えることができる。【表現する】<br>・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを、構成や表現等を工夫して詳しく伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】 |                                                                                                                                            |                   |
| 知識及び技能に関する統合的な理解                                                                           | ※英コミュ（総合）（仮称）Ⅰと同様                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                            |                   |

# 高・英語コミュニケーション（発信）（仮称）の目標と高次の資質・能力（Ver.2）

見方・考え方

見方  
考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

※黄マーカー：企画特別部会報告時に修正

※緑マーカー：今回修正

## 英コミュ（発信）（仮称）Ⅰ

※下線は高・英語コミュニケーション（総合）との主な相違点

| 目標                  | 英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的な言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。                                                                                     |                                                                                            |                                                                                                           |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                                               | 学びに向かう力・人間性等                                                                                              |
| 目標                  | 英語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて【P】適切に活用できる技能を身に付けるようにする。                                                                                         | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | 英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。 |
| 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】<br>・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】 |                                                                                            |                                                                                                           |
| 知識及び技能に関する統合的な理解    | 音声、語彙、表現、文法、 <u>文章の構成及び論理の展開</u> 並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。                                                                       |                                                                                            |                                                                                                           |

## 英コミュ（発信）（仮称）Ⅱ

| 目標                  | 「英コミュ（発信）Ⅰ」で育成した資質・能力を、【P】話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的な言語活動を通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。                                                                                                                 |                                                                                                           |                   |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                              | 学びに向かう力・人間性等      |
| 目標                  | ※英コミュ（発信）（仮称）Ⅰと同様                                                                                                                                                                                      | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、 <u>構成や論理の展開</u> 、表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | ※英コミュ（発信）（仮称）Ⅰと同様 |
| 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や <u>論理の展開</u> 、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】<br>・相手の考えを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、構成や <u>論理の展開</u> 、表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】 |                                                                                                           |                   |
| 知識及び技能に関する統合的な理解    | ※英コミュ（発信）（仮称）Ⅰと同様                                                                                                                                                                                      |                                                                                                           |                   |

## 英コミュ（発信）（仮称）Ⅲ

| 目標                  | 「英コミュ（発信）Ⅱ」で育成した資質・能力を、【P】話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的・ <u>発展的</u> な言語活動を通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す                                                                                                                             |                                                                                                                       |                   |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                          | 学びに向かう力・人間性等      |
| 目標                  | ※英コミュ（発信）（仮称）Ⅰと同様                                                                                                                                                                                                              | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、 <u>構成や論理の展開</u> 、表現等を工夫して <u>詳しく</u> 表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | ※英コミュ（発信）（仮称）Ⅰと同様 |
| 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や <u>論理の展開</u> 、表現等を工夫して <u>詳しく</u> 伝えることができる。【表現する】<br>・相手の考えを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、構成や <u>論理の展開</u> 、表現等を工夫して <u>詳しく</u> 伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】 |                                                                                                                       |                   |
| 知識及び技能に関する統合的な理解    | ※英コミュ（発信）（仮称）Ⅰと同様                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                       |                   |

# 目標における「知識及び技能」のイメージ（Ver.3）

## 【第3回の案に対する御意見への対応】

- ・小・外国語：「読むこと」「書くこと」は外国語活動で取り扱っていないことから、まず慣れ親しんだ上で身に付けるというプロセスが重要であり、この点は引き続き明示してはどうか。  
日本語と外国語との違いに気付いた上で理解するというプロセスについては「内容」で明示し、端的に記載する観点から「目標」からは省略してはどうか。
- ・中高：中学校においては、小学校との接続の観点から「文構造」を明示してはどうか。一方、高校においては、「文構造」を明示する必要性は薄く、むしろ加わることで文法重視の印象が高まる懸念があるため、現行のままとしてはどうか。
- ・高校：「目的や場面、状況などに応じて」については「適切に」を補足するものであることから「内容」で明示し、端的に記載する観点から「目標」からは省略してはどうか。

※上記に加え、英語の特徴やきまりに関する各事項と【P】言語の働きを区別するため、表現を修正。

## 現状

| 小学校 外国語活動                                                                    | 小学校 外国語                                                                                                                                       | 中学校                                                                                                | 高等学校                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 | 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付く、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 | 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 | 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 |



## 改善イメージ

| 小学校 外国語活動                                            | 小学校 外国語                                                                                           | 中学校                                                                        | 高等学校                                                                            |
|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 | 外国語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 | 外国語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 | 外国語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 |

※総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

# 目標における「思考力、判断力、表現力等」のイメージ（Ver.3）

## 【第3回の案に対する御意見への対応】

- ・小・外国語：「推測しながら」「語順を意識しながら」は「内容の取扱い」で明示し、端的に記載する観点から「目標」からは省略してはどうか。
- ・中高：「日常的な話題」や「社会的な話題」は「内容」で明示すること、また、「身近な社会的な話題」を位置づけることから、「目標」では「様々な話題」、「幅広い話題」としてはどうか。
- ・高：既にできることをさらに円滑にすること等については、指導のプロセスであり「内容の取扱い」に位置づけるべきではないか。

※上記に加え、小学校の話題について第4回の内容を踏まえ修正。

また、高等学校について、端的に表すため「概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図など」を省略。

## 現状

| 小学校 外国語活動                                           | 小学校 外国語                                                                                                                                             | 中学校                                                                                                        | 高等学校                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</u> | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</u> | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</u> |

## 改善イメージ

| 小学校 外国語活動                                          | 小学校 外国語                                                                                                              | 中学校                                                                                                | 高等学校                                                                                                  |
|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ごく身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして、伝え合うことができる基礎的な力を養う。</u> | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</u> | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</u> |



# 目標における「学びに向かう力、人間性等」のイメージ（Ver.2）

## 現状

| 小学校 外国語活動                                                                 | 小学校 外国語                                                                   | 中学校                                                                                    | 高等学校                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、 <u>他者</u> に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、 <u>聞き手、読み手、話し手、書き手</u> に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、 <u>自律的に</u> 外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 |



## 改善イメージ

| 小学校 外国語活動                                                          | 小学校 外国語                                                                                         | 中学校                                                                                                  | 高等学校                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。 | 外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、 <u>対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を</u> 養う。 | 外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を <u>深めようとする態度を</u> 養う。 | 外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を <u>深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を</u> 養う。 |



# **「AI時代に外国語を必修とする 本質的意義を踏まえた検討」について**

## 【現状と課題】

### 本質的意義を踏まえた検討の必要性

- 本WGでは、AI時代に外国語を必修とする本質的意義について、「言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと」「自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること」の両面から検討してきたところ
- 特に、前者については、多様性の包摂や多文化共生に対する理解のために、多様な文化を理解することや、母語や自国の文化のメタ認知を促すために、日本語と外国語の違い等について理解することの重要性が繰り返し指摘されてきた
- 文化についてはこれまでも学習指導要領において、我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養う観点が含まれていたが、指導・評価することが難しいとの指摘も
- 次期学習指導要領においては、上記の議論も踏まえ、多様な文化への理解や、日本語と外国語の違い等の理解に関する内容を充実させる方向で検討することが必要

## 【方向性と具体的論点（案）】

### 検討の方向性

#### （１）多様な文化の理解

- 現行の小学校の外国語活動では、外国語学習の導入段階であるため、「内容」の知・技の一部として、文化について学ぶこととなっている
- 小学校の外国語科以降は、教科として学習評価の対象となるところ、文化の知識を知・技として評価を求めることは趣旨になじまないと考えられる。また、単に知識として知っているのみではなく、思・判・表の一環として、外国語の言語文化や相手の文化的背景を踏まえた配慮ができるようになることを目指すべきではないか
- このため、小学校～高等学校の外国語科においては、文化を「内容の取扱い」や「教材の選定の観点」に位置付け、教材や活動を通して文化の多様性を扱うことを促してはどうか

#### （２）日本語と外国語の違い等の理解

- 現行の小学校の外国語活動・外国語では、「内容」の知・技において、英語と日本語の違いに気付くこととしている。また、中学校においても、「内容の取扱い」において、音声や文法などの指導にあたり、日本語との違いに留意することとしている
- 一方、高校では「指導計画の作成」において日本語との違いに留意することとしているが、中学校と同様に「内容の取扱い」に位置付けてはどうか
- さらに、言語や文化の違いや共通点に気づいたり理解することにより、母語や母語による思考のメタ認知につながると考えられる。このため、「教材の選定の観点」に位置付け、教材を通して多様なものの見方や考え方があることへの理解を促してはどうか

#### （３）その他

- 今後、指導において参考となる動画や資料を提供する際には、上記（１）及び（２）の観点も踏まえて作成してはどうか
- 現行では、「海外から帰国した生徒や外国人の生徒の指導」に関し、「外国語科において、外国語でコミュニケーションを行ったり、外国語の背景にある生活や文化などについて理解を深める学習活動を進めたりする際に配慮を行うことなどが考えられる」旨が総則の解説のみに示されているが、上記（１）及び（２）の解説においても、同様に示してはどうか  
(解説で示す要素については、告示にあたり別途要検討)

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び説明の文章は議論を踏まえて引き続き検討。  
※赤字が新たに盛り込む要素（「指導計画の作成と内容の取扱い」は現行の記載を基にしている）。

小学校（外国語活動）

第4章 外国語

第1 目標

外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。（知識及び技能）

（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

第2 各言語の目標及び内容等 英語

2 内容

知識及び技能

（統合的な理解）英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。

英語の特徴等に関する事項

ア 音声 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く

文化に関する事項

- ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く
- ・異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1)（指導計画の作成）

オ 外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、英語の背景にある世界の文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする

小学校（外国語）

第2章 第10節 外国語

第1（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

第2 各言語の目標及び内容等 英語

2 内容

知識及び技能

英語の特徴等に関する事項

エ 文及び文構造

日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、場面に応じて活用できる。

3 指導計画の作成と内容の取扱い

（3）（教材選定の観点）

- イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。
  - (ア) 我が国の文化や、英語の背景にある世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。
  - (イ) 言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様性の包摂や他者との相互理解を図ろうとする態度を養うのに役立つこと。多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。
  - (ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うとともに、多文化共生に対する理解を促すことに役立つこと



※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び説明の文章は議論を踏まえて引き続き検討。  
 ※赤字が新たに盛り込む要素（「指導計画の作成と内容の取扱い」は現行の記載を基にしている）。

## 中学校

## 第2章 第9節 外国語

## 第1（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

## 第2 各言語の目標及び内容等 英語

## 3 指導計画の作成と内容の取扱い

## (2)（内容の取扱い）

イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、練習などを通して2の(1)の*ア*に示す言語材料を継続して指導するとともに、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。また、発音と綴りとを関連付けて指導すること。

エ 文法事項の指導に当たっては、次の事項に留意すること。

(ウ) 用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるようにするとともに、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること。

オ コミュニケーション活動及びコミュニケーションを支える活動の中で、日本語と英語の音声や語彙、文構造、文法などの違いに気付かせることに留意しながら指導すること。

カ 多様な他者との相互理解を図るためには相手の文化的背景などに配慮したコミュニケーションが重要であることの理解を深めるとともに、活動においては相手に配慮してコミュニケーションを行えるよう工夫すること。

## (3)（教材選定の観点）

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点到に配慮すること。

(ア) 我が国の文化や、英語の背景にある世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

(イ) 言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様性の包摂や多様な他者との相互理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

(ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うとともに、多文化共生に対する理解を促すのに役立つこと。

## 高等学校

## 第2章 第8節 外国語

## 第1款（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

## 第2款 各科目

## 第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

## 1（指導計画の作成）

(7) 言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて国語科と連携を図り、指導の効果を高めるとともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫をすること。

## 2（内容の取扱い）

(7) コミュニケーション活動及びコミュニケーションを支える活動の中で、日本語と英語の音声や語彙、文構造、文法、論理の展開などの違いに気付かせることに留意しながら指導すること。

(8) 多様な他者との相互理解を図るためには相手の文化的背景などに配慮したコミュニケーションが重要であることの理解を深めるとともに、活動においては相手に配慮してコミュニケーションを行うよう工夫すること。

## 3（教材選定の観点）

(2) 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点到に配慮すること。

(ア) 我が国の文化や、英語の背景にある世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

(イ) 言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、複眼的に社会や世界を見る力や多様性の包摂、多様な他者との相互理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

(ウ) 社会がグローバル化の中で、広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うとともに、多文化共生に対する理解を促すのに役立つこと。

(オ) 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

## 外国語の「見方・考え方」

### 高等学校

#### 言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育む

- 異なる言語・文化への理解を促す
- 母語や自国の文化のメタ認知を促す
- コミュニケーションへの深い理解を促す

**言語習得：**外国語によるコミュニケーションにおいて、相手の文化的背景などを踏まえて配慮ができる

**相互理解：**言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様な他者との相互理解を深めようとする

(参考：現行の解説)

- ・相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくることを理解できる
- ・他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てる
- ・我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知ることとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度を育成する
- ・世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うように配慮する

### 中学校

**言語習得：**外国語によるコミュニケーションにおいて、相手の文化的背景などを踏まえた配慮を図ろうとする

**相互理解：**言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様な他者との相互理解を深めようとする

(参考：現行の解説)

- ・相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくることを理解できる
- ・他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てる
- ・我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知ることとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度を育成する
- ・世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うように配慮する

### 小学校・外国語

**言語習得：**外国語によるコミュニケーションにおいて、日本語と英語の違いに気付き、外国語の言語文化に慣れ親しむ

**相互理解：**我が国の文化や、世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする

(参考：現行の解説)

- ・日本語との音声の違いにとどまらず、文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについても日本語との違いに気付く
- ・気付きで終わるのではなく、それらが外国語でコミュニケーションを図る際に活用される、生きて働く知識として理解される
- ・多様な考え方を理解し、柔軟に対応することや、公正な判断力を養い、相手の状況や立場を共感的に理解できる心情を育成する
- ・我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知ることとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度やお互いの文化を尊重する態度を育成する
- ・複数の文化に触れることが、(略) 英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにもつながっていく日本の文化や価値観、考え方などについての自覚を高める

### 小学校・外国語活動

**言語や文化の違いや共通点を体験的に理解し、外国語や外国語によるコミュニケーションに慣れ親しむ**

(参考：現行の解説)

- ・外国語と日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付く
- ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く
- ・異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深める
- ・母語と外国語を比べることで、言語には普遍性と固有性があることに気付く
- ・母語の性質や価値、外国語の性質や価値をよりよく理解できるようになる

# AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」の再整理 (Ver. 3)

－ 自らの人生を舵取りできる、多様な他者と協働できる資質・能力への貢献の観点から －

## 1. 言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

### ● 異なる言語・文化への理解を促す

- 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
- 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
- ➡ 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性

### ● 母語や自国の文化のメタ認知を促す

- 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
- 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される

### ● コミュニケーションへの深い理解を促す

- 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
  - ・相手の言葉や意図の受け止め方（聞く・読む）
  - ・相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ（「やさしい日本語」にも繋がる）（話す・書く）
- 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
- ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫（アイコンタクト、間の取り方、身振り・手振り等）
- ➡ 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

## 2. 自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること

### ● 外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される

- 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
- 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される（再掲）
- ➡ アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性

### ● 人間関係の質・量が豊かになり、得られる情報も増える

- 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
- 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
- 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を発見できたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も

※現在のAI技術を前提とした場合ではあるが、AIにより手軽に翻訳・通訳が可能となる中であっても、出力の正確性・適切性を批判的に検討したり、ツールの力も使いつつも、リアルなコミュニケーションを行ったりするためには相応の英語力が必要という視点や、外国語によるコミュニケーションのためにAI技術を効果的に活用する力が必要という視点もある

※これらは外国語を学校教育で必修とすることの意義を卒業後も継続的に学習した場合も想定しながら整理したものであり、これらの全てが、全ての児童生徒において、初等中等教育の過程で高いレベルで発現すると考えているものではない

※AI技術が今後も予想を超える速さで進歩することを踏まえると、AIに代替されるべきではない、人間に残したい部分は何かを重視する必要（下線部分）

よりよい社会  
(社会のウェルビーイング)

- 多様性の包摂、国内外の多様な他者との共生・共創
- グローバルな視点・情報を駆使した価値創造・課題解決
- 持続可能な民主主義・平和な社会の構築

幸福な人生  
(個人のウェルビーイング)

- 国内外の多様な他者と直に意思疎通できる安心感・自信、豊かな人間関係
- 言葉の壁や国境を越えて自らの人生を舵取り（進学・留学・就職）
- 思考の多様性・柔軟性、価値観の再構築

# 【参考】現行の学習指導要領における「文化」等に関する主な記載（小学校・外国語活動）

## 【本文】

- 目標** (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。  
(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

## 【内容】

### 【知識及び技能】

(1) 英語の特徴等に関する事項 実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。

イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。

(ア) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさ気付くこと。

(イ) 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと。

(ウ) 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深めること。

### 【指導計画の作成】

オ 外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする。

## 【解説】

**目標（１）** 「言語や文化について体験的に理解を深め」とは、外国語活動において、児童のもつ柔軟な適応力を生かして、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培うため、日本語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深めることを指している。その際、知識のみによって理解を深めるのではなく、体験を通して理解を深めることとしている。体験的に理解を深めることで、言葉の大切さや豊かさ等に気付いたり、言語に対する興味・関心を高めたり、これらを尊重する態度を身に付けたりすることは、国語科学習にも資するものと考えられる。また、これらのことは、後述する「学びに向かう力、人間性等」にもつながるものである。

**目標（３）** ところで、高学年の外国語科では、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め」としているのに対して、中学年の外国語活動では、「言語やその背景にある文化に対する理解を深め」としたのは、学習対象である外国語などの固有の言語だけでなく、日本語も含めた言語の普遍性について体験的に気付くことが重要であることからである。母語以外の言語を学び、母語と外国語を比べることで、言語には普遍性と固有性があることに気付く、そうすることで母語の性質や価値、外国語の性質や価値をよりよく理解できるようになる。つまり、母語を、外国語を通して相対化することができるということである。このことは、児童の母語の力をより確かなものにすることにつながる。中学年の外国語活動においてそのようにして体験的に気付くことが、高学年以降の外国語学習への意欲につながると考えられる。

**知技（１）イ（イ）** 地域の生活、習慣、行事などを積極的に取り上げていくことが期待される。また、その際には、児童にとって身近な日常生活における食生活や遊び、地域の行事などを取り扱うことが適切である。外国語活動を通して、多様な文化の存在を知り、また、日本の文化と異文化との比較により、様々な考え方があることに気付くとともに、我が国の伝統文化についての理解を深め、英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにつながっていくことが期待される。これらの事項は、単なる知識として指導するのではなく、体験的な活動を通して具体的に気付かせていくことが大切である。例えば、日本の一日の生活を題材にした英語での絵本の読み聞かせを通して、「いただきます」という表現にうまく合致する表現が英語にはないことに気付かせたり、映像資料などを通して世界の遊びと日本の遊びには共通点や相違点があることに気付かせたりするよう、活動の工夫が求められる。

**知技（１）イ（ウ）** (イ) で触れたように、「日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと」は、外国語活動における大切な指導事項である。この事項は、体験的な活動を通して指導されるべきものである。そこで、A L Tや留学生、地域に住む外国人など、異なる文化をもつ人々との交流などを通して、体験的に文化等の理解を深めることが大切になる。

**指導計画オ** 外国語活動を通して、様々な国の生活や文化と我が国の生活や文化との共通点や相違点に気付くようにするとともに、言語や文化に関心をもち、尊重できる態度を育成することが大切である。特に、外国語や外国の文化を扱う際には、様々な言語に触れたり、人々の日常生活に密着した生活文化や学校に関するものなど幅広い題材を取り扱ったりすることで、児童の興味・関心を踏まえ、特定のものに偏らないように心がけることが重要である。同時に、国語や我が国の文化について理解を深め、その特徴や良さについて発信することができるような指導を大切にしたい。例えば、様々な言語での挨拶、数え方、遊び、文字などを扱うことで、日本のお辞儀の習慣やひらがな、カタカナ、漢字などの字、じゃんけんなど、共通点や相違点に気付かせ、それぞれの特徴や良さを発表し合うような活動が考えられる。その際には、知識の伝達に偏らないように注意する必要がある。これらの活動を通して、児童が国語や我が国の文化に対する理解を深め、世界の人々と相互の立場を尊重、協調しながら交流を行っていきけるようにすることをねらいとしている。



# 【参考】現行の学習指導要領における「文化」等に関する主な記載（小学校・外国語①）

## 【本文】

- 目標** (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

## 【解説】

**目標（1）** 本目標での「外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解する」とは、中学年の外国語活動の「外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付く」に対応したものである。高学年の外国語科では、日本語との音声の違いにとどまらず、文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについても日本語との違いに気付くこと、さらに、気付きで終わるのではなく、それらが外国語でコミュニケーションを図る際に活用される、生きて働く知識として理解されることを求めている。

（略）中学年における外国語活動で音声や基本的な表現に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に「読むこと」、「書くこと」を加え、これまでの課題に対応するため、英語の文字や単語などの認識、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、語順の違い等の文構造への気付きなど、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導が求められる。

**目標（3）** 本目標での「外国語の背景にある文化に対する理解を深め」は、中学年の外国語活動において「言語やその背景にある文化に対する理解を深め」としていることを踏まえたものである。中学年の外国語活動では、学習の対象となる外国語のみならず、日本語も含めた様々な言語そのものへの理解や言語の背景にある文化に対する理解を深めることを求めている。そのような理解が、高学年の外国語科で、対象となる外国語の背景にある文化に対する理解の深まりへとつながる。

ところで、外国語の背景にある文化に対する理解が深まることは、その言語を適切に使うことにつながる。また、言語を学ぶことは、その言語を創造し継承してきた文化や、その言語を母語とする人々の考え方を学ぶことでもある。更に、言葉を通じて他者とコミュニケーションを図り伝え合う力を高めることで、積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者と共感するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度につながると考えられる。そして、このことは、言語能力の側面から「学びに向かう力、人間性等」を支えることになる。

なお、中学校の外国語科において、改訂前は、「言語や文化に対する理解深め」とし、その「文化」を「その言語の背景にある文化」と解説していたが、今回の改訂により、「外国語の背景にある文化」とし、その意味合いを明確にしている。さらに、英語が国際共通語であることを踏まえると、外国語の背景にある文化だけでなく英語を使ってコミュニケーションを図る人々の文化についても理解を深めることが大切である。

# 【参考】現行の学習指導要領における「文化」等に関する主な記載（小学校・外国語②）

## 【本文】

### 内容

#### [知識及び技能]

##### Ⅰ 文及び文構造

次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

#### [教材選定の観点]

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点到に配慮すること。

(ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。

(イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。

(ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うことに役立つこと。

## 【解説】

**知識及び技能 Ⅰ 文及び文構造** 文及び文構造については、第2の2（3）①で示すような言語活動の中で、文法の用語や用法の指導を行うのではなく日本語と英語の語順の違い等の気付きを促すようにしたり、基本的な表現として繰り返し聞いたり話したりするなどして活用したりすることが求められる。繰り返し触れることによって英語の語順に気付け、その規則性を内在化させたり、自ら話したり書いたりする中でどのように語と語を組み合わせれば自分の伝えたいことが表現できるのかということに意識を向けさせたりするようにする。

**教材選定の観点イ** 題材としては、英語を使用している人々の日常生活等を取り上げるとともに、英語以外の言語を使う人々の日常生活も取り上げることに配慮することが求められている。世界には英語以外の言語を話す人々も多い。そのことから、世界の人々を理解するには、英語以外の言語を使う人々の日常生活も取り上げることが大切である。また、それに加えて、ここでは、日本人の日常生活等も取り上げることが大切であると述べている。日本人の日常生活を取り上げることにより、日本人との比較の中で、世界の人々の日常生活に関する理解が深まり、また、日本人のことにしても、世界の人々の日常生活と比較することで、より深い理解につながることをねらっている。日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などを取り上げる際は、児童の発達の段階に配慮し、それぞれの地域の家庭や学校生活などを中心としたもの、また、例えば他教科等で学んだ歴史上の人物や建造物、伝統文化、自然等を取り上げ、児童が興味・関心をもって取り組めるような題材を選択することが大切である。

(ア) グローバル化が進展する中で、児童は多様な文化や価値観をもった人々と出会うことになる。そのような社会で生きていくためには、多様な考え方を理解し、柔軟に対応することや、公正な判断力を養い、相手の状況や立場を共感的に理解できる心情を育てることが大切である。そのためには、児童が、様々な人々の行動や考え方が示された事例などに接することが大切となる。それらの事例を通して、相手の状況や立場を共感的に理解できる心情を育てていくことが可能となる。児童の発達の段階に配慮し、分かりやすい事例や活動を含む教材を選ぶことが大切になる。

(イ) 英語の学習を通して、我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点相違点を知るようになるとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度やお互いの文化を尊重する態度を育成することが大切である。複数の文化に触れることが、我が国の伝統文化についての理解を深め、文化の多様性に対してより寛容になることに資するとともに、英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにもつながっていくことが考えられる。また、児童の発達の段階に配慮して、海外や我が国の文化を扱った教材の選定が求められる。

(ウ) 国際社会と向き合って生きていくためには、多様な価値観や考え方をもち、我が国の一員としての自覚をもち、積極的に交流を図り、協調、協力していく必要がある。題材の選択に当たっては、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養うことに役立つもので、かつ、日本の文化や価値観、考え方などについての自覚を高めることができるようなものを選択する必要がある。

# 【参考】現行の学習指導要領における「文化」等に関する主な記載（中学校）

## 【本文】

**目標** (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

## 内容

### 〔教材選定の観点〕

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点到に配慮すること。

(ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

(イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

(ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

## 【解説】

**目標（３）** 本目標での「外国語の背景にある文化に対する理解を深め」については、改訂前は「言語や文化に対する理解を深め」となっており、その「文化」を「その言語の背景にある文化」と解説していたことから、今回の改訂においてはその意味 合いを明確に示した。また、「言語」を外して「（外国語の背景にある）文化に対する理解」としたのは、「コミュニケーションを図ろうとする態度」を養う上では、次に述べる「聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら」コミュニケーションを図ることが大切であり、その一つとして相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくることが考えられるためである。併せて、外国語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てることも必要である。

**教材選定の観点イ** 「日常生活、風俗習慣」とは、家庭や学校、社会における日常生活や風俗習慣などを示している。学年が進むにつれて、これらのことについての人々の考え 方などを含めて取り扱うことになる。英語の学習を通して、人々の生活や風俗習慣の相違に一層の関心をもたせ、文化の多様性に着目させることが必要である。（略）

「伝統文化」とは、昔から伝えられてきた風習・制度・思想・技術・芸術などを示している。国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で、外国の伝統文化について知ることは、幅広い国際的な視野を身に付ける観点から大切なことである。また同時に、自国の伝統文化について外国の人々に発信できる素養を培うことも必要であり、そのための適切な題材を選択することが求められる。

**（ア）** 公正な判断力や豊かな心情を身に付ける上で、様々な人々の考え方に接することのできる適切な題材を選ぶことが必要であることを示したものである。広く他の国の人々の考え方などを知ることにより、それらに対して寛容になるとともに、公平に正しく判断する力を養うことにもなる。また、様々な人々を理解することを通して豊かな人間性を育てることにもなる。題材については、英語を使用している人々をはじめ世界の様々な人々の多様な考え方や行動の仕方について知ることができるものを選択することが大切になる。

**（イ）** 英語の学習を通して、我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知ることになるとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度を育成することが大切である。複数の文化に触れることが、我が国の伝統文化についての理解を深め、文化の多様性に対してより寛容になることに資するとともに、英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにもつながっていくことが考えられる。そのような観点から適切な題材を選ぶことが必要であることを示したものである。

ここで言う「文化」とは、日本語や英語を用いる人々の日常生活に密着した衣食住に関わる生活文化をはじめ、文学・科学技術・学問・芸術等に関わることも含む幅広い分野にわたる文化のことである。この場合、生徒の発達の段階にふさわしいものの中から、生徒の興味・関心を踏まえ、特定のものに偏ることなく、文化に対する関心や理解を高めるのに役立つ題材を取り上げる必要がある。

**（ウ）** 中央教育審議会答申では、グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることを想定し、その能力の向上を課題として掲げている。そこで、外国の文化や考え方などについて受け身的に学ぶだけでなく、日本の文化や日本人の考え方を積極的に外国の人々に知らせるといった観点から、ふさわしい題材の選択が必要になってくる。題材の選択に当たっては、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養うのに役立つもので、生徒の興味・関心を引き出し育てることのできるような適切なものを選択するなどして、正しい理解が図れるように配慮することが大切である。その際、文化の多様性や価値の多様性に気付かせ、異文化を受容する態度を育てる。さらに、世界の国々の相互依存関係を正しく認識させるなど、生徒に世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うように 配慮することが大切である。

# 【参考】現行の学習指導要領における「文化」等に関する主な記載（高等学校①）

## 【本文】

**目標** (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手 に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

## 【内容】

### 〔指導計画作成上の配慮事項〕

(7) 言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて国語科と連携を図り、指導の効果を高めるとともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫をすること。

## 【解説】

**目標（3）** 本目標における「外国語の背景にある文化に対する理解を深め」については、改訂前は「言語や文化に対する理解を深め」となっており、その「文化」を「その言語の背景にある文化」と解説していたことから、今回の改訂においてはその意味合いを明確に示した。また、「言語」を外して「（外国語の背景にある）文化に対する理解」としたのは、「コミュニケーションを図ろうとする態度」を養う上では、次に述べる「聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら」コミュニケーションを図ることが大切であり、外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくるためである。あわせて、外国語の学習を通して、他者に配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てることも重要である。

**指導計画作成上の配慮事項（7）** この配慮事項は、言語能力の向上が、学校における学びの質や、教育課程全体における資質・能力の育成に関わる重要な課題であるという平成28年12月の中央教育審議会答申に基づき、国語科の指導内容とのつながりについて述べたものである。国語教育と英語教育は、学習の対象となる言語は異なるが、共に言語能力の向上を目指すものであるため、共通する指導内容や指導方法を扱う場面がある。各学校において指導内容や指導方法等を適切に連携させることによって、英語教育を通して日本語の特徴に気付いたり、国語教育を通して英語の特徴に気付いたりするなど、日本語と英語の言語としての共通性や固有の特徴への気付きを促すことにより、言語能力の効果的な育成につなげていくことが重要である。例えば、国語科との連携については、「自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする活動」、「話合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を、他の議論や討論の記録などを参考にしながら行う活動」などについて国語科で学習し、外国語科でのスピーチやディベート、ディスカッションなどの活動に生かすなど、同じ種類の言語活動を通して指導することが考えられる。また、日本語と英語の語彙や表現だけではなく、高等学校の外国語科において身に付けるべき資質・能力である「思考力、判断力、表現力等」を、「論理的に適切な英語で表現すること」を通して育成する観点から、論理の展開の仕方における両言語の違いや共通点にも目を向けながら英語指導に当たることも、言語的感性を養うことを助け、英語使用に際しての気付きを促す上で有効である。この点は、特に外国語による発信能力の育成を強化する科目群である「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」において、英語で話す・書く際の論理の構成や展開の方法を指導する際に留意する必要がある。しかし、その場合、日本語と英語の共通する点や異なる点を、単なる知識として学習するものではないことに留意する必要がある。このように、国語科及び外国語科の連携を図りながら、コミュニケーションを図る資質・能力が自然にかつ効果的に培われるようにすることが重要である。



# 【参考】現行の学習指導要領における「文化」等に関する主な記載（高等学校①）

## 【本文】

### 内容 [教材選定の観点]

- (2) 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。
- (ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
- (イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。
- (ウ) 社会がグローバル化する中で、広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。
- (エ) 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

## 【解説】

**教材選定の観点（2）** 「日常生活、風俗習慣」とは、家庭や学校、社会における日常生活や風俗習慣などを示している。学年が進むにつれて、これらのことについての人々の考え方などを含めて取り扱うことにする。英語の学習を通して、人々の生活や風俗習慣の相違に一層の関心をもたせ、文化の多様性に着目させることが必要である。（略）「伝統文化」とは、昔から伝えられてきた風習・制度・思想・技術・芸術などを示している。国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で、日本はもちろんのこと外国の伝統文化について知ることは、幅広い国際的な視野を身に付ける観点から大切なことである。また同時に、国際社会の中であって日本人であることの自覚を高めつつ、文化や価値の多様性に気付かせながら、自国の伝統文化について外国の人々に発信できる素養を培うことも必要であり、そのための適切な題材を選択することが求められる。

**（ア）** 公正な判断力や豊かな心情を身に付ける上で、様々な価値観に接することのできる適切な題材を選択することが必要であることを示したものである。広く他の国で起こっている出来事や人々の考え方などを知ることにより公正かつ客観的な判断力を養うとともに、豊かな人間性を育てることにもなる。題材については、英語を使用している人々をはじめ世界の様々な人々の多様な考え方や行動の仕方について知ることができるものを選択することはもちろん、現在世界で起こっている出来事や話題、それに対する人々の様々な意見を通して、物事の見方は一つではなく多様な観点から価値判断ができるという点への気付きを促し、それに基づいて自身の意見を構築し、ひいては具体的な行動につなげていくことのできるようなものを選択することが大切である。

**（イ）** 英語の学習を通して、我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知ることになるとともに、そうしたことに関心を持ち、理解を深めようとする態度を育成することが大切である。複数の文化に触れることが、我が国の伝統文化についての理解を深め、文化の多様性に対してより寛容になることに資するとともに、英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにもつながっていくことが考えられる。そのような観点から適切な題材を選択することが必要であることを示したものである。ここで言う「文化」とは、日本語や英語を用いる人々の日常生活に密着した衣食住に関わる生活文化をはじめ、その生活文化を取り巻く社会や国民性、学問（人文科学・社会科学・自然科学）、科学技術や芸術に至るまで幅広い分野にわたる文化のことである。この場合、生徒の発達の段階にふさわしいものの中から、生徒の興味・関心を踏まえ、特定のものに偏ることなく、文化に対する関心や理解を高め、公正な判断を行うのに役立つ題材を取り上げる必要がある。

**（ウ）** 平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申では、グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけではなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることを想定し、その能力の向上を課題として掲げている。そこで、外国の文化や考え方などについて受け身的に学ぶだけではなく、日本の文化や日本人の考え方を積極的にまた客観的に世界へ発信するという観点からふさわしい題材の選択が必要になってくる。題材の選択に当たっては、日本や世界の各地で起こっていることや話題になっていることについて多面的に考え、広い視野から判断し、生徒個人として、また我が国に暮らす一員として、どのような意見や解決策を持ち、行動に移していくのかまで考慮する必要がある。国際理解を深め、国際協調の精神を養うのに役立つもので、生徒の興味・関心を引き出し行動につなげていけるような適切なものを選択することが大切である。その際、文化の多様性や価値の多様性に気付かせ、多様な背景や価値観を持った人々を理解し、共生していこうとする態度を育てるという観点が必要である。さらに、世界の国々の相互依存関係を正しく認識させるなど、生徒が世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに、平和な共生社会を築いていくための国際協調の精神を養うように配慮することが大切である。

**（エ）** 題材については、広く人間、社会、自然などについて取り上げる。その際、それらについて生徒が十分学びを深めていくことができるよう、例えば、教科等間における学びのつながりや広がりがあるか、身の回りのことから社会や世界との関わりを捉えることができるか、生徒が発信したいと思えるような題材であるかなどの視点が必要である。

# 【参考】現行の学習指導要領の総則における「海外から帰国した生徒や外国人の生徒の指導」の記載

## 【本文】

### 第4 生徒の発達の支援

#### 2 特別な配慮を必要とする生徒への指導

##### (2) 海外から帰国した生徒などの学校生活への適応や、日本語の習得に困難のある生徒に対する日本語指導

ア 海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、外国における生活経験を生かすなどの適切な指導を行うものとする。

イ 日本語の習得に困難のある生徒については、個々の生徒の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。特に、通級による日本語指導については、教師間の連携に努め、指導についての計画を個別に作成することなどにより、効果的な指導に努めるものとする。

## 【解説】

### ① 学校生活への適応等（第1章第4の2の（2）のア）

国際化の進展に伴い、学校では帰国生徒や外国人生徒に加え、両親のいずれかが外国籍であるなどのいわゆる外国につながる生徒の受入れが多くなっている。これらの生徒の多くは、異文化における生活経験等を通して、我が国の社会とは異なる言語や生活習慣、行動様式を身に付けているが、一人一人の実態は、それぞれの言語的・文化的背景、年齢、就学形態や教育内容・方法、さらには家庭の教育方針などによって様々である。このため、これらの生徒の受入れに当たっては、一人一人の実態を的確に把握し、当該生徒が自信や誇りをもって学校生活において自己実現を図ることができるように配慮することが大切である。

帰国生徒や外国人生徒、外国につながる生徒は、他の生徒が経験していない異文化での貴重な生活経験をもっている。外国での生活や異文化に触れた経験や、これらを通じて身に付けた見方や考え方、感情や情緒、外国語の能力などの特性を、本人の各教科等の学習に生かすことができるよう配慮することが大切である。また、本人に対するきめ細かな指導とともに、他の生徒についても、帰国生徒や外国人生徒、外国につながる生徒と共に学ぶことを通じて、互いの長所や特性を認め、広い視野をもって異文化を理解し共に生きていこうとする姿勢を育てよう配慮することが大切である。そして、このような相互啓発を通じて、互いに尊重し合う態度を育て、国際理解を深めるとともに、国際社会に生きる人間として望ましい能力や態度を育成することが期待される。このような機会としては、外国語科において、外国語でコミュニケーションを行ったり、外国語の背景にある生活や文化などについて理解を深める学習活動を進めたりする際に配慮を行うことなどが考えられるほか、例えば社会科や音楽科などの教科や道徳科、総合的な学習の時間での学習活動、特別活動における学校行事などが考えられ、生徒や学校の実態等に応じて適宜工夫することが必要である。

### ② 日本語の習得に困難のある生徒への通級による指導（第1章第4の2の（2）のイ）

帰国生徒や外国人生徒、外国につながる生徒の中には、日本語の能力が不十分であったり、日常的な会話はできていても学習に必要な日本語の能力が十分ではなく、学習活動への参加に支障が生じたりする場合がある。このため、生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるよう、一人一人の日本語の能力を的確に把握しつつ各教科等や日本語の指導の目標を明確に示し、きめ細かな指導を行うことが大切である。また、このような考え方は学習状況の評価に当たって生徒一人一人の状況をきめ細かに見取っていく際にも参考となる。

（略）生徒が在籍し、大半の時間を過ごすことになる通常の学級における指導に当たっては、一人一人の生徒の日本語の能力などに応じ、①授業において使われている日本語や学習内容を認識できるようにするための支援、②学習したことを構造化して理解・定着できるようにするための支援、③理解したことを適切に表現できるようにするための支援、④自ら学習を自律的に行うことができるようにするための支援、⑤学習や生活に必要な心理的安定のための情意面の支援といった側面からの支援が求められる。このため、通常の学級の担当教師には、例えば、ゆっくりはっきり話す、生徒の日本語による発話を促すなどの配慮、絵や図などの視覚的支援の活用、学習目的や流れが分かるワークシートの活用などの教材の工夫、生徒の日本語習得状況や学習理解度の把握に基づいた指導計画の作成など、生徒の状況に応じた支援を行うことが考えられる。

（略）さらに、通常の学級における指導、通級による日本語指導のいずれの場合においても、言葉の問題とともに生活習慣の違いなどによる生徒の不適応の問題が生じる場合もあるので、教師自身が当該生徒の言語的・文化的背景に関心を持ち、理解しようとする姿勢を保ち、温かい対応を図るとともに、当該生徒を取り巻く人間関係を好ましいものにするよう学級経営等において配慮する必要がある。また、外国人生徒や外国につながる生徒については、課外において当該国の言語や文化の学習の機会を設けることなどにも配慮することが大切である。

これらの日本語の習得に困難のある生徒の指導を効果的に行うためには、生徒の在籍する通常の学級の教師、通級による日本語指導を担当する教師や学校管理職など、全ての教職員が協力しながら、学校全体で取り組む体制を構築することが重要である。また、日本語教育や母語によるコミュニケーションなどの専門性を有する学校外の専門人材の参加・協力を得ることも大切である。（略）



## 参考資料・データ

# 「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・理科）



次は3年生の生物分野「遺伝の規則性と遺伝子」か。教科書をなぞるだけでは、子供達も学習内容を深く理解できないだろうし、資質・能力も身につけにくいだろうな。そもそもこの学習内容は本質的にどうい資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

## デジタル学習指導要領（イメージ）

目標

見方・考え方

高次の資質・能力  
(統合的な理解) (総合的な発揮)

生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴や規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解する。

科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。

知・技

思・判・表

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



なるほど、生徒が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。科学的な探究の活動を通じて、遺伝の規則性や生命の連続性を理解できるようにしたい。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認しておけば取り残される生徒も減りそうだ。



教科書の見開き2ページを毎コマ積み重ねるだけでは「科学的な探究」の活動にならないし、深い理解にも繋がらないから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。育成したい「高次の資質・能力」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか。...



「遺伝の仕組み」と「遺伝のモデル実験」の学習内容に重点を置き、それぞれ2時間を充てよう。規則性・生命の連続性に関する学びの本質がつかみやすいように、単元の最初と最後に、ガイダンスと振り返り時間を設定しよう。

科学的に探究する時間を確保したいし、「遺伝の仕組み」では、科学史としての「メンデルの交配実験」の扱いは軽くしよう。

特に、遺伝の仕組みの本質的な理解を促すために、4、5時に、「遺伝のモデル実験」を設定しよう。

第4時の実験では、「各自の実験結果の考察」を重点として、

第5時の実験では、「実験値と理論値を比較して考える新たな実験計画の立案」を重点として、実施しよう。

ここまでで「遺伝の仕組み」が理解できるので、最後に、遺伝を担うものを理解するために、「遺伝子の本体」について、1時間指導しよう。

これで、本単元での学習内容の順番が決まった。

これから、本単元に充てる授業時数は合計で7時間になるな。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。身につけさせたい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



知・技も、規則性・生命の連続性に関する本質的な理解をペーパーテストで見取るのは難しそうだ。今回は、実験記録の記述分析で見取ってみようか。

特に思・判・表は、科学的な探究の過程で身につけた資質・能力を総合的に発揮して表現するようなパフォーマンス課題を設けたらよさそう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！



「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・理科）

単元計画書のイメージ

1. 単元名：遺伝の規則性と遺伝子

2. 教科の見方・考え方

自然の事物・現象・・・を、●●●の視点から捉え、◆◆◆すること。

3. 分野・区分の高次の資質・能力

| 統合的な理解                               | 総合的な発揮                               |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴や規則性、関係性があり、・・・ | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして・・・ |

4. 単元の目標

| 知識及び技能                                         | 思考力、判断力、表現力等                                 | 学びに向かう力・人間性                                   |
|------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 生命の連続性に関する事物・現象に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子を理解するとともに、・・・ | 遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解し、・・・ | 遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を・・・ |

5. 単元の評価規準

| 知識・技能                                                                      | 思考・判断・表現                                                                      | 学びに向かう力・人間性                      |
|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、・・・ | 遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、遺伝現象についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、・・・ | ※「○」のつけ方など、具体的な評価の在り方については今後検討予定 |

学習指導要領の記述を転記する。

学習指導要領の記述を転記する。

学習指導要領の記述や生徒の実態を踏まえて設定する。  
【検討①】

単元の目標を基に、評価の観点の趣旨を踏まえて設定する。  
【検討②】

授業内容、評価場面と評価方法を計画する。【検討③】

6. 指導と評価の計画

| 時間     | 学習活動                                                | 重点              | 記録         | 備考                                                                                                         |
|--------|-----------------------------------------------------|-----------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1      | ●単元のガイダンス<br>●既習事項や既有的知識のイメージマップでの整理                | 態               |            | ※ガイダンスでは、<br>・学習の流れと学習方法<br>・前後の学習内容とのつながりを指導する。<br>※イメージマップでの整理は7時間目に自己の変容に気付かせるために行う。                    |
| 2<br>3 | ●遺伝の仕組み<br>・メンデルの交配実験<br>・有性生殖と顕性の法則<br>・減数分裂と分離の法則 | 知               |            | ※遺伝の法則については、生命現象と関連付けて理解させる。                                                                               |
| 4<br>5 | ●遺伝のモデル実験<br>・実験操作の意味<br>・実験結果の考察                   | 知<br>思          | ○<br>○     | ※観点別学習評価は、<br>・操作の意味を理解しているか<br>・実験結果と理論値を比較して結果の妥当性や改善方法を考察しているかを記述分析で評価する。                               |
| 6      | ●遺伝子の本体<br>・染色体、DNA、遺伝子の関係                          | 知               |            |                                                                                                            |
| 7      | ●学習の振り返り<br>・学習内容のイメージマップでの再整理<br><br>●パフォーマンス課題    | 態<br><br>知<br>思 | ○<br><br>○ | ※観点別学習評価は<br>・学習前後の自己の変容を基に、次単元での学習にどのように生かそうとしているかを記述分析で評価する。<br>※高次の資質・能力を踏まえたパフォーマンス課題で、資質・能力の深まりを確認する。 |

7. パフォーマンス課題

「2色のトウモロコシの種子の色の遺伝」について、その仕組みを説明しなさい。

高次の資質・能力を踏まえて作成する。  
【検討④】



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

# (参考)「話すための思考」から見た外国語学習の意義

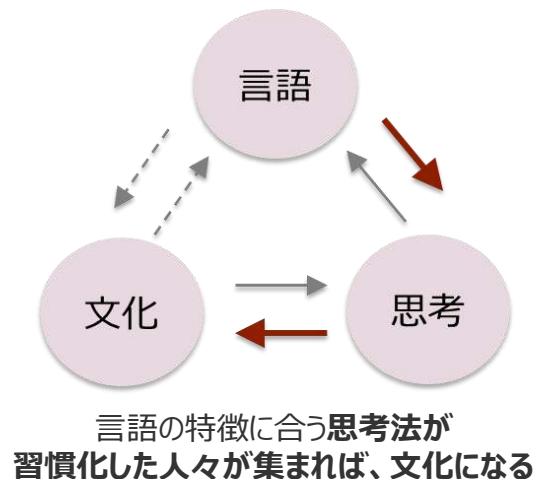
## 「話すための思考」から見た外国語学習の意義

- 同じ状況を表す異なった言語の表現形式を比較することを通して、両言語話者の持つものの見方や世界の捉え方の違いを理解することができる。外国語学習の意義とは、母語とは異なる新たな思考法（新たなものの見方、新たな世界の捉え方）があることを知り、複眼的に世界を見る知力を養うこと。
- どんなにAI翻訳によって言語のコミュニケーション機能が代替されたとしても、消えずに残される外国語学習の意義がまさにここにある。
- 外国語を学ぶということは、ことばの奥深さに触れることに直結する。仮にAI翻訳にコミュニケーションを任せる時代が到来したとしても、ことばの奥深さを意識するチャンスは失ってはならない。それが、巡り巡って他者を知り自分を知ることになる。

(参考) Slobin(1996)の「話すための思考」(Thinking for speaking)

※言語、思考、文化を分かりやすさの観点から単純化して示している点に留意。

文化から思考へ、思考から言語へ、という一連の意識の流れだけでなく、言語から思考へ、思考から文化へという流れも存在している。



話す言語によって、話す内容のどこに注意を払うか（思考）が異なる

(参考) 選択的注意：環境の中に埋め込まれた情報を能動的に取りに行く

(例)



英語：対象物が可算・不可算か、単数・複数か  
→ a cow / cows

日本語：対象物が動物か否か  
→ 牛がいる ⇔ 木がある

言語を使うほど、思考法が習慣化され、  
言語を話していないときでも人間は無意識にその思考を行うようになる

# (参考) 日本語と英語の「視点」の違い

※以下は一例であり、必ずしも当てはまるものではなく、二項対立的に捉えるべきではない点に留意。

日本語話者は、自身に関わる出来事を**事態内視点**で捉え、  
英語話者は自己を客体視することによって**事態外視点**で捉える傾向がある

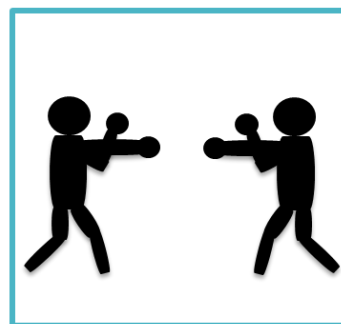
## 事態把握の様式



### 事態内視点

事態の中にいる自分視点で、事態を見ている様式

a



### 事態外視点

自分が関わる事態を、事態の外から見ている様式

b

例1

国境の長いトンネルを抜けると  
雪国であった。

The train came out of the long  
tunnel into the snow country.

川端康成の「雪国」の冒頭部分とその英訳。  
描いている情景は同じだが、日本語と英語とで視点の  
取り方が異なっている。

例2

その髪型いいね。

Your haircut is nice.

私その髪型好き。

I like your haircut.

日本語話者は「事態内視点」でaのように、  
英語話者はbのように言う傾向がある。

例3

The lecture is boring.

この講義は退屈です。

I find the lecture boring.

私はこの講義が退屈だと感じます。

英語ではabともに見られる表現。  
aは自然な日本語であるのに対し、事態外視点をとって  
いるbは日本語として違和感がある。

# (参考) 可視的文化と不可視的文化、日本語文化と英語文化

※以下は一例であり、必ずしも当てはまるものではなく、二項対立的に捉えるべきではない点に留意。

他言語話者が持っている不可視的文化を理解することは、  
無自覚のうちに持っている自己の不可視的文化に自覚的（メタ認知）になる

## 可視的文化と不可視的文化

### ● 可視的文化（Visible Culture）

言語学習なしでも理解可能な、翻訳を通して理解できる文化の側面

（例）クリスマスの慣習、靴を履いたまま家の中で過ごす慣習

### ● 不可視的文化（Invisible Culture）

言語学習を通してはじめて理解が可能な、自然な翻訳（直訳）を通すと理解できなくなってしまう文化

（例）黄色い線の内側でお待ちください → Please wait behind the yellow line.

#### ● 隠れた文化（Covert Culture）

暗黙の了解として共同体で共有されている部外者には認識されにくい文化

（例）John takes a shower everyday → 朝にシャワーを浴びる習慣

## 日本語文化の特徴

### ● 比較的容易に他者を自己に同期、同化

事態内視点をとる傾向にある日本文化では、他者の視点を自己の視点に同期または同化させる傾向がある

（参考：察しの文化）

他者も自分と同じように感じ、同じように考えているはずだという前提

### ● 対象に共感できるか否かに敏感

（例）子犬を抱く ⇔ 大きな魚を抱える

※生物か否か、有情か否かは、対象に共感できるかどうかを決める重要な要素

## 英語文化の特徴

### ● 他者は自分とは異なるということが暗黙の前提

くどいようでも、相手に何を指しているのかを明示

（例）英語では代名詞を使用

### ● 対象への共感や生物か否かは英語において日本語のように意識されない

（例）Hold a puppy/ a big fish.



# (参考) CEFR-CVにおける複言語・複文化能力についての言語能力記述文 (Can do)

- 2001年、欧州議会が言語教育の質的な改善と柔軟な (open-minded) 複言語的市民の育成等を目的として、**CEFR※<sup>1</sup>を開発**。  
**言語を使用して何ができるかをレベル別の言語能力記述文 (Can do) で示した。**  
※ 1 Common European Framework of Reference for Languages: Learning teaching assessment : 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠
- 学習者・教授する者・評価者がCEFRを共有することによって、**言語熟達度を同一基準で判断しながら「学び、教え、評価」できるよう意図**されているとともに、Can doの学習目標を実世界での言語使用と関連付けることで、**行動中心アプローチによる学習枠組みを提供**。
- 2020年には「ヨーロッパ言語共通参照枠 随伴版」(**CEFR-CV**※<sup>2</sup>) **の確定版を公表し、CEFRレベルに対応する複言語・複文化能力についてのCan doも示した**。CEFR-CVで示す複言語・複文化能力についての説明やCan doについては、**FREPAを参照することを推奨している**。  
※ 2 Common European Framework of Reference for Languages: Learning teaching assessment Companion Volume
- 複言語・複文化能力をCEFR レベルと関連させた理由は、カリキュラム開発者や教師が、(a) 自分が置かれている状況の中で言語教育の視野を広げるとともに、(b) 学習者の言語的・文化的多様性を認め、尊重する努力を支援するためであり、**教師や言語の使用者/学習者が他者の文化的・言語的な多様性やその価値に目を向け、それらを言語熟達度と関連させて捉えることの重要性を示唆**している。
- 複言語・複文化能力を構成している「**複文化レパートリーの構築**」には、  
例えば以下のような概念が含まれている。

- ・ 文化の多様性に接した時、その曖昧さに対する対応（振る舞いの調整、表現の修正等）。
- ・ 異なる文化の慣習や規範への理解、ある行動について文化を異にする人々は、異なった受け取り方をするかもしれないということを理解する必要があるということ。
- ・ ジェスチャー、声の調子、態度などの立ち振る舞いの違いを理解し、過度の一般化とステレオタイプについて話し合うことが必要であるということ。
- ・ 違いを受け止め、共通点を見出し、コミュニケーションの改善に利用すること。
- ・ 違いに敏感（繊細）であることを示す意欲を持つこと。
- ・ 誤解が生じる可能性があることを予測し、説明を申し出たり求めたりするための心構え。

## 複言語・複文化能力の構成



(出典) Council of Europe(2020) Common European Framework of Reference for Languages: Learning teaching assessment – Companion volume Council of Europe Publishing Strasbourg available at [www.coe.int/lang-cefr](http://www.coe.int/lang-cefr).

欧州評議会(2020)『言語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠 随伴版』

令和6年2月22日 文化審議会国語分科会日本語教育小委員会(第124回)資料2 「日本語教育の参照枠」の見直しのために検討すべき課題について」を基に作成。

※文部科学省で仮訳したものであり、原文の一部を省略している

# (参考) CEFR-CVにおける「複文化レパトリー」の構築」のCan do

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| C2     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテキストに合わせて自分の行動を開始したり、言葉遣いをコントロールしたりすることができ、文化的な差異に対する気づきがあることを示し、微妙な修正を行ない、誤解や文化的突発事故を避けることができる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| C1     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会言語的/社会語用論的側面での慣習の違いを認識し、それを批判的に省察し、自分の言葉遣いを修正できる。</li> <li>・異文化の出会い、読み物、映画などを引き合いに出して、注意深く文化的価値観や実践行動の慣習の背景を説明したり、解釈したり議論したりできる。</li> <li>・異文化間コミュニケーションで起こる曖昧さと取り組み、相手の反応を建設的に説明し、また文化的に適切に表現し、説明ができる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| B2     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・**自分自身と他の社会グループの物の見方と実践行動を、判断と偏見を左右することの多い暗黙の価値観に気付いていることを示しながら、記述・評価ができる。</li> <li>・**自分のコミュニティがもっている、そして自分にとって馴染みのある他のコミュニティがもっている、文化的な前提、先入観、ステレオタイプ、偏見に対する解釈を説明することができる。</li> <li>・**他の文化からの文書や出来事の解釈・説明ができ、それを自分自身の文化、または自分が馴染みの文書や出来事との関係づけることができる。</li> <li>・**自分のコミュニティおよび他のコミュニティの、メディアの中の情報や意見の客観性や釣り合いについて、議論できる。文化的に規定されている行動パターンの類似性と相違（例：ジェスチャーと話し声の大きさや、手話の場合は手話表現の大きさ）を把握し、その意味を議論し相互理解に持っていける。</li> <li>・異文化間の出会いで、通常は人が一定の状況で当然と受け取っていることが必ずしも他と共有されているわけではないことを認識でき、適切に対応したり自分の考えを表明したりできる。</li> <li>・一般には文化的特徴を当該文化の中で適切に解釈できる。</li> <li>・自文化や他文化で特有のコミュニケーションのやり方や、それが引き起こし得る誤解を省察し、説明ができる。</li> </ul> |
| B1     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢やアイコンタクト、他人との距離に関する慣習に従った行動が大抵の場合とれる。</li> <li>・ごく一般に使われている文化的特徴に大抵の場合適切に対応できる。自分の文化の特徴を他の文化の人たちに説明できるだけでなく、他の文化の特徴を自分の文化の人たちに説明できる。</li> <li>・簡単な専門用語を使って、自分たちの価値観や行動が、他の人たちの価値観と行動に対する見方に影響を与えることを説明できる。</li> <li>・簡単な専門用語を使って、他の社会文化のコンテキストの中では自分自身には「変だ」思われることが、当該の社会文化のコンテキストでは「普通」になる経験を議論できる。</li> <li>・簡単な用語を使って、自分自身の文化的に規定された行動が、他の文化の人々には違った受け取り方をされる経験を議論できる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                      |
| A2     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的やり取りと結びついた文化的な基本慣習（例：挨拶の仕方の相違、儀礼）を認識し、それに従える。日常的な挨拶、お別れが言え、感謝とお詫びも適切に言えるが、ルーティンから外れたところでは難しい。</li> <li>・日常の取引で自分の行動が望んだとは異なるメッセージとして伝わるかも知れないと認識し、それを簡単に説明しようと試みることができる。</li> <li>・他の文化の人とのやり取りで問題が生じることを認識することはできるが、その状況の対応の仕方はよく分からない。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| A1     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数え方、距離の測り方、時間の表し方などに、いろいろな方法があることを認識できるが、ただ、日常の具体的な交渉や取引でそれを援用するには困難が見られる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| Pre-A1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用できる能力記述文はない。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

「\*\*」がついている能力記述文はB2レベルにとっても高度なものであり、Cレベルにも適しているかも知れない。

(出典) 欧州評議会(2020)『言語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠 随伴版』を基に作成。

# (参考) FREPA (言語と文化への多元的アプローチのための参照枠)

- 2004年以降、欧州評議会の欧州現代語センター (European Centre for Modern Languages (ECML)) は、複言語・複文化教育を推進することを目的として、**FREPA※1 を開発**し、2012年に「A Framework of Reference for Pluralistic Approaches to Languages and Cultures」を公表。

※1 Framework of Reference for Pluralistic Approaches to Languages and Cultures : 言語と文化への多元的アプローチのための参照枠

- FREPAは、**複数の言語・文化を関連付けて扱う「多元的アプローチ (pluralistic approaches)」を重視し、学習者が身につけるべき「能力」と「リソース」を示した。**

## 能力 (Competences)

実際のコミュニケーションや学習の場面 (状況) において、複数の内的・外的リソースを動員して課題を遂行する複雑な力。主に以下の2つの領域に大別される。

- **C1 : 他者性の文脈における言語的・文化的コミュニケーションを管理する能力** (紛争解決、交渉、仲介、適応など)
- **C2 : 複数の言語・文化的レパートリーを構築・拡張する能力** (経験の活用、体系的な学習の適用など)

## リソース (Resources)

能力を支える内的な資源。

**言語能力のレベルとは無関係に、以下の3領域別に能力記述文 (Can-do) を示した。**

- **知識 (Knowledge/Savoirs)**: 言語と社会、言語的及び非言語的コミュニケーション、文化の多様性に関する知識など
- **態度 (Attitudes/Savoir-être)**: 言語・文化・言語と文化の多様性に対する関心・意欲、相対化、学びに向かう態度など
- **技能 (Skills/Savoir-faire)**: 観察・分析、特定、比較、言語間の転移、やり取り、学習の仕方の技能など

※Byram(1997, 2021)の異文化間コミュニケーション能力 (ICC) についてはP.43参照

- また、FREPAはカリキュラムの開発者、教材作成者、教師等を対象に以下のツールを提供している。
  - 言語と文化への多元的アプローチのための参照枠 : 体系化・階層化された能力とリソースのリスト
  - オンライン教材データベース: 多元的アプローチを教室で実践するための活動案
  - トレーニングキット: 教師が自律的に多元的アプローチを学ぶための研修用モジュール

## (参考) FREPAにおける能力記述文の例 【態度】

| A-2       | 他の言語／文化／人間の存在に対する気づき、あるいは言語的／文化的／人間の多様性に対する気づき。                                                                   |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A-2.1     | 自分の言語や文化、および他の言語や文化に対する気づき。                                                                                       |
| A-2.2     | 言語的／文化的差異に対する気づき。                                                                                                 |
| A-2.2.1   | 言語や文化によって異なりうる、言語や文化のさまざまな側面に気づいている                                                                               |
| A-2.2.1.1 | 言語的な世界（例えば、言語音、文字、統語組織など）や文化的な世界（例えば、テーブルマナーや交通規則など）の多様性に気づいている                                                   |
| A-2.2.2   | 同一の言語（方言なども含む）や文化の変異形（局所的な変異形、地域的な変異形、社会的な変異形、世代的な変異形）に気づいている                                                     |
| A-2.2.3   | 言語や文化の中にみられる他者性の痕跡（例えば日本語の中の借用語）に気づいている                                                                           |
| A-2.3     | 言語的／文化的な類似性に対する気づき。                                                                                               |
| A-2.4     | 異なる言語／文化の間にある差異および類似性に敏感である                                                                                       |
| A-2.4.1   | あいさつの仕方、コミュニケーションを始める方法、時間の表現方法、食事の仕方、遊び方といったことに、大きな多様性があることに気づいているまた、「それと同時に」、それらの様式が応える普遍的なニーズには類似性があることに気づいている |
| A-2.5     | 周囲の、あるいは離れた場所の複言語的／複文化的な状況に対する気づき。                                                                                |
| A-2.5.1   | 社会の言語的／文化的多様性に気づいている                                                                                              |
| A-2.5.2   | 教室の言語的／文化的多様性に気づいている                                                                                              |
| A-2.5.2.1 | 教室内にみられる諸言語／諸文化の多様性に気づいている（それらの言語／文化が自分の言語的／文化的な実践／知識と併存している場合）。                                                  |
| A-2.6     | 言語的／文化的な慣習の相対性に対する気づき。                                                                                            |



# (参考) 異文化間コミュニケーション能力に関する研究上の知見

- Byram(1997, 2021)は、**異文化間コミュニケーション能力 (Intercultural Communicative Competence (ICC))**を言語能力だけでなく、異なる文化的背景をもつ人々とコミュニケーションを行いながら、文化的な意味を解釈し、関連付け、異なる文化の間を仲介する複合的な能力として捉え、ICCの**モデルを提示**。
- 従来のコミュニケーション能力のモデルは対象言語のネイティブ・スピーカー（母語話者）を理想としていることを問題視し、「**異文化間話者 (Intercultural Speaker)**」を理想として掲げた。

## 異文化間コミュニケーション能力

### 言語能力

話し言葉、書き言葉を産出し、解釈するために、その言語の標準変種のルールに関する知識を適用する能力

### 社会言語能力

一人の対話相手が産出した言語に対して、対話相手が当然としている意味づけ、あるいは対話相手との交渉によって明らかとなる意味を付与する能力

### 談話能力

対話相手の文化の慣習に従った、あるいは特定の目的のための異文化間テキストとして交渉の対象となる独和型ないし対話型テキストを産出し、解釈するための方略を使い、発見し、交渉する能力

## 異文化間能力

### 解釈／関連づけのスキル (savoir comprendre)

他文化の文書や出来事を解釈・説明し、自国の文書や出来事にそれらに関連づける能力

### 知識 (savoir)

- ・ 社会集団と、自国と対話相手の出身国における社会集団の産物と習慣に関する特定の知識
- ・ 社会的及び個人間の相互交流の過程に関する一般的知識

### クリティカルな文化意識 (savoir s'engager)

自己の文化や国、他の文化や国に見られる価値観を、クリティカルにかつ明確で体系的な推論の過程に基づいて評価する能力

### 好奇心/開放性を持つ態度 (savoir être)

好奇心、開放性、他の文化についての疑念と自己の文化についての信念を保留する心構えがあること

### 発見／相互交流のスキル (savoir apprendre-faire)

文化的習慣についての新しい知識を習得する能力、リアルタイムでコミュニケーションと相互交流を行うという制約のもとで、知識、態度、スキルをうまく操作する能力

# (参考) 異文化間能力に関する研究上の知見

- Butler & Jiang (2025) は、異文化間能力 (Intercultural Competence) を早期から育成することの重要性は長く認識されてきた一方で、**子供※の発達段階に即した教育の重要性を指摘**。  
※外国語 (Foreign Language) または第二 (追加) 言語 (Additional Language) を学ぶ若年言語学習者 (young language learners (YLLs) )
- Read (2022) の「Three-phase model」のように従来の大人向けモデルを子供 (4～12歳) 向けに再構築する取り組み等も進んでいるが、子供の異文化間能力を育むためには**理論的・概念的な定義の不足、教師の専門的研修の不足や言語の壁、発達段階や実態に応じた教材の不足等の課題があり、今後さらなる研究が必要であるとした**。

## Three-phase model

※Byramの異文化間コミュニケーション能力 (ICC) モデルを基礎としつつ、子供の年齢に応じた認知的、概念的、心理的、社会的および情緒的発達を反映するように設計。  
※必ずしも外国語・第二言語の教育における異文化間教育を念頭においているものではなく、一般的なモデルである可能性に留意。

### ●第1段階：本物の子供の文化 (Authentic Children's Cultures)

**対象：**主に幼児～小学校低学年

**目的：**他の文化圏の子供たちも自分たちと同じような活動を楽しんでいることを理解することで、**肯定的な自己イメージと自信を育むことを目指す**。

**内容：**遊びを中心とした活動。学習者が母語や身近な言語で既に親しんでいる、韻 (ライム)、歌、絵本、物語、ゲーム等を外国語で体験。

### ●第2段階：文化の比較と対比 (Comparing and Contrasting Cultures)

**対象：**主に小学校中学年

**目的：**文化間の比較・対比を行い、クラスメートの文化を含む**多様な文化を尊重する姿勢を養う**。

**内容：**自己の文化的なアイデンティティや共感能力が発達し始める時期に合わせて、絵本やプロジェクト型の活動を実施。家族、移民、友情といった社会的・文化的話題について考え、クリティカル・シンキングを養う。

※その際、文化に対する固定観念 (ステレオタイプ) や過度な一般化を避けるような教材や活動が重要。

### ●第3段階：より広い世界の文化 (Cultures in the Wider World)

**対象：**主に小学校高学年

**目的：****自分自身の見方を相対化しながら、多様な視点や信念を理解し、尊重できるようになることを目指す**。

**内容：**育まれたコミュニケーション能力やデジタル技術を活用し、探究学習やオンラインによる国際交流等を通して異文化の文脈でやり取りできる力を養う。

(出典) 以下の文献を参考に文部科学省作成。 ※文部科学省で仮訳したものであり、原文の一部を省略している

Butler Y. G. & Jiang S. (2025). Intercultural learning in preschool and primary school contexts. In C. Fäcke X. Gao & P. Garrett-Rucks (Eds.) Handbook of plurilingual and intercultural language learning (pp. 275–287). John Wiley & Sons.

Read C. (2022). Creating a model for intercultural competence in early years and primary ELT. In D. Valente & D. Xerri (Eds.) Innovative practices in early English language education (pp. 57–79). Palgrave Macmillan.

# 「活動を通じた指導の在り方」について



## 1. 外国語を学ぶ意義

- ・ AI時代に外国語を学ぶ意義の再定義と、外国語の「見方・考え方」の見直し

## 2. 目標・内容の一層の構造化

- ・ 「学びに向かう力・人間性等」の整理等を踏まえた目標の示し方
- ・ 「高次の資質・能力」（「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」）を中心とした内容の一層の構造化

## 3. 発信力強化

### （1）グローバル・多文化共生社会の担い手の育成 （外国語で他者とコミュニケーションを図る意欲等の育成）

- ・ 英語を学ぶ動機付けや児童生徒の目標設定の在り方
- ・ 動機付けを強化するための話題・活動の在り方

### （2）英語の使い手の育成（英語運用能力の育成）

- ・ 校種間接続の課題等を踏まえた指導内容（話題・活動等）の段階的な示し方
- ・ 5領域の活動を通じた知識及び技能の指導の在り方（語彙や文法の指導を含む）
- ・ 科学的知見を踏まえた学習プロセスを意識した指導の在り方
- ・ 高等学校の科目（特に「論理・表現」）の在り方
- ・ AIを含むデジタル学習基盤の活用の在り方

## 4. 児童生徒の英語力の把握・評価

- ・ 「学びに向かう力・人間性等」の評価の新しい整理を踏まえた評価等の在り方

## 5. 柔軟な教育課程

- ・ 義務教育における調整授業時数制度や高校における科目の柔軟な組み替えや履修の免除を可能とする仕組みを前提とした場合に、考えられる教育課程・学習指導の工夫の在り方

## 6. 指導体制・環境整備等

- ・ AI時代の教師・ALT等の役割の再定義
- ・ 教員の資質（英語力・授業力）向上のための方策と、ALT等との連携の在り方
- ・ 外国語を使う機会の充実の在り方

## 7. 英語運用能力に関する社会全体の課題

- ・ 英語運用能力に関する社会全体の課題と、学校教育において取りうる対応の方向性

## 8. 英語以外の外国語

- ・ 英語以外の外国語の推進方策





## 【現状と課題】

### 1. 「言語活動」に関する経緯

- 昭和44・45年改訂において、外国語の学習指導要領の「学習活動」が「言語活動」と位置付けられた。以降、言語活動の内容が徐々に高度化するとともに、前回改訂において、「言語活動に目的や場面、状況などの設定が求められ、活動内容が例示となり、思・判・表を育成するものとされた」
- 外国語の目標の柱書きに「言語活動を通して」が規定されたことにより、「言語活動を通した指導」の必要性が学校現場に浸透し、5領域の活動を通した指導の推進に一定の進捗が見られる

### 2. 「言語活動」に関する課題

#### (1) 目標柱書の記載

- 目標の柱書の「言語活動を通して…育成する」という規定ぶりが、言語活動以外の活動は行ってはならない、望ましくないとの誤解を生じさせているとの指摘がある
- 個別の活動が「言語活動かどうか」という議論に陥りがちな面がある

#### (2) 言語活動に必要な要素

- 前回改訂において、「言語活動」の内容は例示となった一方、告示本文に「言語活動に必要な要素が規定されておらず、「言語活動」の解釈のばらつきがみられる」  
※「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動」との文言はあるが、言語活動を定義する規定とはなっていない。また、やり取り中心の記述となっている  
※多様な活動をどこまで「言語活動」に含めるのか等については、様々な受け止めがある状況



## 【方向性と具体的論点（案）】

### 1. 検討の方向性

- 活動を中心とした指導というこれまでの改善の趣旨は維持しつつ、生じている課題を踏まえて一層の授業改善に資するよう、分かりやすく使いやすい学習指導要領という方針に基づき、用語や記載を整理すべきではないか

### 2. 具体的な改善案

#### (1) 目標柱書の記載

- 目標の柱書において、資質・能力の育成のために必要な活動を過不足なく明記すべきではないか

#### (2) 言語活動に必要な要素

- 学習指導要領本文において、活動に必要な要素を具体的に書き下して示すべきではないか



## 【現状と課題】

### （３）資質・能力との関係

- 「言語活動」が主に思・判・表の育成を目的とするものと位置付けられている一方、知・技は「言語活動を通して」育成することとされている。また、「言語材料について理解したり練習したりするための指導」は「言語活動を行う際…必要に応じて行う」と限定的な記載となっている。  
※後者は小・中学校の学習指導要領における記述。高校においては本文に「練習」に関する記述はない
- 上記のとおり、知・技の育成については、思・判・表を育成する過程で育成される場合と、限定的な「理解したり練習したりする指導」により育成される場合のみが位置づけられており、知・技の育成を目的とする活動の位置づけが不明確であることから、知・技を育成するための段階的な指導の必要性や具体がわかりにくいとの指摘がある
- 「言語活動」と資質・能力との関係が十分に整理されておらず、活動を通じてどのような資質・能力を育成するかが意識されていない可能性がある

### （４）「言語活動」という用語の位置づけ

- H20改訂において、思・判・表の育成のための言語能力育成の観点から、各教科の学習指導要領本文に言語活動が位置づけられ、「言語活動」は学習指導要領全体の共通用語となっている。一方で、外国語における「言語活動」は、改訂を経て、他教科と比してその要件や位置づけが重くなっており、共通用語である「言語活動」という文言では表しきれない概念となっている

### （５）練習の位置づけ

- 「言語活動を行う際は…言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う」としているが、「練習」という言葉から想起されるイメージが様々となっている



## 【方向性と具体的論点（案）】

### （３）資質・能力との関係

- 教師等が活動を通じてどのような資質・能力を育成するかをより意識しやすくなるよう、育成する資質・能力により活動を整理し、知・技の育成を目的とする活動も明確に位置づけるべきではないか
- その上で、知・技を育成する活動と思・判・表を育成する活動を相互に関連付けながら、これらの資質・能力を一体的に育成する指導の在り方を整理し、学習指導要領の内容の取扱いや解説で示すべきではないか
- 併せて、学校現場の負担を軽減しつつ、効果的な実践が行いやすくなるよう、第二言語習得の研究や認知心理学、学習科学などの知見も踏まえ、教師の指導や学習者の自己調整学習において参考となる学習動画等を提供すべきではないか

### （４）言語活動という用語の位置づけ

- 上記（１）～（３）を整理することにより、従来の「言語活動」という文言で表したかったことを分かりやすく示すべきではないか

### （５）練習の位置づけ

- 「練習」という言葉から想起されるイメージが様々となっていること、当該文言を用いている教科がごく一部であることも踏まえ、「練習」は用いずに必要な活動を記載すべきではないか

# 学習指導要領における言語活動の位置づけの変遷

S44・45改訂

H10改訂

H29・30改訂

言語活動  
の要件

言語活動の文言が登場  
(従来は学習活動)

言語活動に**使用場面**の設定を求める  
(※高校はH元年改訂のOCより)

言語活動に**目的や場面、状況など**の  
設定を求める

- 言語活動：言語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする、言語を総合的に理解したり表現したりする活動。音声も文型も文法事項も含めて、総合的に行わせるものであり、言語の実際の使用につながるもの
- 練習：音声、文型、文法事項のような言語の一面だけについての練習  
(※高校の説明より。中学校の説明は確認できず)

言語活動が思・判・表の育成と結びつく

言語活動  
の内容

指導事項として**具体的な活動を記載**

活動内容は徐々に高度化

**活動は例示**となる

練習の  
位置づけ

言語活動に練習の要素が高い  
活動が含まれていた

言語活動から練習  
的な要素が減少

(高) 言語活動を効果的に行うための  
指導事項として練習的な指導  
を位置づけ

(中) 言語材料について理解したり練習  
したりする活動を**言語活動に位置  
付け**

言語活動を効果的に行うための指導事項  
から練習的な要素が減少

言語活動を効果的に行うための  
指導事項の記載がなくなる

言語材料について理解したり練習したり  
する活動が**言語活動から外れる**

(参考)  
他教科の状況

S44改訂

中学校の総則において「学校生活全体における  
言語環境を整え、生徒の言語活動が適正に行な  
われるように努めること」を位置づけ  
(小学校はS52年、高校はS53年改訂で位置づけ)

H10改訂

国語の指導要領本文に  
言語活動の例を規定

H20改訂

H19の学教法改正により学力の3要素が示さ  
れたことに伴い、思・判・表を育成するために  
言語能力を育成する必要性から、総則におい  
て国語科を要として各教科等の特質に応じ  
て言語活動を充実することとされ、各教科の  
指導要領本文に言語活動を位置づけ

# 現行の学習指導要領の「言語活動」を通した指導と今回の整理の関係

## 「言語活動」を通した指導

### 「言語活動」

#### ① コミュニケーション活動 （主に思・判・表を育成）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて  
外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

← ①の活動に対する指導

#### 現行の学習指導要領における位置づけが不明確な部分

#### ② コミュニケーション活動を支える活動 （主に知・技を育成）

音声や語彙、表現等を、文脈\* などの中で理解・活用する活動

「言語材料について理解したり練習したりするための指導」（小・中のみ記載あり）

← ②の活動に対する指導

\* 前後関係



# 【参考】現行の学習指導要領における言語活動に関する主な記載（小・中・高）

※中学校の例だが、小学校、高等学校にも同趣旨の記載あり

## 【本文】

### 第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）知識及び技能 （２）思考力、判断力、表現力等 （３）学びに向かう力、人間性等

### 第2 各言語の目標及び内容等

#### 英語

#### 2 内容

##### 〔知識及び技能〕

（１）英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、・・・言語材料・・・について理解するとともに、  
言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

##### 〔思考力、判断力、表現力等〕

（２）情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 …

（３）言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

（２）（※思・判・表）に示す事項については、（１）（※知・技）に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。

ア（略） イ 聞くこと ウ 読むこと エ 話すこと〔やり取り〕 オ 話すこと〔発表〕 カ 書くこと

② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。

ア 言語の使用場面の例 イ 言語の働きの例

※知・技も言語活動を通して育成することとしている一方、言語活動が主に思・判・表の育成を目的とするような規定となっている

（一方で、言語活動例には、文字を発音する、アルファベットを書く（小）や音読（中）など、思・判・表との関係が分かりにくい活動も例示されている）

### 3 指導計画の作成と内容の取扱い ※「(1)指導計画の作成上の配慮事項」の記載は次頁参照

#### (2) 内容の取扱い

ク 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

# 【参考】現行の学習指導要領における言語活動に関する主な記載（小・中）

※高等学校においては練習に関する記載は無い

## 小学校

### 【本文】

3 指導計画の作成と内容の取扱い (1)指導計画の作成上の配慮事項(1)

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

### 【説明】

この配慮事項は、言語を使用する場面を設定し、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動が重要であることを示している。

また、そのような活動を行う際には、単元又は1単位時間の初期段階で言語活動を通して学習内容として設定されている表現の音声を聞いたり話したりするなど、英語の音声に慣れ親しませる活動を展開し、言語の意味や働きなどを理解させることが大切である。その上で、後期段階においては、設定された場面の中で、自分の考えや気持ちを互いに伝え合う言語活動を展開するなどの学習過程の工夫が大切である。

※小・中において「言語材料を理解したり練習したりする指導」は、「必要に応じて行う」と限定的な位置づけ

→（前スライドの記載と合わせて）小・中においては、知・技は、思・判・表を育成する言語活動（P.5の①）に伴って、

または（限定的な）理解したり練習したりする指導により育成するような規定となっている（P.5の②が十分に位置づけられていない）

※高校においては、「言語材料を理解したり練習したりする指導」が本文に位置付けられていない（P.5の②が位置づけられていない）

## 中学校

### 【本文】

3 指導計画の作成と内容の取扱い (1)指導計画の作成上の配慮事項(1)

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

### 【説明】

この配慮事項は、今回の改訂で小学校第3学年から外国語活動、第5学年から外国語科が導入されたことを受け、前段では改訂前に「実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに（中略）言語材料について理解したり練習したりする活動を行う」と示されていたものを変更するとともに、後段を新しく示したものである。

言語活動は、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど」の活動を基本とする。小学校の中学年の外国語活動で実践されている「自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動」や高学年の外国語科で実践されている「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動」などを踏まえて行うことが大切である。

中学校第1学年においては、特に、小学校における外国語活動や外国語科の内容、指導等の実態や生徒の興味・関心等を十分に踏まえるとともに、生徒が在籍していた小学校において、どのような時間割編成、指導体制によって授業が行われているかを把握することにより、中学校への円滑な接続を図ることが必要である。その上で、2(1)に示す言語材料について「理解したり練習したりするための指導」を必要に応じて行うことができるように指導計画を作成することが大切である。

また、言語材料について理解したり練習したりすることが目的となって、単に繰り返し活動を行うのではなく、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるように留意しなければならない。小学校段階で「聞くこと」、「話すこと」に加えて「読むこと」、「書くこと」を通して学んだ簡単な語句や基本的な表現などの学習内容については、言語活動において具体的な課題等を設定するなどして、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して繰り返し活用し定着を図ることができるように指導を行うことが求められている。その際、ICT等を活用した効果的な言語活動の工夫や、生徒が自らの学習活動を振り返って次につながる「主体的な学び」ができるようにすることも重要となる。

# 【参考】前回の学習指導要領（平成20年告示）における言語活動に関する主な記載（中）

## 前回指導要領（H20）中学校

### 【本文】

#### 2 内容（2）言語活動の取扱い

- ア（ア）実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに、（3）に示す言語材料について理解したり練習したりする活動を行うようにすること。
- （イ）実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにすること。
- （ウ）言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。

### 【説明】

言語活動では、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動が重要であるが、それを支える言語材料について理解したり練習したりする活動も必要である。ここでは、3 学年間を通した言語活動の取扱いについての全体的な配慮事項として、その両者のバランスに配慮しつつ指導することの必要性を述べている。実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うに当たっては、それを支える言語材料についての理解や定着のための練習が不可欠である。言語を使用する活動を強く指向するあまり、発音の基本、語句や文の構造についての指導がなおざりにされることがあってはならない。また、これとは逆に、言語材料について理解したり練習したりする活動に終始し、その結果、言語を使用する活動そのものが不十分になることのないように配慮する必要がある。

※前回指導要領（H20）では、「言語材料について理解したり練習したりする活動」が言語活動として位置づけられていたが、現行（H29）では、「必要に応じて行う」と限定的な位置付けとなっている

## 現行指導要領（H30）中学校

### 【本文】

#### 3 指導計画の作成と内容の取扱い（1）指導計画の作成上の配慮事項（1）

- ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の（1）に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

生徒が行う活動

教師の指導

①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

※知・技も習熟・熟達に向かう

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて  
外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①の活動に対する指導

（例）

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた、
- ・聞き取ったり、読み取ったりした情報の整理などに関する指導
  - ・伝えるべき内容に関する指導
  - ・分かりやすく伝えるための伝える順序などに関する指導
  - ・相手の理解に配慮した伝え方の工夫に関する指導

（①⇔②を往還させる指導の例）

- ・①でコミュニケーションを行うことにより知識及び技能の必要性（表現しきれないことや間違い等）に気付かせ、②により使い方に慣れる
- ・②を行う際に、本単元が目標とするコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを生徒に共有して学習の目的意識を持たせる
- ・②である程度活用できるようになった知識及び技能を、①でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて使わせる

②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や語彙、文法等を、文脈\*などの中で  
理解・活用する活動

（例）

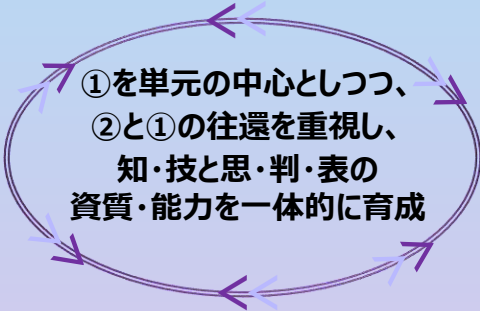
- ・特定の語彙や文法等をコミュニケーションで使う活動
- ・特定の語彙や文法等の意味や使い方に気づいたり理解したりする活動
- ・語句や表現を覚える活動
- ・流暢性を高める活動

②の活動に対する指導

（例）

- ・特定の語彙や文法等について、正しい理解を促す指導
  - ・特定の語彙や文法等の意味や概念、使い方について整理する指導
  - ・様々な学習方略の指導
- ※いずれも個々の生徒の理解や特性に応じ、個別又は全体に対して実施

授業と家庭学習との連携



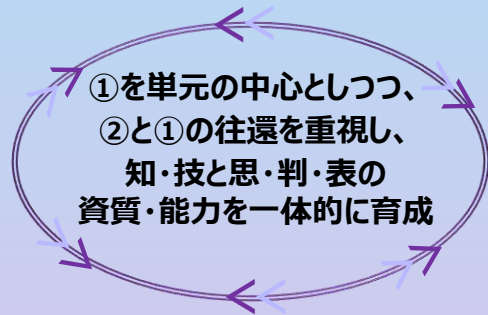
\* 前後関係  
※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない  
※②において【P】言語の働きを扱う際は語彙や文法等を特定しない場合もある  
※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外的な条件ではない

## 児童が行う活動

### ①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

※知・技も深まる

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて  
外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動



### ②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や文字、語彙、表現等を、文脈\*などの中で  
理解・活用する活動

（例）

- 特定の語彙や表現等をコミュニケーションで使う活動
- 音声や文字、語彙、表現、文構造等について日本語との違いについて気づいたり理解したりする活動
- 語彙や表現を覚える活動

## 教師の指導

### ①の活動に対する指導

（例）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた、

- 聞き取ったり、読み取ったりした情報の整理などに関する指導
- 伝えるべき内容に関する指導
- 分かりやすく伝えるための伝える順序などに関する指導
- 相手の理解に配慮した伝え方の工夫に関する指導

（①⇔②を往還させる指導の例）

- ①でコミュニケーションを行うことにより知識及び技能の必要性（表現しきれないことや間違い等）に気付かせ、②により使い方に慣れる
- ②を行う際に、本単元が目標とするコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを児童に共有して学習の目的意識を持たせる
- ②で慣れ親しんだ知識及び技能を、①でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて使わせる

### ②の活動に対する指導

（例）

- 特定の語彙や表現等について、理解を促す指導
- 特定の語彙や表現等の使い方について整理する指導
- 様々な学習方略の指導

※いずれも個々の児童の理解や特性に応じ、個別又は全体に対して実施

授業と家庭学習との連携

\*前後関係

※小学校外国語においては、音声や文字、語彙、表現等を文脈などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、②を①と関連付けて指導することが特に大事

※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない

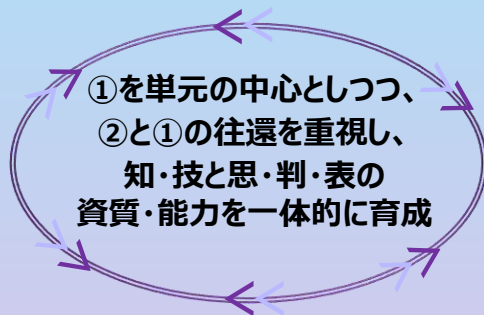
※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外的な条件ではない



## 児童が行う活動

## ①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動



## ②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、言語や文化の違いや共通点について体験的に理解する活動

（例）

- ・外国と日本の違いや共通点に気付く活動
- ・英語の音声や基本的な表現等を聞く活動
- ・英語の簡単な語句や基本的な表現等を用いて話す活動

## 教師の指導

## ①の活動に対する指導

（例）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識した、

- ・伝えるべき内容に関する指導
- ・相手に配慮した伝え方の工夫に関する事項

（①⇔②を往還させる指導の例）

- ・②で扱った英語の音声や基本的な表現を①の活動で実際に使わせる
- ・②を行う際に、本単元が目標とするコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを児童に共有して学習の目的意識を持たせる
- ・①でコミュニケーションを行うことにより英語の音声や基本的な表現への気付きを促し、②により使い方に慣れ親しませる

## ②の活動に対する指導

（例）

- ・外国と日本の違いや共通点に気付かせる指導
- ・英語の音声や基本的な表現等を聞き取る指導
- ・英語の簡単な語句や基本的な表現等を用いて話す指導

※小学校外国語活動においては、初めて英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ段階であることを踏まえ、②で扱った英語の音声や基本的な表現等を①と関連付けて指導することが特に大事

※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない

※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外形的な条件ではない

# 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の在り方等に盛り込む要素（中・高のイメージ）（Ver.2）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び説明の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

## 本文に盛り込む要素（イメージ）

### 第1 目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す

（知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）

### 第2 各言語の目標及び内容等 英語

#### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

- コミュニケーション活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、音声や語彙、表現、文構造、文法、言語の働き等を文脈などの中で理解し、活用する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことについて行う  
（※高校では統合的な活動も記載）
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を相互に関連付けながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や文法等をすぐに話せる、書けることを求めるのではなく、聞いたり読んだりして理解する段階から、次第に話したり書いたりする段階へと発展させる

## 解説で記載する要素例（イメージ）

- コミュニケーション活動では、生徒が既習事項等を最大限駆使して行うことの重要性
- コミュニケーション活動の中で、語彙や文法等の意味や用法等の理解が深まったり、場面や状況に応じて組み合わせて使う力が高まったりするなど、知・技も習熟・熟達に向かうことに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、生徒の学習状況等に応じて、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

# 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の在り方等に盛り込む要素（小・外国語のイメージ）（Ver.2）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び説明の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

※マーカー箇所は中学校との主な相違点。

## 本文に盛り込む要素（イメージ）

### 第1 目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す  
（知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）

### 第2 各言語の目標及び内容等 英語

#### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

- コミュニケーション活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働き等を文脈などの中で理解し、活用する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことについて行う
- 小学校外国語においては、音声や文字、語彙、表現、文構造等を文脈などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を相互に関連付けながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や表現等をすぐに話せる、書けることを求めるのではなく、聞いたり読んだりして理解する段階から、次第に話したり書いたりする段階へと発展させる。特に、読むこと、書くことにおいては、音声で十分に慣れ親しんだ上で、理解したり活用したりできる指導を行う

## 解説で記載する要素例（イメージ）

- コミュニケーション活動では、児童が既習事項等を最大限駆使して行うことの重要性
- コミュニケーション活動の中で、音声や文字、語彙、表現等についての理解が深まり、場面や状況に応じて組み合わせる使う力が高まったりするなど、知・技も深まることに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、児童の学習状況等に応じて、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

# 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の在り方等に盛り込む要素（小・外国語活動のイメージ）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び説明の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

※マーカー箇所は小学校外国語科との主な相違点。

## 本文に盛り込む要素（イメージ）

### 第1 目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す  
（知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）

### 第2 各言語の目標及び内容等 英語

#### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

- コミュニケーション活動は、外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、言語や文化の違いや共通点について体験的に理解する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、話すことについて行う
- 小学校外国語活動においては、音声や語彙を使用される場面などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を相互に関連付けながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や表現等をすぐに話せることを求めるのではなく、聞いて慣れ親しむ段階から、次第に話す段階へとつなげていく

## 解説で記載する要素例（イメージ）

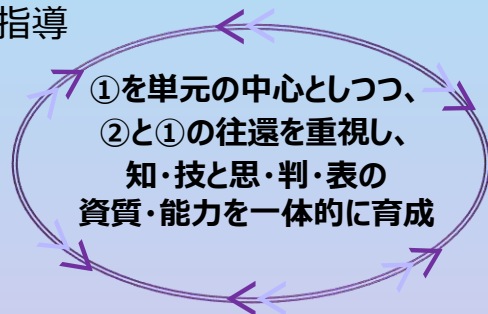
- コミュニケーション活動では、児童が十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて行うことの重要性
- 英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、コミュニケーション活動で、相手と意味のあるやり取りを様々な場面設定の中で行うことを通して、英語の音声や基本的な表現等への気付きを促すとともに、日本と外国の言語や文化の違いや共通点について理解するなど、知・技も同時に育成されることに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、初めて外国語に触れる段階であることに考慮して、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

- 単元目標：他校の同級生に自分たちの学校のことをよく知ってもらうために、校内のお気に入りの場所について紹介する。  
（Let's Try!2 Unit8：This is my favorite place.）（「話すこと〔発表〕」）

### ①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①の活動に対する指導



※以下は活動・指導の一部の例を示したものであり、特定の活動や指導を推奨するものではない。また、活動・指導の順序を表すものでもない。

- ・ 他校の同級生に、自分たちの学校のことをよく知ってもらうために、自分のお気に入りの場所について紹介する  
（例：This is my favorite place. The library. I like books.）
- ・ 学校のお気に入りの場所について、その理由とともに友達と紹介し合う
- ・ クラスメイトの紹介を聞き、紹介の仕方や表現で工夫していると思ったこと（声の大きさ、動作や表情、写真等の提示 など）を共有する
- ・ 校内の地図を使って、ペアで学校のお気に入りの場所を案内したり、紹介したりする

### ②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、言語や文化の違いや共通点について体験的に理解する活動

②の活動に対する指導

- （例）
- ・ ALTが母国の話をしたり、デジタル教材を視聴させたりして、外国と日本の小学校の共通点や相違点に気付かせる
  - ・ 教室名や道案内の表現を使いながら、児童とやり取りを行い、チャンツや歌で語彙や表現に慣れ親しませる

- ・ 教師やALTの話を聞いたりデジタル教材を視聴したりして、教室名や道案内の語彙や表現に気付く
- ・ 教室名の頭文字や教室の特徴を示す語彙や表現を使ってクイズを出し合い、語彙や表現に慣れ親しむ

※小学校外国語活動においては、初めて英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ段階であることを踏まえ、②で扱った英語の音声や基本的な表現等を①と関連付けて指導することが特に大事



■ 単元目標：ALTの先生に自分たちの地域のことをもっと好きになってもらえるように、地域の魅力を紹介する。  
（「話すこと〔発表〕」）

①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて  
外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①の活動に対する指導

※以下は活動・指導の一部の例を示したものであり、特定の活動や指導を推奨するものではない。また、活動・指導の順序を表すものでもない。

- ALTの先生に自分たちの地域のことをもっと好きになってもらえるように、地域の魅力を紹介する
  - 自分の紹介したい地域の魅力について、おすすめする理由などを加えて、クラスメイトと詳しく伝え合う
  - クラスメイトと、おすすめしたい地域の魅力を紹介し合い、ALTの先生に魅力が伝わる内容になっているか、工夫点を整理し、内容や表現を再考する
- デジタル学習基盤の活用：自分の発表を動画で録画し、教師や友達の動画と比較しながら工夫点を考える

■家庭学習：デジタル教科書を使って、紹介で使いたい語彙や表現の練習する
- 自分が紹介したい地域の魅力についてクラスメイトと伝え合う

②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や文字、語彙、表現等を、文脈\*などの中で  
理解・活用する活動

②の活動に対する指導

（例）教科書の音声や指導者の話を聞いて、語彙や表現（I want to go to ～. / In～, you can～. / It's～.等）について語句絵カード等を使って意味や使い方を整理する

- 教科書で使用されている表現等（I want to go to～. / In～, you can～.）を使って、教師やクラスメイトと自分が紹介したい地域について伝え合う
  - 教科書の映像教材を視聴したり、ALTや指導者の地域紹介を聞いたりして、紹介で使われている語彙や表現に気付く
- デジタル学習基盤の活用：デジタル教科書等の音声や動画を視聴し、語彙や表現を聞いて確認したり、練習したりする

授業と家庭学習との連携

- 単元目標：日本に来たことがない海外の生徒に「食べてみたい！」と思ってもらえるように、おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由を整理して紹介することができる。（「話すこと〔発表〕」）

### ①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて  
外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①の活動に対する指導

※以下は活動・指導の一部の例を示したものであり、特定の活動や指導を推奨するものではない。また、活動・指導の順序を表すものでもない。

- ・海外の生徒とオンラインで、相手の食文化や好みに合わせておすすめしたい住んでいる町の食べ物を紹介し合う
- ・クラスメイトやALTと、相手の好みに合わせておすすめしたい住んでいる町の食べ物を紹介し合う

■ AI：紹介した内容や表現について、目標を踏まえたAIからのフィードバックに基づいて改善する  
様々な人物設定をしたAIとやり取りをする

■ 家庭学習：おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由について伝える練習をする

- ・ご当地の食べ物について書かれた教科書本文の表現を参考にしながら、おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由について、まとまりのある英文で紹介する

■ AI：紹介した内容や表現について、目標を踏まえたAIからのフィードバックに基づいて改善する

- ・接続詞も使いながら、おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由を伝え合う
- ・ご当地の食べ物について書かれた教科書本文の概要を捉え、内容を参考にしながら伝える内容を考える（聞くこと、読むこと）

### ②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や語彙、文法等を、文脈\* などの中で  
理解・活用する活動

②の活動に対する指導

（例）様々な接続詞の例文を示し、接続詞の働き（文と文をつなぐ）や文構造等に気付かせ、整理する

- ・接続詞becauseを使って理由を加えながら、生徒同士で「好きなもの（食べ物や本など）」について伝え合う
- ・教科書本文から、接続詞becauseが使われている表現に着目し、使い方を理解する

■ 家庭学習・AI：生徒個人の興味・関心に合ったAIからの質問に、接続詞becauseを使って表現する。接続詞の使い方について誤りがある場合は、AIからのフィードバックにより修正する

- ・接続詞を使って文と文をつなげて話したり書いたりする

■ 家庭学習・AI：接続詞の使い方についての問題演習、本文の音読練習や単語練習

- 単元目標：クラスメイトとリーダーシップについての考えを深めるために、リーダーに求める資質について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。（「話すこと〔発表〕※「英語コミュニケーション（総合Ⅰ）」

### ①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①の活動に対する指導

※以下は活動・指導の一部の例を示したものであり、特定の活動や指導を推奨するものではない。また、活動・指導の順序を表すものでもない。

- ・リーダーに求める資質について、自分の経験を述べたり優れたリーダーシップを発揮した人物を取り上げたりしながら、自分の考えを理由とともに伝える。また発表された内容について意見を伝え合う

■ AI：リーダーに求める資質について自分の意見を話し、目標を踏まえたAIからのフィードバックに基づいて内容や表現を改善する

- ・自分がリーダーを選ぶときに重視することについて、自分の経験などを踏まえて伝え合う
- ・マララ・ユスフザイ氏の行動とその行動がもたらした影響に注目しながら教科書の文章を読んで、彼女のどのような行動が人々を動かしたのかについて自分の考えを伝え合う

- ・教科書の内容や語彙・表現等を参考にしながら、リーダーに求める資質について伝えたい内容や、どのように伝えるかを検討して簡単なアウトラインを作成する
- ・優れたリーダーシップを発揮した人物を取り上げ、その人物がとった行動を時制等に留意しながら伝え合う

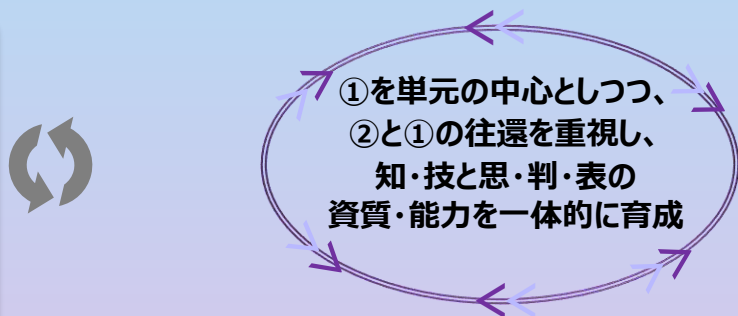
■ 家庭学習：優れたリーダーと思う人物について説明するのに必要となる基本的な情報や出来事などを、英語で説明できるようにキーワードなどをまとめる

- ・過去完了形を使って、自分が過去に後悔したり驚いたりしたことについて、結果を先に述べてその原因を説明する構成で簡潔に伝え合う
- ・マララ・ユスフザイ氏について書かれた教科書の内容をもとに、この人物を知らない同級生に対して紹介する設定で、過去形と過去完了形など動詞の形に留意しながら話して伝える

■ 家庭学習：教科書の内容を知らない相手に、読んだ内容を説明するためのキーワードをまとめる

- ・教科書や複数の例文を読んで、過去完了形が使われる場面の特徴や過去形と過去完了形の違い、それらの使い方を理解する

■ 家庭学習・AI：教科書で扱われた文法事項についての問題演習、本文の音読練習や単語練習



### ②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や語彙、文法等を、文脈\* などの中で理解・活用する活動

②の活動に対する指導

（例）教科書で扱われた文法事項（例：様々な時制と相）を含む例文を示し、働きの違いに気付かせ、整理する



# 参考資料・データ

# 「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（**資質・能力の「深まり」**）
  - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（**資質・能力の「一体的育成」**）
- ➡こうした「**資質・能力の深まり**」と「**資質・能力の一体的育成**」を学習指導要領上で可視化することにより、**資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする**

<生きて働く>

## 知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

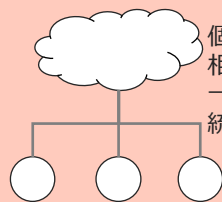
高次の資質・能力

### 知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

(例) 関数を使えば未知の状況を予測できる

資質・能力の  
「深まり」の  
可視化



個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化されながら統合的に理解される

### 個別の知識や技能

(例) ・比例・反比例の理解  
・一次方程式の解き方  
・二元一次方程式を関数としてみなせることの理解  
・現実の事象を関数でモデル化できることの理解  
・二次関数でモデル化できる事象があることの理解



資質・能力の  
「一体的育成」  
の可視化



<未知の状況にも対応できる>

## 思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

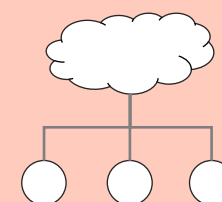
高次の資質・能力

### 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

(例) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の  
「深まり」の  
可視化



複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を総合的に働かせる

### 個別の思考力、判断力、表現力等

(例) ・二つの数量の変化・対応関係を見だし、式やグラフを用いて考察する  
・現実の事象にある二つの数量の関係を関数と仮定して処理したりその結果に基づいて判断する



# (参考) 形式重視から意味重視への連続体

## 意味重視

### Focus on meaning

## 形式重視

### Focus on forms

| 真正な<br>コミュニケーション<br>(Authentic<br>communication)                                                        | 構造化された<br>コミュニケーション<br>(Structured<br>communication)                                                                                             | コミュニケーション<br>言語練習<br>(Communicative<br>language practice)                                                         | プレ・コミュニケーション<br>言語練習<br>(Pre-communicative<br>language practice)                                                                                 | 非コミュニケーション<br>学習<br>(Non-communicative<br>learning)                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 伝える内容（意味）が<br>予測不可能な状況で、<br>言語を使ってコミュニケー<br>ションを行う<br><br>(例)<br>・創造的なロールプレイ<br>・より複雑な問題解決<br>・ディスカッション | これまでに学習した言語<br>を引き出せるような状況<br>で、ある程度の予測不<br>可能性を伴いながら、言<br>語を使ってコミュニケー<br>ションを行う<br><br>(例)<br>・特定の表現等を使用<br>するよう意図的に設定<br>されたロールプレイ<br>・簡単な問題解決 | 新しい情報を伝える（や<br>り取りする）状況の中で、<br>これまで教わった言語を<br>練習する<br><br>(例)<br>・情報ギャップ活動<br>（既に教わった単語を使ってクラ<br>スメイトにアンケートを実施する） | 他者に新しいメッセージを<br>伝える（やり取りする）こ<br>とはせずに、意味にある程度<br>注意を向けながら言語を<br>練習する<br><br>(例)<br>・質疑応答練習<br>（答えの内容が共有されている状<br>況で、言葉の意味に注意を向けな<br>ければ答えられない質問） | 言語の構造に焦点を当<br>て、それがどのように形成<br>され、何を意味するのか<br>に注目して学習する<br><br>(例)<br>・主語や名詞の置き換<br>え練習<br>・文法の規則性や構造<br>などを発見させる活動<br>・文法練習<br>・語彙の学習 |
| タスク (Tasks)                                                                                             |                                                                                                                                                  |                                                                                                                   | (Exercises) 練習                                                                                                                                   |                                                                                                                                       |
| コミュニケーションタスク (Communicative tasks)                                                                      |                                                                                                                                                  |                                                                                                                   | (Enabling Tasks) 支援／足場タスク※                                                                                                                       |                                                                                                                                       |

※コミュニケーションタスクを成し遂げられるよう、生徒に必要な言語的ツール（文法、語彙、発音、機能、ディスコース）を身に付けさせることを目的とするタスク

(出典) Littlewood, W. (2004). The task-based approach: some questions and suggestions. ELT Journal, 58, 319-326

Estaire, S. & J. Zanon. (1994). Planning Classwork: A Task Based Approach. Oxford: Heinemann. 15

※文部科学省で仮訳・色付けしたものであり、原文の一部を省略している

を基に作成。

令和8年3月23日  
教育課程部会  
外国語ワーキンググループ  
参 考 資 料

令和8年2月2日  
教育課程企画特別部会  
資 料 2 - 1

# 各教科等WGにおける 資質・能力の構造化等 に関する検討状況

# 目次

|                                                        |          |
|--------------------------------------------------------|----------|
| • 各教科等WGにおける資質・能力の<br>構造化等に関連する検討のポイント                 | P2~17    |
| • 見方・考え方一覧（素案）                                         | P18~21   |
| • 高次の資質・能力一覧（素案）                                       | P22~75   |
| • 各教科等WGにおける議論の補足イメージ及び<br>教科の目標、見方・考え方、資質・能力の全体構造（素案） | P76~330  |
| - 国語WG                                                 | P77~92   |
| - 外国語WG                                                | P93~105  |
| - 社会・地歴史・公民WG                                          | P106~182 |
| - 算数・数学WG                                              | P183~207 |
| - 理科WG                                                 | P208~224 |
| - 体育、保健体育、健康、安全WG                                      | P225~235 |
| - 芸術WG                                                 | P236~268 |
| - 家庭WG                                                 | P269~279 |
| - 生活、総合的な学習・探究の時間WG                                    | P280~287 |
| - 特別活動WG                                               | P288~294 |
| - 道徳WG                                                 | P295~296 |
| - 情報・技術WG                                              | P297~314 |
| - 特別支援教育WG                                             | P315~322 |
| - 産業教育WG                                               | P323~330 |

※本資料は、各WGにおける資質・能力の構造化に関する検討状況等について報告するものであり、幼児教育WG、不登校児童生徒に係る特別の教育課程WG、特定分野に特異な才能のある児童生徒に係る特別の教育課程WGについては、別途具体的な検討を進めている。



# **各教科等WGにおける資質・能力の 構造化等に関する検討のポイント**



# (国語WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 国語科は、思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助けることを明確にするため、**「並行」パターンでの表形式化を検討**
- 短文でのやりとりが中心となるSNSなどに日常的に接する中で、まとまりのある思考を深めたり表現を工夫したりする経験が不足しており、**「目的や場面に応じて、自分の思いや考えに適した言葉を用いて表現することなどに課題」**。「何のために言葉を使うのか」という視点を明確にし、学習活動の目的を意識できるようにするため、思考力・判断力・表現力等の内容については、**従来の「話す・聞く／書く／読む」といった領域のみならず、「情報の伝達／他者の説得／情報の獲得・他者の主張の吟味／合意形成」といった「言葉を使う目的（仮称）」（※）を基に整理**して示す方向で検討

（※「言葉を使う目的（仮称）」の呼称や、具体的な分類の方法等は、引き続きWGにおいて検討予定。）

## 2. その他の重要論点について

- **学習の基盤となる資質・能力である「言語能力」の在り方**について、AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、自らの意思や考えを形成・表現することや、他者の経験・感情を理解することといった**人間ならではの言語能力を重視する観点から再整理**。また教育課程全体を通じた言語能力育成の一層の推進のため、国語科と各教科等での言語能力育成の役割分担について整理
- 今後、WGにおいて、**高校国語科の科目の在り方について検討予定**（※選択科目の資質・能力の構造化の素案については、今後示す予定）





# (外国語WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 英語科は知識及び技能よりも思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助けることを明確にするため、「並行」パターンでの表形式化を検討
- 「外国語を使って何ができるようになるか」の段階的な高度化を「思考力・判断力・表現力等」の深まりとして示し、観点別評価も行いやすくするため、領域別目標の要素（聞くこと、読むこと、話すこと【やり取り】、話すこと【発表】、書くこと）を「思考力・判断力・表現力等」の内容に移行
- 高次の資質・能力のうち、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、CEFRでの分類（Reception・Production・Interaction）も踏まえ、「理解する・表現する・伝え合う」に分けて記載

## 2. その他の重要論点について

- AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」として、「言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと」と「自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること」を柱に要素を整理（見方・考え方に反映）
- 高校の英語科目については、英語によるコミュニケーションを中核とする科目趣旨を端的に示すため、5領域を総合的に扱う「英語コミュニケーション」は「英語コミュニケーション（総合）」に、話すことや書くことを中心に扱う「論理・表現」は、発信力の一層の強化を図るため「英語コミュニケーション（発信）」に変更（これらを踏まえた内容構成の変更が生じるため、資質・能力の構造化の素案については英語コミュニケーション（総合）Ⅰ及び英語コミュニケーション（発信）Ⅰのみ示している。）
- コミュニケーションに必要な重要な語彙に繰り返し触れ、様々な文脈や場面で発信に活用できるようにするため、指導すべき語彙数の精選も含めて、基盤語彙リストを整備する方向で検討



# （社会・地理歴史・公民WG）資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 民主的で持続可能な社会の創り手を育成する観点から、社会的事象に関する概念の理解、確かな情報に基づき適切かつ効果的に調べまとめる技能や、資料や概念に基づき自らの考えを批判的に捉え直す力を養うことなどを重視する方向で目標を改善。

（目標の見直しのポイント）

（知識及び技能）…社会的事象に関する概念の理解を重視。真偽が定かでない情報が行き交う中、情報の信ぴょう性の確認を重視。

・小中：「**確かな**」情報に基づく「適切かつ」効果的に調べまとめる技能の習得。

・高校：批判的に情報を扱う視点を重視し「**妥当性を吟味しながら**」調べまとめる技能の習得。

（思考力、判断力、表現力等）…より深い学びを具現化するため、自らの考えを批判的に捉え直す力の育成を追記。

（学びに向かう力、人間性等）…自らの学びを振り返りながら、主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度を明記。

- 従来「**見方・考え方**」で学びの深まりの鍵として示していた「**位置や空間的な広がり、時期や時間の経過**」といった着目すべき視点や、「**比較・分類したり総合したり**」といった対象を分析する方法については、一層授業改善に活かす観点から、「**社会的な視点や方法等**」として「**総合的な発揮**」において示すこととした
- 社会科・地歴公民科については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を具体的に示すことが授業改善に繋がることから、「**並列パターン**」での構造化を検討

## 2. その他の重要論点について

- 今後「**高次の資質・能力**」と個別の内容の精査を往還する中で**必要な内容の精選**を進めつつ、グローバルな協調や競争に関する課題や自然災害、デジタル技術の発展、人口減少社会がもたらす社会構造の変化など**複雑化・多様化が進展する社会の状況を踏まえた内容の在り方等**についても検討

# 💡（算数・数学WG）資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 算数・数学の学習の本質を明確にしつつ、小・中・高を通じて一貫性・系統性を確保した指導を充実する観点から、小・中・高で教科の目標を統一しつつ、必履修部分に係る学習内容を共通する6つの「分野」で整理
- 世界トップレベルの数学的リテラシーを有しつつ、高校卒業後の進路に理工系が選択されにくい現状や、その一因として、数学と社会・職業との関係の理解が進んでいない状況。
- また、現代社会の重要なインフラとなりつつあるAI技術やデータサイエンス等の仕組みを理解し、適切に利活用できるようにする観点から、それらの基盤となる学習（行列、微分・積分、確率、統計）を充実する必要
- これらの観点から、以下の改善を検討
  - 中学校以降で、数学と社会・職業との関係や数学全体の見取り図を示すようなガイダンス的な学習を新設
  - 高等学校「数学Ⅰ」において、AI等の基盤となる内容を含め、高校卒業時に身に付けるべき数学的素養の基礎を学ぶ内容を新設
- 算数・数学科については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、「並列パターン」での構造化を検討

※ 学習内容の実質的増加につながらないよう、教科全体の学習内容について必要な精選を図ることを前提

## 2. その他の重要論点について

- 高等学校について、現行の「数学A」「数学B」「数学C」を、生徒が必要な学習内容を選択履修しやすく、各学校が柔軟にカリキュラムを編成・実施できるよう、ABCの区分けをなくして内容を選択できる一つの新科目として整理
- メディアリテラシーの観点も意識し、「事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること」を新たな見方・考え方として検討



# (理科WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 理科の学習の本質を明確にしつつ、小・中・高を通じて一貫性・系統性を確保した指導を充実する観点から、小・中・高で教科の目標を統一しつつ、学習内容を共通する4つの「分野」(物理・化学・生物・地学)で整理
- 「科学的な探究」の課程を教育課程全体で位置づけ、解説等も活用して具体的に示していくことで、理科の学習全体を通じて科学的な思考・方法を身につけるという趣旨を明確化
- エネルギー問題や環境問題など、特定の分野・領域に限定できない科学的な社会課題が増加していることを踏まえ、分野横断的な課題について学ぶ学習内容を、小学校にも新たに設定(理科と日常生活(仮称))

※ 学習内容の実質的増加につながらないよう、教科全体の学習内容について必要な精選を図る

- 理科については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、「並列パターン」での構造化を検討。

## 2. その他の重要論点について

- 学問分野にとらわれない科学的思考・方法の基本について学ぶ内容や、理科の学習と研究・社会とのつながりについて学ぶ内容が各学校段階で十分存在しないことへの対応について、今後検討

(具体例)

- 科学とは何か(仮説を不断に検証する営みであること等)
- 検証の方法(実験では条件制御が必要であること等)
- 研究倫理(捏造、改ざん、盗用は、なぜいけないのか等)
- 理科の学習内容と、研究・社会とのつながり
- メディアリテラシーの観点も意識し、「自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること」を新たな見方・考え方として検討



## （体育・保健体育、健康、安全WG）資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

### 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- スポーツ基本法改正の趣旨や複雑化・多様化する健康課題といった点も踏まえ、運動・スポーツの多様な楽しみ方や心身の健康の保持増進を通じて自他の人生を豊かにしていくという方向性を重視して検討
- 体育については、子供たちが内発的動機に基づいて運動に一層豊かに取り組むことができるようになることを目指し、小学校4年までは運動遊び等を通じて「運動の基礎を培う時期」、中学校2年までは多様な運動の経験を通じて「多くの領域の学習を経験する時期」、中学校3年生以降は自分で選んだ運動の学習を通じて「卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることをできるようにする時期」と4年ごとに捉え、内容の系統性を再整理
- 特に、これまで「学びに向かう力・人間性等」に位置づけていた体育における公正、協力、責任等の内容については、指導・評価の具体化を図るため「知識及び技能」に位置づけ直す等の整理
- 保健については、内容相互の関連性が明確となるよう系統性を再整理
- 体育及び保健については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を具体的に示すことが授業改善に繋がることから、「並列パターン」での構造化を検討



# (芸術WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 芸術と豊かに関わることで全ての教科等に通底する「創造」の土壌となる資質・能力を育むという芸術の特性を重視。そのため、答えが一つに定まるものではなく児童生徒一人一人のありようを尊重するという考え方を前提に、表現したいことについて自分の思いや考えをもち、それをどのように形にできるか、他者に伝えることができるかという点や、芸術での学習を豊かな社会の創造や幸福な人生に活かしていく等の視点から教育課程の改善を検討
- そうした視点から、引き続き芸術活動の根幹となる「表現」及び「鑑賞」を各教科・科目共通の領域とした上で、芸術系各教科・科目の特性や専門性・系統性を踏まえて学習の区分を設定し、それをもとに高次の資質・能力を検討  
(例) 中学校音楽：「歌唱」、「器楽」、「創作」      中学校美術：「自分と美術」、「身近な生活や社会と美術」 など
- 鑑賞に関する教育の充実を図るため、図画工作、美術、工芸、書道において、鑑賞の技能に関わる内容を新たに位置付けていく方向で検討  
(例) 図画工作：「体全体の感覚を働かせ、方法を工夫して見る」、中学校美術：「造形的な情報を読み取る」、  
高等学校書道：「作品や書から情報を読み取る」
- 芸術系各教科では個々の知識及び技能に対応して育成する思考力・判断力・表現力等を示すことは困難であり、また知識を基に思いや意図などをもち、身体を用いながら技能を働かせて表現や鑑賞を行うという往還を重視する芸術の学習過程の特質を踏まえ、知識及び技能が全体として思考力、判断力、表現力等の深まりを助ける構造を表現しやすい「並行」パターンでの構造化を検討



# （家庭WG）資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 社会のDX化や生活環境の変化への対応と生活文化の継承等の必要性を両立しつつ、複雑化・多様化する社会や生活を多角的・総合的に捉え、主体的によりよい生活を創り出すために適切な判断をする力の育成を重視した教育課程の改善を検討
- こうした視点を踏まえ、「高次の資質・能力」については、知識及び技能を生活の中で生かす具体の姿や、思考力、判断力、表現力等が育成された児童生徒が実生活において、課題解決を通して自分の生活を実践する具体の姿を明記する方向で検討
- 家庭科全体の系統性を一層分かりやすく示す観点から、領域構成の見直しを検討

|              |           |             |           |                            |       |
|--------------|-----------|-------------|-----------|----------------------------|-------|
| <b>（現行）</b>  | A 家族・家庭生活 | B 衣食住の生活    | C 消費生活・環境 | D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ※高のみ |       |
| <b>（改善案）</b> | A 家族・家庭生活 | B 生活経営・消費生活 | C 食生活     | D 衣生活                      | E 住生活 |

- 高等学校については、自立した生活を営む主体として、よりよい生活を創り出すために必要な力を育む「家庭基礎」と、率先して家庭や地域の生活を支え向上させる主体として、よりよい生活を探究的に創り出すために必要な力を育む「家庭総合」というように、科目の役割を明確化。
- 家庭については、知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、「並列パターン」での構造化を検討



# （生活科）資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- AI技術の進展により、情報の獲得や処理は容易かつ効率的になり、知識の量や正確さのみを求める学びの在り方は、その意義を相対的に低下させつつある中、身体を通して対象と直接関わる体験を通じて得た情報を自らの経験と結び付けて理解し意味付けていくことは、これまで以上に重要となっている
- こうしたAIによって代替することができない「実感を伴う知」を育み、「深い学び」を実装する人間的な学び方を体得する教科として、生活科の本質的意義を以下の4つで整理し、それらを踏まえて教育課程を改善する方向で検討
  - ① 身体性 — 身体で世界を捉える（実感）
  - ② 対象と自分との関わり — 身近な世界に働きかけ、気付く（好奇心・探究心）
  - ③ 他者と自分との関わり — 他者の思いや願いを尊重し、共に生活する（協働性・共感）
  - ④ 自己認識 — 自分という存在に気付く（主体性・自立性）
- 以上の意義を踏まえると、生活科の「内容」については、知識及び技能と思考力・判断力・表現力等を分節的に規定することで学習活動が個々の身体を通した具体的な活動から離れて設定されてしまうことを避ける必要があることから、生活科の構造化については、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を一体として記載する方向で検討（資質・能力の3つの柱に分けて内容を示さない現行の方針を継続）



# (総合WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 各学校において目標や内容を定めるという総合の特質を維持することとした上で、探究の幅の広がりや質の向上の方策を多角的に検討。
- 探究の「質」を課題の質、プロセスの質、成果の質の3つの視点で具体的に整理しつつ、それらを踏まえて探究の質を各学校段階で徐々に高めていくことができるよう目標を見直し
- 小学校総合については、企画特別部会の論点整理を踏まえ、「探究の領域」と「情報の領域」の2領域を設定。小学校総合の情報の領域についてのみ内容を具体的に定めることとし、企画特別部会の論点整理も踏まえ「①情報技術の活用」「②適切な取扱い」「③特性の理解」の3つの視点で内容及び高次の資質・能力を検討

## 2. その他の重要論点について

- 「情報の領域」については情報技術に関する基礎的な内容を学ぶ小さなまとまりである「情報ブロック」と、情報活用能力の諸要素を学びながら、探究のプロセスで活用する小単元である「ミニ探究ユニット」で構成し、これらが探究の領域を基盤として支えるとの考え方を整理
- 探究の「質」のうち、特に企画特別部会でも論点となった「課題設定の充実」については、体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、探究の過程で課題として洗練していくこととしつつ、課題設定の質の向上に向けた具体的な方策を検討
- 探究テーマの偏りや、探究の態様によって想定されるプロセスが異なるといった実態が見られる中、標準的な探究のプロセスだけでは様々な探究を捉えられないといった指摘等を踏まえ、多様な探究の在り方について、「研究系」「行動系」「創作系」の要素のグラデーションから成る参考資料を示すことを検討



# (特活WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 特別活動の意義・役割として「確かな民主主義の担い手の育成や共生社会の実現にむけた基盤」を提供する領域として、よりよい社会を主体的に形成しようとする力を育むことを明確にした上で、「学びに向かう力・人間性等」を実践的に育むことがとりわけ重視される特質を有すると整理
- 特別活動は「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とし、資質・能力の3つの柱について「思考力・判断力・表現力等」を育む主体的・実践的な活動を通じて一体的に育てるという性質があることを踏まえ、内容は資質・能力を3つの柱に分けて記載するのではなく、思考・判断・表現の学習過程を中心に記載する形式として整理（資質・能力の3つの柱に分けて内容を示さない現行の方針を継続）

## 2. その他の重要論点について

- 「学びに向かう力・人間性等」がとりわけ重視される特質や、国が示す評価の在り方と現場の実態との間の乖離への指摘等を踏まえ、特別活動については資質・能力の三つの柱に分節した目標準拠評価は行わず、「思考・判断・表現」の過程で一体的に表出する「学びに向かう力・人間性等」について個人内評価を行うこととし、教師による評価としては、適時の声掛け・指導・支援等の形成的評価や、振り返りを通じての自己評価や相互評価を重視するなど、特別活動の特質を踏まえ、資質・能力の育成に一層繋がる評価の在り方についても検討





# (道徳WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 道徳科の目標について、人格そのものに働き掛け、道徳性を養うことを目的とする道徳教育の特質を踏まえ、引き続き、道徳科で育む資質・能力について、観点別の目標は定めないことと整理
- 道徳科の見方・考え方については、示すべき要素（教科等を学ぶ本質的な意義の中核）が目標に含まれていることから、引き続き、目標とは別に見方・考え方を示すことはしない方向で検討
- 高次の資質・能力については、道徳科の特質から「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の深まりを観点別に可視化することに馴染まないことや、道徳科の内容項目は、児童生徒自らが道徳性を養うための手掛かりとなるものであり、育成すべき資質・能力を直接的に記載したものではないことを踏まえ、道徳科において高次の資質・能力は定めない方向で整理
- 内容の表形式化については、内容の全体構成を構造的に把握し易くする観点からの表形式化について検討

## 2. その他の重要論点について

- 今次改訂では、「『考え、議論する道徳』への転換」のフェーズから、「『考え、議論する道徳』の実装」のフェーズに移行することを検討の方向性とし、「読み物教材の登場人物の心情理解に偏った授業になりがち」「教科書の発問例に頼った授業など、型にはまった予定調和的な授業になりがち」といった課題を踏まえた学びの在り方について検討



# (情報・技術WG) 資質・能力の構造化等に関する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

### (共通的なポイント)

- AI・ロボット等の活用を担う専門的・技術的人材の将来的な不足への対応や、地方経済の維持・担い手不足の解消に向けたアドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等の必要性から、すべての子供たちの情報活用能力の抜本的向上を図ることが、我が国の持続的成長を支えるために極めて重要という認識を確認
- 一方、生成AI等による偽・誤情報の拡散やフィルターバブル等のデジタルの特性が社会の分断を誘引・拡大し、民主主義を危険にさらすおそれもある現状を踏まえたデジタル時代の民主主義を担う力も必要
- これらの視点から、情報技術や生産技術の正負の側面に配慮しつつ、技術を使いこなして生活や社会をよりよくすることを重視した教育課程の実現に向けて検討（生活・総合WGと連携し、小学校総合の「情報の領域」との連続性も確保）
- 情報・技術科、情報科については知識及び技能の系統性が明確であり、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、「並列パターン」での構造化を検討

### (中学校 情報・技術科（仮称）)

- 小学校「情報の領域」を基礎とし、新教科「情報・技術科」には①情報技術に関連する内容を充実し情報活用能力の抜本的向上を図る ②情報技術も活用しつつ技術でものを生み出し生活や社会の問題を発見・解決する素養を身に付けるという二つの役割が求められることを踏まえ、「情報技術（仮称）」と「情報を基盤とした生産技術（仮称）」の2領域で内容を構造的に整理

### (高等学校 情報科)

- 小学校・中学校における教育の充実を踏まえ、AIやデータの扱い等をはじめとした学習内容の充実を図るなど、高等教育の数理・データサイエンス・AI教育等との円滑な接続などを踏まえた内容項目の再整理を検討
- 情報Ⅱについては、各学校のニーズに応じてAI・データ等の内容の一層の充実や、実社会の課題を探究的に解決する内容を充実させられるよう、一定の幅の範囲内で単位数を配当できるよう検討

## 2. その他の重要論点について

- 学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力の体系性については、企画特別部会の論点整理を踏まえて「①活用」「②適切な取り扱い」「③特性の理解」の3つを基に資質・能力の全体像を整理



# (特別支援教育WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

## 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 特別支援学校においては、知的障害の教科と高等部の専門教科について独自の内容を定めており、また各教科等のうち知的障害の小学部「生活」及び中学・高等部「職業」以外は、障害の特性等を踏まえつつ小学校学習指導要領や高等学校の産業教育の方向性を踏まえて検討することとしていることから、現時点では、特別支援教育WGでは「生活」及び「職業」についてのみ構造化の方向性を検討
- 小学部「生活」については、具体的な活動や体験を通して、自ら考え判断し表現等をしていく中で、知識や技能を身に付けていくことを重視していることを踏まえ、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」をまとめて示すオリジナルの形式で示す方向で検討
- 中学部「職業」と高等部「職業」については、内容の系統性や情報活用能力育成の抜本的向上も踏まえ、「A 職業生活」「B 情報機器・情報技術の活用（仮称）」「C 産業現場等における実習」の3つの領域で示す方向で検討。その上で、個々の知識及び技能と一体的に育成する思考力・判断力・表現力等を示すことが授業改善に繋がることから、「並列パターン」での6年間を通した構造化を検討  
※中学部の「職業・家庭」については、中学校での対応を踏まえ「職業」と「家庭」に分離する方向で検討
- 自立活動については、各教科の資質・能力の育成を支えるという特質を踏まえ、教科等のように目標・内容を資質・能力の柱で示しておらず、選択可能な項目で内容を示しており、高次の資質・能力をもとに構造化して示すことは馴染みにくいが、教師にとって分かりやすくなるよう内容を表形式で示すことを検討

## 2. その他の重要論点について

- 小・中・高等学校における障害のある子供たちに対する「重層的な指導・支援」の考え方に基づく支援の実施や、各学校段階の総則において過重な負担のない範囲内で合理的配慮の提供を促す関係規定を設けることなどを検討
- 通級による指導において、自立活動を取り入れること、困難さの状態に応じて特に必要な場合は、各教科の指導を行うことを可能とすることや、各教科の目標・内容の一部を障害の状態等を考慮したものに替えることを可能とすることを検討
- 高等学校において、将来的な制度的対応も見据えた研究開発的な視点から、障害の状態等に応じた教育課程の編成・実施を必要に応じて可能とする新たな特例校制度を検討



## (産業教育WG) 資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

### 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 市場環境が絶えず急激に変化する時代にあって、職業人として多様な課題に対応できる探究的・実践的な力を育成するための学びの積み重ねをできるようにしていくため、「指導項目」ベースで示されている現行学習指導要領を抜本的に見直し、「何ができるようになるか」の視点から資質・能力ベースに改める方向で検討
- 工業、農業といった各専門教科について、学びの深まりを意識した教育課程の編成が可能となるよう、各科目の整理（学ぶ内容の統合や精選、移管）を行いつつ、教科の各領域・分野における学びの体系を整理する方向で検討
- 全ての教科において、AIやデータサイエンスに関する内容、経営管理やマネジメントに関する内容を充実しつつ、探究的・実践的な学びの深まりを充実させる観点から、従来「課題研究」に設けていた履修学年の規定を削除。その際、探究的な学びは自己の在り方生き方に関わる課題を自ら発見し、解決していくことが重要であることに鑑み、課題研究の導入段階で実社会・実生活に関わる課題を探究する活動を取り入れる方向で検討

### 2. その他の重要論点について

- 総合的な探究の時間を「課題研究」で代替する場合、「課題研究」を専門高校におけるカリキュラム・マネジメントの中核の科目とすることを明示し、その際、共通教科も含めた各教科等で身に付けた資質・能力を活かしながら活動に取り組むこととして整理

# 見方・考え方一覧（素案）

※各ワーキンググループにおいて検討中のたたき台であり、  
今後変更の可能性がありうる



# 見方・考え方一覧（素案）（1 / 3）

## 見方・考え方

|            |                  |                                                                                                                                                                    |
|------------|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国語         |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分や他者の言葉を、その意味や使い方、表現の意図等に着目して多面的・多角的に吟味し、多様な立場や考えを理解しながら、丁寧に言葉を紡ぎ、よりよく伝え合うこと</li> </ul>                                    |
| 外国語活動・外国語  |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること</li> </ul>                |
| 社会（小学校）    |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること</li> </ul>                       |
| 社会（中学校）    | 地理               | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること</li> </ul>                          |
| 地理歴史（高等学校） | 地理総合・地理探究        |                                                                                                                                                                    |
| 社会（中学校）    | 歴史               | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること</li> </ul>                       |
| 地理歴史（高等学校） | 歴史総合・日本史探究・世界史探究 |                                                                                                                                                                    |
| 社会（中学校）    | 公民               | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること</li> </ul>                               |
| 公民（高等学校）   |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること</li> </ul> |
| 算数・数学      |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること</li> </ul>                                                                           |
| 理科         |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること</li> </ul>                                               |
| 体育・保健体育    | 体育               | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること</li> </ul>                                                 |
|            | 保健               | <ul style="list-style-type: none"> <li>保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに関わる原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること</li> </ul>                                  |

※総則・評価部会で示した見方・考え方の記載例

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

## 見方・考え方一覧（素案）（2/3）

### 見方・考え方

|              |           |                                                                                                                                        |
|--------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 音楽（小学校、中学校）  | 音楽        | <ul style="list-style-type: none"> <li>感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと</li> </ul>                                       |
| 芸術（高等学校）     |           |                                                                                                                                        |
| 図画工作（小学校）    | 美術・<br>工芸 | <ul style="list-style-type: none"> <li>感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと</li> </ul>                                        |
| 美術（中学校）      |           |                                                                                                                                        |
| 芸術（高等学校）     | 書道        | <ul style="list-style-type: none"> <li>感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること</li> </ul>                           |
| 芸術（高等学校）     |           |                                                                                                                                        |
| 家庭           | 生活        | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分や家族の生活の営みを、地域や社会との関わりの中で持続的なものとする視点から総合的・多角的に捉え、主体的によりよい生活を創り出すこと</li> </ul>                  |
| 生活           |           |                                                                                                                                        |
| 情報・技術        | 情報（高等学校）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会における問題を、技術的視点から正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術及び生産技術を適切に活用したり、創造したりすること</li> </ul> |
| 情報（高等学校）     |           |                                                                                                                                        |
| 総合的な学習・探究の時間 | 特別活動      | <ul style="list-style-type: none"> <li>実社会・実生活との関わりの中で見いだす興味・関心や問題意識に基づく課題を、横断的・総合的な視点から捉え、新たな価値を創造し、自分らしい生き方を問い続けること</li> </ul>       |
| 特別活動         |           |                                                                                                                                        |

# 見方・考え方一覧（素案）（3 / 3）

## 見方・考え方

|               |                                                                                                                    |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知的障害特別支援学校 生活 | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会及び自然などの対象を自分との関わりの視点から捉え、自分自身や自分の生活について考えること</li> </ul>                   |
| 知的障害特別支援学校 職業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>職業に係る事象を、職業分野で取り扱う内容と将来の生活や生き方をつなげて考え、よりよい職業生活や社会生活を営むための工夫を行うこと</li> </ul> |

|      |          |                                                                                                                             |
|------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 産業教育 | 職業に関する教科 | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会や産業に関する事象を、職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、職業人としての自己の成長と、社会や産業の発展につなげること</li> </ul>         |
|      | 農業       | <ul style="list-style-type: none"> <li>農業や農業関連産業に関する事象を、生産・環境・資源の統合的な視点で捉え、職業人としての自己の成長と、農業や農業関連産業の持続的な発展につなげること</li> </ul> |
|      | 工業       | <ul style="list-style-type: none"> <li>工業に関する事象を、よりよいものづくりを創出する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、社会の発展につなげること</li> </ul>                  |
|      | 商業       | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業活動に関する事象を、利益の追求と社会的責任の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、ビジネスの持続的な発展につなげること</li> </ul>            |
|      | 水産       | <ul style="list-style-type: none"> <li>水産や海洋に関する事象を、海洋資源を持続的に利用する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、水産業及び海洋関連産業の持続的な発展につなげること</li> </ul>   |
|      | 家庭       | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活産業に関する事象を、生活の質の向上の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、生活産業の発展につなげること</li> </ul>                    |
|      | 看護       | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康に関する事象を、当事者の考えや健康レベルの視点で捉え、職業人としての自己の成長と、より健康的な生活の実現や保健医療の発展につなげること</li> </ul>     |
|      | 情報       | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報に関する事象を、課題解決や価値創造の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、情報及び情報技術を活用したよりよい社会の実現につなげること</li> </ul>     |
|      | 福祉       | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に関する事象を、人間の尊厳と自立の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、地域共生社会の推進につなげること</li> </ul>                 |

# 高次の資質・能力一覧（素案）

※各ワーキンググループにおいて検討中のたたき台であり、  
今後変更の可能性がありうる

※以下、「知識及び技能に関する統合的な理解」を「統合的な理解」、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を「総合的な発揮」と記載する

高次の資質・能力

|     |              |        |                                | 話すこと・聞くこと                                                                                        | 書くこと                                                                           | 読むこと                                                                           |
|-----|--------------|--------|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 |                                | 目的などに応じて、日常生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して話すとともに、相手の話を聞いたり話し合ったりして考えを広げ深めることができる。 | 目的などに応じて、日常生活に関わる課題や出来事、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して文章を書くことができる。    | 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、日常生活に関わる課題や出来事、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。             |
|     | 知識及び技能       | 統合的な理解 | ①各領域の学習の過程で生かし深める側面            | 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。                           | 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。<br>(同左) | 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。<br>(同左) |
|     |              |        | ②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面 | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。                        |                                                                                |                                                                                |



高次の資質・能力

|     |              |        |                                 | 話すこと・聞くこと                                                                                        | 書くこと                                                                           | 読むこと                                                                           |
|-----|--------------|--------|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 |                                 | 目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して話すとともに、相手の話を聞いたり話し合ったりして考えを広げ深めることができる。 | 目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して文章を書くことができる。    | 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。             |
|     | 知識及び技能       | 統合的な理解 | ①各領域の学習の過程で生かし深める側面             | 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。                           | 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。<br>(同左) | 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。<br>(同左) |
|     |              |        | ②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面 | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。                        |                                                                                |                                                                                |

## 高次の資質・能力

|                 |                  |        |                                                    | 話すこと・聞くこと                                                                                                 | 書くこと                                                                               | 読むこと                                                                             |
|-----------------|------------------|--------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校<br>(現代の国語) | 思考力、判断力、<br>表現力等 | 総合的な発揮 |                                                    | 目的などに応じて、生涯にわたる社会生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に的確に伝わるように効果的に話すとともに、相手の話を聞いたり話し合ったりして考えを広げ深めることができる。 | 目的などに応じて、生涯にわたる社会生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に的確に伝わるように効果的に表現した文章を書くことができる。 | 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、生涯にわたる社会生活に関わる課題や出来事などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。               |
|                 | 知識及び技能           | 統合的な理解 | ①各領域の<br>学習の過程で<br>生かし深める<br>側面                    | 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。                              | 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(同左)   | 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(同左) |
|                 |                  |        | ②各領域の<br>学習を支え<br>文化的な知識<br>や態度、教養<br>として深める<br>側面 | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、生涯にわたる社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。                         |                                                                                    |                                                                                  |
|                 | 思考力、判断力、<br>表現力等 | 総合的な発揮 |                                                    | —                                                                                                         | 目的などに応じて、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に的確に伝わるように効果的に表現した文章を書くことができる。                | 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。                              |
| 高等学校<br>(言語文化)  | 知識及び技能           | 統合的な理解 | ①各領域の<br>学習の過程で<br>生かし深める<br>側面                    | —                                                                                                         | 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。       | 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。     |
|                 |                  |        | ②各領域の<br>学習を支え<br>文化的な知識<br>や態度、教養<br>として深める<br>側面 | —                                                                                                         | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、生涯にわたる社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。  |                                                                                  |
|                 | 思考力、判断力、<br>表現力等 | 総合的な発揮 |                                                    | —                                                                                                         | —                                                                                  | —                                                                                |

## 高次の資質・能力

|      |       |              |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-------|--------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校  | 外国語活動 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | ごく身近な話題について、<br>・ 情報などを聞き、内容を推測することに慣れ親しむことができる。【理解する】<br>・ 相手を意識しながら、自分の考えや気持ちなどを話して伝えることに慣れ親しむことができる。【表現する】<br>・ 相手を意識しながら、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことに慣れ親しむことができ、相手を理解しようとする。【伝え合う】                                                                                                                                               |
|      |       | 知識及び技能       | 統合的な理解 | 音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。                                                                                                                                                                                                                                                          |
|      | 外国語   | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、<br>・ 聞いて情報を捉え、考えを形成するとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現の意味を考えながら読むことができる。【理解する】<br>・ 自分の考えや気持ちなどを整理し、語句や表現を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、書いて伝えることができる。【表現する】<br>・ 相手が話した内容を踏まえ、自分の考えや気持ちなどを、語句や表現を選んで伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】                                                      |
|      |       | 知識及び技能       | 統合的な理解 | 音声、語彙、表現及び文構造並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解している。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 中学校  |       | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、<br>・ 聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考えを形成することができる。【理解する】<br>・ 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、表現等を工夫して他者に伝えることができる。【表現する】<br>・ 相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え、気持ちなどを、相手に分かりやすいように表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を深めることができる。【伝え合う】                                                   |
|      |       | 知識及び技能       | 統合的な理解 | 音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解している。                                                                                                                                                                                                                                         |
| 高等学校 | 英C総合I | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・ 聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考えを形成してまとめることができる。【理解する】<br>・ 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら表現等を工夫して他者に適切に伝えることができる。【表現する】<br>・ 相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え、気持ちなどを、相手に分かりやすいように論理性に注意しながら表現等を工夫して適切に伝え合うことができ、相互理解を深めることができる。【伝え合う】 |
|      |       | 知識及び技能       | 統合的な理解 | 音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解している。                                                                                                                                                                                                                                             |
|      | 英C発信I | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・ 情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、論理の構成・展開及び表現等を工夫して他者に適切に伝えることができる。【表現する】<br>・ 相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、相手に分かりやすいように論理の構成・展開及び表現等を工夫して適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】                                                                                                        |
|      |       | 知識及び技能       | 統合的な理解 | 音声、語彙、表現、文法及び論理の構成・展開並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解している。                                                                                                                                                                                                                                    |

## 高次の資質・能力

|             |                      | 知識及び技能                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                               |
|-------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                      | 統合的な理解                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                     |
| 第3学年        | (1) 身近な地域や市区町村の様子    | 白地図や年表、文などにまとめて、身近な地域や市区町村は、地形や交通、公共施設など様々な場所による違いがあること、時間の経過とともに移り変わってきたことなどを基に成り立っていることを理解する。     | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、市区町村の地理的環境や移り変わり、人々の生活の変化について考えたり、これからの市の発展を考えたりして、表現することができる。    |
|             | (2) 地域に見られる生産や販売の仕事  | 白地図や文などにまとめて、地域に見られる生産や販売の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることや消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めようと工夫して行われていることを理解する。 | 位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、生産や販売の仕事について多角的に考え、表現することができる。                                             |
|             | (3) 地域の安全を守る働き       | 文や図などにまとめて、地域の安全を守る働きは、関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解する。           | 人々の相互関係などの視点に着目して、地域の安全を守る活動の様子について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。                                |
| 小学校<br>第4学年 | (1) 都道府県の様子          | 白地図や文などにまとめて、自分たちの都道府県は、地形や産業など特色があることや人々が協力して特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域があることなどを基に成り立っていることを理解する。 | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、県の地理的環境の特色や県内の地域の特色を考えて、表現することができる。                               |
|             | (2) 人々の健康や生活環境を支える事業 | 文や図などにまとめて、人々の健康や生活環境を支える事業は、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っており、地域の人々の生活を支えていることを理解する。                        | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、人々の健康や生活環境を支える事業について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。      |
|             | (3) 自然災害から人々を守る活動    | 文や図などにまとめて、自然災害から人々を守る活動は、これまで関係機関や地域の人々が連携して対処してきたり、今後の災害に対して様々な備えをして、人々を自然災害から守っていることを理解する。       | 時期や時間の経過、人々の相互関係などの視点に着目して、自然災害から人々を守る活動の働きを多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。                       |
|             | (4) 県内の伝統や文化、先人の働き   | 年表や文などにまとめて、県内の伝統や文化は、地域の人々が受け継いできたことや、地域の発展など人々の様々な願いが込められていること、先人の働きは、地域の人々の生活の向上に貢献したことを理解する。    | 位置や空間的な広がり事象や人々の相互関係などの視点に着目して、人々の願いや努力を考えたり、地域の人々の生活の向上に貢献した先人の働きについて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。 |



## 高次の資質・能力

|      |                        | 知識及び技能                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                 |
|------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |                        | 統合的な理解                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                                                                                                       |
| 第5学年 | (1) 我が国の国土の様子と国民生活     | 文や図などにまとめて、我が国の国土やその領域では、その自然条件と人々の生活や産業、国土の環境保全が関連して行われていることを理解する。                                                | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、自然条件と国民生活の関連や国土の環境保全について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。                                                    |
|      | (2) 我が国の農業や水産業における食料生産 | 文や図などにまとめて、我が国の食料生産は、国土の自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解する。                                          | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、食料生産が国民生活に果たす役割を考えたり、これからの農業などの発展について多角的に考えたりして、表現することができる。                                                         |
|      | (3) 我が国の工業生産           | 文や図などにまとめて、我が国の工業生産は、消費者の需要や社会に対応して行われていることや、国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。                                          | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、工業生産が国民生活に果たす役割を考えたり、これからの工業の発展について多角的に考えたりして、表現することができる。                                                           |
|      | (4) 我が国の産業と情報との関わり     | 文や図などにまとめて、情報を活用して発展する産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることや国民生活を向上させていることを理解する。                                                 | 時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、情報の活用や、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について多角的に考えたりして、表現することができる。                                                                        |
| 第6学年 | (1) 我が国の政治の働き          | 文や図などにまとめて、我が国の政治は、日本国憲法の基本的な考え方に基づいて行われていることや、国民民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図っていることを理解する。                                | 事象や人々の相互関係などの視点に着目して、我が国の政治の働きについて、様々な面から考えたり、国民としての政治への関わり方について多角的に考えたりして、表現することができる。                                                                       |
|      | (2) 我が国の歴史上の主な事象       | 文や図などにまとめて、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、我が国は長い歴史をもち伝統や文化を育んできたことを理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解する。                            | 時期や時間の経過などの視点に着目して、先人の業績を政治や経済、世界との関わりなどの様々な面から、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。                                                                     |
|      | (3) グローバル化する世界と日本の役割   | 文や図などにまとめて、我が国は、他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であること、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解する。 | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、国際交流の果たす役割や国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、世界の人々と共に生きていくために大切なことや、我が国が国際社会において果たすべき様々な役割などを多角的に考えたり選択・判断したりして、表現することができる。 |



## 高次の資質・能力

|     |            |                   | 知識及び技能                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                   |                                                                                                      |
|-----|------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |            |                   | 統合的な理解                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                                         |                                                                                                      |
| 中学校 | 社会（地理的分野）  | A 世界と日本の地域構成      | (1) 地域構成                                                                  | 緯度や経度，世界の大陸分布や日本の領域などを対象として，世界と日本の様々な地域を学習するための大まかな地域構成の特色を理解する。                                                                               | 位置や分布などに関わる視点に着目して，世界と日本の空間的な広がりについて，世界や日本の諸事象や様々な地域の特色を学ぶ座標軸である地域構成を大観して，多面的・多角的に考察し，表現することができる。    |
|     |            | B 世界の様々な地域        | (1) 世界の各地の人々の生活と環境                                                        | 世界の多様な地域を対象として，世界各地の人々の生活が，自然的及び社会的条件から影響を受けたり，条件に影響を与えたりしながら多様性が生じることを理解する。                                                                   | 人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して，世界の多様な地域における人々の生活について，その特色や変容の理由を，自然的及び社会的な影響から多面的・多角的に考察し，表現することができる。 |
|     | (2) 世界の諸地域 |                   | 世界の各州を対象として，地域内で見られる地球的課題と関連付けながら地域的特色を理解する。                              | 地域間の結び付きやスケール，変容などに関わる視点に着目して，世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響を多面的・多角的に考察したり，地球的課題をその地域的特色や変容の過程と関連付けて多面的・多角的に考察し，表現することができる。                            |                                                                                                      |
|     | C 日本の様々な地域 | (1) 地域調査の手法       | 学校周辺の地域を対象として地形図や主題図の読み取りや作成の技能を活用しながら，地域の特色を明らかにするために地域調査の手法を理解する。       | 人間生活と自然環境との関係などに関わる視点に着目して，学校周辺の地域について主題を設定し，文献や調査から地理的な事象を見出し，事象同士を関連付けて追究してまとめることを通して，地域調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し，表現することができる。                   |                                                                                                      |
|     |            | (2) 日本の地域的特色と地域区分 | 日本を複数の項目について区分することで，区分された特色ある地域から日本が構成されていることや，日本全体の地域的特色を理解する。           | 位置や分布，人間と自然環境との関係，スケールなどに関わる視点に着目して，複数の項目について日本を地域区分し，区分された地域の共通点や差異，分布から，日本の地域的特色を多面的・多角的に考察し，表現することができる。                                     |                                                                                                      |
|     |            | (3) 日本の諸地域        | 幾つかに区分した日本の諸地域を対象として，日本の諸地域の地域的特色や課題を理解する。                                | 地域間の結び付きやスケール，変容などの視点に着目して，日本の諸地域における地域の特徴を，適切な事象を取り上げ，他の事象や課題と有機的に関連付けて，多面的・多角的に考察し，表現することができる。                                               |                                                                                                      |
|     |            | (4) 地域の在り方        | 分野のまとめとして，適切な地域や課題を取り上げ，持続可能な社会づくりの視点から，課題解決に向けて考察，構想したことを適切に表現する手法を理解する。 | 地域的な課題解決の取組に関する理解を基に，地域間の結び付きやスケール，変容などの視点に着目して，地域で見られる地理的な課題について，持続可能な社会づくりの視野から，類似の課題が見られる他の地域と比較したり，関連付けたりするなどして，多面的・多角的に考察，構想し，表現することができる。 |                                                                                                      |

## 高次の資質・能力

|                      |                   |                  |  | 知識及び技能                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                 |
|----------------------|-------------------|------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                      |                   |                  |  | 統合的な理解                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                                                       |
| 社会<br>（歴史的分野）<br>中学校 | A 歴史<br>との対話      | (1) 歴史との対話       |  | 過去からの経緯を理解するための情報を獲得する方法や、時間軸で整理する技能を用いて、小学校の学習で扱った人物や出来事が、過去の資料に基づいて記述されていることや、現在の身近な地域の景観や特徴が、歴史的な経緯によって形成されていることを理解する。 | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、小学校での学習で獲得した知識を時間軸で整理したり、地域などの空間を設定し、根拠を踏まえて現在の景観や特徴につながる過去の事象との関わりや、時代区分との関わりについて整理して考察し、表現することができる。 |
|                      |                   | (1) 古代までの日本      |  | 列島周辺地域との関係を背景に、日本列島に国家が形成され、アジア諸地域との関係をもちながら、吸収・再構成しながら政治のしくみが整えられたり、特徴的な文化が育まれたことについて理解する。                               | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、古代の日本について多面的・多角的に考察し、国家・社会の形成などについて時代の特色を大観して表現することができる。                                                           |
|                      | B 近世<br>までの日本とアジア | (2) 中世の日本        |  | 列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の中で展開したことや、その中で民衆の成長により形成された社会や多様な文化について理解する。                                  | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。                                                               |
|                      |                   | (3) 近世の日本        |  | ヨーロッパの諸勢力との接触や列島周辺地域との関係を背景に、統一政権の形成や、その諸政策によって生み出された安定的なつながりが経済活動や文化の発達を促したことや、その後の国内外の情勢の変化への対応について理解する。                | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。                                                               |
|                      |                   | (1) 近代(前半)の日本と世界 |  | 欧米諸国の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、社会や対外的な状況の変化への対応が求められ、新たな制度や文化の導入とそれまでの社会とのつながりの中で、日本の近代国家のしくみや近代的な社会や文化が形成されたことを理解する。             | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代前半の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。                                                  |
|                      | C 近現代の<br>日本と世界   | (2) 近代(後半)の日本と世界 |  | 国際社会の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、国際情勢の推移とその対応が政治や社会の変化を促したことや、戦争による惨禍が繰り返された経緯から国際協調の意義について理解する。                                    | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代後半の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現代の諸課題の解決に向けた手掛かりについて構想し、表現することができる。                         |
|                      |                   | (3) 現代の日本と世界     |  | 世界の動向を背景に、冷戦下の日本の政治や経済の動きと社会の形成、冷戦後の国際社会との関係について理解するとともに、それらと現在の社会とのつながりについて理解する。                                         | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながり、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、第二次世界大戦後の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現在と未来の日本や世界の在り方について構想し、表現することができる。          |

## 高次の資質・能力

|                      |                |                      | 知識及び技能                                                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                             |
|----------------------|----------------|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                      |                |                      | 統合的な理解                                                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                                                                                                   |
| 社会<br>（公民的分野）<br>中学校 | A 私たちと現代社会     | （１）私たちが生きる現代社会と文化の特色 | 位置や空間的広がり，持続可能性，推移や変化などの視点に基づき，現代日本の社会を特色付ける課題について，グローバル化や文化の意義及び影響と関連付けて理解する。                                                                     | 位置や空間的広がり，持続可能性，推移や変化などの視点に着目して，現代社会に見られる課題が将来の政治，経済，文化，国際関係に与える影響について，具体的な事例を挙げて，考察し，表現する。                                                              |
|                      |                | （２）現代社会を捉える枠組み       | 個人の尊厳と両性の本質的平等を基礎とする現代社会を捉える基礎となる枠組みとして，対立と合意，効率と公正などを理解した上で，合意を定めるきまり・契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任を理解する。                                              | 対立と合意，効率と公正などの現代社会を捉える基礎となる枠組みに着目して，望ましい合意の在り方や合意を実現するために必要な事柄などについて，具体的な事例を挙げて，考察し，表現する。                                                                |
|                      | B 私たちの都経済      | （１）市場の働きと経済          | 分業と交換などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき，経済に関する仕組みと身近な経済活動に見られる諸事象を結び付けた，経済活動の意義について理解した上で，それと関連付けて，市場の働きと経済を理解する。                                              | 対立と合意，効率と公正，分業と交換，希少性，誠実性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して，より活発な経済活動と個人の尊重を両立させることが重要であることを踏まえた，豊かな経済活動の実現とその方法について，具体的な事例を挙げて，考察し，表現する。                           |
|                      |                | （２）国民の生活と政府の役割       | 分業と交換などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき，国や地方公共団体の財政に関する仕組みとそれらの意義などについて理解した上で，それと関連付けて，すべての経済主体が連携・協働を図ることの意味を理解する。                                            | 対立と合意，効率と公正，分業と交換，希少性，誠実性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して，すべての経済主体が連携・協働を図ることが効果的であることを踏まえた，現代社会に見られる課題の解決とその方法について，具体的な事例を挙げて，考察，構想し，表現する。                       |
|                      | C 私たちと政治       | （１）人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 | 個人の尊重などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき，個人が尊重され協働の利益が確保される国家・社会を形成するために憲法が果たす意義について理解した上で，それと関連付けて，日本国憲法の基本原理を理解する。                                            | 対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して，現代社会の課題を解決するために，憲法に基づいて政治が行われることや日本国憲法の基本原理が果たす意義について，具体的な事例を挙げて，考察し，表現する。                            |
|                      |                | （２）民主政治と政治参加         | 個人の尊重などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき，国民の政治参加の意義について理解した上で，それと関連付けて，地方自治や我が国の民主政治の考え方を理解する。                                                                  | 対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して，社会に参画する主体として，地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚などを育成することに向けて，政治参加に関する具体的な課題を挙げて，望ましい政治参加の在り方について考察，構想し，表現する。 |
|                      | D 私たちと国際社会の諸課題 | （１）世界平和と人類の福祉の増大     | 持続可能性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき，国際社会に関する基本的な事項，国際社会の現状などについて理解した上で，それと関連付けて，世界平和の実現と人類の福祉の増大に向けて，地球規模の諸課題の解決のために国際協調や協力などが大切であることを個人と社会の関わりを中心に理解を深める。 | 対立と合意，効率と公正，協調，持続可能性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して，主体的に社会に関わることにに向けて，世界平和のために私たちにできることについて，考察，構想したことを説明したり，それらをもとに議論したりする。                                      |
|                      |                | （２）よりよい社会を目指して       |                                                                                                                                                    | 社会的な視点や方法等を用いて，現代の社会的な事象から課題を見いだし，社会参画を視野に入れながら，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，考察，構想し，自分の考えを説明，論述することを通して，私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。                    |



## 高次の資質・能力

|      |      |                       |                      | 知識及び技能                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                        |
|------|------|-----------------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                       |                      | 統合的な理解                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                              |
| 高等学校 | 地理総合 | A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 | (1) 地図や地理情報システムと現代世界 | 様々な目的や場面で役立つ地図や地理情報システム（GIS）を活用して、現代世界の地域構成の特色や国内や国家間の結び付きを理解する。                                                            | 位置や分布などに関わる視点に着目して、地図や地理情報システム（GIS）などに関わる地理的技能を活用して、現代世界の地域構成や地図やGISの役割や活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。                               |
|      |      |                       |                      |                                                                                                                             |                                                                                                                                     |
|      |      | B 国際理解と国際協力           | (1) 生活文化の多様性と国際理解    | 世界の多様な生活文化を対象として、世界の人々の生活文化が、自然及び社会的環境から影響を受けたり、環境に影響を与えたりしながら多様性が生じたり変容したりするかを理解するとともに、グローバル化の進展による自他の文化の尊重と国際理解の重要性を理解する。 | 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付き、変容などに関わる視点に着目して、世界各地における人々の衣食住を中心とする生活文化や、慣習や規範、宗教などの生活様式について、自然及び社会的環境の影響による多様性と変容を、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 |
|      |      |                       | (2) 地球的課題と国際協力       | 世界各地でみられる様々な地球的課題を対象として、現状や要因、解決の方向性や、課題相互の関連性を捉え、持続可能な社会の実現に向けた各国の取組や、国際協力の必要性を理解する。                                       | 地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界各地で見られる様々な地球的課題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                          |
|      |      | C 持続可能な地域づくりと私たち      | (1) 自然環境と防災          | 地形図やハザードマップなどを活用して、自然環境の特色と自然災害の関係性、地域性を踏まえた災害の備えや対応について理解するとともに、防災の重要性について理解する。                                            | 人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、ハザードマップなどに関わる地理的技能を活用し、自然及び社会条件との関わりなど地域性を踏まえた防災について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。                          |
|      |      |                       | (2) 生活圏の調査と地域の展望     | 科目のまとめとして、持続可能な地域づくりを目指した生活圏の調査を踏まえ、地理的な課題の解決に向けた様々な立場からの取組や探究する手法を理解する。                                                    | 持続可能な地域づくりに関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、生活圏の地理的な課題や課題解決に求められる取組を、多面的・多角的に考察、構想、表現し、よりよい社会の実現を展望することができる。          |

## 高次の資質・能力

|      |                       |                |                 | 知識及び技能                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                    |
|------|-----------------------|----------------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |                       |                |                 | 統合的な理解                                                                                          | 総合的な発揮                                                                                                                          |
| 高等学校 | 地理探究                  | A 現代世界の系統地理的考察 | (1) 自然環境        | 地形、気候、生態系などの自然環境に関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。          | 人間生活と自然環境との関係やスケールなどに関わる視点に着目して、地形、気候、生態系などの自然環境に関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。                      |
|      |                       |                | (2) 資源、産業       | 資源・エネルギー、農業、工業などの資源、産業に関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。    | 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、資源・エネルギー、農業、工業などの資源、産業に関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。            |
|      |                       |                | (3) 交通・通信、観光    | 交通・通信網と物流、人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 | 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、交通・通信網と物流、人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。         |
|      |                       |                | (4) 人口、都市・村落    | 人口、都市・村落などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。                | 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、人口、都市・村落などに関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。                        |
|      |                       |                | (5) 生活文化、民族・宗教  | 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。              | 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。                          |
|      | 国際理解と国際協力             | B 国際理解と国際協力    | (1) 現代世界の地誌的考察  | 世界の諸地域は、目的による様々な指標で地域区分することが可能であることを理解し、地域には多様な側面やスケールがあるという地域の概念や現代世界の多様性を理解する。                | 位置や分布、地域間の結び付き、スケールなどに関わる視点に着目して、世界や世界の諸地域について、目的による複数の指標に基づいて地域区分された分布図を比較し、区分された地域の共通点や差異、分布から、地域の捉え方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 |
|      |                       |                | (2) 現代世界の諸地域    | 地域区分した世界の諸地域を対象として、世界の諸地域の地域的特色や地球的課題、地域間の結び付き、地域の構造や変容を理解する。                                   | 地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、現代世界の諸地域について、世界の諸地域や地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                                 |
|      | C 現代世界におけるこれからの日本の国土像 |                | (1) 持続可能な国土像の探究 | 科目のまとめとして、日本の地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方の構想を通して、持続可能な国土像の在り方を探究する手法の重要性とその手法について理解する。              | 持続可能な国土像に関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、これからの日本の国土像について、地理的な課題の解決に向けた取組を考察・構想し、よりよい社会の実現を展望することができる。            |



## 高次の資質・能力

|      |      |                  |                         | 知識及び技能                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                           |
|------|------|------------------|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                  |                         | 統合的な理解                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                 |
| 高等学校 | 歴史総合 | A歴史の扉            | (1) 歴史と私たち              | 現在に生きる私たちに関わる諸事象と日本や世界の歴史とのつながりを理解するとともに、過去の事象について探る手がかりとなる材料である資料を考察するには、批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解する。                      | 諸資料を効果的に活用して、時系列、展開や変化、類似や差異、背景や原因、結果や影響、相互の関連や現在とのつながりなどの視点に着目し、身近な生活や地域にみられる諸事象と歴史とのつながりや資料と歴史の叙述の関わりを考察し、表現することができる。                                                |
|      |      |                  | (2) 歴史の特質と資料            |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                        |
|      | 歴史総合 | B近代化と私たち         | (1) 近代化への問い             | 資料から収集し読み取った情報を基に、産業社会と国民国家の形成により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。                                                 | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近代化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。                        |
|      |      |                  | (2) 結び付く世界と日本の開国        |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                        |
|      |      |                  | (3) 国民国家と明治維新           |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                        |
|      |      |                  | (4) 近代化と現代的な諸課題         |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                        |
|      | 歴史総合 | C国際秩序の変化や大衆化と私たち | (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い     | 資料から収集し読み取った情報を基に、国際的な結び付きの強まりによる国家間の関係性の変化や、個人や集団の社会参加の拡大により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。                     | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。                   |
|      |      |                  | (2) 第一次世界大戦と大衆社会        |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                        |
|      |      |                  | (3) 経済危機と第二次世界大戦        |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                        |
|      |      |                  | (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                        |
|      | 歴史総合 | Dグローバル化と私たち      | (1) グローバル化への問い          | 資料から収集し読み取った情報を基に、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになったことにより生活や社会に生じた変化について理解するとともに、現代的な諸課題の形成と近現代の歴史とのつながりについて理解する。 | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近現代の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。 |
|      |      |                  | (2) 冷戦と世界経済             |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                        |
|      |      |                  | (3) 世界秩序の変容と日本          |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                        |
|      |      |                  | (4) 現代的な諸課題の形成と展望       |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                        |

## 高次の資質・能力

|      |       |                 |                                 | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                           | 思考力，判断力，表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|-------|-----------------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |                 |                                 | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 高等学校 | 日本史探究 | A 原始・古代の日本と東アジア | (1) 黎明期の日本列島と歴史的環境              | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に，根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ，環境への適応と文化の形成，列島近隣地域との交流との関係など，各自が形成した観点から古代の政治や社会と文化の特色を理解する。                                                                                                       | 多様な資料を効果的に活用して，時期や年代，展開や変化，共通点や相違点，背景や原因，結果や影響などの視点に着目し，古代の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。                                                                                                                                                                                     |
|      |       |                 | (2) 歴史資料と原始・古代の展望               |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      |       |                 | (3) 古代の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈，説明，論述) |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      | 日本史探究 | B 中世の日本と世界      | (1) 中世への転換と歴史的環境                | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に，根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ，複層的な政治的権力や権威，多様な社会集団の成長とその文化との関わりなど，各自が形成した観点から中世の政治や社会と文化の特色を理解する。                                                                                                 | 多様な資料を効果的に活用して，時期や年代，展開や変化，共通点や相違点，背景や原因，結果や影響などの視点に着目し，中世の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。                                                                                                                                                                                     |
|      |       |                 | (2) 歴史資料と中世の展望                  |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      |       |                 | (3) 中世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈，説明，論述) |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      | 日本史探究 | C 近世の日本と世界      | (1) 近世への転換と歴史的                  | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に，根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ，統一的な政治権力や広域の情報・流通のネットワークの形成や継続による社会変化に伴う文化の変容など，各自が形成した観点から近世の政治や社会と文化の特色を理解する。                                                                                     | 多様な資料を効果的に活用して，時期や年代，展開や変化，共通点や相違点，背景や原因，結果や影響などの視点に着目し，近世の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。                                                                                                                                                                                     |
|      |       |                 | (2) 歴史資料と近世の展望                  |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      |       |                 | (3) 近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈，説明，論述) |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      | 日本史探究 | D 近現代の地域・日本と世界  | (1) 近代への転換と歴史的環境                | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から情報を収集し読み取った情報を基に，近代化，国際秩序の変化や大衆化，グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ，地域社会及び日本と世界の関係，現在の社会の構造などとのつながりなど，各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。</li> <li>現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な資料を効果的に活用して，時期や年代，展開や変化，共通点や相違点，背景や原因，結果や影響，現在とのつながりなどの視点に着目し，近現代の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。</li> <li>事象の意味や意義，関係性などを構造的に整理して，我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし，根拠を示して表現することができる。</li> <li>現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察，構想し表現することができる。</li> </ul> |
|      |       |                 | (2) 歴史資料と近代の展望                  |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      |       |                 | (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造          |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      |       |                 | (4) 現代の日本の課題の探究                 |                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

## 高次の資質・能力

|               |                |                     | 知識及び技能                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                            |
|---------------|----------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               |                |                     | 統合的な理解                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                  |
| 高等学校<br>世界史探究 | A 世界史へのまなざし    | (1) 地球環境から見る人類の歴史   | 歴史をマクロに捉える見方とミクロに捉える見方があることを理解し、時間と空間のスケールを活用して歴史を考察する方法を理解する。                                           | 時期や年代、空間的な広がり、展開や変化などの視点に着目して、地球環境と人類の歴史との関わりや身の回りの諸事象と世界史との関わりを考察し、表現することができる。                                                                         |
|               |                | (2) 日常生活から見る世界の歴史   |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
|               | B 諸地域の歴史的特質の形成 | (1) 諸地域の歴史的特質への問い   | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、諸地域の歴史的特質への問いに照らして、世界各地に共通性と多様性をもつ諸地域が形成されたことについて理解する。                              | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色などから、文明や諸地域の共通性や多様性について多面的・多角的に考察し、諸地域に形成された歴史的な特質を表現することができる。                         |
|               |                | (2) 古代文明の歴史的特質      |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
|               |                | (3) 諸地域の歴史的特質       |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
|               | C 諸地域の交流・再編    | (1) 諸地域の交流・再編への問い   | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、諸地域の交流・再編への問いに照らして、諸地域の交流の拡大や新たな地域世界の形成、既存の地域世界の関係の変化について構造的に理解する。                  | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、諸地域の交流の広がりや深まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の交流や再編を表現することができる。                      |
|               |                | (2) 結び付くユーラシアと諸地域   |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
|               |                | (3) アジア諸地域とヨーロッパの再編 |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
|               | D 諸地域の結合・変容    | (1) 諸地域の結合・変容への問い   | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、諸地域の結合・変容への問いに照らして、近代以降に世界の一体化が顕著になったことについて構造的に理解する。                                | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、地球規模での世界の一体化と相互依存の強まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の結合や変容を表現することができる。               |
|               |                | (2) 世界市場の形成と諸地域の結合  |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
|               |                | (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
|               |                | (4) 第二次世界大戦と諸地域の変容  |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
|               | E 地球世界の課題      | (1) 国際機構の形成と平和への模索  | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、多角的な相互依存関係を深める現代世界の特質について理解するとともに、自ら設定した主題を基に時間軸と空間軸のスケールを活用して地球世界の課題を歴史的な経緯から理解する。 | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現代世界とのつながりなどに着目し、現代世界の特質に関わる具体的に設定した主題から歴史的に形成された地球世界の課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。 |
|               |                | (2) 経済のグローバル化と格差の是正 |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
|               |                | (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会 |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
|               |                | (4) 地球世界の課題の探究      |                                                                                                          |                                                                                                                                                         |

高次の資質・能力

|      |                              |                            | 知識及び技能                                                                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                              |
|------|------------------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |                              |                            | 統合的な理解                                                                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                    |
| 高等学校 | 公共                           | (1) 公共的な空間を作る私たち           | 幸福，人間と社会の多様性と共通性などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき，人間がよりよく生きるためには，個人として尊重されるとともに，自立的な主体として公共的な空間に参画する必要があることについて理解した上で，そのために自らの資質・能力を高め，人間として成長することが大切であることを理解する。         | 公共的な空間と人間との関わり，個人の尊厳と自主・自律，人間と社会の多様性と共通性などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して，自らの問題として，社会に参画する自立した主体とは何かということについて考察し，表現する。                                                                                                                         |
|      |                              | (2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方 | 幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき，主体的に社会に参画し，他者と協働する際に選択・判断を行う手掛かりとなる考え方について，人間としての在り方生き方に関連付けて理解する。                                                             | 現代の倫理的課題について，幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して，選択・判断の手掛かりとなる考え方や思考実験などを活用して考察することで，課題の本質を的確に捉えた上で，自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすための糸口などについて考察し，表現する。                                                                                           |
|      |                              | (3) 公共的な空間における基本的原理        | 幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき，個人の尊重と協働の利益の確保などを共に図ることが，公共的な空間を作る目的であることについて理解した上で，それと関連付けて公共的な空間における基本的原理を理解する。                                              | 幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して，人間が協働する理由，協働関係を妨げる要因について考察した上で，公共的な空間における基本原理が，協働の条件として，あるいは協働関係を妨げる要因を取り除く工夫として，どのような役割を果たすかということについて，具体的な事例を挙げて，考察し，表現する。                                                                          |
|      | B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち |                            | よりよい社会の形成に参画することに向けて，人間としての在り方生き方に関する理解を深めつつ，幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき，法，政治及び経済などに関わる仕組みの特徴及びそれらが現代の諸課題の解決にどのように役立つかを理解した上で，それらの仕組みの下で活動するために必要な知識を理解する。 | 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて，現実社会の諸課題に関わる具体的な主題について，幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目し，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理などを活用しつつ，関係する者の利害を適切に考慮して，考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現する。                                                             |
|      | C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち        |                            |                                                                                                                                                                    | 地域の創造，よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し，共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし，幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して，関係する者の利害を適切に考慮した上で，その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述することを通して，私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。 |

37



高次の資質・能力

|      |    |             |                       | 知識及び技能                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                  |
|------|----|-------------|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |    |             |                       | 統合的な理解                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                                                        |
| 高等学校 | 倫理 | A 世界史へのまなざし | (1) 人間としての在り方生き方の自覚   | 古今東西の先哲の考え方にに基づき、人間としての在り方生き方に関わる概念や理論について理解した上で、人間としての在り方生き方について思索を深めることが大切であることを理解する。                               | 古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。                                                                                                                         |
|      |    |             | (2) 国際社会に生きる日本人としての自覚 | 古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方にに基づき、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について自己との関わりにおいて理解した上で、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索することが大切であることを理解する。 | 古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。                                                                                                   |
|      | 倫理 | B 現代の諸課題と倫理 | (1) 自然や科学技術に関わる諸課題と倫理 |                                                                                                                       | 他者対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、自然や科学技術と人間との関わりについての倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。       |
|      |    |             | (2) 社会と文化に関わる諸課題と倫理   |                                                                                                                       | 様々な他者との協働、共生に向けて、他者対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、社会と文化に関わる倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。 |



高次の資質・能力

|      |       |                     |                          | 知識及び技能                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                               |
|------|-------|---------------------|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |                     |                          | 統合的な理解                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                     |
| 高等学校 | 政治・経済 | A 現代日本における政治・経済の諸課題 | (1) 現代日本の政治・経済           | 個人の尊厳と基本的人権の尊重などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、現代日本の政治・経済、その諸課題に関わる概念や理論について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。 | 個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、<br>・ 現代日本の政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、考察し、表現する。<br>・ 政治・経済に関わる諸事象に見られる矛盾や対立などを見だし、その解決に向けて、望ましい現代日本の政治・経済の仕組みや制度の在り方について、考察、構想し、表現する。 |
|      |       |                     | (2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究 |                                                                                          | 合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から現代日本社会の課題を見だし、社会的な視点や方法等を総合的に用いて、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを広い視野から説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。      |
|      | 政治・経済 | B 国際社会の諸課題          | (1) 現代の国際政治・経済           | 個人の尊厳と基本的人権の尊重などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、現代の国際政治・経済、その諸課題に関わる概念や理論について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。 | 個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、<br>・ 国際政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、考察し、表現する。<br>・ 政治・経済に関わる諸事象に見られる課題などを見だし、その解決に向けて、望ましい国際政治・経済の仕組みや制度の在り方について、考察、構想し、表現する。          |
|      |       |                     | (2) 国際社会の諸課題の探究          |                                                                                          | 合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から国際社会の課題を見だし、社会的な視点や方法等を総合的に用いて、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを広い視野から説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。        |

## 高次の資質・能力

|      |     | 数と式                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                               |                                                          |                                                                  |                                                                          |                                                               |                                                 |                                                               |
|------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
|      |     | 数・量                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                               | 式                                                        |                                                                  | 計算                                                                       |                                                               | 方程式・不等式                                         |                                                               |
|      |     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                  | 知識及び技能                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                     | 知識及び技能                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                  | 知識及び技能                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                  |
| 小学校  |     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                        | 統合的な理解                                                   | 総合的な発揮                                                           | 統合的な理解                                                                   | 総合的な発揮                                                        | 統合的な理解                                          | 総合的な発揮                                                        |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>数は、量の大きさや順序を表し、大小比較したり、計算したりできることを理解する。</li> <li>数の範囲を拡張することは、それまでの数と同じ仕組みの表現や計算として扱い、より広範な事象を考察できることを理解する。</li> <li>量は、ものの大きさを捉え、単位を基に測定して数に表したり、比べたりできることを理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>数を構成する単位や十進位取り記数法の仕組みに着目し、数の大きさの比べ方や数え方、表し方を考察し、大小比較や計算などに生かす。</li> <li>量の特徴に着目し、目的に応じて適切な単位や計器を選んで測定し、量の大きさを数に表したり、比べたりする。</li> </ul> | 式は、数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、数量の関係について説明できることを理解する。            | 事象における数量の關係に着目し、式の表し方について考察し、計算して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。 | 計算は、数を構成する単位や十進位取り記数法、計算に関して成り立つ性質に基づいており、一定の手順にしたがって数量を正しく処理できることを理解する。 | 数を構成する単位や十進位取り記数法、計算に関して成り立つ性質に着目し、計算の仕方について考察し、問題の解決に生かす。    |                                                 |                                                               |
| 中学校  |     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                        | 統合的な理解                                                   | 総合的な発揮                                                           | 統合的な理解                                                                   | 総合的な発揮                                                        | 統合的な理解                                          | 総合的な発揮                                                        |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>数は、量の大きさ、順序を表し、大小比較したり、計算したりできることを理解する。</li> <li>数の範囲を拡張することは、それまでの数と同じ仕組みの表現や計算として扱えるようにし、より広範な事象を考察できることを理解する。</li> </ul>                                                  | 数の範囲に着目し、数の表し方や大きさの比べ方を考察し、大小比較や計算などに生かす。                                                                                                                                     | 文字や文字式は、数量や数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、数量や数量の關係について説明できることを理解する。 | 事象における数量や数量の關係に着目し、文字式で表し、計算して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。    | 方程式は、等しい数量の關係を表し、条件を満たす値を正確に求められることを理解する。                                | 事象における等しい数量の關係に着目し、方程式で表し、変形して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。 | 方程式は、等しい数量の關係を表し、条件を満たす値を正確に求められることを理解する。       | 事象における等しい数量の關係に着目し、方程式で表し、変形して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。 |
| 高等学校 | 数学Ⅰ | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                        | 統合的な理解                                                   | 総合的な発揮                                                           | 統合的な理解                                                                   | 総合的な発揮                                                        | 統合的な理解                                          | 総合的な発揮                                                        |
|      |     |                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                               | 式は、数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表現し、推測した事柄が常に成り立つことを説明できることを理解する。    | 事象における数量の關係に着目し、式で表し、計算して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。         | 不等式は、数量の大小關係についての条件を表し、その条件を満たす値の範囲を求めることを理解する。                          | 事象における数量の大小關係に着目し、不等式で表し、変形して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。  | 不等式は、数量の大小關係についての条件を表し、その条件を満たす値の範囲を求めることを理解する。 | 事象における数量の大小關係に着目し、不等式で表し、変形して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。  |

## 高次の資質・能力

## 図形

## 図形の性質

## 図形の計量

## 知識及び技能

## 思考力、判断力、表現力等

## 知識及び技能

## 思考力、判断力、表現力等

## 統合的な理解

## 総合的な発揮

## 統合的な理解

## 総合的な発揮

小学校

図形の性質は、図形を構成する要素や位置関係、図形間の関係に成り立つ関係や特徴であり、図形を分類したり、構成したりできることを理解する。

図形を構成する要素、位置関係、図形間の関係に着目し、図形の構成の仕方や性質を考察し、それらを他の図形に広げたり、図形の計量に生かしたりする。

図形の計量は、図形を角度、面積、体積などの数値として捉えることであり、平面や空間における様々な問題を数量的に扱えることを理解する。

- ・ 事象における形・大きさ・位置関係などに着目し、公式を用いて処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。
- ・ 事象を考察した過程や結果を基に一般化し、公式を導く。

中学校

## 統合的な理解

## 総合的な発揮

## 統合的な理解

## 総合的な発揮

図形の性質は、図形を構成する要素や位置関係、図形間に成り立つ関係や特徴であり、図形を分類したり、構成したりできることを理解する。

図形を構成する要素、位置関係、図形間の関係に着目し、図形の構成の仕方や性質を考察し、それらを他の図形に広げたり、図形の計量に生かしたりする。

図形の計量は、図形を長さや角度、面積、体積などの数値として捉えることであり、直接測れない長さや角度を求めたり、平面や空間における様々な問題を数量的に扱ったりできることを理解する。

- ・ 事象における形・大きさ・位置関係などに着目し、定理や公式を用いて処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。
- ・ 事象を考察した過程や結果を基に一般化し、定理や公式を導く。

## 統合的な理解

## 総合的な発揮

## 統合的な理解

## 総合的な発揮

高等学校

数学Ⅰ

図形の計量は、図形を長さや角度、面積、体積などの数値として捉えることであり、直接測れない長さや角度を効率的に求めたり、平面や空間における様々な問題を数量的に扱ったりできることを理解する。

- ・ 事象における形・大きさ・位置関係などに着目し、定理や公式を用いて処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。
- ・ 事象を考察した過程や結果を基に拡張・一般化し、定理や公式を導く。

## 高次の資質・能力

|      |     | 変化と関係                                                    |                                               |                                                                                                                                                                                            |                                                                           |
|------|-----|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 割合と比                                                     |                                               | 関数                                                                                                                                                                                         |                                                                           |
|      |     | 知識及び技能                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                  | 知識及び技能                                                                                                                                                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                              |
| 小学校  |     | 統合的な理解                                                   | 総合的な発揮                                        | 統合的な理解                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                    |
|      |     | 単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を表し、二つの数量の関係を基に比べ、判断できることを理解する。 | 日常生活や社会の事象などについて、二つの数量の関係に着目し、比べ方を考察し、判断に生かす。 | 伴って変わる二つの数量は、数量の変化と対応の関係によって特徴づけられ、事象の変化を把握したり予測したりして、判断できることを理解する。                                                                                                                        | 日常生活や社会の事象などについて、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。 |
| 中学校  |     | 統合的な理解                                                   | 総合的な発揮                                        | 統合的な理解                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                    |
|      |     |                                                          |                                               | 関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりして判断できることを理解する。                                                                                                                   | 日常生活や社会の事象などについて、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。 |
| 高等学校 |     | 統合的な理解                                                   | 総合的な発揮                                        | 統合的な理解                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                    |
|      | 数学Ⅰ |                                                          |                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応関係として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりして判断できることを理解する。</li> <li>関数のグラフは、方程式や不等式の解を、軸や他のグラフとの位置関係として視覚的に捉えられることを理解する。</li> </ul> | 日常生活や社会の事象などについて、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。 |

## 高次の資質・能力

|      |     | データと確からしさ                                                       |                                                         |                                                                                                                                                                                           |                                                                                      |                                                                               |                                                                   |
|------|-----|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
|      |     | 場合の数と確率                                                         |                                                         | 記述統計                                                                                                                                                                                      |                                                                                      | 推測統計                                                                          |                                                                   |
|      |     | 知識及び技能                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                            | 知識及び技能                                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                         | 知識及び技能                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                      |
|      |     | 統合的な理解                                                          | 総合的な発揮                                                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                               | 統合的な理解                                                                        | 総合的な発揮                                                            |
| 小学校  |     | 場合の数は、漏れや重複がないように効率よく数え上げた起こり得る場合の総数を表し、複雑な事象を構造的に整理できることを理解する。 | 事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、漏れや重複なく調べる方法を考察し、起こり得る場合を整理する。 | データは、身の回りの事象を数量的に捉え、目的に応じて表やグラフなどを用いて表すことにより、データに依拠した根拠に基づいて判断したり、主張したりできることを理解する。                                                                                                        | 事象におけるデータの特徴や傾向に着目し、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりして分析し、データに基づいた判断や主張をする。                |                                                                               |                                                                   |
|      |     | 統合的な理解                                                          | 総合的な発揮                                                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                               | 統合的な理解                                                                        | 総合的な発揮                                                            |
| 中学校  |     | 確率は、ある事象の起こりやすさを数値で表し、不確定な事象を予測したり、判断したりできることを理解する。             | 事象の起こりやすさに着目し、数値で表して把握することにより、未知の状況について予測したり判断したりする。    | データの分布は、値の集まり方や散らばり具合の様子を表し、データに依拠した根拠に基づいて判断したり、主張したりできることを理解する。                                                                                                                         | 事象におけるデータの分布に着目し、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりして分析し、データに基づいた判断や主張をする。                   | 標本調査は、無作為に抽出した標本から母集団の傾向を調べ、一部のデータに基づいて全体の傾向を推測できることを理解する。                    | 事象における母集団と標本の関係に着目し、母集団の傾向を推測して判断したり、調査の方法や結果の妥当性について考察したりする。     |
|      |     | 統合的な理解                                                          | 総合的な発揮                                                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                               | 統合的な理解                                                                        | 総合的な発揮                                                            |
| 高等学校 |     | 統合的な理解                                                          | 総合的な発揮                                                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                               | 統合的な理解                                                                        | 総合的な発揮                                                            |
|      | 数学Ⅰ |                                                                 |                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>データの分布は、値の集まり方や散らばり具合の様子を表し、データに依拠した根拠に基づいて判断したり、主張したりできることを理解する。</li> <li>データの相関は、二つの変量の間の直線的な関係の向きや強さを表し、二つの変量の間の関係性について判断できることを理解する。</li> </ul> | 事象におけるデータの分布や二つの変量の関係などに着目し、目的に応じて複数の種類のデータを収集したり適切な手法を選択したりして分析して、データに基づいた判断や主張をする。 | 仮説検定は、ある仮定のもとで、観測された値及びそれ以上に極端な値が得られる確率を求めることにより、データとその仮定の矛盾の程度を評価できることを理解する。 | 事象における不確実性に着目し、データと仮定の矛盾の程度を評価するとともに、調査の前提や評価の限界を踏まえて主張の妥当性を考察する。 |



## 高次の資質・能力

|      |     | 論証                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                |
|------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                   |
| 小学校  |     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                         |
|      |     |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                |
| 中学校  |     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                         |
|      |     | 証明は、既に正しいと認められた事柄を基にして、論理的に結論を導くことであり、性質が常に成り立つことを説明できることを理解する。                                                                                                                                                                                                  | 事象から性質などを推測したり、推測された性質などを証明したりするとともに、その仮定や結論を振り返って新たな性質を推測し、元の事象と関連付けて考察する。    |
| 高等学校 | 数学Ⅰ | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                         |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>集合は、ある条件を満たす対象を一つのまとまりとして扱い、集合間の関係を論理的に考察できることを理解する。</li> <li>命題は、証明する対象を真偽の定まる文や式として表し、仮定と結論の関係を明示的に取り扱えることを理解する。</li> <li>証明は、対象とする集合を明確にして、既に正しいと認められた事柄を基にして論理的に結論を導くことであり、その集合において命題が真であることを説明できることを理解する。</li> </ul> | 事象から性質などを推測し、命題として表し、その真偽について証明するとともに、その過程や結論を振り返って新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察する。 |

## 高次の資質・能力

|      |     | 社会を読み解く数学                                                                                                   |                                                                           |
|------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 知識及び技能                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                              |
| 小学校  |     | 統合的な理解                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                    |
|      |     |                                                                                                             |                                                                           |
| 中学校  |     | 統合的な理解                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                    |
|      |     |                                                                                                             |                                                                           |
| 高等学校 |     | 統合的な理解                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                    |
|      | 数学Ⅰ | <p>数理モデルは、日常生活や社会の事象を条件や仮定に基づいて数式などで表し、そのモデルを用いることにより、事象の仕組みを説明したり結果を予測したり、よりよい判断や意思決定を検討したりできることを理解する。</p> | <p>日常生活や社会の事象における数学的な構造に着目し、数学の問題として表して解決するとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</p> |

## 高次の資質・能力

|      |     | 数と式                                                                |                                                 | 図形と方程式                                                            |                                                                                                                                    | 変化と関係                                                                                                                                                                            |                                                                      |                                                              |                                                     |                                                                                                                                                                                     |                                                     |
|------|-----|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
|      |     | 式                                                                  |                                                 | 図形と方程式                                                            |                                                                                                                                    | 指数関数・対数関数                                                                                                                                                                        |                                                                      | 三角関数                                                         |                                                     | 微分法・積分法                                                                                                                                                                             |                                                     |
|      |     | 知識<br>及び<br>技能                                                     | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等                            | 知識<br>及び<br>技能                                                    | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等                                                                                                               | 知識<br>及び<br>技能                                                                                                                                                                   | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等                                                 | 知識<br>及び<br>技能                                               | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等                                | 知識<br>及び<br>技能                                                                                                                                                                      | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等                                |
| 高等学校 | 数学Ⅱ | 統合的な理解                                                             | 総合的な発揮                                          | 統合的な理解                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                             | 統合的な理解                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                               | 統合的な理解                                                       | 総合的な発揮                                              | 統合的な理解                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                              |
|      |     | 式の計算は、既習の四則計算や計算に関して成り立つ性質に基づいており、一定の手順にしたがって目的に応じた形に整理できることを理解する。 | 計算に関して成り立つ性質に着目し、式の計算の仕方について考察し、その計算を問題の解決に生かす。 | 図形を座標と方程式によって表すことは、図形と式とを対応させて扱い、式の計算によって図形的位置関係や性質を調べられることを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"><li>事象における図形と式の関係に着目し、式を用いて処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li><li>図形的位置関係や性質について、式を用いて証明する。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>指数関数は、一定の倍率で変化する関係を表し、急激に増減する事象の変化について予測したり、判断したりできることを理解する。</li><li>対数関数は、ある数とそれに対応する底の指数の関係を表し、積や累乗の計算、急激な増減などを扱いやすくなることを理解する。</li></ul> | 事象における一定の倍率で増減する量や桁の大きさの違いに着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。 | 三角関数は、角度とそれに対応する数値の関係を表し、周期的な事象の変化について予測したり、判断したりできることを理解する。 | 事象における周期性に着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。 | <ul style="list-style-type: none"><li>微分は、関数の各値における局所的な変化率を表す関数を求めることであり、それは関数の変化の様子を明らかにできることを理解する。</li><li>積分は、微分して与えられた関数になるような関数を求めることであり、関数のグラフが形成する面積を求められることを理解する。</li></ul> | 事象における局所的な変化に着目し、関数を用いて問題を解決し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。 |

## 高次の資質・能力

|      |     | 変化と関係                                                                                                        |                                                                                              |                                                                                                               |                                                                                              |                                                                                                                                           |                                                                                              |
|------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 極限                                                                                                           |                                                                                              | 微分法                                                                                                           |                                                                                              | 積分法                                                                                                                                       |                                                                                              |
|      |     | 知識及び技能                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                 | 知識及び技能                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                 | 知識及び技能                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                 |
| 高等学校 | 数学Ⅲ | 統合的な理解                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                       | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                       | 統合的な理解                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                       |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>極限は、数列や関数の値がある値に限りなく近づいていく状態であり、連続的な変化や無限に続く過程を扱えることを理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>数列や関数の値の極限に着目し、問題を解決し、得られた結果を意味づけた活用したりする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>微分法は、いろいろな関数を局所的に一次関数で近似して捉える方法であり、複雑な変化の様子を明らかにできることを理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>関数の局所的な変化に着目し、問題を解決し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>積分法は、連続的に変化する量を微小な変化量の和の極限として扱い、その値を微分との関係に基づいて計算する方法であり、面積・体積や変化する量の総和などを求められることを理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>微分と積分との関係に着目し、問題を解決し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li> </ul> |

## 高次の資質・能力

|      |     | データと確からしさ                                                                                                                                                                         |                                                                                     |                                                              |                                                                        | 数と式                                                       |                                                       |
|------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
|      |     | 場合の数と確率                                                                                                                                                                           |                                                                                     | 推測統計                                                         |                                                                        | 行列                                                        |                                                       |
|      |     | 知識及び技能                                                                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                        | 知識及び技能                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                           | 知識及び技能                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                          |
| 高等学校 | 新科目 | 統合的な理解                                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                              | 統合的な理解                                                       | 総合的な発揮                                                                 | 統合的な理解                                                    | 総合的な発揮                                                |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>場合の数は、漏れや重複がないように効率よく数え上げた起こり得る場合の総数を表し、複雑な事象を構造的に整理できることを理解する。</li> <li>確率は、ある事象の起こりやすさを数値で表し、不確定な事象について予測したり、判断したりできることを理解する。</li> </ul> | 事象の構造や起こりやすさに着目し、起こり得る場合の数を整理して数え上げ、その起こりやすさを数値で表して把握することにより、未知の状況について予測したり判断したりする。 | 統計的な推測は、標本から母集団について推測するときの不確かさを確率で捉え、母集団の傾向について考察できることを理解する。 | 事象における母集団と標本の関係に着目し、調査の前提や方法の限界を踏まえて、母集団の傾向を推測したり、調査結果の妥当性について考察したりする。 | 行列は、多くの数を長方形に並べて扱い、関係を表したり、データを変換したり、一括的に処理したりできることを理解する。 | 事象における多次元の数量やそれらの関係に着目し、一括的に処理して得られた結果を意味づけたり活用したりする。 |



## 高次の資質・能力

|      |     | 変化と関係                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                | 図形                                                                  |                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                             |                                                   |
|------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
|      |     | 数列                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                | 幾何ベクトル                                                              |                                                                                                                                              | 平面上の曲線と複素数平面                                                                                                                                                                                |                                                   |
|      |     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                   | 知識及び技能                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                 | 知識及び技能                                                                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                      |
|      |     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                         | 統合的な理解                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                       | 統合的な理解                                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                            |
| 高等学校 | 新科目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>数列は、自然数を定義域とする関数や項どうしの関係により定まる数の並びを表し、局所的な変化から大域的な変化を捉えられることを理解する。</li> <li>数学的帰納法は、自然数に関する命題について、全ての自然数について成り立つと結論づける証明方法であることを理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における離散的な変化や再帰関係に着目し、式を用いて処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li> <li>事象から性質などを推測し、命題として表し、その真偽について証明するとともに、その過程や結論を振り返って新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察する。</li> </ul> | 幾何ベクトルは、方向と大きさを持つ量を図的に表し、平面や空間における図形の位置や方向、長さや角度の関係を統一的に扱えることを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における方向と大きさに着目し、式を用いて表現するとともに処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li> <li>図形の性質や位置関係について、式を用いて証明する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>媒介変数表示や極座標は、平面上の点の位置や曲線の表し方の一つであり、直交座標表示では扱いにくい曲線を描いたり、その性質を調べたりできることを理解する。</li> <li>複素数平面は、複素数を平面上の点に対応させる表し方であり、平面上の回転を計算で処理できることを理解する。</li> </ul> | 図形の表し方に着目し、式を用いて表現するとともに処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。 |

## 高次の資質・能力

|      |      | 作用と変化                                                                                                                 |                                           | 保存とエネルギー変換                                                                                                                                   |                                           | 空間における伝搬                                                                                          |                                           |
|------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
|      |      | 知識及び技能                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                              | 知識及び技能                                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                              | 知識及び技能                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                              |
| 小学校  |      | 統合的な理解                                                                                                                | 総合的な発揮                                    | 統合的な理解                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                    | 統合的な理解                                                                                            | 総合的な発揮                                    |
|      |      | 力には種類があること、力が働くと運動が変化することを理解する。                                                                                       | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 | 電流の流れ方には特徴があること、エネルギーは変換できることを理解する。                                                                                                          | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 | 光と音は空間を伝わり、その伝わり方には特徴があることを理解する。                                                                  | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 |
| 中学校  |      | 統合的な理解                                                                                                                | 総合的な発揮                                    | 統合的な理解                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                    | 統合的な理解                                                                                            | 総合的な発揮                                    |
|      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>力とは物体の運動状態を変化させることを理解する。</li> <li>電流と磁場には関係があることを理解する。</li> </ul>              | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>電気回路における電圧、電流及び抵抗の間には規則性があることを理解する。</li> <li>エネルギーは変換されたり保存されたりすることを理解する。</li> </ul>                  | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 | 光と音の伝わり方には規則性があることを理解する。                                                                          | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 |
| 高等学校 | 物理基礎 | 統合的な理解                                                                                                                | 総合的な発揮                                    | 統合的な理解                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                    | 統合的な理解                                                                                            | 総合的な発揮                                    |
|      | 物理基礎 | 物体に作用する力と物体の運動状態の間には規則性があることを理解する。                                                                                    | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーは変換されたり保存されたりすることを理解する。</li> </ul>                                                               | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 | 波は振動の伝搬であることを理解する                                                                                 | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 |
| 高等学校 | 物理   | 統合的な理解                                                                                                                | 総合的な発揮                                    | 統合的な理解                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                    | 統合的な理解                                                                                            | 総合的な発揮                                    |
|      | 物理   | <ul style="list-style-type: none"> <li>力学的な力と電磁気学的な力には共通性があることを理解する。</li> <li>荷電と電場や磁場との間には、規則性があることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量やエネルギーは保存することを理解する。</li> <li>直流回路と交流回路には特徴があることを理解する。</li> <li>質量とエネルギーには等価性があることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>波で生じる現象を理解する。</li> <li>電子や光は波と粒子の二重性をもつことを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。 |

## 高次の資質・能力

|      |      | 物質の構成                                                                                                                                 |                                         | 物質の性質                                                                                                                                   |                                         | 物質の化学変化                                                                                                                        |                                         |
|------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
|      |      | 知識及び技能                                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                            | 知識及び技能                                                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                            | 知識及び技能                                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                            |
| 小学校  |      | 統合的な理解                                                                                                                                | 総合的な発揮                                  | 統合的な理解                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                  | 統合的な理解                                                                                                                         | 総合的な発揮                                  |
|      |      | 物質が粒子で構成されていることを理解する。                                                                                                                 | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 | 空気や水、金属の性質には共通点や相違点があることを理解する。                                                                                                          | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 | 化学反応によって物質が変化することを理解する。                                                                                                        | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 |
| 中学校  |      | 統合的な理解                                                                                                                                | 総合的な発揮                                  | 統合的な理解                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                  | 統合的な理解                                                                                                                         | 総合的な発揮                                  |
|      |      | 物質を、原子・分子、イオンと関連付けて理解する。                                                                                                              | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 | 物質の性質は、原子や分子の状態によって変化することを理解する。                                                                                                         | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 | 化学反応においては、反応の前後で原子の数が増え減ることがあることを理解する。                                                                                         | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 |
| 高等学校 | 化学基礎 | 統合的な理解                                                                                                                                | 総合的な発揮                                  | 統合的な理解                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                  | 統合的な理解                                                                                                                         | 総合的な発揮                                  |
|      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>原子の性質は、原子核を構成する陽子と中性子、電子配置により特徴付けられることを理解する。</li> <li>物質の量を原子や分子などの個数として捉えることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の性質は、元素の組成や構成原子の電子の状態により特徴付けられることを理解する。</li> <li>物質の状態は、構成する原子や分子の熱運動と関係があることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>化学反応は、物質の量（原子や分子の数）で捉える必要があることを理解する。</li> <li>化学反応は、物質間の電子の授受が関係していることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 |
|      | 化学   | 統合的な理解                                                                                                                                | 総合的な発揮                                  | 統合的な理解                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                  | 統合的な理解                                                                                                                         | 総合的な発揮                                  |
|      |      | 元素は、電子配置の特徴によって整理できることを理解する。                                                                                                          | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の状態とその変化は、分子間力や化学結合、状態間の平衡と関係があることを理解する。</li> <li>無機物質や有機化合物の性質を理解する。</li> </ul>               | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の化学反応は、エネルギーや化学平衡と関係があることを理解する。</li> <li>無機物質や有機化合物における反応の特徴を理解する。</li> </ul>         | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。 |

## 高次の資質・能力

|      | 生物の構造と機能                                                                                                                                                                       |                                              | 生命の連続性                                                                                                                                                              |                                              | 生物と環境の関わり                                                                                                                |                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
|      | 知識及び技能                                                                                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                 | 知識及び技能                                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                 | 知識及び技能                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                 |
| 小学校  | 統合的な理解                                                                                                                                                                         | 総合的な発揮                                       | 統合的な理解                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                       | 統合的な理解                                                                                                                   | 総合的な発揮                                       |
|      | 生物には基本的な体のつくりと働きがあることを理解する。                                                                                                                                                    | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 | 植物と動物の成長の過程を通して、生命の連続性があることを理解する。                                                                                                                                   | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 | 生物と環境の間には関係性があることを理解する。                                                                                                  | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 |
| 中学校  | 統合的な理解                                                                                                                                                                         | 総合的な発揮                                       | 統合的な理解                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                       | 統合的な理解                                                                                                                   | 総合的な発揮                                       |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>生物は多様であるが、共通点をもつことを理解する。</li> <li>生物の体のつくりと働きには特徴と関係性があり、これらのつくりと働きによって生命活動が行われていることを理解する。</li> </ul>                                   | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 | 生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴と規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解する。                                                                                                                  | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自然界には、生物どうしの関係や生物と環境との間に関係性があることを理解する。</li> <li>自然界のつり合いが重要であることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                                                                                                                         | 総合的な発揮                                       | 統合的な理解                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                       | 統合的な理解                                                                                                                   | 総合的な発揮                                       |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>生物は多様でありながら、「細胞が基本的な単位である」、「エネルギーを利用する」という共通性をもっていることを理解する。</li> <li>ヒトの体は、神経系と内分泌系による調節や免疫の働きなどによって調節され、生命活動が行われていることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 | 生物は多様でありながら、「遺伝物質としてDNAがあり自己複製する」という共通性をもっていることを理解する。                                                                                                               | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を理解する。</li> <li>生態系の保全の重要性について理解する。</li> </ul>          | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 |
|      | 統合的な理解                                                                                                                                                                         | 総合的な発揮                                       | 統合的な理解                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                       | 統合的な理解                                                                                                                   | 総合的な発揮                                       |
| 生物   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生物の体内には生命を維持するために必要な物質や細胞があり、そこで化学反応が起こることによって生命活動が行われていることを理解する。</li> <li>生物は環境変化に対して反応したり、行動したりすることを理解する。</li> </ul>                  | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生物の進化は蓄積された遺伝子の変化の結果であることを理解する。</li> <li>遺伝子の情報が発現することによって細胞や生物が特有の性質をもつことを理解する。</li> <li>発生は遺伝子発現が関わっていることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生態系における個体群内の関係性と個体群間との関係性を理解する。</li> <li>生態系における物質生産と物質循環を理解する。</li> </ul>        | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。 |



## 高次の資質・能力

|      |      | 地球の内部と地表面の変動                                                                                                                                |                                                   | 地球の大気と水の循環                                                                                                                             |                                                   | 地球と天体の運動                                                                                                      |                                                   |
|------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
|      |      | 知識及び技能                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                      | 知識及び技能                                                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                      | 知識及び技能                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                      |
| 小学校  |      | 統合的な理解                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                            |
|      |      | 流水の働きや火山、地震などによって、地表が変化することを理解する。                                                                                                           | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 | 天気時間がともに変化することを理解する。                                                                                                                   | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 | 太陽や月などの天体があり、それが見える位置は時間とともに移動することを理解する。                                                                      | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 |
| 中学校  |      | 統合的な理解                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                            |
|      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>地層から、過去の様子をを知ることができることを理解する。</li> <li>地球内部の活動に起因する地震や火山活動などが、日本列島に影響を与えていることを理解する。</li> </ul>        | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>霧や雲の発生などの天気の変化が起きる理由を理解する。</li> <li>日本列島の気象は、周囲の海洋の影響を受けていることを理解する。</li> </ul>                  | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 | 太陽系には地球を含む様々な天体があること、太陽系の天体の動きと地球からの見え方を理解する。                                                                 | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 |
| 高等学校 | 地学基礎 | 統合的な理解                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                            |
|      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>プレートの運動によって、地震や火山活動が生じていることを理解する。</li> <li>古生物の活動と地球環境は相互に影響を及ぼしていることを理解する。</li> </ul>               | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 | 地球における様々なエネルギーの出入りや移動について、全体としてエネルギーの収支はつりあっていることを理解する。                                                                                | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>宇宙、太陽系、地球の誕生について理解する。</li> <li>地球には生命が生まれる条件が備わっていたことを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 |
|      | 地学   | 統合的な理解                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                            |
|      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>地球の形状や内部構造は、重力や地震波などによって推測できることを理解する。</li> <li>地球の歴史を通して、地球内部の活動によって、地表が大きく変化してきたことを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>大気や海洋は層構造をしていることを理解する。</li> <li>日本や世界の気象は、地形に加え、大気と海洋の大循環や大規模な現象によって影響を受けていることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 | 地球上での視運動から天体運動の規則性を見いだすことができることを理解する。                                                                         | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。 |



高次の資質・能力

|      | 体づくり運動系、体づくり運動                                                                                                       |                                                                                            | 器械運動系、器械運動                                                                                                     |                                                                              | 陸上運動系、陸上競技                                                                                                   |                                                                                        | 水泳運動系、水泳                                                                              |                                                                                        |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 知識及び技能                                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                               | 知識及び技能                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                 | 知識及び技能                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                           | 知識及び技能                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                           |
| 小学校  | 統合的な理解                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                     | 統合的な理解                                                                                                         | 総合的な発揮                                                                       | 統合的な理解                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                 | 統合的な理解                                                                                | 総合的な発揮                                                                                 |
|      | 心と体の関係に気付いたり仲間と関わり合ったりすることにより、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすることができることを理解する                                               | 心身の状態等に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ                                | 器具等を使い、回転したり、支持したり、逆位になったり、懸垂したりするなどの動きや技に挑戦し、各自の課題に応じた動きや技ができるようになることにより、楽しさや喜びを一層味わうことができることを理解する            | 器具等を使う運動について、自己の課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ  | 走ったり、バトンの受け渡しをしたり、リズムカルにハードルを走り越えたり、リズムカルな助走から踏み切って跳んだりして、記録に挑戦したり、相手と競争したりすることにより、一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する | 走・跳等に関する自己の課題の解決の仕方や競争・記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ             | 泳ぐ距離や浮いている時間を伸ばしたり、記録を達成したりすることにより、水の中での活動で一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                  | 水の中での活動に関する自己の課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ             |
| 中学校  | 統合的な理解                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                     | 統合的な理解                                                                                                         | 総合的な発揮                                                                       | 統合的な理解                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                 | 統合的な理解                                                                                | 総合的な発揮                                                                                 |
|      | 心と体の関係や自身の状況等を踏まえ、仲間と関わり合ったり、計画的に生活に運動を取り入れたりすることで、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすることができることを理解する                      | 心身の状況等から、自他が体を動かす楽しさや心地よさを味わったり体の動きを高めたりするために必要なことを考え、運動を通して仲間と関わる方法や運動の組み合わせを工夫する         | 器具特性等に応じて、回転したり、支持したり、懸垂したり、バランスをとったりするなどの技に挑戦し、各自の課題に応じた技ができるようになることにより、自他が楽しさや喜びを一層味わうことができることを理解する          | 器具の特性等から、自他が器械運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技を習得する練習方法や演技構成を工夫する         | 走・跳に関する基本的な動きや効率的な動きで、記録に挑戦したり相手と競争したりすることで、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                                     | 走・跳の特性等を踏まえ、自他が陸上運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら基本的な動きや効率的な動きを習得する練習方法や競争の仕方を工夫する   | 泳法の特性等に応じて、効率的な泳ぎで、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりすることにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する        | 泳法の特性等から、自他が水泳運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な動きや長く泳ぐための動きの習得方法を工夫する             |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                     | 統合的な理解                                                                                                         | 総合的な発揮                                                                       | 統合的な理解                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                 | 統合的な理解                                                                                | 総合的な発揮                                                                                 |
|      | 心と体の関係や自身の状況等を踏まえ、仲間と主体的に関わり合ったり、計画的に生活に運動を取り入れたりすることで、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、生涯にわたる健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図ることができることを理解する | 心身の状況等から、自他が体を動かす楽しさや心地よさを味わったり体の動きを高めたりするために必要なことを考え、運動を通して仲間と関わる方法や運動の組み合わせを合理的、計画的に工夫する | 器具の特性等に応じて、回転したり、支持したり、懸垂したり、バランスをとったりするなどの技に挑戦し、各自の課題に応じて技が滑らかに安定してできるようになることにより、自他が楽しさや喜びを一層味わうことができることを理解する | 器具の特性等から、自他が器械運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技を習得する練習方法や演技構成を、合理的、計的に工夫する | 泳法の特性等に応じて、効率的でバランスを保った泳ぎで続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりすることにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                        | 泳法の特性等から、自他が水泳の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な動きや長く泳ぐための動きの習得方法を合理的、計画的な解決に向けて工夫する | 泳法の特性等に応じて、効率的でバランスを保った泳ぎで続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりすることにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する | 泳法の特性等から、自他が水泳の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な動きや長く泳ぐための動きの習得方法を合理的、計画的な解決に向けて工夫する |

高次の資質・能力

|      | ボール運動系、球技                                                                                        |                                                                                 | 武道                                                                                                               |                                                                               | 表現運動系、ダンス                                                                                                          |                                                                             | 体育理論                                                                                                               |                                                               |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
|      | 知識及び技能                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                    | 知識及び技能                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                  | 知識及び技能                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                | 知識及び技能                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                  |
| 小学校  | 統合的な理解                                                                                           | 総合的な発揮                                                                          | 統合的な理解                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                        | 統合的な理解                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                      | 統合的な理解                                                                                                             | 総合的な発揮                                                        |
|      | ゲームの特性等に応じて、自身の動きやボールに関する操作及び仲間と連携したゲームを展開することにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                   | ゲームの特性等から、自他が運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と伝え合いながらルールや作戦、運動の取り組み方等を工夫する           | —                                                                                                                | —                                                                             | 自己の心身を解放して、イメージやリズムの世界に没入して踊ることにより、楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                                                         | 表現やダンスの特性等に応じて、自己の課題の解決の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して表現に取り組むことができるような発表・交流の仕方を工夫する | —                                                                                                                  | —                                                             |
| 中学校  | 統合的な理解                                                                                           | 総合的な発揮                                                                          | 統合的な理解                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                        | 統合的な理解                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                      | 統合的な理解                                                                                                             | 総合的な発揮                                                        |
|      | ゲームの特性等に応じて、自身の動きやボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで、攻防を展開し、勝敗を競うことにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する          | ゲームの特性等から、自他がボール運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を工夫する            | 攻防の特性等に応じて、自分の力や相手の力を効率的に使うための基本的な技を仕掛けたり相手の動きを制御したりして簡易な攻防を展開し、勝敗を競い合い互いに高め合うことにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する | 攻防の特性等から、自他が武道の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技の習得方法や簡易な攻防の展開を工夫する            | スポーツの文化としての側面や合理的な運動実践に必要なこと等、自他の豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な関わり方について考えを深めることができることを理解する | 豊かなスポーツライフの実現のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツとの関わり方を工夫する                         | スポーツの文化としての側面や合理的な運動実践に必要なこと等、自他の豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な関わり方について考えを深めることができることを理解する | 豊かなスポーツライフの実現のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツとの関わり方を工夫する           |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                                           | 総合的な発揮                                                                          | 統合的な理解                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                        | 統合的な理解                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                      | 統合的な理解                                                                                                             | 総合的な発揮                                                        |
|      | ゲームの特性等に応じて、作戦や状況に応じた自身の動きやボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで、攻防を展開し、勝敗を競うことにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する | ゲームの特性等から、自他が球技の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を合理的、計画的な解決に向けて工夫する | 攻防の特性等に応じて、自分の力や相手の力を効率的に使うための意技を仕掛けたり相手の動きを制御したりして攻防を展開し、勝敗を競い合い互いに高め合うことにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する       | 攻防の特性等から、自他が武道の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技の習得方法や攻防の展開を合理的、計画的な解決に向けて工夫する | スポーツ文化の創造や合理的な運動実践に必要なこと等、自他の豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を多角的に身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な関わり方について考えを深めることができることを理解する | スポーツ文化の創造や豊かなスポーツライフの継続のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツとの関わり方を工夫する               | スポーツ文化の創造や合理的な運動実践に必要なこと等、自他の豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を多角的に身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な関わり方について考えを深めることができることを理解する | スポーツ文化の創造や豊かなスポーツライフの継続のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツとの関わり方を工夫する |

## 高次の資質・能力

|      | 健康な生活、健康な生活と現代社会                                                                     |                                       | 心の健康、心の健康と対策                                                      |                                                | けが・傷害の防止、安全な社会生活                                                             |                                       | 病気・疾病の予防、疾病の予防と対策                                    |                                                               |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
|      | 知識及び技能                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                          | 知識及び技能                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                   | 知識及び技能                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                          | 知識及び技能                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                  |
| 小学校  | 統合的な理解                                                                               | 総合的な発揮                                | 統合的な理解                                                            | 総合的な発揮                                         | 統合的な理解                                                                       | 総合的な発揮                                | 統合的な理解                                               | 総合的な発揮                                                        |
|      | 健康の状態には、生活の仕方や生活空間の環境が関わっており、毎日を健康に過ごすためには、生活の仕方や生活環境を整えることが必要であることを理解する             | 健康な生活の仕方を考え、身近な生活に適用する                | 心は発達すること、心と体は密接な関係があること等の特徴を踏まえ、不安や悩みに対処すること、心の健康を保つことができることを理解する | 心をよりよく発達させたり、不安や悩みに対処する方法を考え、身近な生活に適用する        | けがは、人の行動や生活環境が関わって発生していることを踏まえ、要因に対応した防止方法について身に付けることで、けがの防止につながることを理解する     | 危険の予測や回避の方法を考え、身近な生活に適用する             | 身近な病気の要因を踏まえた予防方法をとることで、その予防につながることを理解する             | 病気の概念や予防の原則から、病気の予防方法を考え、身近な生活に適用する                           |
| 中学校  | 統合的な理解                                                                               | 総合的な発揮                                | 統合的な理解                                                            | 総合的な発揮                                         | 統合的な理解                                                                       | 総合的な発揮                                | 統合的な理解                                               | 総合的な発揮                                                        |
|      | 健康の状態には、個人の生活行動や社会環境が関わっており、人が健康に過ごすためには、生活行動を整えたり、より良い社会環境を目指すことが必要であることを理解する       | 健康を保持増進する方法を見だし、自他の生活に適用する            | 精神と身体は互いに影響し合うこと等の特徴を踏まえ、欲求やストレスに適切に対処することで、心の健康を保持増進できることを理解する   | 精神機能を発達させたり、欲求やストレスへの適切な対処法を考え、自他の生活に適用する      | 傷害は、人の行動や生活環境及びそれらの相互によって発生していることを踏まえ、要因に対応した防止方法を身に付けることで、傷害の防止につながることを理解する | 危険の予測や回避の方法を多面的に考え、自他の生活に適用する         | 疾病の要因を踏まえた予防方法をとることで、既存の病気に加え、未知の疾病の予防にも活用できることを理解する | 疾病概念や予防の原則を拡張し、疾病の予防方法を考え、自他の生活に適用する                          |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                               | 総合的な発揮                                | 統合的な理解                                                            | 総合的な発揮                                         | 統合的な理解                                                                       | 総合的な発揮                                | 統合的な理解                                               | 総合的な発揮                                                        |
|      | 健康は、個人の生活行動と社会環境等の相互作用の下に成立しており、現代社会における健康課題に対応するためには、こうした相互作用を踏まえた行動選択が必要であることを理解する | 健康を保持増進するための個人や社会の取組の意義を見だし、社会生活に適用する | 精神疾患の疾病概念やその対処方法など、心の健康を維持したり回復したりするために必要なことを理解する                 | 心の健康を維持・回復するために必要な個人の取組や社会的な対策について考え、社会生活に適用する | 事故の要因や予防の考え方について身に付け、社会的な対策を講じることで、安全な社会の形成につながることを理解する                      | 自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避する方法を考え、社会生活に適用する | 疾病の特徴を踏まえた社会的な対策を講じることで、生涯の各段階の疾病の予防につながることを理解する     | 疾病の概念や予防の原則を拡張し、疾病の特徴や生涯の各段階に応じた予防や回復の方法、社会的な対策を選択し、社会生活に適用する |



高次の資質・能力

|      | 体の発育・発達、身体機能の発達、生涯を通じる健康                                      |                                   | 健康と環境、健康を支える環境づくり                    |                                                                    |
|------|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
|      | 知識及び技能                                                        | 思考力、判断力、表現力等                      | 知識及び技能                               | 思考力、判断力、表現力等                                                       |
| 小学校  | 統合的な理解                                                        | 総合的な発揮                            | 統合的な理解                               | 総合的な発揮                                                             |
|      | 思春期の体の変化を踏まえた適切な生活の仕方を身に付けることで、体をよりよく成長させられることを理解する           | 体をよりよく発育・発達させる方法について考え、身近な生活に適用する |                                      |                                                                    |
| 中学校  | 統合的な理解                                                        | 総合的な発揮                            | 統合的な理解                               | 総合的な発揮                                                             |
|      | 身体機能の発達を踏まえた適切な生活行動について身に付けることで、よりよい成長や行動選択ができるようになることを理解する   | 身体機能の発達や適切な生活行動について考え、自他の生活に適用する  | 衛生等の環境が、人の健康の保持増進に関連があることを理解する       | 健康と環境に関わる概念や原則を生活環境から社会に関わる環境まで拡張し、健康を保持増進する方法を考え、自他の生活に適用する       |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                        | 総合的な発揮                            | 統合的な理解                               | 総合的な発揮                                                             |
|      | 生涯の各段階の健康課題を踏まえた健康管理や環境づくりを行うことで、生涯を通じた健康の保持増進や回復につながることを理解する | 生涯を通じる健康について考え、社会生活に適用する          | 健康を支える環境づくりが、自他の健康の保持増進に関連があることを理解する | 健康と環境に関わる概念や原則を健康を支える環境づくりまで拡張し、全ての人が健康に生きていくための環境について考え、社会生活に適用する |

## 高次の資質・能力

|     |         |           |                      |            |                                                                                                                    |
|-----|---------|-----------|----------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | A<br>表現 | 歌唱・<br>器楽 | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる          |
|     |         |           | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱や器楽で表現できることを理解している                            |
|     |         | 音楽つくり     | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる                   |
|     |         |           | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 個々の感じ方や考え方等に応じて音の組み合わせやつなげ方などについて捉えながら、即興的に音を出して試したり音楽の仕組みを用いたりすることにより、発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現できることを理解している     |
|     | B<br>鑑賞 |           | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる                               |
|     |         |           | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 個々の感じ方や考え方等に基づいて音楽の特徴などを捉えることにより、よさなどを見いだすことができることを理解している                                                          |
| 中学校 | A<br>表現 | 歌唱        | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かし自分のイメージと関わらせた表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる |
|     |         |           | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している                               |
|     |         | 器楽        | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かし自分のイメージと関わらせた表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる |
|     |         |           | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している                               |
|     |         | 創作        | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる          |
|     |         |           | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 音や音同士の関係の特徴などを個々の感じ方や考え方等に応じて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している                    |
|     | B<br>鑑賞 |           | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる                          |
|     |         |           | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 音楽の特徴や背景などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、よさや美しさなどを見いだすことができることを理解している                                             |



高次の資質・能力

|     |         |                    |                          |            |                                                                                                                                                |
|-----|---------|--------------------|--------------------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | A<br>表現 | 造形遊び<br>(仮)        | 思考力、<br>判断力、<br>表現力<br>等 | 総合的な<br>発揮 | <ul style="list-style-type: none"> <li>形や色などを基に自分のイメージをもちながら、材料や場所などを基に、豊かに発想や構想をすることができる</li> </ul>                                           |
|     |         |                    | 知識及び<br>技能               | 統合的な<br>理解 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感覚や行為を通して造形的な特徴などを捉えながら、材料や用具を使い、活動を工夫してつくることにより、創造的に表現できることを理解している</li> </ul>                       |
|     |         | 絵や立体、<br>工作<br>(仮) | 思考力、<br>判断力、<br>表現力<br>等 | 総合的な<br>発揮 | <ul style="list-style-type: none"> <li>形や色などを基に自分のイメージをもちながら、感じたことや想像したことなどから、豊かに発想や構想をすることができる</li> </ul>                                     |
|     |         |                    | 知識及び<br>技能               | 統合的な<br>理解 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感覚や行為を通して造形的な特徴などを捉えながら、材料や用具を使い、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを理解している</li> </ul>            |
|     | B<br>鑑賞 |                    | 思考力、<br>判断力、<br>表現力<br>等 | 総合的な<br>発揮 | <ul style="list-style-type: none"> <li>形や色などを基に自分のイメージをもちながら、作品などの造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりすることができる</li> </ul> |
|     |         |                    | 知識及び<br>技能               | 統合的な<br>理解 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感覚や行為を通して造形的な特徴などを捉えながら、作品などを工夫して見ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している</li> </ul>                               |

## 高次の資質・能力

|     |         |                        |                      |            |                                                                                                                    |
|-----|---------|------------------------|----------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | A<br>表現 | 自分と美術<br>(仮)           | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 対象や事象を自己との関わりの視点に立って見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、豊かに発想や構想をすることができる                                                |
|     |         |                        | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、材料や用具の生かし方などを身に付け、自分との関わりの視点から意図に応じて表現方法を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを理解している |
|     |         | 身近な生活や<br>社会と美術<br>(仮) | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 対象や事象を身近な生活や社会的な視点に立って見つめ、目的や条件などを基に主題を生み出し、豊かに発想や構想をすることができる                                                      |
|     |         |                        | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、材料や用具の生かし方などを身に付け、客観的な視点から自分の意図に応じて表現方法を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを理解している  |
|     | B<br>鑑賞 | 自分と美術<br>(仮)           | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 自分との関わりの視点に立って美術作品などを見つめ、造形的なよさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる                                 |
|     |         |                        | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現された美術作品などの情報を読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している           |
|     |         | 身近な生活や<br>社会と美術<br>(仮) | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | 身近な生活や社会的な視点に立って美術作品などを見つめ、目的や機能などとの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる                       |
|     |         |                        | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | 造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、目的や機能などを基に表現された美術作品などの情報を読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している                   |

## 高次の資質・能力

|      |         |    |              |        |                                                                                                                |
|------|---------|----|--------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | A<br>表現 | 歌唱 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | ・ 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる          |
|      |         |    | 知識及び技能       | 統合的な理解 | ・ 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表現できることを理解している                          |
|      |         | 器楽 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | ・ 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる          |
|      |         |    | 知識及び技能       | 統合的な理解 | ・ 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で表現できることを理解している                          |
|      | 創作      |    | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | ・ 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、構成を生かした統一感のある音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる |
|      |         |    | 知識及び技能       | 統合的な理解 | ・ 音や音同士の関係の特徴などを個々の感じ方や考え方等に応じて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音楽をつくったり変奏や編曲をしたりすることにより、表現意図を創作で表現できることを理解している            |
|      | B<br>鑑賞 |    | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | ・ 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる             |
|      |         |    | 知識及び技能       | 統合的な理解 | ・ 音楽の特徴や文化的・歴史的背景などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、よさや美しさなどを見いだすことができることを理解している                                |

## 高次の資質・能力

|      |         |          |              |        |                                                                                                                         |
|------|---------|----------|--------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | A<br>表現 | 自分と美術（仮） | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | ・ 対象や事象を自分との関わりの視点に立って深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生成し、創造的に発想や構想をすることができる                                                 |
|      |         |          | 知識及び技能       | 統合的な理解 | ・ 造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、自分との関わりの視点から意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し主題を追求して表すことにより、創造的に表現できることを理解している |
|      |         | 社会と美術（仮） | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | ・ 対象や事象を社会的な視点に立って深く見つめ、目的や条件などを基に主題を生成し、創造的に発想や構想をすることができる                                                             |
|      |         |          | 知識及び技能       | 統合的な理解 | ・ 造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、客観的な視点から自分の意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し主題を追求して表すことにより、創造的に表現できることを理解している  |
|      | B<br>鑑賞 | 自分と美術（仮） | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | ・ 自分との関わりの視点に立って美術作品などを深く見つめ、造形的なよさや美しさなどを感じ取り、価値意識をもって作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる                      |
|      |         |          | 知識及び技能       | 統合的な理解 | ・ 造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現された美術作品などの情報を幅広く読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している           |
|      |         | 社会と美術（仮） | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | ・ 社会的な視点に立って美術作品などを深く見つめ、目的や機能などとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、価値意識をもって作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる             |
|      |         |          | 知識及び技能       | 統合的な理解 | ・ 造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、目的や機能などを基に表現された美術作品などの情報を幅広く読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している                   |

高次の資質・能力

|      |      |          |              |        |                                                                                                                                                                     |
|------|------|----------|--------------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | A 表現 | 身近な生活と工芸 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | <ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を身近な生活の視点に立って深く見つめ、自然や素材、自分の思いなどから心豊かに発想や構想をすることができる</li> </ul>                                                         |
|      |      |          | 知識及び技能       | 統合的な理解 | <ul style="list-style-type: none"> <li>造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身近な生活の視点に立って、意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味し表すことにより、創造的に表現できることを理解している</li> </ul> |
|      |      | 社会と工芸    | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | <ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を社会的な視点に立って深く見つめ、使う人や生活環境などから心豊かに発想や構想をすることができる</li> </ul>                                                              |
|      |      |          | 知識及び技能       | 統合的な理解 | <ul style="list-style-type: none"> <li>造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、社会的な視点に立って、意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味し表すことにより、創造的に表現できることを理解している</li> </ul>   |
|      | B 鑑賞 | 身近な生活と工芸 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な生活の視点に立って工芸作品などを深く見つめ、よさや美しさを感じ取り、価値意識をもって作者の心情や意図と制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる</li> </ul>                         |
|      |      |          | 知識及び技能       | 統合的な理解 | <ul style="list-style-type: none"> <li>造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身近な生活の視点に立って表現された工芸作品などの情報を幅広く読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している</li> </ul>         |
|      |      | 社会と工芸    | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な視点に立って工芸作品などを深く見つめ、よさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる</li> </ul>                                   |
|      |      |          | 知識及び技能       | 統合的な理解 | <ul style="list-style-type: none"> <li>造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、社会的な視点に立って表現された工芸作品などの情報を幅広く読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している</li> </ul>           |



## 高次の資質・能力

|      |         |                      |            |                                                                                                                                                                 |
|------|---------|----------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | A<br>表現 | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、作品や書の美について深く考えながら、自らの意図に基づいて構想し、その実現のために表現を工夫することができる</li> </ul>                                |
|      |         | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | <ul style="list-style-type: none"> <li>作品や書の表現や書風における美の構造やその働き、書文化について実感を伴って捉えながら、意図に基づいて書の表現性、表現効果と関わる用筆・運筆などの要素を働かせて表すことにより、創造的、個性的に表現できることを理解している</li> </ul> |
|      | B<br>鑑賞 | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な<br>発揮 | <ul style="list-style-type: none"> <li>書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりを通して、作品や書の美、その伝統と文化の意味や価値について深く考え、書のよさや美しさを味わうことができる</li> </ul>                              |
|      |         | 知識及び<br>技能           | 統合的な<br>理解 | <ul style="list-style-type: none"> <li>書の伝統と文化、書の美の多様性と関わらせて、書の美を捉える視点や方法について実感を伴って捉えながら、作品や書から情報を読み取ることにより、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している</li> </ul>        |

## 高次の資質・能力

|     | A 家族・家庭生活<br>(仮称)                                                       |                                                              | B 生活経営・消費生活<br>(仮称)                                    |                                                                         | C 食生活 (仮称)                                                     |                                                              | D 衣生活 (仮称)                                                            |                                                    | E 住生活 (仮称)                                                      |                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
|     | 知識及び<br>技能                                                              | 思考力、判断<br>力、<br>表現力等                                         | 知識及び<br>技能                                             | 思考力、判断<br>力、<br>表現力等                                                    | 知識及び<br>技能                                                     | 思考力、判断<br>力、<br>表現力等                                         | 知識及び<br>技能                                                            | 思考力、判断<br>力、<br>表現力等                               | 知識及び<br>技能                                                      | 思考力、判断力、<br>表現力等                                      |
| 小学校 | 統合的な<br>理解                                                              | 総合的な発揮                                                       | 統合的な<br>理解                                             | 総合的な発揮                                                                  | 統合的な<br>理解                                                     | 総合的な発揮                                                       | 統合的な<br>理解                                                            | 総合的な発揮                                             | 統合的な<br>理解                                                      | 総合的な発揮                                                |
|     | 自分が家族の一員であることを自覚し、生活の中で自分のできることを考え取り組むことで、家庭生活をよりよくできることについて理解する。       | 家族の一員として、家族や地域の人々と協力し合う中で自分の生活上の課題を見だし、よりよい生活に向けて工夫することができる。 | 生活を営む上で必要な資源を効果的に活用することで、自分の生活をよりよくできることについて理解する。      | 家族の一員として、生活を営む上で必要な資源を効果的に活用しながら、自分の生活上の課題を見だし、よりよい生活に向けて工夫することができる。    | 栄養バランスを考えた食事を楽しむことで、自分の食生活をよりよくできることについて理解する。                  | 自分の食生活上の課題を見だし、健康でよりよい食生活に向けて工夫することができる。                     | 衣服を手入れしながら着用したり、製作を楽しんだりすることで、自分の衣生活をよりよくできることについて理解する。               | 自分の衣生活上の課題を見だし、健康・快適でよりよい衣生活に向けて工夫することができる。        | 季節の変化を感じつつ、日頃から住まいを整えておくことで、自分の住生活をよりよくできることについて理解する。           | 自分の住生活上の課題を見だし、快適でよりよい住生活を工夫することができる。                 |
| 中学校 | 統合的な<br>理解                                                              | 総合的な発揮                                                       | 統合的な<br>理解                                             | 総合的な発揮                                                                  | 統合的な<br>理解                                                     | 総合的な発揮                                                       | 統合的な<br>理解                                                            | 総合的な発揮                                             | 統合的な<br>理解                                                      | 総合的な発揮                                                |
|     | 自分が家族や地域を支える一員であることを自覚し、生活の中で自分のできることを考え取り組むことで、家庭生活をよりよくできることについて理解する。 | 家族や地域の人々と協力・協働する中で自分の生活上の課題を見だし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。 | 生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、自分の生活をよりよくできることについて理解する。 | 生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、自分の生活上の課題を見だし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。 | 健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、自分の目的や希望に応じて食生活をよりよくできることについて理解する。 | 自分の食生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい食生活を工夫し、創造することができる。 | 衣服を選択し手入れしながら計画的に着用することや、製作した物が生活に役立つこととともに、自分の衣生活をよりよくできることについて理解する。 | 自分の衣生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・快適でよりよい衣生活を工夫し、創造することができる。 | 自分や家族が快適・安全に過ごせるよう日頃から住まいを整えておくことで、自分や家族の住生活をよりよくできることについて理解する。 | 自分や家族の住生活上の課題を見だし、自立に向けて快適・安全でよりよい住生活を工夫し、創造することができる。 |

## 高次の資質・能力

|      |            | A 家族・家庭生活<br>(仮称)                                                              |                                                                                       | B 生活経営・消費生活<br>(仮称)                                                                  |                                                                                                           | C 食生活 (仮称)                                                                                         |                                                                                                       | D 衣生活 (仮称)                                                                                         |                                                                                                          | E 住生活 (仮称)                                                                                        |                                                                                                          |
|------|------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |            | 知識及び<br>技能                                                                     | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等                                                                  | 知識及び<br>技能                                                                           | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等                                                                                      | 知識及び<br>技能                                                                                         | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等                                                                                  | 知識及び<br>技能                                                                                         | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等                                                                                     | 知識及び<br>技能                                                                                        | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等                                                                                     |
| 高等学校 | 家庭基礎       | 統合的な<br>理解                                                                     | 総合的な<br>発揮                                                                            | 統合的な<br>理解                                                                           | 総合的な<br>発揮                                                                                                | 統合的な<br>理解                                                                                         | 総合的な<br>発揮                                                                                            | 統合的な<br>理解                                                                                         | 総合的な<br>発揮                                                                                               | 統合的な<br>理解                                                                                        | 総合的な<br>発揮                                                                                               |
|      |            | 自立した生活を営む主体として、様々な人々の生活を理解し、共に協力し合うことで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。             | 家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだし、自立した生活を営む主体として、よりよい生活を創造することができる。             | 自立した生活を営む主体として、生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、生涯にわたって生活をよりよくできることについて理解する。            | 生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだし、適切に意思決定し、自立した生活を営む主体として、よりよい生活を創造することができる。             | 自立した生活を営む主体として、科学的な根拠を基に、健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、ライフステージに応じて食生活をよりよくできることについて理解する。             | 自分や家族及び地域における食生活上の課題を見いだし、自立した生活を営む主体として、生涯にわたって健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい食生活を創造することができる。                   | 自立した生活を営む主体として、科学的な根拠を基に、健康・快適・安全な衣生活や日本の衣文化の大切さとともに、ライフステージに応じて衣生活をよりよくできることについて理解する。             | 自分や家族及び地域における衣生活上の課題を見いだし、自立した生活を営む主体として、生涯にわたって健康・快適・安全で衣文化を大切にしたいよりよい衣生活を創造することができる。                   | 自立した生活を営む主体として科学的な根拠を基に、健康・快適・安全な住生活や日本の住文化の大切さとともに、ライフステージに応じて住生活をよりよくできることについて理解する。             | 自分や家族及び地域における住生活上の課題を見いだし、自立した生活を営む主体として生涯にわたって健康・快適・安全で住文化を大切にしたいよりよい住生活を創造することができる。                    |
|      | 統合的な<br>理解 | 総合的な<br>発揮                                                                     | 統合的な<br>理解                                                                            | 総合的な<br>発揮                                                                           | 統合的な<br>理解                                                                                                | 総合的な<br>発揮                                                                                         | 統合的な<br>理解                                                                                            | 総合的な<br>発揮                                                                                         | 統合的な<br>理解                                                                                               | 総合的な<br>発揮                                                                                        |                                                                                                          |
|      | 家庭総合       | 家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、様々な人々の生活を理解し、共に協力し合うことで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。 | 家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだし、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、よりよい生活を創造することができる。 | 家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。 | 生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだし、適切に意思決定し、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、よりよい生活を創造することができる。 | 家族や地域の食生活を率先して支え、向上させる主体として、健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、家族や地域の人々のライフステージに応じて食生活をよりよくできることについて理解する。 | 自分や家族や地域における食生活上の課題を見いだし、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、食文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・安全でよりよい食生活を創造することができる。 | 家族や地域の衣生活を率先して支え、向上させる主体として、健康・快適・安全な衣生活や日本の衣文化の大切さとともに、家庭や地域の人々のライフステージに応じて衣生活をよりよくできることについて理解する。 | 自分や家族や地域における衣生活上の課題を見いだし、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、衣文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・快適・安全でよりよい衣生活を創造することができる。 | 家族や地域の住生活を率先して支え、向上させる主体として、健康・快適・安全な住生活や日本の住文化の大切さとともに家庭や地域の人々のライフステージに応じて住生活をよりよくできることについて理解する。 | 自分や家族や地域における住生活上の課題を見いだし、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、住文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・快適・安全でよりよい住生活を創造することができる。 |

## 高次の資質・能力

|     | 学校、家庭及び地域の生活に関する内容                                                                                                 | 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容                                                                                  | 自分自身の生活や成長に関する内容                                                                                           |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 高次の資質・能力                                                                                                           | 高次の資質・能力                                                                                                  | 高次の資質・能力                                                                                                   |
| 小学校 | <p>身近な人々、社会及び自然に親しみや愛着をもち、集団や社会の一員として安全で適切な行動することに向かうように、自分と生活とのつながりを繰り返し考え、多くの人々や場所と関わって成り立っていることへの気づきを深めている。</p> | <p>自分たちの生活をよりよくすることに向かうように、自分と生活とのつながりを広げたり深めたりしながら考え、身近な人々、社会及び自然との関わりが自分たちの生活につながっていることへの気づきを深めている。</p> | <p>意欲と自信を高めながら生活することに向かうように、自分の生活を振り返る中で、これまでの出来事や関わりを手掛かりに、自分の成長や身近な人々の支えについて考え、自分のよさや可能性への気づきを深めている。</p> |

## 高次の資質・能力

| 情報の領域（仮称）                                                                 |                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 知識及び技能                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                 |
| 統合的な理解                                                                    | 統合的な発揮                                                                       |
| 情報技術の正負の側面を含む特性の理解をもとに、情報技術を適切かつ効果的に活用することで、デジタル社会における様々な課題を解決できることを理解する。 | 情報技術の正負の側面を踏まえ、情報技術を情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などに適切かつ効果的に活用して、デジタル社会における身近な課題を解決できる。 |

小学校



## 高次の資質・能力

|      | 学級活動/ホームルーム活動<br>(1) 学級や学校における生活<br>づくりへの参画                                                                                                                                                                                             | 学級活動/ホームルーム活動<br>(2) 日常生活や学習への<br>適応と自己成長及び健康安全、<br>(3) 一人一人のキャリア形<br>成と自己実現                                                                                                                                         | 児童会/生徒会活動                                                                                                                                                                                                                                                     | 学校行事                                                                                                                                                                                                                                       | クラブ活動                                                                                                                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                             | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                      | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                   | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                |
| 小学校  | 学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする<br>○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する    | 学級での話し合いを生かして現在と将来の自己実現に向けて意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする<br>○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する                               | 異年齢の児童で協力し、学校生活の充実と向上を図るため、計画を立て役割を分担し、協力して取り組むことを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする<br>○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する                       | 全校又は学年の児童で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見いだし担おうとする<br>○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する | 異年齢の児童で協力し、共通の興味・関心を追求する活動を計画し、主体的に運営することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 共通の興味・関心をよりよく追求するため、主体的に役割を見いだし担おうとする<br>○ 共通の興味・関心を追求する上での対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら協働して活動しようとする<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する |
| 中学校  | 学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする<br>○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する     | 学級での話し合いを生かして自己の課題解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 社会との関わりでの自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする<br>○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する          | 異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする<br>○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する         | 全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見いだし担おうとする<br>○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する |                                                                                                                                                                                                         |
| 高等学校 | ホームルームや学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする<br>○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する | ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 社会の形成者としての自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の在り方生き方につなげようとする<br>○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する | 異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする<br>○ 身近な生活上の課題や地域社会の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する | 全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見いだし担おうとする<br>○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する |                                                                                                                                                                                                         |

## 高次の資質・能力

|     |                  | 知識及び技能                                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                                            |
|-----|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | 情報技術（仮称）         | <b>統合的な理解</b><br>情報技術により情報処理の手順を自動化することで、人の判断や活動を助け、利便性を高められることを理解する。                                                          | <b>統合的な発揮</b><br>情報技術の正負の側面に配慮しつつ、自動化する情報処理の手順を設計し、人の判断や活動を助ける仕組みを表現、評価・改善できる。                          |
|     |                  | <b>統合的な理解</b><br>情報やデータから新たな関係や意味を批判的に見いだしたり、利用者の立場で情報を吟味し設計したりすることで、分析結果や自分の考えを分かりやすく伝えられることを理解する。                            | <b>統合的な発揮</b><br>情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報やデータの分析結果を批判的に判断し表現したり、利用者にとって分かりやすい情報を吟味・設計し表現、評価・改善したりできる。        |
|     |                  | <b>統合的な理解</b><br>情報技術や多様な技術が組み合わさり情報システムが構築されることを捉え、情報技術を活用して情報システムを情報の信頼性や社会に与える影響に配慮しながら評価・改善することで、包摂的で豊かな生活や社会につながることを理解する。 | <b>統合的な発揮</b><br>情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報技術を基盤とする多様な技術を組み合わせ、倫理・法・社会の観点を考慮して問題を解決するための情報システムを構築し表現、評価・改善できる。 |
|     | 情報を基盤とした生産技術（仮称） | <b>統合的な理解</b><br>材料の加工や構造を工夫することにより、身の回りのものがつくられ、安全で利便性の高い生活につながることを理解する。                                                      | <b>統合的な発揮</b><br>安全性等に配慮しつつ、材料を選択・設計し、意図した形や構造に加工することで、生活に役立つものを製作し表現できる。                               |
|     |                  | <b>統合的な理解</b><br>生物の育成環境を調整することで、一定の食料の供給や、環境の保全を実現し、安定的な生活を目指せることを理解する。                                                       | <b>統合的な発揮</b><br>環境負荷等に配慮しつつ、育成環境の調整方法を計画し、収量と品質を高めるための方策を判断し実践できる。                                     |
|     |                  | <b>統合的な理解</b><br>エネルギーを変換することで、人の作業を助け、発送電や交通等の生活基盤の利便性につながることを理解する。                                                           | <b>統合的な発揮</b><br>経済性等に配慮しつつ、エネルギーを変換する仕組みを設計し、安全で安定した動作を製作し表現できる。                                       |
|     |                  | <b>統合的な理解</b><br>情報技術を基盤とする多様な技術が組み合わさり構築された仕組みを評価・改善することで、豊かな生活や社会につながることを理解する。                                               | <b>統合的な発揮</b><br>安全性や環境負荷、経済性等に配慮しつつ、多様な技術を組み合わせ、問題を解決するための仕組みを探究的に設計し表現できる。                            |

## 高次の資質・能力

|      |                             | 知識及び技能                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                            |                                                              |
|------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 情報Ⅰ                         | 統合的な理解                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                  |                                                              |
|      |                             | (１) 情報の仕組みと社会との関わり（仮称）                                                                      | 情報技術の仕組みや社会との関係を全体的に捉えることで、安全や社会的責任に配慮して情報を活用できることを理解する。                                | 生活や社会を支える情報技術の正負の側面に配慮し、社会的責任を考慮して情報を活用できる。                  |
|      |                             | 統合的な理解                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                  |                                                              |
|      |                             | (２) 情報デザインとデザイン思考（仮称）                                                                       | 情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく情報を表現することが、受け手の円滑な理解や行動を促すことを理解する。                            | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって適切な理解や行動を促す情報を吟味・設計・表現し、評価・改善できる。 |
|      |                             | 統合的な理解                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                  |                                                              |
|      | (３) データ分析とモデル化・シミュレーション（仮称） | データを整理・分析して批判的に関係を見いだしたり、事柄の特徴を抽出して単純化したりすることが、未知の傾向や結果の予測につながることを理解する。                     | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、データから見いだした関係や単純化した事柄から傾向や結果を予測し、批判的に判断・表現できる。                          |                                                              |
| 情報Ⅱ  |                             | 統合的な理解                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                  |                                                              |
|      |                             | (４) アルゴリズムとシステム開発（仮称）                                                                       | 情報システムの構成を捉え、手順や条件に分解することで、その妥当性や改善可能性を判断できることを理解する。                                    | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報システムを手順や条件に分解して表現し、評価・改善できる。              |
|      |                             | 統合的な理解                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                  |                                                              |
|      | (５) 情報及び情報技術を活用した課題探究（仮称）   | 一定の制約の下でプロジェクトを管理・進行して評価・改善し、目的を達成するプロセスを、情報技術の活用により探究的に試行することで、実社会における課題解決や価値創造できることを理解する。 | プロジェクトを管理・進行して評価・改善し、目的を達成するプロセスを、情報技術の活用により探究的に試行することを通して実社会の課題の解決や価値を創造する方策を考察し表現できる。 |                                                              |

## 高次の資質・能力

|      |     | 知識及び技能                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                               |
|------|-----|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 情報Ⅱ | 統合的な理解                   | 総合的な発揮                                                                                                     |
|      |     | (1) 社会課題とデータサイエンス (仮称)   | 多様なデータを整理・分析して得られる新しい傾向や予測を批判的に考察し、社会的責任に配慮した課題解決の方策を見いだせることを理解する。                                         |
|      | 情報Ⅱ | 統合的な理解                   | 総合的な発揮                                                                                                     |
|      |     | (2) コンテンツデザイン (仮称)       | 情報を吟味・設計・表現し、評価・改善を繰り返すことで、情報の受け手により良い価値を提供できることを理解する。                                                     |
|      | 情報Ⅱ | 統合的な理解                   | 総合的な発揮                                                                                                     |
|      |     | (3) AI (仮称)              | AIの大量の情報を扱う利点と、偏りやバイアスを生む特性を捉えることで、出力を批判的に評価し、倫理・法・社会の観点を考慮しつつ、利点を十分に生かして活用できることを理解する。                     |
|      | 情報Ⅱ | 統合的な理解                   | 総合的な発揮                                                                                                     |
|      |     | (4) 先端技術と情報システムデザイン (仮称) | 先端技術の、利点の発揮と弊害の抑制のために試作、検証、改善を重ねて実装される特徴を見だし、その効果を批判的に評価しつつ、有効性や限界を判断し、利点を十分に生かして適切に活用できることを理解する。          |
|      | 情報Ⅱ | 統合的な理解                   | 総合的な発揮                                                                                                     |
|      |     | (5) 創造的な課題発見・解決の実践 (仮称)  | 一定の制約の下でプロジェクトを管理・進行して価値を生み出し、実装後のフィードバックを受けて改善を重ねるプロセスを、情報技術の活用により探究的に実践することで、実社会における課題解決や価値創造できることを理解する。 |

|     | 学校・家庭での基本的な生活習慣<br>(仮)                                                         | 社会での人とのかかわり<br>(仮)                                                          | 社会や地域でのくらし<br>(仮)                                                                           | 身近な自然やものはたらき<br>(仮)                                                               |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
|     | 高次の資質・能力                                                                       | 高次の資質・能力                                                                    | 高次の資質・能力                                                                                    | 高次の資質・能力                                                                          |
| 小学部 | よりよい毎日の生活を送る上で必要となることを考えて行動する中で、健康で規則正しい安全な生活習慣を身に付けることにより、健康で自立した生活を送ることができる。 | 身近な人や社会と関わる上で必要となることを考えて行動する中で、社会で他者と円滑に関わる力を身に付けることにより、社会的に豊かな生活を送ることができる。 | 社会や地域で暮らす上で必要となることを考えて行動したり表現したりする中で、きまりを守って社会資源を適切に利用する力を身に付けることにより、秩序を保った共同的な生活を送ることができる。 | 物事を論理的に考えたり、分かったことを表現したりする中で、関心をもった事象に自ら働きかける力を身に付けることにより、探究的な学びにつながる生活を送ることができる。 |



| 中学部・高等部 | A 職業生活                                                                                                  |                                                                            | B 情報機器・情報技術の活用（仮）                                                             |                                                                                          | C 産業現場等における実習                                                                         |                                                                                     |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|         | 知識及び技能                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                               | 知識及び技能                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                             | 知識及び技能                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                        |
|         | 統合的な理解                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                     | 統合的な理解                                                                        | 総合的な発揮                                                                                   | 統合的な理解                                                                                | 総合的な発揮                                                                              |
|         | 働くことの意義や働くために必要な技能についての理解を深め、自己実現を図ったり社会の一員としての役割を果たしたりするために必要な力を身に付けることにより、将来のよりよい職業生活につなげていけることを理解する。 | よりよい職業生活を送るために、実際の場面において必要となる事柄を考えるとともに、自分の長所や課題との関係から、工夫したり改善したりすることができる。 | 情報機器・技術の効果的な活用の仕方や、情報機器・技術の適切な取扱い方を理解することにより、それらを職業生活の充実に結びつける力を身に付けることを理解する。 | 情報機器・技術の活用を通して情報を集めたり整理したりして、自分の思いや考えを表すことにより、職業生活と結び付けた情報機器・技術の活用についての自分の課題を解決することができる。 | 実践的な知識や技能に触れることを通して学習したことを、自分の希望する職業や進路と関係付ける力を身に付けることにより、自分の将来の職業や進路につなげていけることを理解する。 | 働く人と直接関わった経験を通して、自分の成長や自己の進路について考えたり、考えを表したりする力を身に付けることにより、自分の進路についての課題を解決することができる。 |

|              |                       | 知識及び技能                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                        |
|--------------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|              |                       | 統合的な理解                                                                                       | 総合的な発揮                                                                              |
| 原則履修科目（基礎科目） | （１）各産業の社会的な意義や役割      | 我が国において各産業が果たしてきた意義や役割、その技術を学習することで、当該産業を継承・発展・創造していくことが、私たちの暮らしをよりよくすることにつながることを理解する。       | これからの我が国の各産業の在り方に関する課題を発見し、それらを取り巻く諸問題や今後の可能性について、科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に考察することができる。   |
|              | （２）各教科で学習する内容の概括      | 各産業の各分野に必要な基礎的な知識や技能の習得に取り組むことで、各産業の全体像を把握するとともに、必要となる知識や技能を高め続けていくことが、よりよい課題解決につながることを理解する。 | 各産業の各分野に関する課題や成果を発見し、それらを科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に解決、検証することができる。                         |
|              | （３）教科全体を通じた探究的・実践的な学習 | 繰り返し課題解決に取り組むことで、未知の課題に直面しても創造的な解決につなげることができることを理解する。                                        | 各産業に関する課題や成果を主体的に発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決に向けた選択を行うことができる。 |

# 各教科WGにおける議論の補足イメージ 及び教科の目標、見方・考え方、 資質・能力の全体構造（素案）

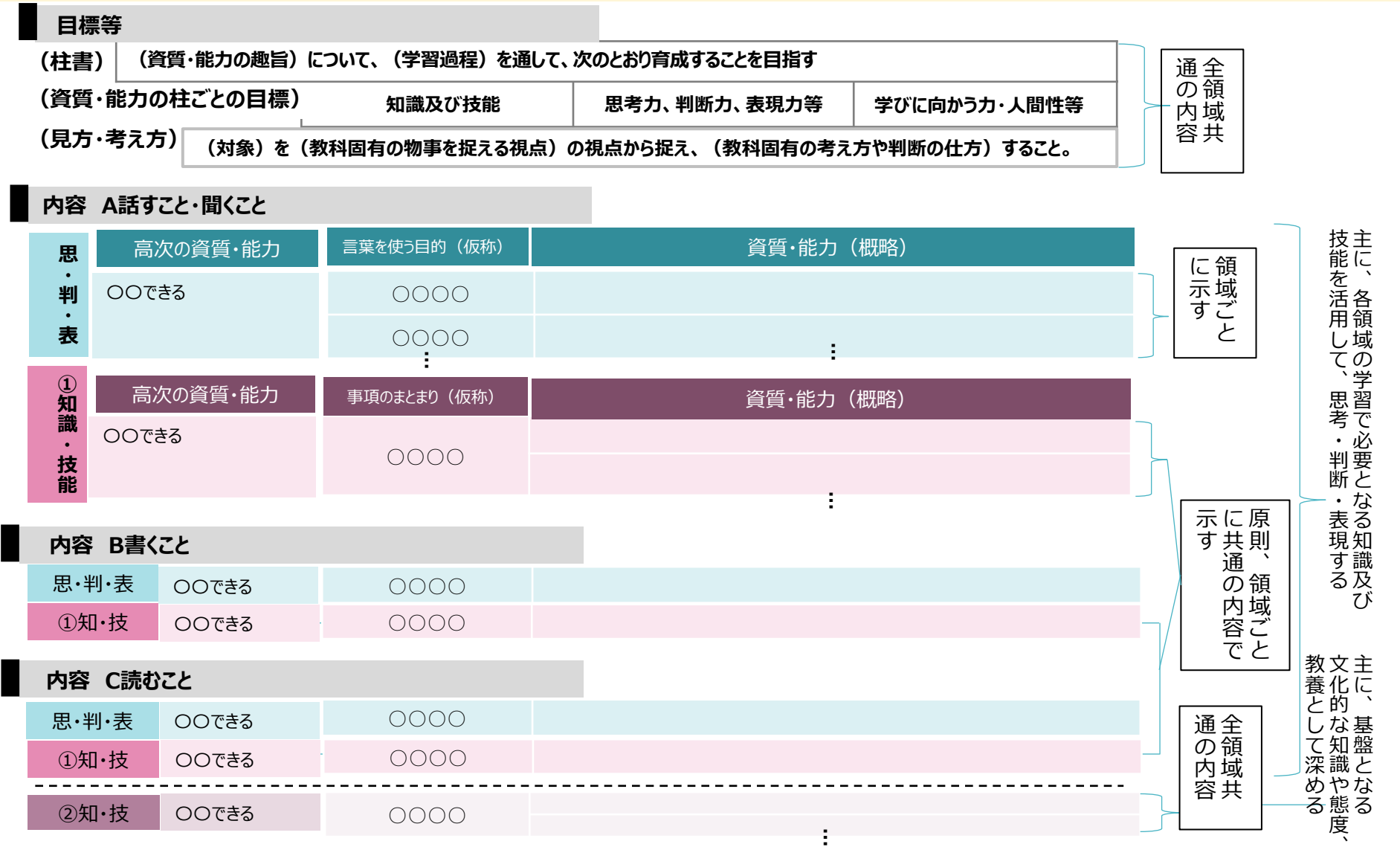
- ※各ワーキンググループにおいて検討中のたたき台であり、今後変更の可能性がありうる
- ※以下、「知識及び技能に関する統合的な理解」を「統合的な理解」、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を「総合的な発揮」と記載する
- ※以下、「知識及び技能に関する統合的な理解」を「統合的な理解」、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を「総合的な発揮」と記載する
- ※内容項目例は基本的に現行学習指導要領をもとに記載したものであり、次期学習指導要領における内容項目を確定したものではない



**国語WGにおける議論の補足イメージ  
及び教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**

# 高次の資質能力を含む全体の構成イメージ（中）

【論点1－1】高次の資質・能力の示し方  
高次の資質・能力を、言葉を使う目的（仮称）や事項のまとまり（仮称）、資質・能力の関係性を整理して示すこと、思考・判断・表現、知識・技能における高次の資質・能力の示し方について、ご議論いただきたい





# 教育課程全体で育む「言語能力」が働くイメージ

AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、  
自らの意思や考えの形成・表現や、他者の経験・感情の理解といった人間ならではの言語能力を重視

受信

内容を正確に理解するとともに、発信者の経験・感情・意図を掴みながら、自己の考えを豊かに形成

## 構造と内容の理解・解釈

### ➤ 言語情報の正確な把握

理解のための方略を工夫しながら、  
受け取った言語情報の構造や内容を  
正確に把握

#### 各教科等の特質に応じた指導例：

- 教科書や資料のどこを読めば必要な情報を得られるのかなど各教科固有の文章の読み方を理解させる
- 重要な語句に線を引いたりメモしたり、理解できないときに前に戻って読み直したり質問したり、要点を図式化するなど理解を助ける方略を適用できるようにする

### ➤ 自分なりの意味の理解・解釈

正確な把握と同時に、既有の知識と結びつ  
けたり多様な視点から検討したりしながら、  
自己にとっての深い意味理解・解釈の形成

#### 各教科等の特質に応じた指導例：

- 黒板をただ写し取るのではなく自分の知っていることや考えたこと他の人の考えなども関連付けて書き加えるなどしてまとめられるようにする
- 学習の要点として理解したことに加えて、一般化して言えそうなこと、具体的な事例、より詳しく知りたいことなどを説明させる

## 考えの形成

### ➤ 発信者の経験・感情等を踏まえた考えの形成

発信者の経験・感情・思考・意図を推察したり、そ  
れらを踏まえ自らの意思をもち考えを形成するなど、  
自他の経験や感情、意思と結びつける

#### 各教科等の特質に応じた指導例：

- 他者の発言等の要点を理解した上で、発言の背景となる考えや経験、感情について推察できるようにする
- 理解・解釈した内容について、自分はどう思うか、どうしたいかを理由とともに明確にし、相互に交流することを通して自分の考えを補強したり見直したりできるようにする

## 表現・推敲

### ➤ 表現の過程での柔軟な調整

表現した後や表現の過程におい  
ても、他者の受け取りを推察しな  
がら、表現の内容や方法を柔軟  
に調整し、必要に応じて修正する

#### 各教科等の特質に応じた指導例：

- メモをそのまま読むのではなく、相手の反応を見ながら言葉を選び直したり、非言語的手段を駆使したり、意図が十分に伝わっていないようなら表現した内容でも修正して話せるようにする
- 一度書き上げた文章を読み手の立場から読み直したり、互いに読み合ったりして、目的・場面・相手に応じた表現になるように修正できるようにする

### ➤ 表現の前の省察や吟味

表現しようとする内容や構成・表現形  
式が、真に表現の目的を達成するか、  
意図しない結果を招かないか等の視点  
から省察し、表現を吟味する

#### 各教科等の特質に応じた指導例：

- 表現を構想した後すぐに発表・記述等をするのではなく、表現の受け取り等を想定させ、省察・吟味できるようにする
- 表現しようとする内容や構成・表現形式を相互に参照し、受け取り方や改善の余地などについて検討させる

## 考えの形成

### ➤ 目的・場面・相手を踏まえた内容・構成の検討

自らの意思をもち考えを形成するとともに、形成し  
た自らの考えや意図が目的に沿ったものか、相手に  
正確に伝わるかなどの視点から内容や構成、表現  
形式を検討

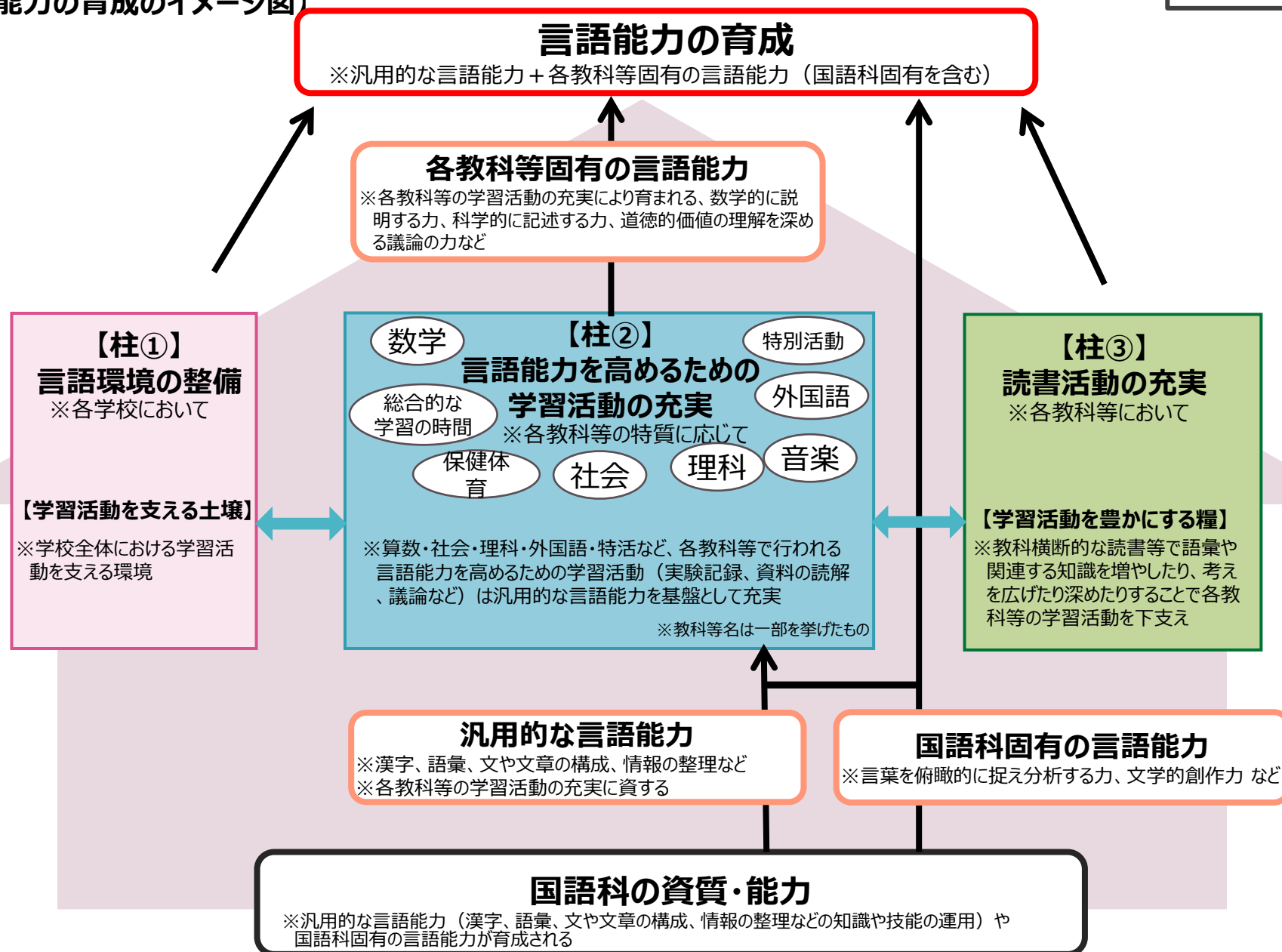
#### 各教科等の特質に応じた指導例：

- 作品製作、レポート、発表などの多様な表現活動の中で、自分の考えや意図が目的や条件などを十分に踏まえているかを検討させる
- 目的や場面、相手に応じて言語情報を補足するのに効果的なメディアを選択し活用できるようにする

相手にどう受け取られるかを想像しつつ、自己の考えが伝わるよう工夫しながら豊かに表現

発信

# 【言語能力の育成のイメージ図】



## 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                     | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                     |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うとともに我が国の言語文化に親しむことができるようにする。</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活における人との関わりの中で，国語を通して互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高め，論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>①考えたり感じたりしたことを積極的に言葉で伝え合い，他者との関わりの中で振り返り，言葉がもつよさを認識し，その能力の向上を図る態度を養う。</li> <li>②言語感覚を養い，国語の大切さを自覚し，国語を尊重する態度を養う。</li> </ul>               |
| 中学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うとともに我が国の言語文化を理解できるようにする。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活における人との関わりの中で，国語を通して互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高め，論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>①考えたり感じたりしたことを積極的に言葉で伝え合い，他者との関わりの中で振り返り，言葉がもつ価値を認識し，その能力の向上を図る態度を養う。</li> <li>②言語感覚を豊かにし，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重する態度を養う。</li> </ul>           |
| 高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたる社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うとともに我が国の言語文化を深く理解できるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で，国語を通して互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高め，論理的に思考する力や豊かに想像する力を伸ばす。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①考えたり感じたりしたことを積極的に言葉で伝え合い，他者との関わりの中で振り返り，言葉のもつ価値への認識を深め，その能力の向上を図る態度を養う。</li> <li>②言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，国語を尊重する態度を養う。</li> </ul> |

## 見方・考え方

- 自分や他者の言葉を、その意味や使い方、表現の意図等に着目して多面的・多角的に吟味し、多様な立場や考えを理解しながら、丁寧に言葉を紡ぎ、よりよく伝え合うこと

## 資質・能力全体構造（素案）

|     |                                 | 話すこと・聞くこと                                                                                        |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | 思考力・判断力・表現力等                    | 総合的な発揮                                                                                           | 言葉を使う目的<br>(仮称) | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |                                 | 目的などに応じて、日常生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して話すとともに、相手の話を聞いたり話し合ったりして考えを広げ深めることができる。 | 情報の伝達           | ・紹介や説明、報告などをする                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|     |                                 |                                                                                                  | 他者の説得           | ・理由に基づいて意見や提案をする                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|     |                                 |                                                                                                  | 情報の獲得／他者の主張の吟味  | ・説明や報告などを聞いて、感想を伝えたり自分の考えをもったりする                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|     |                                 |                                                                                                  | 合意形成            | ・尋ねたり応答したり、話し合いの進行を工夫したりするなどして、互いの発言を関連付けて考えをまとめる                                                                                                                                                                                                                                                  |
|     | 知識及び技能                          | 統合的な理解                                                                                           | 事項のまとめ<br>(仮称)  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |                                 | 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。                           | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く</li> <li>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する</li> <li>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く</li> <li>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める</li> <li>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する</li> <li>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う</li> <li>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う</li> </ul> |
|     |                                 |                                                                                                  | 情報の扱い方に関する事項    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（情報と情報との関係）情報と情報との様々な関係を理解する</li> <li>・（情報の整理）情報の整理の仕方やそのための手段を理解し使う</li> </ul>                                                                                                                                                                            |
|     | ②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面 | 統合的な理解                                                                                           | 事項のまとめ<br>(仮称)  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |                                 | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。                        | 我が国の言語文化に関する事項  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（伝統的な言語文化）伝統的な言語文化に親しむ</li> <li>・（言葉の由来や変化）言葉の由来や変化を理解する</li> <li>・（書写）我が国の伝統的な文字文化に親しみ、文字を効果的に書く</li> <li>・（読書）読書の意義や効用などを理解する</li> </ul>                                                                                                                 |

## 資質・能力全体構造（素案）

|     |              | 書くこと                                                                        |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | 思考力・判断力・表現力等 | 総合的な発揮                                                                      | 言葉を使う目的<br>(仮称) | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |              | 目的などに応じて、日常生活に関わる課題や出来事、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝わるように工夫して文章を書くことができる。 | 情報の伝達           | ・記録や説明、報告などの文章を書く                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|     |              |                                                                             | 他者の説得           | ・理由に基づいて意見を述べる文章を書く                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|     |              |                                                                             | 感動の共有           | ・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章を書く                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|     | 知識及び技能       | 統合的な理解                                                                      | 事項のまとめ<br>(仮称)  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |              | 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。      | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く</li> <li>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する</li> <li>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く</li> <li>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める</li> <li>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する</li> <li>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う</li> <li>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う</li> </ul> |
|     |              |                                                                             | 情報の扱い方に関する事項    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（情報と情報との関係）情報と情報との様々な関係を理解する</li> <li>・（情報の整理）情報の整理の仕方やそのための手段を理解し使う</li> </ul>                                                                                                                                                                            |
|     |              | 統合的な理解                                                                      | 事項のまとめ<br>(仮称)  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |              | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。   | 我が国の言語文化に関する事項  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（伝統的な言語文化）伝統的な言語文化に親しむ</li> <li>・（言葉の由来や変化）言葉の由来や変化を理解する</li> <li>・（書写）我が国の伝統的な文字文化に親しみ、文字を効果的に書く</li> <li>・（読書）読書の意義や効用などを理解する</li> </ul>                                                                                                                 |



## 資質・能力全体構造（素案）

|     |                                 | 読むこと                                                                      |                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | 思考力・判断力・表現力等                    | 総合的な発揮                                                                    | 言葉を使う目的<br>(仮称)       | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |                                 | 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、日常生活に関わる課題や出来事、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。        | 情報の獲得<br><br>他者の主張の吟味 | ・説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|     |                                 |                                                                           | 感動への共感                | ・文学的な文章の内容を理解して自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|     | ①各領域の学習の過程で生かし深める側面             | 統合的な理解                                                                    | 事項のまとめ<br>(仮称)        | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |                                 | 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。    | 言葉の特徴や使い方に関する事項       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く</li> <li>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する</li> <li>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く</li> <li>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める</li> <li>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する</li> <li>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う</li> <li>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う</li> </ul> |
|     |                                 |                                                                           | 情報の扱い方に関する事項          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（情報と情報との関係）情報と情報との様々な関係を理解する</li> <li>・（情報の整理）情報の整理の仕方やそのための手段を理解し使う</li> </ul>                                                                                                                                                                            |
|     | ②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面 | 統合的な理解                                                                    | 事項のまとめ<br>(仮称)        | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |                                 | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。 | 我が国の言語文化に関する事項        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（伝統的な言語文化）伝統的な言語文化に親しむ</li> <li>・（言葉の由来や変化）言葉の由来や変化を理解する</li> <li>・（書写）我が国の伝統的な文字文化に親しみ、文字を効果的に書く</li> <li>・（読書）読書の意義や効用などを理解する</li> </ul>                                                                                                                 |

## 資質・能力全体構造（素案）

|     |              | 話すこと・聞くこと                                                                                                        |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | 思考力・判断力・表現力等 | 総合的な発揮                                                                                                           | 言葉を使う目的<br>(仮称) | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |              | 目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝わるように工夫して話すとともに、相手の話を聞いたり話し合ったりして考えを広げ深めることができる。                 | 情報の伝達           | ・説明や解説などをする                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|     |              |                                                                                                                  | 他者の説得           | ・根拠に基づいて主張などを述べる                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|     |              |                                                                                                                  | 情報の獲得／他者の主張の吟味  | ・説明や解説、主張などを聞いて自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|     |              |                                                                                                                  | 合意形成            | ・進行を工夫し互いの発言を関連付けて考えをまとめる                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|     | 知識及び技能       | 統合的な理解                                                                                                           | 事項のまとめ<br>(仮称)  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |              | ①各領域の学習の過程で生かし深める側面<br><br>社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。                | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く</li> <li>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する</li> <li>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く</li> <li>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める</li> <li>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する</li> <li>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う</li> <li>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う</li> </ul> |
|     |              |                                                                                                                  | 情報の扱い方に関する事項    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（情報と情報との関係）情報と情報との様々な関係を理解する</li> <li>・（情報の整理）情報の整理の仕方やそのための手段を理解し使う</li> </ul>                                                                                                                                                                            |
|     |              | 統合的な理解                                                                                                           | 事項のまとめ<br>(仮称)  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     | 知識及び技能       | ②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面<br><br>幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。 | 我が国の言語文化に関する事項  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（伝統的な言語文化）伝統的な言語文化に親しむ</li> <li>・（言葉の由来や変化）言葉の由来や変化を理解する</li> <li>・（書写）我が国の伝統的な文字文化を理解し、文字を効果的に書く</li> <li>・（読書）読書の意義や効用などを理解する</li> </ul>                                                                                                                 |
|     |              |                                                                                                                  |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

## 資質・能力全体構造（素案）

|                                                                           |              | 書くこと                                                                        |                                                                        |                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校                                                                       | 思考力・判断力・表現力等 | 総合的な発揮                                                                      | 言葉を使う目的<br>(仮称)                                                        | 内容項目例                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                           |              | 目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝わるように工夫して文章を書くことができる。 | 情報の伝達                                                                  | ・説明や解説などの文章を書く                |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                           |              |                                                                             | 他者の説得                                                                  | ・根拠に基づいて主張する文章などを書く           |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                           |              |                                                                             | 感動の共有                                                                  | ・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                           | 知識及び技能       | ①各領域の学習の過程で生かし深める側面                                                         | 統合的な理解                                                                 | 事項のまとめ<br>(仮称)                | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                                           |              |                                                                             | 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。 | 言葉の特徴や使い方に関する事項               | <ul style="list-style-type: none"><li>・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く</li><li>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する</li><li>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く</li><li>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める</li><li>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する</li><li>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う</li><li>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う</li></ul> |
|                                                                           |              | ②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面                                             | 統合的な理解                                                                 | 事項のまとめ<br>(仮称)                | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。 |              |                                                                             |                                                                        |                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

## 資質・能力全体構造（素案）

|        |                                 | 読むこと                                                                      |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校    | 思考力・判断力・表現力等                    | 総合的な発揮                                                                    | 言葉を使う目的<br>(仮称) | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|        |                                 | 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。        | 情報の獲得           | ・説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|        |                                 |                                                                           | 他者の主張の吟味        | ・論説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|        |                                 |                                                                           | 感動への共感          | ・文学的な文章の内容を理解して自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|        | ①各領域の学習の過程で生かし深める側面             | 統合的な理解                                                                    | 事項のまとまり<br>(仮称) | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|        |                                 | 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。    | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く</li> <li>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する</li> <li>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く</li> <li>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める</li> <li>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する</li> <li>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う</li> <li>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う</li> </ul> |
| 知識及び技能 | ②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面 | 統合的な理解                                                                    | 事項のまとまり<br>(仮称) | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|        |                                 | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。 | 我が国の言語文化に関する事項  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（伝統的な言語文化）伝統的な言語文化に親しむ</li> <li>・（言葉の由来や変化）言葉の由来や変化を理解する</li> <li>・（書写）我が国の伝統的な文字文化を理解し、文字を効果的に書く</li> <li>・（読書）読書の意義や効用などを理解する</li> </ul>                                                                                                                 |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |              |                                 | 話すこと・聞くこと                                                                    |                                                                                                                                                                                                              |
|------|--------------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 思考力・判断力・表現力等 | 総合的な発揮                          | 言葉を使う目的<br>（仮称）                                                              | 内容項目例                                                                                                                                                                                                        |
|      |              |                                 | 情報の伝達                                                                        | 資料に基づいて説明したり解説したりする                                                                                                                                                                                          |
|      |              |                                 | 他者の説得                                                                        | 根拠に基づいた主張や、論拠に基づいた同意、反論を述べる                                                                                                                                                                                  |
|      |              |                                 | 情報の獲得／他者の主張の吟味                                                               | 説明や解説、主張などを聞いて自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                       |
|      |              |                                 | 合意形成                                                                         | 表現や進行など、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する                                                                                                                                                                                  |
|      | 知識及び技能       | ①各領域の学習の過程で生かし深める側面             | 総合的な理解                                                                       | 事項のまとまり<br>（仮称）                                                                                                                                                                                              |
|      |              |                                 | 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。 | 内容項目例                                                                                                                                                                                                        |
|      |              | ②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面 | 事項のまとまり<br>（仮称）                                                              | 内容項目例                                                                                                                                                                                                        |
|      |              |                                 | 我が国の言語文化に関する事項                                                               | ・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く<br>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する<br>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く<br>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める<br>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する<br>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う<br>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う |



## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |                                                    |        | 書くこと                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|----------------------------------------------------|--------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 思考力・判断力・表現力等                                       | 総合的な発揮 | 言葉を使う目的<br>（仮称）     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|      |                                                    |        | 情報の伝達               | ・説明や解説などの 文章を書く                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|      |                                                    |        | 他者の説得               | ・自分の意見や考えを論述する                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|      | 知識及び技能                                             | 統合的な理解 | 感動の共有               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|      |                                                    |        | 事項のまとまり<br>（仮称）     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|      |                                                    |        | 言葉の特徴や使い方に<br>関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く</li> <li>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する</li> <li>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く</li> <li>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める</li> <li>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する</li> <li>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う</li> <li>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う</li> </ul> |
|      | ①各領域の<br>学習の過程で<br>生かし深める<br>側面                    | 統合的な理解 | 情報の扱い方に関する事<br>項    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（情報と情報との関係）情報と情報との様々な関係を理解し使う</li> <li>・（情報の整理）情報の整理の仕方やそのための具体的な手段を理<br/>解し使う</li> </ul>                                                                                                                                                                  |
|      |                                                    |        | 事項のまとまり<br>（仮称）     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|      | ②各領域の<br>学習を支え<br>文化的な知識や態度、<br>教養<br>として深める<br>側面 | 統合的な理解 | 我が国の言語文化に関す<br>る事項  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（読書）読書の意義や効用などを理解する</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                             |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |                                 | 読むこと                                                                              |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 思考力・判断力、表現力等                    | 総合的な発揮                                                                            | 言葉を使う目的<br>(仮称) | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      |                                 | 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、生涯にわたる社会生活に関わる課題や出来事などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。                | 情報の獲得           | ・説明や解説などの文章の内容を適切に理解して自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|      |                                 |                                                                                   | 他者の主張の吟味        | ・論説などの文章の内容を適切に理解して自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|      |                                 |                                                                                   | 感動への共感          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|      | 知識及び技能                          | 統合的な理解                                                                            | 事項のまとまり<br>(仮称) | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      |                                 | 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。      | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く</li> <li>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する。</li> <li>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く</li> <li>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める</li> <li>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する</li> <li>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う</li> <li>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う</li> </ul> |
|      |                                 |                                                                                   | 情報の扱い方に関する事項    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（情報と情報との関係）情報と情報との様々な関係を理解し使う</li> <li>・（情報の整理）情報の整理の仕方やそのための具体的な手段を理解し使う</li> </ul>                                                                                                                                                                        |
|      | ②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面 | 統合的な理解                                                                            | 事項のまとまり<br>(仮称) | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      |                                 | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、生涯にわたる社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。 | 我が国の言語文化に関する事項  | ・（読書）読書の意義や効用などを理解する                                                                                                                                                                                                                                                                                |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|                  |                                 | 書くこと                                                                              |                 |                                                                                                                                                                                                              |
|------------------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 思考力・判断力・<br>表現力等 |                                 | 総合的な発揮                                                                            | 言葉を使う目的<br>（仮称） | 内容項目例                                                                                                                                                                                                        |
|                  |                                 | 目的などに応じて、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に的確に伝わるように効果的に表現した文章を書くことができる。               | 情報の伝達           |                                                                                                                                                                                                              |
|                  |                                 |                                                                                   | 他者の説得           |                                                                                                                                                                                                              |
|                  |                                 |                                                                                   | 感動の共有           | ・経験や想像したことを基に思いや感動を効果的に伝える文章などを書く                                                                                                                                                                            |
| 高等学校             | 知識及び技能                          | 統合的な理解                                                                            | 事項のまとめ<br>（仮称）  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                        |
|                  |                                 | 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。      | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | ・（言葉の働き）言語が共通にもつ言葉の働きに気付く<br>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する<br>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く<br>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める<br>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する<br>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う<br>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う |
|                  |                                 |                                                                                   | 情報の扱い方に関する事項    |                                                                                                                                                                                                              |
|                  | ①各領域の<br>学習の過程で<br>生かし深める<br>側面 | 統合的な理解                                                                            | 事項のまとめ<br>（仮称）  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                        |
|                  |                                 | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、生涯にわたる社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。 | 我が国の言語文化に関する事項  | ・（伝統的な言語文化）伝統的な言語文化に親しみ、その特質を理解する<br>・（言葉の由来や変化）言葉の由来や変化、多様性を理解する<br>・（読書）読書の意義や効用などを理解する                                                                                                                    |
|                  |                                 |                                                                                   |                 |                                                                                                                                                                                                              |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |                  | 読むこと                                                                              |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 思考力・判断力、<br>表現力等 | 総合的な発揮                                                                            | 言葉を使う目的<br>（仮称） | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|      |                  | 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。                               | 情報の獲得           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|      |                  |                                                                                   | 他者の主張の吟味        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|      |                  |                                                                                   | 感動への共感          | ・文学的な文章の内容を適切に理解して自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|      |                  |                                                                                   | 古典に学ぶ           | ・様々な古典作品を読み、我が国の伝統的な言語文化について自分の考えをもつ                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      | 知識及び技能           | 統合的な理解                                                                            | 事項のまとまり<br>（仮称） | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|      |                  | 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。      | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（言葉の働き）言葉が共通にもつ言葉の働きに気付く</li> <li>・（話し言葉と書き言葉）文字と音声との対応、書き言葉のきまりなどを理解する</li> <li>・（漢字）漢字を読む、漢字を書く</li> <li>・（語彙）語句の量を増す、語句についての理解を深める</li> <li>・（文や文章）単語、文、話、文章の構成を理解する</li> <li>・（言葉遣い）相手や場に応じた言葉遣いを理解し使う</li> <li>・（表現の技法）表現の技法の種類とその特徴を理解し使う</li> </ul> |
|      |                  |                                                                                   | 情報の扱い方に関する事項    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|      |                  | 統合的な理解                                                                            | 事項のまとまり<br>（仮称） | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|      |                  | 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、生涯にわたる社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。 | 我が国の言語文化に関する事項  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（伝統的な言語文化）伝統的な言語文化に親しみ、その特質などを理解する</li> <li>・（言葉の由来や変化）言葉の由来や変化、多様性を理解する</li> <li>・（読書）読書の意義や効用などを理解する</li> </ul>                                                                                                                                          |
|      |                  |                                                                                   |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |



# **外国語WGにおける議論の補足イメージ 及び教科の目標、見方・考え方、 資質・能力の全体構造（素案）**



# 構造化のイメージ（中学校の例）

令和7年12月24日  
外国語WG（第6回）  
【資料】P 16  
（会議後修正）

## 現状

### 外国語の目標

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・  
人間性等

### 英語の目標（領域別目標）

聞く  
こと

読む  
こと

話すこと  
(やり取り)

話すこと  
(発表)

書く  
こと

### 内容

#### 知識及び技能

音声/符号/語、連語及び慣用表現/文、文構造及び文法事項

#### 思考力・判断力・表現力等

情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、  
伝え合ったりすることに関する事項

#### 言語活動及び言語の働きに関する事項

言語活動(例)

聞く  
こと

読む  
こと

話すこと  
(やり取り)

話すこと  
(発表)

書く  
こと

言語の使用場面(例)

言語の働き(例)

### 内容の取扱い

言語材料の段階的な指導、指導内容や指導方法の工夫 など

※改善イメージにおいても引き続き記載

## 改善イメージ

### 外国語の目標

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・  
人間性等

### 英語の目標

英語の目標は3つ  
の柱で整理

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・  
人間性等

### 内容

#### 思考力・判断力・表現力等

CEFRの分類も踏ま  
えて3つに整理

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮  
(理解する) (表現する) (伝え合う)

聞く  
こと

読む  
こと

話すこと  
(やり取り)

話すこと  
(発表)

書く  
こと

「並行」パターンで示す

#### 知識及び技能

知識及び技能に関する統合的な理解

言語の働きを「知・  
技」に位置付ける

音声/符号/語、連語及び慣用表現/文、文構造及び文法事項、言語の働き(例) など

※技能は5領域と関連付けて示す

### 内容の取扱い

言語活動(例)

「内容」は資質・能力に限  
定し、「言語活動の例」と  
「言語の使用場面の例」  
は内容の取扱いへ

聞く  
こと

読む  
こと

話すこと  
(やり取り)

話すこと  
(発表)

書く  
こと

言語の使用場面(例)

# AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」の再整理（Ver. 3）

－ 自らの人生を舵取りできる、多様な他者と協働できる資質・能力への貢献の観点から －

## 1. 言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

- **異なる言語・文化への理解を促す**
  - 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
  - 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
    - ➡ 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性
- **母語や自国の文化のメタ認知を促す**
  - 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
  - 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
  - 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される
- **コミュニケーションへの深い理解を促す**
  - 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
    - ・相手の言葉や意図の受け止め方（聞く・読む）
    - ・相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ（「やさしい日本語」にも繋がる）（話す・書く）
  - 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
  - ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫（アイコンタクト、間の取り方、身振り・手振り等）
    - ➡ 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

## 2. 自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること

- **外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される**
    - 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
    - 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
    - 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される（再掲）
      - ➡ アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性
  - **人間関係の質・量が豊かになり、得られる情報も増える**
    - 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
    - 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
    - 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を発見できたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も
- ※現在のAI技術を前提とした場合ではあるが、AIにより手軽に翻訳・通訳が可能となる中であっても、出力の正確性・適切性を批判的に検討したり、ツールの力も使いつつも、リアルなコミュニケーションを行ったりするためには相応の英語力が必要という視点や、外国語によるコミュニケーションのためにAI技術を効果的に活用する力が必要という視点もある
- ※これらは外国語を学校教育で必修とすることの意義を卒業後も継続的に学習した場合も想定しながら整理したものであり、これらの全てが、全ての児童生徒において、初等中等教育の過程で高いレベルで発現すると考えているものではない

※AI技術が今後も予想を超える速さで進歩することを踏まえると、AIに代替されるべきではない、人間に残したい部分は何かを重視する必要（下線部分）

### よりよい社会 （社会のウェルビーイング）

- 多様性の包摂、国内外の多様な他者との共生・共創
- グローバルな視点・情報を駆使した価値創造・課題解決
- 持続可能な民主主義・平和な社会の構築

### 幸福な人生 （個人のウェルビーイング）

- 国内外の多様な他者と直に意思疎通できる安心感・自信、豊かな人間関係
- 言葉の壁や国境を越えて自らの人生を舵取り（進学・留学・就職）
- 思考の多様性・柔軟性、価値観の再構築

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                   | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校  | 外国語活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。</li> </ul>                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>ごく身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとき、相手を理解しようとする態度を養う。</li> </ul>                                           |
|      | 外国語 <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の音声、文字、語彙、表現及び文構造並びに【P】言語の働きなどを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして、伝え合うことができる基礎的な力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。</li> </ul>                     |
| 中学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに【P】言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。</li> </ul>                |
| 高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。</li> </ul> |

## 見方・考え方

- 外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 外国語活動 | 小学校 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                    | 領域                                   |                                                                                                                                       | 内容項目例（第3学年相当）                                                                                                                                                                              | 内容項目例（第4学年相当） |
|-------|-----|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
|       |     |              | <p>ごく身近な話題について、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報などを聞き、内容を推測することに慣れ親しむことができる。【理解する】</li> <li>相手を意識しながら、自分の考えや気持ちなどを話して伝えることに慣れ親しむことができる。【表現する】</li> <li>相手を意識しながら、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことに慣れ親しむことができ、相手を理解しようとする。【伝え合う】</li> </ul> | 聞くこと                                 | 話題                                                                                                                                    | 相手のことや身の回りの物について<br>ごく身近な事柄について                                                                                                                                                            |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           |                                      | 条件                                                                                                                                    | ゆっくりはっきりと話されれば                                                                                                                                                                             |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           |                                      | できること                                                                                                                                 | （ア）簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることに慣れ親しむことができる                                                                                                                                                         |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           | 話すこと（やり取り）                           | 話題                                                                                                                                    | 基本的なやり取りに関する事柄について<br>自分ことや身の回りの物について<br>自分や相手のこと及びごく身近な事柄について                                                                                                                             |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           |                                      | 条件                                                                                                                                    | 簡単な語句や基本的な表現を用いて                                                                                                                                                                           |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           |                                      | できること                                                                                                                                 | （ア）挨拶、感謝、指示をしたりそれらに応じたりすることに慣れ親しむことができる（※基本的なやり取りに関する事柄に対応）<br>（イ）動作を交えながら、自分の考えや気持ちを伝え合うことに慣れ親しむことができる（※自分のことや身の回りの物に対応）<br>（ウ）サポートを受けて、質問をしたり質問に答えたりすることに慣れ親しむことができる（※自分や相手のこと及びごく身近な事柄） |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           | 話すこと（発表）                             | 話題                                                                                                                                    | 身の回りの物について<br>自分のことについて<br>ごく身近な事柄について                                                                                                                                                     |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           |                                      | 条件                                                                                                                                    | 簡単な語句や基本的な表現を用いて                                                                                                                                                                           |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           |                                      | できること                                                                                                                                 | （ア）人前で実物などを見せながら、話すことに慣れ親しむことができる                                                                                                                                                          |               |
| 外国語活動 | 小学校 | 知識及び技能       | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                    | 領域                                   |                                                                                                                                       | 内容項目例（第3学年相当）                                                                                                                                                                              | 内容項目例（第4学年相当） |
|       |     |              | 音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。                                                                                                                                                                        | 英語の特徴等に関する事項                         | ア 音声                                                                                                                                  | 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く                                                                                                                                                          |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           |                                      | イ 文字                                                                                                                                  | 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かる<br>・ 文字の名称を表す読み方を聞いて、大文字や小文字と結びつけられる<br>・ 身の回りの物を表す語句の発音を聞いて、何を指しているか分かる                                                                                  |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           | 【P】言語の働きに関する事項（pragmatic competence） | 次の事項について、使用される場面やその働きに、体験的に気付く                                                                                                        |                                                                                                                                                                                            |               |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           |                                      | ア【P】対人関係形成・創造（interpersonal）                                                                                                          |                                                                                                                                                                                            | ・・・           |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           |                                      | イ【P】情報交換・要件遂行（transactional）                                                                                                          |                                                                                                                                                                                            | ・・・           |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           |                                      | ウ【P】問題解決・合意形成（evaluative）                                                                                                             |                                                                                                                                                                                            | ・・・           |
|       |     |              |                                                                                                                                                                                                                                           | 文化に関する事項                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く</li> <li>異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める</li> </ul> |                                                                                                                                                                                            |               |

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 総合的な発揮                          |                                                                                                                                                                                                                                                                   | 領域         | 内容項目例（第5学年相当） |                                                                                                                                                                    | 内容項目例（第6学年相当） |
|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 外国語<br>小学校（1/2）<br>思考力、判断力、表現力等 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、<br>・聞いて情報を捉え、考えを形成するとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現の意味を考えながら読むことができる。【理解する】<br>・自分の考えや気持ちなどを整理し、語句や表現を選んで相手に話して伝えるとき、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、書いて伝えることができる。【表現する】<br>・相手が話した内容を踏まえ、自分の考えや気持ちなどを、語句や表現を選んで伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】 | 聞くこと       | 話題            | 自分のことや相手のことについて<br>身近な事柄について                                                                                                                                       |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |            | 条件            | ゆっくりはっきりと話されれば                                                                                                                                                     |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |            | できること         | （ア）簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる<br>（イ）具体的な情報を聞き取ることができる<br>（ウ）短い話の概要を捉えることができる                                                                                          |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   | 読むこと       | 話題            | 自分のことや相手のことについて<br>身近な事柄について                                                                                                                                       |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |            | 条件            | 音声で十分に慣れ親しんだ上で                                                                                                                                                     |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |            | できること         | 簡単な語句や基本的な表現を識別し、情報を得ることができる                                                                                                                                       |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   | 話すこと（やり取り） | 話題            | 基本的なやり取りに関する事柄について<br>自分のことや相手のこと及び身近な事柄について                                                                                                                       |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |            | 条件            | 簡単な語句や基本的な表現を用いて                                                                                                                                                   |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |            | できること         | （ア）挨拶をしたり、指示や依頼に応じたりすることができる（※基本的なやり取りに関する事柄に対応）<br>（イ）自分の考えや気持ちなどを述べ合うことができる（※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応）<br>（ウ）その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる（※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応） |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   | 話すこと（発表）   | 話題            | 自分のことや身近な事柄について                                                                                                                                                    |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |            | 条件            | 簡単な語句や基本的な表現を用いて                                                                                                                                                   |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |            | できること         | （ア）自分の考えや気持ちを話すことができる<br>（イ）自分の考えや気持ちを伝えようとする内容を整理した上で、話すことができる                                                                                                    |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   | 書くこと       | 話題            | 自分のことや相手のことについて<br>身近な事柄について                                                                                                                                       |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |            | 条件            | 音声で十分に慣れ親しんだ上で                                                                                                                                                     |               |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                   |            | できること         | 例となる語句や表現を参考に、自分の考えや気持ちなどを表す語句や表現を選んで書くことができる                                                                                                                      |               |



## 資質・能力の全体構造（素案）

| 小学校<br>(2/2) | 外国語 | 知識及び技能 | 統合的な理解                                                                       | 領域             | 内容項目例（第5学年相当）                                             |                                                                                           | 内容項目例（第6学年相当） |
|--------------|-----|--------|------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
|              |     |        | 音声、語彙、表現及び文構造並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせることで、英語による理解や表現の質を高めることを理解している。 | 英語の特徴等に関する事項   | ア 音声                                                      | 音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。また、聞いたり話したりする際に、音声の特徴に気づき、場面に応じて活用できる …             |               |
|              |     |        |                                                                              |                | イ 文字及び符号                                                  | 英語の文字を識別し、その読み方を発音したり、大文字、小文字を書いたりできるようにすることができる。また、符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面に応じて活用できる |               |
|              |     |        |                                                                              |                | ウ 語、連語及び慣用表現                                              | 語、連語及び慣用表現が用いられる場面において、音声を中心に意味や使い方を理解することができる …                                          |               |
|              |     |        |                                                                              |                | エ 文及び文構造                                                  | 日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、場面に応じて活用できる。なお、文を書き写す際には、語と語の区切りに注意して書き写すことができる                     |               |
|              |     |        |                                                                              | 【P】言語の働きに関する事項 | 次の事項について、使用される場面と関連付けながら、コミュニケーションを通して意味や働きを体験的に理解し、活用できる |                                                                                           |               |
|              |     |        |                                                                              |                | ア …                                                       | …                                                                                         |               |

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 中学校<br>(1/2) | 外国語 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 領域             |       | 内容項目例<br>(第1学年相当)                                                                                                                                  | 内容項目例<br>(第2学年相当) | 内容項目例<br>(第3学年相当) |
|--------------|-----|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-------------------|
|              |     |              | <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考えを形成することができる。【理解する】</li> <li>・ 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、表現等を工夫して他者に伝えることができる。【表現する】</li> <li>・ 相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え、気持ちなどを、相手に分かりやすいように表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を深めることができる。【伝え合う】</li> </ul> | 聞くこと           | 話題    | 日常的な話題について<br>身近な社会的な話題について                                                                                                                        |                   |                   |
|              |     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                | 条件    | 簡単な語句や文で、はっきりと話されれば                                                                                                                                |                   |                   |
|              |     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                | できること | (ア) 必要な情報を聞き取ることができる<br>(イ) 概要を捉えることができる<br>(ウ) 要点を捉えることができる                                                                                       |                   |                   |
|              |     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 読むこと           | 条件    | 簡単な語句や文で書かれた                                                                                                                                       |                   |                   |
|              |     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                | できること | (ア) 必要な情報を読み取ることができる<br>(イ) 概要を捉えることができる<br>(ウ) 要点を捉えることができる                                                                                       |                   |                   |
|              |     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                | 話題    | 日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について）<br>身近な社会的な話題について                                                                                      |                   |                   |
|              |     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                | 条件    | 簡単な語句や文を用いて                                                                                                                                        |                   |                   |
|              |     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 話すこと<br>(やり取り) | できること | (ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない）<br>(イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し伝え合うことができる<br>(ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる      |                   |                   |
|              |     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 話すこと<br>(発表)   |       | (ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない）<br>(イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる<br>(ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを話すことができる |                   |                   |
|              |     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 書くこと           |       | (ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる<br>(イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる<br>(ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる                      |                   |                   |

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 中学校（2/2） | 外国語 | 知識及び技能 | 統合的な理解                                                                              | 領域              | 内容項目例<br>（1 学年相当）                                                         | 内容項目例<br>（第 2 学年相当）                                                                            | 内容項目例<br>（第 3 学年相当） |
|----------|-----|--------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
|          |     |        | 音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解している。 | 英語の特徴やきまりに関する事項 | ア 音声                                                                      | 音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる                           |                     |
|          |     |        |                                                                                     |                 | イ 符号                                                                      | 符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面や状況に応じて活用できる                                                       |                     |
|          |     |        |                                                                                     |                 | ウ 語、連語及び慣用表現                                                              | 語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に、文脈に応じて活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、場面や状況に応じて活用できる      |                     |
|          |     |        |                                                                                     |                 | エ 文、文構造及び文法事項                                                             | 文、文構造及び文法事項の意味、形式及び働きを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる<br>・ 文 …<br>・ 文構造 …<br>・ 文法事項 … |                     |
|          |     |        |                                                                                     | 【P】言語の働きに関する事項  | 次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる |                                                                                                |                     |
|          |     |        |                                                                                     |                 | ア …                                                                       | …                                                                                              |                     |



## 資質・能力の全体構造（素案）

| 高等学校（2/2） | 外国語 | 知識及び技能 | 統合的な理解                                                                          | 領域              |                                                                           |                                                                                           |
|-----------|-----|--------|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
|           |     |        | 音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解している。 | 英語の特徴やきまりに関する事項 | ア 音声                                                                      | 音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる                      |
|           |     |        |                                                                                 |                 |                                                                           | …                                                                                         |
|           |     |        |                                                                                 |                 | イ 符号                                                                      | 符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面や状況に応じて活用できる                                                  |
|           |     |        |                                                                                 |                 |                                                                           | …                                                                                         |
|           |     |        |                                                                                 |                 | ウ 語、連語及び慣用表現                                                              | 語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に、文脈に応じて活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、場面や状況に応じて活用できる |
|           |     |        |                                                                                 |                 |                                                                           | …                                                                                         |
|           |     |        |                                                                                 |                 | エ 文、文構造及び文法事項                                                             | 文、文構造及び文法事項の意味、形式及び働きを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる                            |
|           |     |        |                                                                                 |                 |                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>文 …</li> <li>文構造 …</li> <li>文法事項 …</li> </ul>      |
|           |     |        |                                                                                 | 【P】言語の働きに関する事項  | 次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる |                                                                                           |
|           |     |        |                                                                                 |                 | ア …                                                                       | …                                                                                         |



## 資質・能力の全体構造（素案）

| 総合的な発揮                           |                                                                                                                                                                                                                    | 領域         |       |                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校（172）<br>外国語<br>思考力、判断力、表現力等 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、<br>・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、論理の構成・展開及び表現等を工夫して他者に適切に伝えることができる。【表現する】<br>・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、相手に分かりやすいように論理の構成・展開及び表現等を工夫して適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】 | 話すこと（やり取り） | 話題    | 日常的な話題について<br>身近なものを含む社会的な話題について                                                                                                                                                                                                   |
|                                  |                                                                                                                                                                                                                    |            | 条件    | 使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて                                                                                                                                                                                |
|                                  |                                                                                                                                                                                                                    |            | できること | （ア）情報や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合うやり取りが円滑に進むように方策を講じながら、会話を継続することができる（※日常的な話題に対応）<br>（イ）やり取りを通して必要な情報を得ることができる（※日常的な話題に対応）<br>（ウ）ディスカッションやディベートにおいて、聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、論理の構成・展開及び表現等を工夫して、情報や意見、主張などを話して伝え合うことができる                |
|                                  |                                                                                                                                                                                                                    | 話すこと（発表）   | 条件    | 使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて                                                                                                                                                                                |
|                                  |                                                                                                                                                                                                                    |            | できること | （ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、論理の構成・展開及び表現等を工夫して話して伝えることができる（※日常的な話題に対応）<br>（イ）スピーチやプレゼンテーションなどにおいて、聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、論理の構成・展開及び表現等を工夫して、情報や自分の意見、主張などを話して伝えることができる                                                                  |
|                                  |                                                                                                                                                                                                                    | 書くこと       | 条件    | 使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて                                                                                                                                                                                |
|                                  |                                                                                                                                                                                                                    |            | できること | （ア）オンライン上などで、情報や自分の考え、気持ちなどを書いて伝え合うやり取りを行うことができる（※日常的な話題に対応）<br>（イ）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、論理の構成・展開及び表現等を工夫して叙述文、説明文、意見文などを書いて伝えることができる<br>（ウ）聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、論理の構成・展開及び表現等を工夫して、叙述文、説明文、意見文などの形式で、情報や意見、主張などを書いて伝えることができる |

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 統合的な理解                                                                                   |                 | 領域                                                               |                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 音声、語彙、表現、文法及び論理の構成・展開並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解している。 | 英語の特徴やきまりに関する事項 | ア 音声                                                             | 音声の特徴を理解し、話す際に、場面や状況に応じて活用できる<br>…                          |
|                                                                                          |                 | イ 符号                                                             | 符号の意味や使い方を理解し、書く際に活用できる<br>…                                |
|                                                                                          |                 | ウ 語、連語及び慣用表現                                                     | 語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる<br>…     |
|                                                                                          |                 |                                                                  | …                                                           |
|                                                                                          |                 | エ 文、文構造及び文法事項                                                    | 文、文構造及び文法事項の意味と形式及び働きを理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる<br>…  |
|                                                                                          |                 |                                                                  | …                                                           |
|                                                                                          |                 | オ 論理の構成・展開及び表現                                                   | 様々な論理の構成・展開及びそれらに応じた表現を理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる<br>… |
|                                                                                          |                 |                                                                  | …                                                           |
|                                                                                          | 【P】言語の働きに関する事項  | 次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる |                                                             |
|                                                                                          | ア …             | …                                                                |                                                             |



**社会・地理歴史・公民WGにおける  
議論の補足イメージ及び  
教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**

# 社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ

## 現行の記載

- ・側面①「各教科等の学びの深まりを示す」観点と、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点が混在

## <地理>

### 【現行の見方・考え方】

#### 見方・考え方

- ・位置や空間的な広がり
- ・地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 位置や分布に関わる視点（絶対的、相対的、地域差など）
  - 場所に関わる視点（自然的、社会的など）
  - 人間と自然の相互依存関係に関わる視点（環境依存性、伝統的、改変、保全など）
  - 空間相互依存作用に関わる視点（関係性、相互性 など）
  - 地域に関わる視点（一般的共通性、地方的特殊性 など）

## <歴史>

### 【現行の見方・考え方】

#### 見方・考え方

- ・時期、推移など
- ・類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 時系列に関わる視点（時期、年代など）
  - 諸事象の推移に関わる視点（展開、変化、継続など）
  - 諸事象の比較に関わる視点（類似、差異、特色など）
  - 事象相互のつながりに関わる視点（背景、原因、結果、影響など）

## 見直し案

- ・新たな「**見方・考え方**」については、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点として、**当該分野等の本質を示す事項に焦点化**。
- ・**高次の資質・能力**については、側面①「各教科等の学びの深まりを示す事項」として、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等の内容に即して**具体的に示す**こととしてはどうか。

### 【新たな「見方・考え方」】

#### 新たな「見方・考え方」

- ・地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係など
- ・よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

### 【高次の資質・能力での記載事項】

- <視点>
- 位置や分布（**地域の空間的な広がり**に関わる視点）
  - 人間生活と自然環境との関係（**地域の環境**に関わる視点）
  - 地域間の結び付き（**地域の空間的な広がり**、**地域間の関係**に関わる視点）
  - スケール（**地域の空間的な広がり**、**地域間の関係**に関わる視点）
  - 変容（**地域の空間的な広がり**、**地域の環境**、**地域間の関係**に関わる視点）
- <方法>
- ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

### 【新たな「見方・考え方」】

#### 新たな「見方・考え方」

- ・時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなど
- ・よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

### 【高次の資質・能力での記載事項】

- <視点>
- 時期や年代（**時系列**に関わる視点）
  - 展開や変化（諸事象の**推移**に関わる視点）
  - 共通点や相違点（過去の歴史との**類似や差異**に関わる視点）
  - 背景や原因、結果や影響（**因果関係**に関わる視点）
- <方法>
- ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

# 社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ（案） <教科科目・分野一覧>

| 教科科目・分野                        | 現行の記載                                                                                                                                            | 見直し案                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校社会                          | 【社会的事象の見方・考え方】<br>社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること                                            | 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること                                                                                                                                     |
| 中学校社会<br>（地理的分野）               | 【社会的事象の地理的な見方・考え方】<br>社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること                                                       | 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること                                                                                                                                        |
| 高等学校地理歴史<br>（地理総合、地理探究）        | 【社会的事象の地理的な見方・考え方】<br>社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること                                                      |                                                                                                                                                                                                                                |
| 中学校社会<br>（歴史的分野）               | 【社会的事象の歴史的な見方・考え方】<br>社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること                                                                 | 社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること                                                                                                                                     |
| 高等学校地理歴史<br>（歴史総合、日本史探究、世界史探究） | 【社会的事象の歴史的な見方・考え方】<br>社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                |
| 中学校社会<br>（公民的分野）               | 【現代社会の見方・考え方】<br>社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること                                         | 社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること                                                                                                                                             |
| 高等学校公民<br>（公共）                 | 【人間と社会の在り方についての見方・考え方】<br>社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること | 社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること<br><br><div>（見方・考え方）<br/>●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。</div> |
| 高等学校公民<br>（倫理）                 | 【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】<br>社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること          |                                                                                                                                                                                                                                |
| 高等学校公民<br>（政治・経済）              | 【社会の在り方についての見方・考え方】<br>社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること                                 |                                                                                                                                                                                                                                |



## 教科の目標、見方・考え方（素案）

### 目標

|     | 知識及び技能                                                                                                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                     | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化に関する学習を通して社会生活に関する概念について理解する。</li> <li>様々な資料や調査活動を通して確かな情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を養う。</li> <li>考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</li> <li>自らの考えを問い返し、捉え直す力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象について，よりよい社会を考え見通しを立てたり，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度を養う。</li> <li>多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。</li> </ul> |

### 見方・考え方

- 社会的事象やその言説を，地域の空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して捉え，よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え，根拠に基づき公正に判断すること

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |      |                  | 知識及び技能                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                            |
|-----|------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |      |                  | 統合的な理解                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                  |
| 小学校 | 第3学年 | (1)身近な地域や市区町村の様子 | 白地図や年表，文などにまとめて，身近な地域や市区町村は，地形や交通，公共施設など様々な場所による違いがあること，時間の経過とともに移り変わってきたことなどを基に成り立っていることを理解する。                                   | 位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などの視点に着目して，市区町村の地理的環境や移り変わり，人々の生活の変化について考えたり，これからの市の発展を考えたりして，表現することができる。 |
|     |      |                  | 内容項目例（①身近な地域や市区町村の様子）                                                                                                             |                                                                                                         |
|     |      |                  | 都道府県内における市の位置，市の地形や土地利用，交通の広がり，市役所など主な公共施設の場所と働き，古くから残る建造物の分布などを，観察・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。                                | 都道府県内における市の位置，市の地形や土地利用，交通の広がり，市役所など主な公共施設の場所と働き，古くから残る建造物の分布などに着目して，場所による違いを考え，表現する。                   |
|     |      |                  | 内容項目例（②市の様子の移り変わり）                                                                                                                |                                                                                                         |
|     |      |                  | 自分たちの市は，時間の経過に伴い，交通網が整備されてきたこと，公共施設などが建設されてきたこと，土地利用の様子や人口が変化してきたこと，生活で使う道具などが改良され変わってきたことなどを，聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。 | 交通や公共施設，土地利用や人口，生活の道具などの時期による違いに着目して，それらの変化を考え，表現する。                                                    |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|             |                    | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                         |
|-------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                    | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                               |
| 小学校<br>第3学年 | (2)地域に見られる生産や販売の仕事 | 白地図や文などにまとめて、地域に見られる生産や販売の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることや消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めようと工夫して行われていることを理解する。                                                                                                      | 位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、生産や販売の仕事について多角的に考え、表現することができる。                                       |
|             |                    | 内容項目例                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                      |
|             |                    | (ア)地域には様々な生産に関する仕事があり、産地は市内に分布していること、一定の順序や工程があること、地域の人々の生活に使われていることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。<br>(イ)販売の仕事は、様々な工夫をして販売していること、商品や人を通して国内の他地域や外国とも関わりがあることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。 | (ア)仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、関連を考え、表現する。<br>(イ)消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現する。 |
|             | (3)地域の安全を守る働き      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                               |
|             |                    | 文や図などにまとめて、地域の安全を守る働きは、関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解する。                                                                                                                | 人々の相互関係などの視点に着目して、地域の安全を守る活動の様子について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。                          |
|             |                    | 内容項目例                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                      |
|             |                    | 緊急時は、関係機関がネットワークを活用して相互に連携すること、緊急事態が発生した時には、状況に応じて迅速かつ確実に事態に対処していることや、関係機関などが協力していること、地域の人々が対処していることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。                                                                | 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現する。                                                |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |      |            | 知識及び技能                                                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                        |
|-----|------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|     |      |            | 統合的な理解                                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                              |
| 小学校 | 第4学年 | (1)都道府県の様子 | <p>白地図や文などにまとめて、自分たちの都道府県は、地形や産業など特色があることや人々が協力して特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域があることなどを基に成り立っていることを理解する。</p>                                                   | <p>位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などの視点に着目して，県の地理的環境の特色や県内の地域の特色を考えて，表現することができる。</p> |
|     |      |            | 内容項目例（①都道府県の様子）                                                                                                                                              |                                                                                     |
|     |      |            | <p>国内における自分たちの県の位置，隣接する県との位置関係，県全体の地形や主な産業，交通網の様子や主な都市の位置などを、地図帳や各種の資料で調べることを通して、理解する。また、各都道府県の名称や日本地図上の位置などを理解する。</p>                                       | <p>我が国における自分たちの県の位置，県全体の地形や主な産業の分布，交通網や主な都市の位置などに着目して、地理的環境の特色を考え，表現する。</p>         |
|     |      |            | 内容項目例（②県内の特色ある地域の様子）                                                                                                                                         |                                                                                     |
|     |      |            | <p>県内には，地場産業が盛んな地域や国際交流に取り組んでいる地域，自然環境や伝統的な文化を保護・活用している地域など特色ある地域があること，それらの地域では，特色あるまちづくりを進めたり，人々の協力により観光などの産業を発展させたりしていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して、理解する。</p> | <p>特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，県内の地域の特色を考え，表現する。</p>               |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|             |                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                              |
|-------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校<br>第4学年 | (2)人々の健康や生活環境を支える事業 | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                                                                    |
|             |                     | 文や図などにまとめて、人々の健康や生活環境を支える事業は、地域の人々の健康な生活や生活環境の維持と向上に役立っており、地域の人々の生活を支えていることを理解する。                                                                                                                          | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、人々の健康や生活環境を支える事業について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。                     |
|             |                     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                           |
|             |                     | (ア)安全確保に努めていることや安定的に供給できるように進められていること、現在に至るまでに供給する仕組みが計画的に改善されてきたことなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。<br>(イ)廃棄物を安全かつ衛生的に処理していることや県内外の関係機関が相互に連携して処理したり再利用したりしていることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。 | (ア)供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスを供給する事業が果たす役割を考え、表現する。<br>(イ)処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物を処理する事業が果たす役割を考え、表現する。 |
|             | (3)自然災害から人々を守る活動    | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                                                                    |
|             |                     | 文や図などにまとめて、自然災害から人々を守る活動は、これまで関係機関や地域の人々が連携して対処してきたり、今後の災害に対して様々な備えをして、人々を自然災害から守っていることを理解する。                                                                                                              | 時期や時間の経過、人々の相互関係などの視点に着目して、自然災害から人々を守る活動の働きを多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。                                      |
|             |                     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                           |
|             |                     | 県内で過去に自然災害が発生していること、発生した際には県や市、関係機関や地域の人々が協力して対処してきたことや、関係機関と地域の人々は、起こり得る自然災害による被害を防いだり減らしたりするための備えをしていることなどを、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりすることを通して、理解する。                                                      | 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、活動の働きを考え、表現する。                                                                              |



## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |      |                   | 知識及び技能                                                                                                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                 |
|-----|------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |      |                   | 統合的な理解                                                                                                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                       |
| 小学校 | 第4学年 | (4)県内の伝統や文化、先人の働き | 年表や文などにまとめて、県内の伝統や文化は、地域の人々が受け継いできたことや、地域の発展など人々の様々な願いが込められていること、先人の働きは、地域の人々の生活の向上に貢献したことを理解する。                                                                                              | 位置や空間的な広がり事象や人々の相互関係などの視点に着目して、人々の願いや努力を考えたり、地域の人々の生活の向上に貢献した先人の働きについて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。   |
|     |      |                   | 内容項目例                                                                                                                                                                                         |                                                                                                              |
|     |      |                   | <p>(ア)文化財や年中行事が受け継がれていること、それらは地域の歴史を伝えるものであることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。</p> <p>(イ)先人は様々な苦心や努力を重ねて業績を成し遂げたことや、当時の人々の生活の向上や地域の発展に大きく貢献したことなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。</p> | <p>(ア)歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、人々の願いや努力を考え、表現する。</p> <p>(イ)当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、先人の働きを考え、表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|             |                   | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                    |
|-------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                   | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                                          |
| 小学校<br>第5学年 | (1)我が国の国土の様子と国民生活 | 文や図などにまとめて、我が国の国土やその領域では、その自然条件と人々の生活や産業、国土の環境保全が関連して行われていることを理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、自然条件と国民生活の関連や国土の環境保全について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。                                                       |
|             |                   | 内容項目例（①我が国の国土の様子と国民生活）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                 |
|             |                   | <p>(ア)世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して大まかに理解する。</p> <p>(イ)我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p>                                                                                                                                                                                                       | <p>(ア)世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の特色を考え、表現する。</p> <p>(イ)地形や気候などに着目して、国土の自然環境の特色や国土の特色と国民生活との関連を考え、表現する。</p>                                |
|             |                   | 内容項目例（②我が国の国土の自然環境と国民生活との関連）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                 |
|             |                   | <p>(ア)我が国では、国土の自然条件との関係から様々な自然災害が起こりやすいこと、これからも発生する可能性があること、国や県などは、災害の種類や国土の自然条件に応じた対策や事業を進めていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(イ)我が国は、国土に占める森林面積の割合が高いこと、森林は国土の保全や水源の涵養などに大切な働きをしていること、森林はその育成や保護に従事している人々の取組により維持・管理されていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(ウ)我が国では、公害が発生して国民の健康や生活環境が脅かされてきたことや多くの人々の努力や協力により改善が図られてきたことなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。</p> | <p>(ア)災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、自然条件との関連を考え、表現する。</p> <p>(イ)森林資源の分布や働きなどに着目して、森林資源が果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(ウ)公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組の働きを考え、表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |      |                       | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                |
|-----|------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |      |                       | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                         | 総合的な発揮                                                                                                                                      |
| 小学校 | 第5学年 | (2)我が国の農業や水産業における食料生産 | <p>文や図などにまとめて、我が国の食料生産は、国土の自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解する。</p>                                                                                                                                                               | <p>位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、食料生産が国民生活に果たす役割を考えたり、これからの農業などの発展について多角的に考えたりして、表現することができる。</p>                                 |
|     |      |                       | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                             |
|     |      |                       | <p>(ア)食料生産は国民の食生活を支えていること、食料の生産量は国民生活と関連して変化していること、食料の中には外国から輸入しているものがあることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(イ)農業や水産業の盛んな地域の人々が、生産性や品質を高めるなど様々な工夫や努力を行っていること、費用が発生すること、輸送方法や販売方法を工夫することにより収益を上げていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p> | <p>(ア)生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(イ)生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の働きを考え、表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |      |             | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                       |
|-----|------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |      |             | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                                                                             |
| 小学校 | 第5学年 | (3)我が国の工業生産 | 文や図などにまとめて、我が国の工業生産は、消費者の需要や社会に対応して行われていることや、国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                         | 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、工業生産が国民生活に果たす役割を考えたり、これからの工業の発展について多角的に考えたりして、表現することができる。                                                                                 |
|     |      |             | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                    |
|     |      |             | <p>(ア)我が国では様々な種類の工業生産が行われ、工業が盛んな地域は全国各地に分布していること、工業製品の改良と国民生活の向上とは深い関わりがあることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(イ)工場で働く人々は様々な工夫や協力をしていること、工業生産には様々な工場が関連していること、優れた技術を生かして消費者の需要や社会の発展に応える研究開発などの努力を行っていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(ウ)原材料や工業製品の輸出入の特色や、輸出入や出荷には、海上輸送、航空輸送、陸上輸送などが使われていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p> | <p>(ア)工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(イ)製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、我が国の工業生産の働きを考え、表現する。</p> <p>(ウ)交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の役割を考え、表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |      |                   | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                        |
|-----|------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |      |                   | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                                                              |
| 小学校 | 第5学年 | (4)我が国の産業と情報との関わり | 文や図などにまとめて、情報を活用して発展する産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることや国民生活を向上させていることを理解する。                                                                                                                                                                                                                      | 時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、情報の活用や、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について多角的に考えたりして、表現することができる。                                               |
|     |      |                   | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                     |
|     |      |                   | <p>(ア)放送、新聞などの産業は、正確な情報を分かりやすく速く伝えるために多種多様な情報を収集し、選択・加工していること、様々な情報媒体を活用していることなどを、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりすることを通して理解する。</p> <p>(イ)多様で大量の情報を瞬時に収集・発信し、それらを活用することで産業が変化し発展していること、国民が情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを享受でき、生活が向上していることなどを、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりすることを通して理解する。</p> | <p>(ア)情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送や新聞などの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(イ)情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現する。</p> |



## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |      |              | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                   |
|-----|------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |      |              | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 統合的な発揮                                                                                                                                         |
| 小学校 | 第6学年 | (1)我が国の政治の働き | <p>文や図などにまとめて、我が国の政治は、日本国憲法の基本的な考え方に基づいて行われていることや、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図っていることを理解する。</p>                                                                                                                                                                                                                       | <p>事象や人々の相互関係などの視点に着目して、我が国の政治の働きについて、様々な面から考えたり、国民としての政治への関わり方について多角的に考えたりして、表現することができる。</p>                                                  |
|     |      |              | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                |
|     |      |              | <p>(ア)日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを、見学・調査したり各種の資料で調べたりすることを通して理解する。</p> <p>(イ)国や地方公共団体の政治は国民生活と密接な関係をもっていること、それらの政治は国民主権の考え方を基本として、国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることなどを、見学・調査したり各種の資料で調べたりすることを通して理解する。</p> | <p>(ア)日本国憲法の基本的な考え方に着目して、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現する。</p> <p>(イ)政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国民生活における政治の働きを考え、表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |      |                 | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                    |
|-----|------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |      |                 | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                          |
| 小学校 | 第6学年 | (2)我が国の歴史上の主な事象 | <p>文や図などにまとめて、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、我が国は長い歴史をもち伝統や文化を育んできたことを理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>時期や時間の経過などの視点に着目して、先人の業績を政治や経済、世界との関わりなどの様々な面から、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。</p> |
|     |      |                 | <p>内容項目例</p> <p>遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、次のことを理解する。</p> <p>(ア)狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したこと、その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと</p> <p>(イ)大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたこと</p> <p>(ウ)貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたこと</p> <p>(エ)源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったこと</p> <p>(オ)京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたこと</p> <p>(カ)キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたこと</p> <p>(キ)江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したこと</p> <p>(ク)歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったこと</p> <p>(ケ)黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたこと</p> <p>(コ)大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したこと</p> <p>(サ)日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと</p> | <p>世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現する</p>                           |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |      |                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                        |
|-----|------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |      |                     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                         | 総合的な発揮                                                                                                                                                              |
| 小学校 | 第6学年 | (3)グローバル化する世界と日本の役割 | <p>文や図などにまとめて、我が国は、他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であること、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解する。</p>                                                                                                                      | <p>位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、国際交流の果たす役割や国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、世界の人々と共に生きていくために大切なことや、我が国が国際社会において果たすべき様々な役割などを多角的に考えたり選択・判断したりして、表現することができる。</p> |
|     |      |                     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                     |
|     |      |                     | <p>(ア)外国の人々の生活の様子には違いがあること、その違いがその国の文化や習慣を特徴付けていること、国際的なスポーツ交流や様々な文化を通じた国際交流が行われていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p> <p>(イ)国際連合の役割や我が国が平和な国際社会や諸外国の発展に貢献していること、今後も国際社会の平和と発展のために果たさなければならない責任と義務があることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。</p> | <p>(ア)外国の人々の生活の様子などに着目して、国際交流の果たす役割を考え、表現する。</p> <p>(イ)地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現する。</p>                                           |

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|                                      | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                     | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校<br>社会<br>地理的分野<br>歴史的分野<br>公民的分野 | <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関する学習を通して社会的事象に関する概念について理解する。</li> <li>調査や諸資料から確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> </ul>                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を，資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力を養う。</li> <li>思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を見だし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>                                      |
|                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の国土及び世界の諸地域に関して，地域の諸事象や地域的特色を理解する。</li> <li>調査や諸資料から地理に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> </ul>                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，地域の空間的な広がり，地域の環境，地域間の関係などに着目して，多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養う。</li> <li>思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本や世界の地域に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究，解決しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>                                             |
|                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特徴を踏まえて理解する。</li> <li>諸資料から歴史に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> </ul>                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時系列，推移，類似と差異，因果や現在とのつながりなどに着目して，多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力を養う。</li> <li>思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし，自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究，解決しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情，国民としての自覚，国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深め，国際協調の精神を養う。</li> </ul> |
|                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し，民主主義，民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動との関わり，現代の社会生活及び国際関係などについて，個人と社会との関わりを中心に理解を深める。</li> <li>諸資料から現代の社会的事象に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力を養う。</li> <li>思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の社会的事象について，現代社会に見られる課題を見だし，自らの学びを振り返りながら解決を視野に主体的かつ協働的に社会に関わりようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>                                    |

## 見方・考え方

- 【地理】 社会的事象やその言説を，地域の空間的な広がり，地域の環境，地域間のつながりなどに着目して捉え，よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え，根拠に基づき公正に判断すること
- 【歴史】 社会的事象やその言説を，時系列，推移，類似や差異，因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え，よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え，根拠に基づき公正に判断すること
- 【公民】 社会的事象やその言説を，政治，法，経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え，よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え，根拠に基づき公正に判断すること

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |              |         | 知識及び技能                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                |
|-----|-----------|--------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |              |         | 統合的な理解                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                      |
| 中学校 | 社会(地理的分野) | A 世界と日本の地域構成 | (1)地域構成 | 緯度や経度，世界の大陸分布や日本の領域などを対象として，世界と日本の様々な地域を学習するための大まかな地域構成の特色を理解する。                                                                                    | 位置や分布などに関わる視点に着目して，世界と日本の空間的な広がりについて，世界や日本の諸事象や様々な地域の特色を学ぶ座標軸である地域構成を大観して，多面的・多角的に考察し，表現することができる。                           |
|     |           |              |         | 内容項目例                                                                                                                                               |                                                                                                                             |
|     |           |              |         | (ア)①から③について，世界の地域構成を大まかに捉えて理解する。<br>①緯度と経度，②大陸と海洋の分布，<br>③主な国々の名称と位置<br>(イ)①から③について，日本の地域構成を大まかに捉えて理解する。<br>①我が国の国土の位置，②世界各地との時差，<br>③領域の範囲や変化とその特色 | (ア)世界の地域構成の特色を，大陸と海洋の分布や主な国の位置，緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し，表現する<br>(イ)日本の地域構成の特色を，周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し，表現する |



## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |           |                   | 知識及び技能                                                                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                     |
|-----|-----------|-----------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | 社会(地理的分野) | B世界の様々な地域 | (1)世界の各地の人々の生活と環境 | 統合的な理解                                                                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                           |
|     |           |           |                   | 世界の多様な地域を対象として、世界各地の人々の生活が、自然的及び社会的条件から影響を受けたり、条件に影響を与えたりしながら多様性が生じることを理解する。                                                                                          | 人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、世界の多様な地域における人々の生活について、その特色や変容の理由を、自然的及び社会的な影響から多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                             |
|     |           |           |                   | 内容項目例                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                  |
|     |           |           |                   | (ア)人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解する。<br>(イ)世界の人々の生活や変容による環境の多様性を理解する。その際、世界の主な宗教の分布を理解する。                                        | 世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。                                                                          |
|     |           |           | (2)世界の諸地域         | 統合的な理解                                                                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                           |
|     |           |           |                   | 世界の各州を対象として、地域内で見られる地球的課題と関連付けながら地域的特色を理解する。                                                                                                                          | 地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響を多面的・多角的に考察したり、地球的課題をその地域的特色や変容の過程と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。                              |
|     |           |           |                   | 内容項目例                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                  |
|     |           |           |                   | ①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア<br>上の①から⑥の各州について<br>(ア)世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。<br>(イ)世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大まかに捉えて理解する。 | ①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア<br>上の①から⑥までの世界の各州において、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、それらの地域的特色と関連付けて大観し、多面的・多角的に考察し、表現する。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |                  | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                           |                                                                                                                              |
|-----|-----------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                                                                                                 |                                                                                                                              |
| 中学校 | 社会(地理的分野) | C日本の様々な地域        | (1)地域調査の手法                                                                                                                                                                                                                                         | 学校周辺の地域を対象として地形図や主題図の読み取りや作成の技能を活用しながら、地域の特色を明らかにするために地域調査の手法を理解する。                                                                                    | 人間生活と自然環境との関係などに関わる視点に着目して、学校周辺の地域について主題を設定し、文献や調査から地理的な事象を見出し、事象同士を関連付けて追究してまとめることを通して、地域調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 |
|     |           |                  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                        |                                                                                                                              |
|     |           |                  | (ア)観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。<br>(イ)地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。                                                                                                                                                         | 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する。                                                                             |                                                                                                                              |
|     |           | (2)日本の地域的特色と地域区分 | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                                                                                                 |                                                                                                                              |
|     |           |                  | 日本を複数の項目について区分することで、区分された特色ある地域から日本が構成されていることや、日本全体の地域的特色を理解する。                                                                                                                                                                                    | 位置や分布、人間と自然環境との関係、スケールなどに関わる視点に着目して、複数の項目について日本を地域区分し、区分された地域の共通点や差異、分布から、日本の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                             |                                                                                                                              |
|     |           |                  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                        |                                                                                                                              |
|     |           |                  | ①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信の項目を取り上げ、以下の(ア)から(オ)を理解し、(カ)の技能を身に付ける。<br>(ア)日本の自然環境に関する特色<br>(イ)日本の人口に関する特色<br>(ウ)日本の資源・エネルギーと産業に関する特色<br>(エ)国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色<br>(オ)(ア)から(エ)までを踏まえた我が国の国土の特色を大まかに捉える<br>(カ)日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能 | ・ ①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信を取り上げ、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。<br>・ 日本の地域的特色を、①から④の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 |                                                                                                                              |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |                                                                              | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                  |
|-----|-----------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |                                                                              | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                  |
| 中学校 | 社会(地理的分野) | C日本の様々な地域                                                                    | (3)日本の諸地域                                                                                                                                                                                                                  | 幾つかに区分した日本の諸地域を対象として、日本の諸地域の地域的特色や課題を理解する。                                                                                                                                                                                | 地域間の結び付きやスケール、変容などの視点に着目して、日本の諸地域における地域の特徴を、適切な事象を取り上げ、他の事象や課題と有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 |
|     |           |                                                                              | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                  |
|     |           |                                                                              | (ア)幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解する。<br>(イ)以下の①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。<br>① 自然環境を中核とした考察の仕方<br>② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方<br>③ 産業を中核とした考察の仕方<br>④ 交通や通信を中核とした考察の仕方<br>⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方 | 日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。<br>① 自然環境を中核とした考察の仕方<br>② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方<br>③ 産業を中核とした考察の仕方<br>④ 交通や通信を中核とした考察の仕方<br>⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方 |                                                                                                  |
|     |           |                                                                              |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                  |
|     |           |                                                                              | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                  |
|     | (4)地域の在り方 |                                                                              | 分野のまとめとして、適切な地域や課題を取り上げ、持続可能な社会づくりの視点から、課題解決に向けて考察、構想したことを適切に表現する手法を理解する。                                                                                                                                                  | 地域的な課題解決の取組に関する理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などの視点に着目して、地域で見られる地理的な課題について、持続可能な社会づくりの視野から、類似の課題が見られる他の地域と比較したり、関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。                                                                            |                                                                                                  |
|     |           | 内容項目例                                                                        |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                  |
|     |           | (ア)地域の実態や課題解決のための取組を理解する。<br>(イ)地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法を理解する。 | 地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                  |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |          |           | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----|-----------|----------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |          |           | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 中学校 | 社会(歴史的分野) | A 歴史との対話 | (1)歴史との対話 | 過去からの経緯を理解するための情報を獲得する方法や、時間軸で整理する技能を用いて、小学校の学習で扱った人物や出来事が、過去の資料に基づいて記述されていることや、現在の身近な地域の景観や特徴が、歴史的な経緯によって形成されていることを理解する。                                                                                                                                                           | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、小学校での学習で獲得した知識を時間軸で整理したり、地域などの空間を設定し、根拠を踏まえて現在の景観や特徴につながる過去の事象との関わりや、時代区分との関わりについて整理して考察し、表現することができる。                                                                                                                                                        |
|     |           |          |           | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|     |           |          |           | <p>(ア)(私たちと歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年代の表し方や時代区分の意味や意義を理解する。</li> <li>資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりする技能を身に付ける。</li> </ul> <p>(イ)(身近な地域の歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。</li> </ul> | <p>(ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時代区分や時期区分が多様であることや、基本的な区分について、相互の関係について理解する。</li> <li>時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現する。</li> </ul> <p>(イ)比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |               |             | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----|-----------|---------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |               |             | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|     |           |               |             | 列島周辺地域との関係を背景に、日本列島に国家が形成され、アジア諸地域との関係をもちながら、吸収・再構成しながら政治のしくみが整えられたり、特徴的な文化が育まれたことについて理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、古代の日本について多面的・多角的に考察し、国家・社会の形成などについて時代の特徴を大観して表現することができる。                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|     |           |               |             | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 中学校 | 社会(歴史的分野) | B 近世までの日本とアジア | (1) 古代までの日本 | <p>(ア)(世界の古代文明や宗教のおこり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①及び②などを題材に、世界の各地で文明が築かれたことを理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①世界の古代文明</li> <li>②宗教のおこり</li> </ul> </li> </ul> <p>(イ)(日本列島における国家形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①及び②などを題材に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰</li> <li>②大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わり</li> </ul> </li> </ul> <p>(ウ)(律令国家の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①及び②などを題材に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①律令国家の確立に至るまでの過程</li> <li>②摂関政治</li> </ul> </li> </ul> <p>(I)(古代の文化と東アジアとの関わり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①及び②などを題材に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①仏教の伝来とその影響</li> <li>②仮名文字の成立</li> </ul> </li> </ul> | <p>(ア)古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ)農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(ウ)東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(I)東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の文化と東アジアとの関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |



## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |                  |          | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----|-----------|------------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |                  |          | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 中学校 | 社会(歴史的分野) | B<br>近世までの日本とアジア | (2)中世の日本 | 列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の中で展開したことや、その中で民衆の成長により形成された社会や多様な文化について理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。                                                                                                                                                                   |
|     |           |                  |          | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|     |           |                  |          | (ア)(武家政治の成立とユーラシアの交流)<br>・ 次の①及び②などを題材に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まった、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。<br>①鎌倉幕府の成立<br>②元寇(モンゴル帝国の襲来)<br><br>(イ)(武家政治の展開と東アジアの動き)<br>・ 次の①及び②などを題材に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解する。<br>①南北朝の争乱と室町幕府<br>②日明貿易と琉球の国際的な役割<br><br>(ウ)(民衆の成長と新たな文化の形成)<br>・ 次の①から④などを題材に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。<br>①農業など諸産業の発達<br>②畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立<br>③武士や民衆などの多様な文化の形成<br>④応仁の乱後の社会的な変動 | (ア)武士の政治への進出、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察し、表現する。<br><br>(イ)武士の政治の展開、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の展開と東アジアの動きについて、多面的・多角的に考察し、表現する。<br><br>(ウ)農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、民衆の成長と新たな文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|                                   |          |  |  | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                                                          |
|-----------------------------------|----------|--|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                   |          |  |  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                     | 統合的な発揮                                                                                                |
| 中学校<br>社会(歴史的分野)<br>B 近世までの日本とアジア | (3)近世の日本 |  |  | <p>ヨーロッパの諸勢力との接触や列島周辺地域との関係を背景に、統一政権の形成や、その諸政策によって生み出された安定的なつながりが経済活動や文化の発達を促したことや、その後の国内外の情勢の変化への対応について理解する。</p>                                                                                                                                          | <p>時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。</p> |
|                                   |          |  |  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                       |
|                                   |          |  |  | <p>(ア)(世界の動きと統一事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①から③などを題材に、近世社会の基礎がつけられたことを理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①ヨーロッパ人来航の背景とその影響</li> <li>②織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、</li> <li>③武将や豪商などの生活文化の展開</li> </ul> </li> </ul> | <p>(ア)交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、文化の担い手の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>   |
|                                   |          |  |  | <p>(イ)(江戸幕府の成立と対外関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①から③などを題材に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①江戸幕府の成立と大名統制</li> <li>②身分制と農村の様子</li> <li>③鎖国などの幕府の対外政策と対外関係</li> </ul> </li> </ul>              | <p>(イ)幕府の政策の目的と社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>                    |
|                                   |          |  |  | <p>(ウ)(産業の発達と町人文化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①及び②などを題材に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①産業や交通の発達</li> <li>②教育の普及と文化の広がり</li> </ul> </li> </ul>                          | <p>(ウ)産業の発達と文化の担い手の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発達と町人文化について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>                     |
|                                   |          |  |  | <p>(イ)(幕府の政治の展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①から③などを題材に、幕府の政治の社会変化への対応を理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①社会の変動や欧米諸国の接近</li> <li>②幕府の政治改革</li> <li>③新しい学問・思想の動き</li> </ul> </li> </ul>                           | <p>(イ)社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、幕府の政治の展開について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>                        |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |             |                 | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----|-----------|-------------|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |             |                 | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 中学校 | 社会(歴史的分野) | C 近現代の日本と世界 | (1)近代(前半)の日本と世界 | <p>欧米諸国の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、社会や対外的な状況の変化への対応が求められ、新たな制度や文化の導入とそれまでの社会とのつながりの中で、日本の近代国家のしくみや近代的な社会や文化が形成されたことを理解する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代前半の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|     |           |             |                 | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|     |           |             |                 | <p>(ア)(欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①及び②などを題材に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①欧米諸国における産業革命や市民革命</li> <li>②アジア諸国の動き</li> </ol> </li> </ul> <p>(イ)(明治維新と近代国家の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①から③などを題材に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①開国とその影響</li> <li>②富国強兵・殖産興業政策</li> <li>③文明開化の風潮</li> </ol> </li> </ul> <p>(ウ)(議会政治の始まりと国際社会との関わり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①から④などを題材に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①自由民権運動</li> <li>②大日本帝国憲法の制定</li> <li>③日清・日露戦争</li> <li>④条約改正</li> </ol> </li> </ul> <p>(エ)(近代産業の発展と近代文化の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①から③などを題材に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①我が国の産業革命</li> <li>②近代化と国民生活の変化</li> <li>③学問・教育・科学・芸術の発展</li> </ol> </li> </ul> | <p>(ア)工業化の進展と政治や社会の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ)工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(ウ)議会政治や外交の展開、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(エ)工業化の進展と政治や社会の変化、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代産業の発展と近代文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |             |                 | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                 |
|-----|-----------|-------------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |             |                 | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 統合的な発揮                                                                                                                                                                                                       |
| 中学校 | 社会(歴史的分野) | C 近現代の日本と世界 | (2)近代(後半)の日本と世界 | 国際社会の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、国際情勢の推移とその対応が政治や社会の変化を促したことや、戦争による惨禍が繰り返された経緯から国際協調の意義について理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代後半の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現代の諸課題の解決に向けた手掛かりについて構想し、表現することができる。                                                                         |
|     |           |             |                 | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                              |
|     |           |             |                 | <p>(ア)(第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①から③などを題材に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する。               <ol style="list-style-type: none"> <li>①第一次世界大戦の背景とその影響</li> <li>②民族運動の高まりと国際協調の動き</li> <li>③我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化</li> </ol> </li> </ul> <p>(イ)(第二次世界大戦と人類への惨禍)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①から⑤などを題材に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。               <ol style="list-style-type: none"> <li>①経済的世界的な混乱と社会問題の発生</li> <li>②昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の政治・外交の動き</li> <li>③中国などアジア諸国との関係</li> <li>④欧米諸国の動き</li> <li>⑤戦時下の国民の生活</li> </ol> </li> </ul> | <p>(ア)世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ)経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |             |             | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                   |
|-----|-----------|-------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |             |             | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 統合的な発揮                                                                                                                                                                         |
| 中学校 | 社会（歴史的分野） | C 近現代の日本と世界 | (3)現代の日本と世界 | 世界の動向を背景に、冷戦下の日本の政治や経済の動きと社会の形成、冷戦後の国際社会との関係について理解するとともに、それらと現在の社会とのつながりについて理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながり、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、第二次世界大戦後の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現在と未来の日本や世界の在り方について構想し、表現することができる。                            |
|     |           |             |             | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                |
|     |           |             |             | <p>(ア)(日本の民主化と冷戦下の国際社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①から③などを題材に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①冷戦</li> <li>②我が国の民主化と再建の過程</li> <li>③国際社会への復帰</li> </ul> </li> </ul> <p>(イ)(日本の経済の発展とグローバル化する世界)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の①及び②などを題材に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①高度経済成長と国際社会との関わり</li> <li>②冷戦の終結とグローバル化する世界とその中の日本</li> </ul> </li> </ul> | <p>(ア)諸改革の展開と国際社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ)政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |



## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |            |                       | 知識及び技能                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                              |
|-----|-----------|------------|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |            |                       | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                                                    |
| 中学校 | 社会(公民的分野) | A 私たちと現代社会 | (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色 | 位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などの視点に基づき、現代日本の社会を特色付ける課題について、グローバル化や文化の意義及び影響と関連付けて理解する。                                | 位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などの視点に着目して、現代社会に見られる課題が将来の政治、経済、文化、国際関係に与える影響について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。                                               |
|     |           |            |                       | 内容項目例                                                                                                         |                                                                                                                                           |
|     |           |            |                       | (ア)現代日本の特色として情報化、グローバル化、少子高齢化に伴う影響や課題などが見られること<br>(イ)現代社会における文化の意義や影響                                         | 位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などに着目して、<br>・ 情報化、グローバル化、少子高齢化に伴う影響や課題などが現在と将来の私たちの生活に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現する<br>・ 文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現する |
|     |           |            |                       | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                                                    |
| 中学校 | 社会(公民的分野) | A 私たちと現代社会 | (2) 現代社会を捉える枠組み       | 個人の尊厳と両性の本質的平等を基礎とする現代社会を捉える基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などを理解した上で、合意を定めるきまり・契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任を理解する。         | 対立と合意、効率と公正などの現代社会を捉える基礎となる枠組みに着目して、望ましい合意の在り方や合意を実現するために必要な事柄などについて、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。                                                 |
|     |           |            |                       | 内容項目例                                                                                                         |                                                                                                                                           |
|     |           |            |                       | (ア)人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等<br>(イ)現代社会の見方や考え方の基礎となる枠組みとしての対立と合意、効率と公正<br>(ウ)契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任 | 対立と合意、効率と公正などに着目して、<br>・ 社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する                                                      |
|     |           |            |                       | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                                                    |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

## 資質・能力の全体構造(素案)

|       |           |          |                                                                                                                                                                      | 知識及び技能                                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                       |
|-------|-----------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |           |          |                                                                                                                                                                      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                             |
| 中学校   | 社会(公民的分野) | B 私たちと経済 | (1) 市場の働きと経済                                                                                                                                                         | 分業と交換などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき、経済に関する仕組みと身近な経済活動に見られる諸事象を結び付けた、経済活動の意義について理解した上で、それと関連付けて、市場の働きと経済を理解する。                                                                                     | 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性、誠実性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して、より活発な経済活動と個人の尊重を両立させることが重要であることを踏まえた、豊かな経済活動の実現とその方法について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。     |
|       |           |          |                                                                                                                                                                      | 内容項目例                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                    |
|       |           |          |                                                                                                                                                                      | (ア)身近な消費生活を中心に経済活動の意義<br>(イ)市場における価格の決め方や資源の配分などを含めた、市場経済の基本的な考え方<br>(ウ)現代の生産や金融などの仕組みや働き<br>(エ)勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神                                                                | 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性、誠実性などに着目して、<br>・個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現する<br>・社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現する |
|       |           |          | (2) 国民の生活と政府の役割                                                                                                                                                      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                             |
|       |           |          |                                                                                                                                                                      | 分業と交換などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき、国や地方公共団体の財政に関する仕組みとそれらの意義などについて理解した上で、それと関連付けて、すべての経済主体が連携・協働を図ることの意味を理解する。                                                                                   | 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性、誠実性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して、すべての経済主体が連携・協働を図ることが効果的であることを踏まえた、現代社会に見られる課題の解決とその方法について、具体的な事例を挙げて、考察、構想し、表現する。 |
| 内容項目例 |           |          |                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                    |
|       |           |          | (ア)社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、人口減少社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義<br>(イ)財政及び租税の意義、国民の納税の義務<br>(ウ)現代社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能 | 対立と合意、効率と公正、希少性、誠実性、分業と交換などに着目して、国や地方公共団体の財政に関する役割を踏まえて、社会に参画する主体としての自覚の基礎を育成することに向けて、<br>・市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する<br>・財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現する |                                                                                                                                    |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |           |          |                      | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                       |
|-----|-----------|----------|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |           |          |                      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                                                                                             |
| 中学校 | 社会(公民的分野) | C 私たちと政治 | (1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 | 個人の尊重などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき、個人が尊重され協働の利益が確保される国家・社会を形成するために憲法が果たす意義について理解した上で、それと関連付けて、日本国憲法の基本原則を理解する。                                                                                                                                                 | 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して、現代社会の課題を解決するために、憲法に基づいて政治が行われることや日本国憲法の基本原則が果たす意義について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。                                      |
|     |           |          |                      | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                    |
|     |           |          |                      | (ア)人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義<br>(イ)民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であること<br>(ウ)日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原則としていること<br>(エ)日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為                                                                                          | 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、<br>・我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する                                                                           |
|     |           |          |                      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                                                                                             |
| 中学校 | 社会(公民的分野) | C 私たちと政治 | (2)民主政治と政治参加         | 個人の尊重などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき、国民の政治参加の意義について理解した上で、それと関連付けて、地方自治や我が国の民主政治の考え方を理解する。                                                                                                                                                                       | 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して、社会に参画する主体として、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚などを育成することに向けて、政治参加に関する具体的な課題を挙げて、望ましい政治参加の在り方について考察、構想し、表現する。           |
|     |           |          |                      | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                    |
|     |           |          |                      | (ア)国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割<br>(イ)議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方<br>(ウ)国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること<br>(エ)地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務<br>(オ)現代社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能 | 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、社会に参画する主体として、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、<br>・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する |
|     |           |          |                      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                                                                                             |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|     |                |           |                  | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                 |
|-----|----------------|-----------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |                |           |                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                       |
| 中学校 | D 私たちと国際社会の諸課題 | 社会(公民的分野) | (1)世界平和と人類の福祉の増大 | <p>持続可能性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに基づき、国際社会に関する基本的な事項、国際社会の現状などについて理解した上で、それと関連付けて、世界平和の実現と人類の福祉の増大に向けて、地球規模の諸課題の解決のために国際協調や協力などが大切であることを個人と社会の関わりを中心に理解を深める。</p>                                                                                                                                                   | <p>対立と合意，効率と公正，協調，持続可能性などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して，主体的に社会に関わることに向けて，世界平和のために私たちにできることについて，考察，構想したことを説明したり，それらをもとに議論したりする。</p>                                                                    |
|     |                |           |                  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                              |
|     |                |           |                  | <p>(ア)世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには，国際協調の観点から，国家間の相互の主権の尊重と協力，各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構や国際法などの役割が大切であること</p> <p>(イ)領土(領海，領空を含む。)の，国家主権，国際連合をはじめとする国際機構，国際法など基本的な事項</p> <p>(ウ)地球環境，資源・エネルギー，貧困などの課題の解決のために経済的，技術的な協力などが大切であること</p> <p>(エ)国際社会に見られる課題に関わる諸資料から，社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能</p> | <p>対立と合意，効率と公正，協調，持続可能性などのに着目して，国際社会に参画する主体としての自覚の基礎を育成することに向けて，</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法の平和主義を基に，我が国の安全と防衛，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察，構想し，表現する。</li> </ul> |
|     |                |           |                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                       |
|     |                |           | (2)よりよい社会を目指して   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>社会的な視点や方法等を用いて，現代の社会的事象から課題を見だし，社会参画を視野に入れながら，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，考察，構想し，自分の考えを説明，論述することを通して，私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。</p>                                                   |
|     |                |           |                  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                              |
|     |                |           |                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>持続可能な社会を形成することに向けて，社会的な視点や方法等を用いて，</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について，社会参画を視野に入れながら，多面的・多角的に考察，構想し，自分の考えを説明，論述する。</li> </ul>                       |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。



## 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|      | 知識及び技能       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                 | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                            |
|------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | <b>地理歴史</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力を養う。</li> <li>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>               |
|      | <b>地理総合</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。</li> <li>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul> |
|      | <b>地理探究</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。</li> <li>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>    |
|      | <b>歴史総合</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。</li> <li>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>           |
|      | <b>日本史探究</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。</li> <li>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>              |
|      | <b>世界史探究</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。</li> <li>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>        |

## 見方・考え方

- 【地理総合・地理探究】
- 社会的な事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間のつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【歴史総合、日本史探究、世界史探究】
- 社会的な事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること



## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |      |                       |                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                              |
|------|------|-----------------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                       |                     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                                                                                                    |
| 高等学校 | 地理総合 | A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 | (1)地図や地理情報システムと現代世界 | 様々な目的や場面で役立つ地図や地理情報システム（GIS）を活用して、現代世界の地域構成の特色や国内や国家間の結び付きを理解する。                                                                                                                                                                             | 位置や分布などに関わる視点に着目して、地図や地理情報システム（GIS）などに関わる地理的技能を活用して、現代世界の地域構成や地図やGISの役割や活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                                                     |
|      |      |                       |                     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                           |
|      |      |                       |                     | <p>(ア)現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、以下の①から③について理解する。</p> <p>①時位や時差、②日本の位置と領域、③国内や国家間の結び付きなど。</p> <p>(イ)日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などを理解する。</p> <p>(ウ)現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</p> | <p>(ア)位置や範囲などに着目して、現代世界の地域構成について、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ)位置や範囲、縮尺などに着目して地図や地理情報システムについて、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |      |             |                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                |                                                                                                                                     |
|------|------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 地理総合 | B 国際理解と国際協力 |                                                                                                                                                                                       | 知識及び技能                                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                        |
|      |      |             | (1)生活文化の多様性と国際理解                                                                                                                                                                      | 統合的な理解                                                                                                                         | 総合的な発揮                                                                                                                              |
|      |      |             |                                                                                                                                                                                       | 世界の多様な生活文化を対象として、世界の人々の生活文化が、自然及び社会的環境から影響を受けたり、環境に影響を与えたりしながら多様性が生じたり変容したりするかを理解するとともに、グローバル化の進展による自他の文化の尊重と国際理解の重要性を理解する。    | 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付き、変容などに関わる視点に着目して、世界各地における人々の衣食住を中心とする生活文化や、慣習や規範、宗教などの生活様式について、自然及び社会的環境の影響による多様性と変容を、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 |
|      |      |             |                                                                                                                                                                                       | 内容項目例                                                                                                                          |                                                                                                                                     |
|      |      |             | (ア)世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどを理解する<br>(イ)世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などを理解する。                                       | (ア)世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。                                  |                                                                                                                                     |
|      |      |             | (2)地球的課題と国際協力                                                                                                                                                                         | 統合的な理解                                                                                                                         | 総合的な発揮                                                                                                                              |
|      |      |             |                                                                                                                                                                                       | 世界各地でみられる様々な地球的課題を対象として、現状や要因、解決の方向性や、課題相互の関連性を捉え、持続可能な社会の実現に向けた各国の取組や、国際協力の必要性を理解する。                                          | 地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界各地で見られる様々な地球的課題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                          |
|      |      |             |                                                                                                                                                                                       | 内容項目例                                                                                                                          |                                                                                                                                     |
|      |      |             | (ア)世界各地で見られる以下の①～④の地球的課題の、各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大まかに捉えて理解する。<br>(イ)世界各地で見られる以下の①～④の地球的課題の解決には、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることを理解する。<br>①地球環境問題、②資源・エネルギー問題、<br>③人口・食料問題、④居住・都市問題 | (ア)世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 |                                                                                                                                     |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|                                  |                                                | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                               |
|----------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                  |                                                | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                     |
| C 持続可能な地域づくりと私たち<br>地理総合<br>高等学校 | (1)自然環境と防災                                     | 地形図やハザードマップなどを活用して、自然環境の特色と自然災害の関係性、地域性を踏まえた災害の備えや対応について理解するとともに、防災の重要性について理解する。                                                                                                                          | 人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、ハザードマップなどに関わる地理的技能を活用し、自然及び社会条件との関わりなど地域性を踏まえた防災について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。                 |
|                                  |                                                | 内容項目例                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                            |
|                                  |                                                | (ア)地域の自然環境の特色と日本及び世界における、以下の①～④などの自然災害への、備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などを理解する。<br>①地震災害、②津波災害、③風水害、④火山災害など<br>(イ)様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 | (ア)地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。                        |
|                                  | (2)生活圏の調査と地域の展望                                | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                     |
|                                  |                                                | 科目のまとめとして、持続可能な地域づくりを目指した生活圏の調査を踏まえ、地理的な課題の解決に向けた様々な立場からの取組や探究する手法を理解する。                                                                                                                                  | 持続可能な地域づくりに関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、生活圏の地理的な課題や課題解決に求められる取組を、多面的・多角的に考察、構想、表現し、よりよい社会の実現を展望することができる。 |
| 内容項目例                            |                                                |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                            |
|                                  | (ア)生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。 | (ア)生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する                                                                                                  |                                                                                                                            |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |      |                | 知識及び技能                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                         |                                                                                                           |
|------|------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                | 統合的な理解                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                                               |                                                                                                           |
| 高等学校 | 地理探究 | A 現代世界の系統地理的考察 | (1)自然環境                                                                                      | 地形、気候、生態系などの自然環境に関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。                               | 人間生活と自然環境との関係やスケールなどに関わる視点に着目して、地形、気候、生態系などの自然環境に関わる諸事象について空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。 |
|      |      |                | 内容項目例                                                                                        |                                                                                                                      |                                                                                                           |
|      |      |                | (ア)以下の①～③の事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。<br>①地形<br>②気候<br>③生態系など              | (ア)場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。        |                                                                                                           |
|      |      |                | (2)資源、産業                                                                                     | 統合的な理解                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                    |
|      |      |                | 資源・エネルギー、農業、工業などの資源、産業に関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 | 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、資源・エネルギー、農業、工業などの資源、産業に関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。 |                                                                                                           |
|      |      |                | 内容項目例                                                                                        |                                                                                                                      |                                                                                                           |
|      |      |                | (ア)以下の①～③の事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。<br>①資源・エネルギー<br>②農業<br>③工業など  | (ア)資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。          |                                                                                                           |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |      |                |                  | 知識及び技能                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                   |
|------|------|----------------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                |                  | 統合的な理解                                                                                                         | 総合的な発揮                                                                                                                         |
| 高等学校 | 地理探究 | A 現代世界の系統地理的考察 | (3)交通・通信,<br>観光  | 交通・通信網と物流, 人の移動に関する運輸, 観光などに関わる諸事象を対象として, 空間的な規則性や傾向性を理解するとともに, 関連する地球的課題の現状や要因, 解決に向けた取組などについて理解する。           | 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して, 交通・通信網と物流, 人の移動に関する運輸, 観光などに関わる諸事象について, 空間的な規則性, 傾向性や, 関連する地球的課題の要因や動向などを考察し, 表現することができる。 |
|      |      |                |                  | 内容項目例                                                                                                          |                                                                                                                                |
|      |      |                |                  | (ア)以下の①及び②の事象の空間的な規則性, 傾向性や, 交通・通信, 観光に関わる問題の現状や要因, 解決に向けた取組などを理解する。<br>①交通・通信網と物流<br>②人の移動に関する運輸, 観光などに関わる諸事象 | (ア)交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸, 観光などに関わる諸事象について, 場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して, それらの事象の空間的な規則性, 傾向性や, 関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し, 表現する。     |
|      |      |                |                  | 統合的な理解                                                                                                         | 総合的な発揮                                                                                                                         |
|      |      |                | (4)人口, 都市・<br>村落 | 人口, 都市・村落などに関わる諸事象を対象として, 空間的な規則性や傾向性を理解するとともに, 関連する地球的課題の現状や要因, 解決に向けた取組などについて理解する。                           | 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して, 人口, 都市・村落などに関わる諸事象について, 空間的な規則性, 傾向性や, 関連する地球的課題の要因や動向などを考察し, 表現することができる。                 |
|      |      |                |                  | 内容項目例                                                                                                          |                                                                                                                                |
|      |      |                |                  | (ア)以下の①及び②の事象の空間的な規則性, 傾向性や, 人口, 居住・都市問題の現状や要因, 解決に向けた取組などを理解する。<br>①人口,<br>②都市・村落など                           | (ア)人口, 都市・村落などに関わる諸事象について, 場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して, それらの事象の空間的な規則性, 傾向性や, 関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し, 表現する。                    |



## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |      |                |               | 知識及び技能                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                                            |
|------|------|----------------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                |               | 統合的な理解                                                                             | 統合的な発揮                                                                                                  |
| 高等学校 | 地理探究 | A 現代世界の系統地理的考察 | (5)生活文化、民族・宗教 | 生活文化，民族・宗教などに関わる諸事象を対象として，空間的な規則性や傾向性を理解するとともに，関連する地球的課題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。 | 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して，生活文化，民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを考察し，表現することができる。  |
|      |      |                |               | 内容項目例                                                                              |                                                                                                         |
|      |      |                |               | (ア)以下の①及び②の事象の空間的な規則性，傾向性や，民族，領土問題の現状や要因，解決に向けた取組などを理解する。<br>①生活文化<br>②民族・宗教など     | (ア)生活文化，民族・宗教などに関わる諸事象について，場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し，表現する。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|                                                                                                                                            |                                                                      |              |              | 知識及び技能                                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                            |                                                                      |              |              | 統合的な理解                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                          |
| 高等学校                                                                                                                                       | 地理探究                                                                 | B 現代世界の地誌的考察 | (1)現代世界の地域区分 | 世界の諸地域は、目的による様々な指標で地域区分することが可能であることを理解し、地域には多様な側面やスケールがあるという地域の概念や現代世界の多様性を理解する。                                                                  | 位置や分布、地域間の結び付き、スケールなどに関わる視点に着目して、世界や世界の諸地域について、目的による複数の指標に基づいて地域区分された分布図を比較し、区分された地域の共通点や差異、分布から、地域の捉え方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 |
|                                                                                                                                            |                                                                      |              |              | 内容項目例                                                                                                                                             |                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                            |                                                                      |              |              | (ア)世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、以下の①から③などについて理解する。<br>①世界を幾つかの地域に区分する方法、②地域の概念、<br>③地域区分の意義など。<br>(イ)世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身に付ける。 | (ア)世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、地域の捉え方などを多面的・多角的に考察し、表現する。                                                            |
|                                                                                                                                            |                                                                      |              | (2)現代世界の諸地域  | 統合的な理解                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                          |
|                                                                                                                                            |                                                                      |              |              | 地域区分した世界の諸地域を対象として、世界の諸地域の地域的特色や地球的課題、地域間の結び付き、地域の構造や変容を理解する。                                                                                     | 地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、現代世界の諸地域について、世界の諸地域や地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                                 |
|                                                                                                                                            |                                                                      |              |              | 内容項目例                                                                                                                                             |                                                                                                                                 |
| (ア)幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、以下の①及び②などについて理解する。<br>①諸地域に見られる地域的特色<br>②地球的課題など<br>(イ)幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法などを理解する。 | (ア)現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。 |              |              |                                                                                                                                                   |                                                                                                                                 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |      |                       |                 | 知識及び技能                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                         |
|------|------|-----------------------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                       |                 | 統合的な理解                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                               |
| 高等学校 | 地理探究 | C 現代世界におけるこれからの日本の国土像 | (1) 持続可能な国土像の探究 | 科目のまとめとして，日本の地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方の構想を通して，持続可能な国土像の在り方を探究する手法の重要性とその手法について理解する。        | 持続可能な国土像に関する課題解決の取組の理解を基に，地域間の結び付きやスケール，変容などに関わる視点に着目して，これからの日本の国土像について，地理的な課題の解決に向けた取組を考察・構想し，よりよい社会の実現を展望することができる。 |
|      |      |                       |                 | 内容項目例                                                                                     |                                                                                                                      |
|      |      |                       |                 | (ア)現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に，我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や，探究する手法などを理解する。 | (ア)現代世界におけるこれからの日本の国土像について，地域の結び付き，構造や変容，持続可能な社会づくりなどに着目して，我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し，表現する。       |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |      |        | 知識及び技能                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                            |
|------|------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |        | 統合的な理解                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                  |
| 高等学校 | 歴史総合 | A 歴史の扉 | 現在に生きる私たちに関わる諸事象と日本や世界の歴史とのつながりを理解するとともに、過去の事象について探る手がかりとなる材料である資料を考察するには、批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解する。 | 諸資料を効果的に活用して、時系列、展開や変化、類似や差異、背景や原因、結果や影響、相互の関連や現在とのつながりなどの視点に着目し、身近な生活や地域にみられる諸事象と歴史とのつながりや資料と歴史の叙述の関わりを考察し、表現することができる。 |
|      |      |        | 内容項目例（１）歴史と私たち                                                                                      |                                                                                                                         |
|      |      |        | (ア) 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とのつながりを理解する。<br>＜今後、学習対象の具体例を挙げることが必要＞                  | (ア) 諸資料を活用し、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。             |
|      |      |        | 内容項目例（２）歴史の特質と資料                                                                                    |                                                                                                                         |
|      |      |        | (ア) 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。<br>＜今後、学習対象の具体例を挙げることが必要＞                                             | (ア) 日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料を活用し、複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。                   |

# 資質・能力の全体構造(素案)

| 知識及び技能                                                                   |                                                                                                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 統合的な理解                                                                   |                                                                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                     |
| 資料から収集し読み取った情報を基に、産業社会と国民国家の形成により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。 |                                                                                                                                                                                                                      | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近代化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。            |
| 内容項目例（１）近代化への問い                                                          |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                            |
| <div>高等学校</div> <div>歴史総合</div> <div>B 近代化と私たち</div>                     | <p>(ア) 次の①から⑥に関する資料などを選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 交通と貿易</li> <li>② 産業と人口</li> <li>③ 権利意識と政治参加や国民の義務</li> <li>④ 学校教育</li> <li>⑤ 労働と家族</li> <li>⑥ 移民</li> </ul> | <p>(ア) ①から⑥などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。</p>                                                                                                 |
|                                                                          | 内容項目例（２）結び付く世界と日本の開国                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                            |
|                                                                          | <p>(ア) 次の①及び②などを題材に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 18世紀のアジアや日本における生産と流通</li> <li>② アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易</li> </ul>                                                               | <p>(ア) 諸資料を活用して、18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、18世紀のアジアの経済と社会に関する主題について、アジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
|                                                                          | <p>(イ) 次の①及び②などを題材に、工業化と世界市場の形成を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 産業革命と交通・通信手段の革新</li> <li>② 中国の開港と日本の開国</li> </ul>                                                                                 | <p>(イ) 諸資料を活用して、産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、工業化と世界市場の形成に関する主題について、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>                          |



# 資質・能力の全体構造(素案)

|      |      |              | 知識及び技能                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |              | 統合的な理解                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 高等学校 | 歴史総合 | B<br>近代化と私たち | 資料から収集し読み取った情報を基に、産業社会と国民国家の形成により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。                                                                                                  | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近代化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                                                                                                  |
|      |      |              | 内容項目例（１）近代化への問い                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|      |      |              | (ア) 次の①及び②などを題材に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。<br>① 18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向<br>② 日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定<br><br>(イ) 次の①及び②などを題材に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。<br>① 列強の進出と植民地の形成<br>② 日清・日露戦争 | (ア) 諸資料を活用して、国民国家の形成の背景や影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、立憲体制と国民国家の形成に関する主題について、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。<br><br>(イ) 諸資料を活用して、帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容に関する主題について、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 |
|      |      |              | 内容項目例（２）結び付く世界と日本の開国                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|      |      |              | (ア) 内容のA及びBの(1)から(3)までの学習などを基に、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。                                                                                                                 | (ア) 諸資料を活用して、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点(現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組み)から設定された主題について、多面的・多角的に考察し、表現する。                                                                                                                                      |

# 資質・能力の全体構造(素案)

|      |      |                      | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 高等学校 | 歴史総合 | C<br>国際秩序の変化や大衆化と私たち | 資料から収集し読み取った情報を基に、国際的な結び付きの強まりによる国家間の関係性の変化や、個人や集団の社会参加の拡大により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。                                                                                                                                          | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                                                                                                                                 |
|      |      |                      | 内容項目例（１）国際秩序の変化や大衆化への問い                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|      |      |                      | (ア)次の①から⑤などに関する資料などを選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。<br>①国際関係の緊密化<br>②アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭<br>③植民地の独立<br>④大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化<br>⑤生活様式の変化                                                                                                  | (ア)①から⑤などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。                                                                                                                                                                                                                                           |
|      |      |                      | 内容項目例（２）第一次世界大戦と大衆社会                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|      |      |                      | (ア)次の①から④などを題材に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。<br>①第一次世界大戦の展開<br>②日本やアジアの経済成長<br>③ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭<br>④ナショナリズムの動向と国際連盟の成立<br>(イ)次の①から④などを題材に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。<br>①大衆の政治参加と女性の地位向上<br>②大正デモクラシーと政党政治<br>③大量消費社会と大衆文化<br>④教育の普及とマスメディアの発達 | (ア)諸資料を活用して、第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制に関する主題について、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。<br>(イ)諸資料を活用して、第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、大衆社会の形成と社会運動の広がりに関する主題について、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |      |                      | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 高等学校 | 歴史総合 | C<br>国際秩序の変化や大衆化と私たち | 資料から収集し読み取った情報を基に、国際的な結び付きの強まりによる国家間の関係性の変化や、個人や集団の社会参加の拡大により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。                                                                                                                                 | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                                                                                                                                                                                     |
|      |      |                      | 内容項目例（3）経済危機と第二次世界大戦                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|      |      |                      | <p>(ア) 次の①から③などを題材に、国際協調との動揺を理解する。</p> <p>①世界恐慌<br/>②ファシズムの伸張<br/>③日本の対外政策</p> <p>(イ) 次の①から④などを題材に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本国際社会への復帰を理解する。</p> <p>①第二次世界大戦の展開<br/>②国際連合と国際経済体制<br/>③冷戦の始まりとアジア諸国の動向<br/>④戦後改革と日本国憲法の制定<br/>⑤平和条約と日本の独立の回復</p> | <p>(ア) 諸資料を活用して、経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、国際協調体制の動揺に関する主題について、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 諸資料を活用して、第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰に関する主題について、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
|      |      |                      | 内容項目例（4）国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|      |      |                      | (ア) 内容のA及びCの(1)から(3)までの学習などを基に、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。                                                                                                                                                                            | (ア) 諸資料を活用して、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点（現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組み）から設定された主題について、多面的・多角的に考察し、表現する。                                                                                                                                                                                                                              |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|                 |      |      | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------|------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 |      |      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| D<br>グローバル化と私たち | 歴史総合 | 高等学校 | 資料から収集し読み取った情報を基に、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになったことにより生活や社会に生じた変化について理解するとともに、現代的な諸課題の形成と近現代の歴史とのつながりについて理解する。                                                                                  | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近現代の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。                                                                                                                                                    |
|                 |      |      | 内容項目例（１）グローバル化への問い                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                 |      |      | (ア) 次の①から⑦などに関する資料などを選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。<br>① 冷戦と国際関係<br>② 人と資本の移動<br>③ 高度情報通信<br>④ 食料と人口<br>⑤ 資源・エネルギーと地球環境<br>⑥ 感染症<br>⑦ 多様な人々の共存                                                     | (ア) ①から⑦などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                 |      |      | 内容項目例（２）冷戦と世界経済                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                 |      |      | (ア) 次の①から④などを題材に、国際政治の変容を理解する。<br>① 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国<br>② 冷戦下の地域紛争<br>③ 先進国の政治の動向<br>④ 軍備拡張や核兵器の管理<br><br>(イ) 次の①から③などを題材に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。<br>① 西ヨーロッパや東南アジアの地域連携<br>② 計画経済とその波及<br>③ 日本の高度経済成長 | (ア) 諸資料を活用して、地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、国際政治の変容に関する主題について、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。<br><br>(イ) 諸資料を活用して、冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会に関する主題について、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|                                 |  |  | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                 |  |  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| D<br>グローバル化と私たち<br>歴史総合<br>高等学校 |  |  | 資料から収集し読み取った情報を基に、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになったことにより生活や社会に生じた変化について理解するとともに、現代的な諸課題の形成と近現代の歴史とのつながりについて理解する。                                                                                             | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近現代の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。                                                                                                                                                   |
|                                 |  |  | 内容項目例（3）世界秩序の変容と日本                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                 |  |  | <p>(ア) 次の①から④などを題材に、市場経済の変容と課題を理解する。</p> <p>①石油危機<br/>②アジアの諸地域の経済発展<br/>③市場開放と経済の自由化<br/>④情報通信技術の発展</p> <p>(イ) 次の①から④などを題材に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。</p> <p>①冷戦の終結<br/>②民主化の進展<br/>③地域統合の拡大と変容<br/>④地域紛争の拡散とそれへの対応</p> | <p>(ア) 諸資料を活用して、アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、市場経済の変容と課題に関する主題について、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 諸資料を活用して、冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、冷戦終結後の国際政治の変容と課題に関する主題について、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
|                                 |  |  | 内容項目例（4）冷戦と世界経済                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                 |  |  | (ア) これまでのこの科目の学習などを基に、歴史的経緯を踏まえた現代的な諸課題を理解する。                                                                                                                                                                        | (ア) 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望して、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。                                                                                                                                                                                  |



## 資質・能力の全体構造(素案)

|                    |       |      | 知識及び技能                                                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------|-------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                    |       |      | 統合的な理解                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| A<br>原始・古代の日本と東アジア | 日本史探究 | 高等学校 | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ、環境への適応と文化の形成、列島近隣地域との交流との関係など、各自が形成した観点から古代の政治や社会と文化の特色を理解する。                                                                  | 多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、古代の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。                                                                                                                                                                                        |
|                    |       |      | 内容項目例（１）黎明期の日本列島と歴史的環境                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                    |       |      | (ア) 次の①及び②などを題材に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する<br>①旧石器文化から縄文文化への変化<br>②弥生文化の成立                                                                                          | (ア) 諸資料を活用し、自然環境と人間の生活との関わり、中国大陆・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。<br>(イ) 黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。                                                                                                                                                    |
|                    |       |      | 内容項目例（２）歴史資料と原始・古代の展望                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                    |       |      | (ア) 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、歴史資料の特性を踏まえて歴史に関わる情報を収集し、読み取りまとめる技能を身に付ける。                                                                                                        | (ア) (1) で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。                                                                                                                                                                                                                                                         |
|                    |       |      | 内容項目例（３）古代の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                    |       |      | (ア) 次の①及び②などを題材に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。<br>①国家の形成と古墳文化<br>②律令体制の成立過程と諸文化の形成<br><br>(イ) 次の①から③などを題材に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。<br>①貴族政治の展開<br>②平安期の文化<br>③地方支配の変化や武士の出現 | (ア) 諸資料を活用し、中国大陆・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、(2) で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。<br>(イ) 諸資料を活用し、地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、(2) で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |               |       | 知識及び技能                                                                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|---------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |               |       | 統合的な理解                                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 高等学校 | B<br>中世の日本と世界 | 日本史探究 | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ、複層的な政治的権力や権威、多様な社会集団の成長とその文化との関わりなど、各自が形成した観点から中世の政治や社会と文化の特色を理解する。                                                                                    | 多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、中世の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。                                                                                                                                                                                                   |
|      |               |       | 内容項目例（１）中世への転換と歴史的環境                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      |               |       | (ア) 次の①及び②などを題材に、古代から中世への時代の転換を理解する。<br>① 貴族政治の変容と武士の政治進出<br>② 土地支配の変容                                                                                                                              | (ア) 諸資料を活用し、権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。<br>(イ) 時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。                                                                                                                                                                                                                |
|      |               |       | 内容項目例（２）歴史資料と中世の展望                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      |               |       | (ア) 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。                                                                                                                                               | (ア) (1) で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|      |               |       | 内容項目例（３）中世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      |               |       | (ア) 次の①から③などを題材に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。<br>① 武家政権の成立と展開<br>② 産業の発達<br>③ 宗教や文化の展開<br><br>(イ) 次の①から④などを題材に、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解する。<br>① 武家政権の変容<br>② 日明貿易の展開と琉球王国の成立<br>③ 村落や都市の自立<br>④ 多様な文化の形成や融合 | (ア) 諸資料を活用し、公武関係の変化、宋・元(モンゴル帝国)などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、(2) で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。<br><br>(イ) 諸資料を活用し、社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、(2) で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|               |               | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               |               | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| C<br>近世の日本と世界 | 日本史探究<br>高等学校 | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、根拠に基づき見いだした歴史の転換や画期を踏まえ、統一的な政治権力や広域の情報・流通のネットワークの形成や継続による社会変化に伴う文化の変容など、各自が形成した観点から近世の政治や社会と文化の特色を理解する。                                                                                                                             | 多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、近世の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。                                                                                                                                                                                                         |
|               |               | 内容項目例（１）近代への転換と歴史的環境                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|               |               | (ア) 次の①及び②などを題材に、中世から近世への時代の転換を理解する。<br>① 織豊政権の政治・経済政策<br>② 貿易や対外関係                                                                                                                                                                                      | (ア) 諸資料を活用し、村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。<br><br>(イ) 時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。                                                                                                                                                                                                    |
|               |               | 内容項目例（２）歴史資料と近代の展望                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| C<br>近世の日本と世界 | 日本史探究<br>高等学校 | (ア) 近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。                                                                                                                                                                                                    | (ア) (1) で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|               |               | 内容項目例（３）近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| C<br>近世の日本と世界 | 日本史探究<br>高等学校 | (ア) 次の①から④などを題材に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。<br>① 法や制度による支配秩序の形成と身分制<br>② 貿易の統制と対外関係<br>③ 技術の向上と開発の進展<br>④ 学問・文化の発展<br><br>(イ) 次の①から⑤などを題材に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解する。<br>① 産業の発達<br>② 飢饉や一揆の発生<br>③ 幕府政治の動揺と諸藩の動向<br>④ 学問・思想の展開<br>⑤ 庶民の生活と文化 | (ア) 諸資料を活用し、織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化、交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、(2) で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。<br><br>(イ) 諸資料を活用し、社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化との関係などに着目して、(2) で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |                       | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|-------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |                       | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                           | 統合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 高等学校 | 日本史探究 | D<br>近現代の<br>地域・日本と世界 | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から情報を収集し読み取った情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などとのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。</li> <li>現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。</li> <li>事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通じた歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。</li> <li>現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。</li> </ul> |
|      |       |                       | 内容項目例（１）近代への転換と歴史的環境                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      |       |                       | (ア)次の①及び②などを題材に、近世から近代への時代の転換を理解する。<br>① 対外政策の変容と開国<br>② 幕藩体制の崩壊と新政権の成立                                                                                                                                          | (ア)諸資料を活用し、欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。<br>(イ)時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。                                                                                                                                                                                    |
|      |       |                       | 内容項目例（２）歴史資料と近代の展望                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      |       |                       | (ア)近代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。                                                                                                                                                             | (ア)(1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から近代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。                                                                                                                                                                                                                                                           |



# 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |                |                        | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|-------|----------------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |                |                        | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 高等学校 | 日本史探究 | D 近現代の地域・日本と世界 | (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造 | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から情報を収集し読み取った情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などとのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。</li> <li>現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。</li> <li>事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。</li> <li>現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。</li> </ul>                                                                                                               |
|      |       |                |                        | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      |       |                |                        | <p>(ア) 次の①から⑧などを題材に、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 明治維新</li> <li>② 自由民権運動</li> <li>③ 大日本帝国憲法の制定</li> <li>④ 条約改正</li> <li>⑤ 日清・日露戦争</li> <li>⑥ 第一次世界大戦</li> <li>⑦ 社会運動の動向</li> <li>⑧ 政党政治</li> </ol> <p>(イ) 次の①から⑤などを題材に、産業の発展の経緯と近代の文化の特色、大衆社会の形成を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 文明開化の風潮</li> <li>② 産業革命の展開</li> <li>③ 交通の整備と産業構造の変容</li> <li>④ 学問の発展や教育制度の拡充</li> <li>⑤ 社会問題の発生</li> </ol> | <p>(ア) 諸資料を活用し、アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。</p> <p>＜(ア)と(イ)は今後、統合整理が必要＞</p> <p>(イ) 諸資料を活用し、欧米の思想・文化の影響、産業の発展の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、教育の普及とその影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。</p> <p>＜(ア)と(イ)は今後、統合整理が必要＞</p> |



## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |                |                        | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|-------|----------------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |                |                        | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 高等学校 | 日本史探究 | D 近現代の地域・日本と世界 | (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造 | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から情報を収集し読み取った情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。</li> <li>現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。</li> <li>事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。</li> <li>現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                             |
|      |       |                |                        | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|      |       |                |                        | <p>(ウ) 次の①から③などを題材に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 恐慌と国際関係</li> <li>② 軍部の台頭と対外政策</li> <li>③ 戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開</li> </ul> <p>(I) 次の①から⑥などを題材に、第二次世界大戦後の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 占領政策と諸改革</li> <li>② 日本国憲法の成立</li> <li>③ 平和条約と独立の回復</li> <li>④ 戦後の経済復興とアジア諸国との関係</li> <li>⑤ 高度経済成長と社会・経済・情報の国際化</li> <li>⑥ グローバル化する世界と現代の日本</li> </ul> | <p>(ウ) 諸資料を活用し、国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。</p> <p>(I) 諸資料を活用し、第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、(2)で表現した仮説を発展させて主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。</p> <p>(オ) 日本と世界の相互の関わり、地域社会の変化、(ア)から(I)までの学習で見だした画期などに着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |                |                 | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|-------|----------------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |                |                 | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 高等学校 | 日本史探究 | D 近現代の地域・日本と世界 | (4) 現代の日本の課題の探究 | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から情報を収集し読み取った情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などとのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。</li> <li>現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色についての仮説を踏まえた主題を設定して多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。</li> <li>事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。</li> <li>現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。</li> </ul> |
|      |       |                |                 | 内容項目例                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|      |       |                |                 | <p>(ア) 次の①から③までのいずれかを取り上げ、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れ、現代の日本の課題を理解する。</p> <p>① 社会や集団と個人<br/>② 世界の中の日本<br/>③ 伝統や文化の継承と創造</p>                                                                                       | <p>内容のA、B及びC並びにDの(1)から(3)までの学習を踏まえ、諸資料を活用し、歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。</p>                                                                                                                                                           |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |             | 知識及び技能                                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                     |
|------|-------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |             | 統合的な理解                                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                           |
| 高等学校 | 世界史探究 | A 世界史へのまなざし | 歴史をマクロに捉える見方とミクロに捉える見方があることを理解し、時間と空間のスケールを活用して歴史を考察する方法を理解する。                                                                        | 時期や年代、空間的な広がり、展開や変化などの視点に着目して、地球環境と人類の歴史との関わりや身の回りの諸事象と世界史との関わりを考察し、表現することができる。                                  |
|      |       |             | 内容項目例（１）諸地域の歴史的特質への問い                                                                                                                 |                                                                                                                  |
|      |       |             | <p>(ア) 次の①などを題材に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解する。</p> <p>① 人類の誕生と地球規模での拡散・移動</p> <p>＜今後、学習対象の具体例を挙げることが必要＞</p>                                   | <p>(ア) 諸資料を活用して、諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、人類の歴史と地球環境との関わりに関する主題について、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現する。</p> |
|      |       |             | 内容項目例（２）古代文明の歴史的特質                                                                                                                    |                                                                                                                  |
|      |       |             | <p>(ア) 次の①から③などの身の回りの事象を題材に、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解する。</p> <p>① 衣食住</p> <p>② 家族</p> <p>③ 教育、余暇</p> <p>＜今後、学習対象の具体度を挙げることが必要か＞</p> | <p>(ア) 諸資料を活用して、諸事象の来歴や変化に着目して、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることに関する主題について、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現する。</p>              |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |                    | 知識及び技能                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                |
|------|-------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |                    | 統合的な理解                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                                      |
| 高等学校 | 世界史探究 | B 諸地域の歴史的<br>特質の形成 | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、諸地域の歴史的<br>特質への問いに照らして、世界各地に共通性と多様性をもつ<br>諸地域が形成されたことについて理解する。                   | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違<br>点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化<br>の特色などから、文明や諸地域の共通性や多様性について多面的・多角的<br>に考察し、諸地域に形成された歴史的な特質を表現することができる。                 |
|      |       |                    | 内容項目例（１） 諸地域の歴史的特質への問い                                                                                |                                                                                                                                                             |
|      |       |                    | (ア) 次の①から⑤などに関する資料を選択して活用し、資料から<br>情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。<br>①生業<br>②身分・階級<br>③王権<br>④宗教<br>⑤文化・思想 | (ア) ①から⑤などに関する資料を活用して、文明の形成に関わる諸事象の背<br>景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的<br>特質を読み解く観点について考察し、問いを表現する。                                                       |
|      |       |                    | 内容項目例（２） 古代文明の歴史的特質                                                                                   |                                                                                                                                                             |
|      |       |                    | (ア) 次の①から③などを題材に、古代文明の歴史的特質を理解<br>する。<br>①オリエント文明<br>②インダス文明<br>③中華文明                                 | (ア) 諸資料を活用して、古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影<br>響、事象相互の関連などに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを<br>踏まえて、古代文明の歴史的特質に関する主題について、自然環境と生<br>活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、<br>表現する。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |                     |                   | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|-------|---------------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |                     |                   | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 高等学校 | 世界史探究 | B 諸地域の歴史的<br>特質の形成編 | (3) 諸地域の<br>歴史的特質 | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、諸地域の歴史的・特質への問いに照らして、世界各地に共通性と多様性をもつ諸地域が形成されたことについて理解する。                                                                                                                                                                                                                        | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色などから、文明や諸地域の共通性や多様性について多面的・多角的に考察し、諸地域に形成された歴史的な特質を表現することができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|      |       |                     |                   | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|      |       |                     |                   | <p>(ア) 次の①及び②などを題材に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的・特質を理解する。</p> <p>① 秦・漢と遊牧国家</p> <p>② 唐と近隣諸国の動向</p> <p>(イ) 次の①及び②などを題材に、南アジアと東南アジアの歴史的・特質を理解する。</p> <p>① 仏教の成立とヒンドゥー教</p> <p>② 南アジアと東南アジアの諸国家</p> <p>(ウ) 次の①及び②などを題材に、西アジアと地中海周辺の歴史的・特質を理解する。</p> <p>① 西アジアと地中海周辺の諸国家</p> <p>② キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成</p> | <p>(ア) 諸資料を活用して、東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、東アジアと中央ユーラシアの歴史的・特質に関する主題について、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 諸資料を活用して、南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、南アジアと東南アジアの歴史的・特質に関する主題について、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(ウ) 諸資料を活用して、西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、西アジアと地中海周辺の歴史的・特質に関わる主題について、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |



## 資質・能力の全体構造(素案)

|               |       |      | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------|-------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               |       |      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| C 諸地域の交流・再編変容 | 世界史探究 | 高等学校 | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、諸地域の交流・再編への問いに照らして、諸地域の交流の拡大や新たな地域世界の形成、既存の地域世界の関係の変化について構造的に理解する。                                                                                                                                    | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、諸地域の交流の広がりや深まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の交流や再編を表現することができる。                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|               |       |      | 内容項目例（１） 諸地域の交流・再編への問い                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|               |       |      | (ア) 次の①から④などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。<br>① 交易の拡大<br>② 都市の発達<br>③ 国家体制の変化<br>④ 宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播                                                                                                        | (ア) ①から④などに関する資料を活用して、諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|               |       |      | 内容項目例（２） 結び付くユーラシアと諸地域                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|               |       |      | (ア) 次の①から③などを題材に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを理解する。<br>① 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播<br>② ヨーロッパ封建社会とその展開<br>③ 宋の社会とモンゴル帝国の拡大<br><br>(イ) 次の①から③などを題材に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を理解する。<br>① アジア海域での交易の興隆<br>② 明と日本・朝鮮の動向<br>③ スペインとポルトガルの活動 | (ア) 諸資料を活用して、諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する主題について、諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。<br><br>(イ) 諸資料を活用して、諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する主題について、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |             |                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|-------|-------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |             |                     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 高等学校 | 世界史探究 | C 諸地域の交流・再編 | (3) アジア諸地域とヨーロッパの再編 | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、諸地域の交流・再編への問いに照らして、諸地域の交流の拡大や新たな地域世界の形成、既存の地域世界の関係の変化について構造的に理解する。                                                                                                                  | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、諸地域の交流の広がりや深まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の交流や再編を表現することができる。                                                                                                                                                                                                                                                                |
|      |       |             |                     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|      |       |             |                     | <p>(ア) 次の①及び②などを題材に、アジア諸地域の特質を理解する。</p> <p>① 西アジアや南アジアの諸帝国</p> <p>② 清と日本・朝鮮などの動向</p> <p>(イ) 次の①から③などを題材に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を理解する。</p> <p>① 宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争</p> <p>② 大西洋三角貿易の展開</p> <p>③ 科学革命と啓蒙思想</p> | <p>(ア) 諸資料を活用して、アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、アジア諸地域の特質に関する主題について、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 諸資料を活用して、ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大に関する主題について、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|             |               |  | 知識及び技能                                                                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|---------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |               |  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| D 諸地域の結合・変容 | 世界史探究<br>高等学校 |  | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、諸地域の結合・変容への問いに照らして、近代以降に世界の一体化が顕著になったことについて構造的に理解する。                                                                                                                   | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、地球規模での世界の一体化と相互依存の強まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の結合や変容を表現することができる。                                                                                                                                                                                                                                          |
|             |               |  | 内容項目例（１）諸地域の結合・変容への問い                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|             |               |  | (ア) 次の①から⑥などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。<br>①人々の国際的な移動<br>②自由貿易の広がり<br>③マスメディアの発達<br>④国際規範の変容<br>⑤科学・技術の発達<br>⑥文化・思想の展開                                                     | (ア) ①から⑥などに関する資料を活用して、諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|             |               |  | 内容項目例（２）世界市場の形成と諸地域の結合                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|             |               |  | (ア) 次の①から③などを題材に、国民国家と近代民主主義社会の形成を理解する。<br>①産業革命と環大西洋革命<br>②自由主義とナショナリズム<br>③南北戦争の展開<br>(イ) 次の①から③などを題材に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を理解する。<br>①国際的な分業体制と労働力の移動<br>②イギリスを中心とした自由貿易体制<br>③アジア諸国の植民地化と諸改革 | (ア) 諸資料を活用して、大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、国民国家と近代民主主義社会の形成に関する主題について、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。<br>(イ) 諸資料を活用して、世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、世界市場の形成とアジア諸国の変容に関する主題について、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|                |       |      | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------|-------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                |       |      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| D<br>諸地域の結合・変容 | 世界史探究 | 高等学校 | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、諸地域の結合・変容への問いに照らして、近代以降に世界の一体化が顕著になったことについて構造的に理解する。                                                                                                                                                                         | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、地球規模での世界の一体化と相互依存の強まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の結合や変容を表現することができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                |       |      | 内容項目例（３）帝国主義とナショナリズムの高揚                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                |       |      | <p>(ア) 次の①及び②などを題材に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを理解する。</p> <p>① 第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争</p> <p>② アジア諸国の変革</p> <p>(イ) 次の①から④などを題材に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を理解する。</p> <p>① 第一次世界大戦とロシア革命</p> <p>② ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成</p> <p>③ アメリカ合衆国の台頭</p> <p>④ アジア・アフリカの動向とナショナリズム</p> | <p>(ア) 諸資料を活用して、列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、世界分割の進展とナショナリズムの高まりに関する主題について、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 諸資料を活用して、第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容に関する主題について、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> |
|                |       |      | 内容項目例（４）第二次世界大戦と諸地域の変容                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                |       |      | <p>(ア) 次の①及び②などを題材に、国際関係の緊張と対立を理解する。</p> <p>① 世界恐慌とファシズムの動向</p> <p>② ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺</p> <p>(イ) 次の①及び②などを題材に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を理解する。</p> <p>① 第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序</p> <p>② 冷戦とアジア諸国の独立の始まり</p>                                                  | <p>(ア) 諸資料を活用して、世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、国際関係の緊張と対立に関する主題について、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 諸資料を活用して、第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容に関する主題について、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>           |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |           | 知識及び技能                                                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                          |
|------|-------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |           | 統合的な理解                                                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                |
| 高等学校 | 世界史探究 | E 地球世界の課題 | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質について理解するとともに、自ら設定した主題を基に時間軸と空間軸のスケールを活用して地球世界の課題を歴史的な経緯から理解する。                                      | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現代世界とのつながりなどに着目し、現代世界の特質に関わる具体的に設定した主題から歴史的に形成された地球世界の課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。                               |
|      |       |           | 内容項目例（１）国際機構の形成と平和への模索                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                       |
|      |       |           | (ア) 次の①から④などを題材に、紛争解決の取組と課題を理解する。<br>① 集団安全保障と冷戦の展開<br>② アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き<br>③ 平和共存と多極化の進展<br>④ 冷戦の終結と地域紛争の頻発                            | (ア) 諸資料を活用して、国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、紛争解決の取組と課題に関する主題について、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。        |
|      |       |           | 内容項目例（２）経済のグローバル化と格差の是正                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                       |
|      |       |           | (ア) 次の①から⑤などを題材に、格差是正の取組と課題を理解する。<br>① 先進国の経済成長と南北問題<br>② アメリカ合衆国の覇権の動揺<br>③ 資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換<br>④ アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題<br>⑤ 経済のグローバル化 | (ア) 諸資料を活用して、国際競争の展開と経済格差に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、格差是正の取組と課題に関する主題について、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴、経済格差と政治や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 |



## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |           | 知識及び技能                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                     |
|------|-------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |           | 統合的な理解                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                                                           |
| 高等学校 | 世界史探究 | E 地球世界の課題 | 資料から情報を収集し読み取った情報を基に、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質について理解するとともに、自ら設定した主題を基に時間軸と空間軸のスケールを活用して地球世界の課題を歴史的な経緯から理解する。                  | 諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現代世界とのつながりなどに着目し、現代世界の特質に関わる具体的に設定した主題から歴史的に形成された地球世界の課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。          |
|      |       |           | 内容項目例（３）科学技術の高度化と知識基盤社会                                                                                                   |                                                                                                                                                                  |
|      |       |           | (ア) 次の①から④などを題材に、知識基盤社会の展開と課題を理解する。<br>①原子力の利用や宇宙探査などの科学技術<br>②医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理<br>③人工知能と労働の在り方の変容<br>④情報通信技術の発達と知識の普及 | (ア) 諸資料を活用して、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、知識基盤社会の展開と課題に関する主題について、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 |
|      |       |           | 内容項目例（４）地球世界の課題の探究                                                                                                        |                                                                                                                                                                  |
|      |       |           | (ア) 次の①から③までのいずれかあるいは関連させて取り上げ、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地球世界の課題を理解する。<br>①紛争解決や共生<br>②経済格差の是正や経済発展<br>③科学技術の発展や文化の変容   | (ア) 内容のA、B、C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習を踏まえ、諸資料を活用して、地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。             |

# 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|                                                            | 知識及び技能                                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                 | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>公民</div> <div>公共</div> <div>倫理</div> <div>政治・経済</div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解する。</li> <li>諸資料から収集した情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題について、事実を基に資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>                  |
|                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。</li> <li>諸資料から収集した、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul> |
|                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。</li> <li>諸資料から収集した、人間としての在り方生き方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul>                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。</li> </ul>                                                                             |
|                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解する。</li> <li>諸資料から収集した、社会の在り方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、考察するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</li> <li>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</li> <li>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</li> </ul>                               |

## 見方・考え方

- 社会的な事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |    |        |                  | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|----|--------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |    |        |                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 高等学校 | 公共 | A 公共の扉 | (1) 公共的な空間を作る私たち | 幸福、人間と社会の多様性と共通性などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、人間がよりよく生きるためには、個人として尊重されるとともに、自立的な主体として公共的な空間に参画する必要があることについて理解した上で、そのために自らの資質・能力を高め、人間として成長することが大切であることを理解する。                                                                                                                                                                                                                                               | 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、自らの問題として、社会に参画する自立した主体とは何かということについて考察し、表現する。                                                                                                                                                                    |
|      |    |        |                  | <p>公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求して、</p> <p>(ア)自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方</p> <p>(イ)人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であること</p> <p>(ウ)自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともにによりよい社会の形成に結び付くこと</p> | <p>内容項目例</p> <p>公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。</li> </ul> |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |    |        |                            | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|----|--------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |    |        |                            | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 高等学校 | 公共 | A 公共の扉 | (2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方 | 幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき，主体的に社会に参画し，他者と協働する際に選択・判断を行う手掛かりとなる考え方について，人間としての在り方生き方に関連付けて理解する。                                                                                                                                                                                                                    | 現代の倫理的課題について、幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して，選択・判断の手掛かりとなる考え方や思考実験などを活用して考察することで，課題の本質を的確に捉えた上で，自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすための糸口などについて考察し，表現する。                                                                                                                  |
|      |    |        |                            | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|      |    |        |                            | <p>主体的に社会に参画し，他者と協働することに向けて，幸福，正義，公正などに着目して，</p> <p>(ア)選択・判断の手掛かりとして，行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や，行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方など</p> <p>(イ)現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け，(ア)に示す考え方を活用することを通して，行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが，よりよく生きていく上で重要であること</p> <p>(ウ)人間としての在り方生き方に関わる諸資料から，よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し，読み取る技能</p> | <p>主体的に社会に参画し，他者と協働することに向けて，幸福，正義，公正などに着目して，</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>倫理的価値の判断において，行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と，行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し，自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し，表現する。</li> </ul> |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |    |               |                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                    |
|------|----|---------------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |    |               |                     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                                                                          |
| 高等学校 | 公共 | A<br>公共の<br>扉 | (3) 公共的な空間における基本的原理 | 幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき，個人の尊重と協働の利益の確保などを共に図ることが，公共的な空間を作る目的であることについて理解した上で，それと関連付けて公共的な空間における基本的原理を理解する。                                                                                                                                                                         | 幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して，人間が協働する理由，協働関係を妨げる要因について考察した上で，公共的な空間における基本原理が，協働の条件として，あるいは協働関係を妨げる要因を取り除く工夫として，どのような役割を果たすかということについて，具体的な事例を挙げ，考察し，表現する。 |
|      |    |               |                     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                 |
|      |    |               |                     | 自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて，幸福，正義，公正などに着目して，<br>(ア)各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して，人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で必要であること<br>(イ)人間の尊厳と平等，個人の尊重，民主主義，法の支配，自由・権利と責任・義務など，公共的な空間における基本的原理・公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し，表現する。 | 自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて，幸福，正義，公正などに着目して，<br>・公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し，表現する。                  |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。



## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |    |                              | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|----|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |    |                              | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 統合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 高等学校 | 公民 | B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち | <p>よりよい社会の形成に参画することに向けて、人間としての在り方生き方に関する理解を深めつつ、幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、法、政治及び経済などに関わる仕組みの特徴及びそれらが現代の諸課題の解決にどのように役立つかを理解した上で、それらの仕組みの下で活動するために必要な知識を理解する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題について、幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用しつつ、関係する者の利害を適切に考慮して、考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。</p>                                                                                       |
|      |    |                              | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|      |    |                              | <p>自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して、</p> <p>(ア)法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則(のつと)り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくこと</p> <p>(イ)政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであること</p> <p>(ウ)職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であること</p> <p>(エ)現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能</p> | <p>自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(ア)から(ウ)までの事項について、法、政治及び経済などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。</li> </ul> |

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |    |                       | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|----|-----------------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 公共 | C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち | 統合的な理解 | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|      |    |                       |        | 地域の創造，よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し，共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし，幸福，正義，公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して，関係する者の利害を適切に考慮した上で，その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述することを通して，私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。                                               |
|      |    |                       | 内容項目例  |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|      |    |                       |        | <p>持続可能な地域，国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う，公共の精神をもった自立した主体となることに向けて，幸福，正義，公正などに着目して，現代の諸課題を探究して，</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域の創造，よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し，共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし，その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述する。</li> </ul> |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |    |                            |                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|----|----------------------------|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |    |                            |                     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 統合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 高等学校 | 倫理 | A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 | (1) 人間としての在り方生き方の自覚 | 古今東西の先哲の考え方にに基づき、人間としての在り方生き方に関わる概念や理論について理解した上で、人間としての在り方生き方について思索を深めることが大切であることを理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。                                                                                                                                                                                                     |
|      |    |                            |                     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                           |
|      |    |                            |                     | <p>人間の存在や価値に関わる基本的な課題について思索する活動を通して、</p> <p>(ア)個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方</p> <p>(イ)幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観及び人生における宗教や芸術のもつ意義</p> <p>(ウ)善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観</p> <p>(エ)真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観</p> <p>(オ)古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能</p> | <p>古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。</li> </ul> |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |    |                            | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                       |
|------|----|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |    |                            | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                             |
| 高等学校 | 倫理 | A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 | <p>古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方に基づき、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について自己との関わりにおいて理解した上で、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索することが大切であることを理解する。</p>                                                                                                                                           | <p>古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。</p>                                                                 |
|      |    |                            | <p>日本人としての在り方生き方について思索する活動を通して、</p> <p>(ア)古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解する</p> <p>(イ)古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能</p> | <p>内容項目例</p> <p>古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。</li> </ul> |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |    |             |                       | 知識及び技能                                                                                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                  |
|------|----|-------------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |    |             |                       | 統合的な理解                                                                                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                                                                                                                        |
| 高等学校 | 倫理 | B 現代の諸課題と倫理 | (1) 自然や科学技術に関わる諸課題と倫理 |                                                                                                                                                                                    | 他者対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、自然や科学技術と人間との関わりについての倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。       |
|      |    |             |                       | 内容項目例                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                               |
|      |    |             |                       | 自然や科学技術との関わりにおいて、小・中学校社会科及び道德、高等学校公民科の学習を生かし、他者対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、<br>・ 生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。 |                                                                                                                                                                               |
|      |    |             | (2) 社会と文化に関わる諸課題と倫理   | 統合的な理解                                                                                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                                                                                                                        |
|      |    |             |                       |                                                                                                                                                                                    | 様々な他者との協働、共生に向けて、他者対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、社会と文化に関わる倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。 |
|      |    |             |                       | 内容項目例                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                               |
|      |    |             |                       | 様々な他者との協働、共生に向けて、小・中学校社会科及び道德、高等学校公民科の学習を生かし、他者対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、<br>・ 福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。        |                                                                                                                                                                               |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。



## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |                     |                | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|-------|---------------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |                     |                | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 高等学校 | 政治・経済 | A 現代日本における政治・経済の諸課題 | (1) 現代日本の政治・経済 | <p>個人の尊厳と基本的人権の尊重などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、現代日本の政治・経済、その諸課題に関わる概念や理論について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。</p>                                                                                                                                                                                       | <p>個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代日本の政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、考察し、表現する。</li> <li>政治・経済に関わる諸事象に見られる矛盾や対立などを見いだし、その解決に向けて、望ましい現代日本の政治・経済の仕組みや制度の在り方について、考察、構想し、表現する。</li> </ul>                                                                                                                       |
|      |       |                     |                | <p>個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、</p> <p>(ア)政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治</p> <p>(イ)経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組み</p> <p>(ウ)現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能</p> | <p>内容項目例</p> <p>個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</li> <li>経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</li> </ul> |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |                     | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|-------|---------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |                     | 統合的な理解 | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 高等学校 | 政治・経済 | A 現代日本における政治・経済の諸課題 |        | 合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から現代日本社会の課題を見だし、社会的な視点や方法等を総合的に用いて、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを広い視野から説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。                                                                                                                          |
|      |       |                     |        | <b>内容項目例</b><br>社会的な視点や方法等を総合的に用いて、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究して、 <ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少社会における社会保障の充実・安定化，地域社会の自立と政府，多様な働き方・生き方を可能にする社会，産業構造の変化と起業，歳入・歳出両面での財政健全化，食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現，防災と安全・安心な社会の実現などについて，取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察，構想し，よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明，論述する。</li> </ul> |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |            |                | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-------|------------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |            |                | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 高等学校 | 政治・経済 | B 国際社会の諸課題 | (1) 現代の国際政治・経済 | <p>個人の尊厳と基本的人権の尊重などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、現代の国際政治・経済、その諸課題に関わる概念や理論について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。</p>                                                                                                                                                                                                                              | <p>個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、考察し、表現する。</li> <li>政治・経済に関わる諸事象に見られる課題などを見だし、その解決に向けて、望ましい国際政治・経済の仕組みや制度の在り方について、考察、構想し、表現する。</li> </ul>                                                                                                                |
|      |       |            |                | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|      |       |            |                | <p>国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深めることに向けて、個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、</p> <p>(ア)国際社会の変遷、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む。）などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献</p> <p>(イ)貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割</p> <p>(ウ)現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能</p> | <p>国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深めることに向けて、個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</li> <li>相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</li> </ul> |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

## 資質・能力の全体構造(素案)

|      |       |            |                 | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|-------|------------|-----------------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |       |            |                 | 統合的な理解 | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 高等学校 | 政治・経済 | B 国際社会の諸課題 | (2) 国際社会の諸課題の探究 |        | 合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から国際社会の課題を見だし、社会的な視点や方法等を総合的に用いて、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを広い視野から説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。                                                                                                                   |
|      |       |            |                 |        | <p>内容項目例</p> <p>社会的な視点や方法等を総合的に用いて、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。</li> </ul> |

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。



**算数・数学WGにおける議論の補足イメージ  
及び教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**

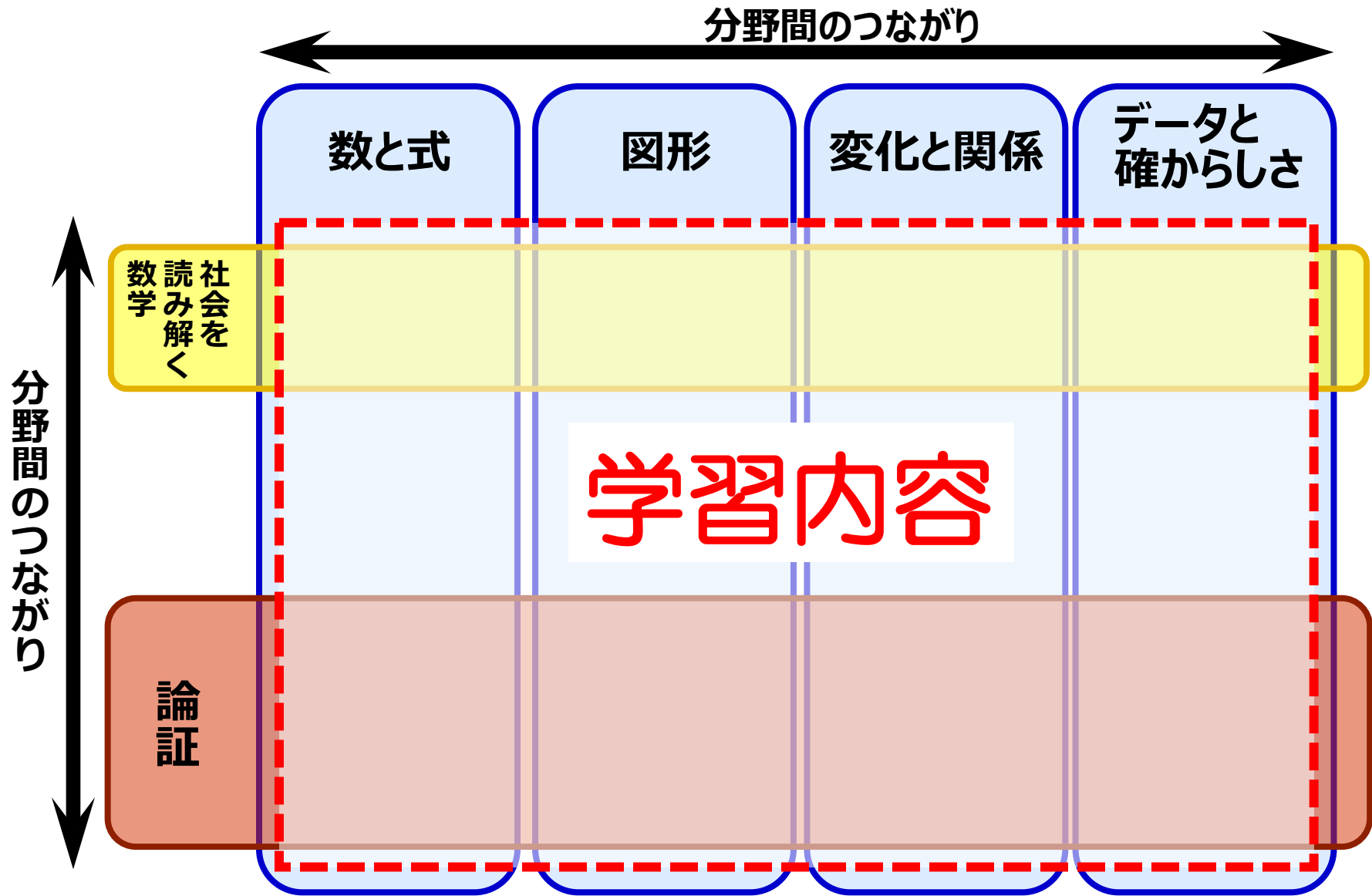


# 算数・数学科の分野・区分のイメージ

| 分野          | 数と式 |   |    |            | 図形                         |       | 変化と関係         |               |      |             | データと確からしさ   |      |      | 論証 | 社会を読み解く数学 |
|-------------|-----|---|----|------------|----------------------------|-------|---------------|---------------|------|-------------|-------------|------|------|----|-----------|
| 区分          | 数・量 | 式 | 計算 | 方程式・不等式    | 図形の性質                      | 図形の計量 | 割合と比          | 関数            |      |             | 場合の数と確率     | 記述統計 | 推測統計 | 論証 | 社会を読み解く数学 |
| 小学校         | ○   | ○ | ○  | ↓          | ○                          | ○     | ○<br>(第4~6学年) | ○<br>(第4~6学年) |      |             | ○           | ○    | ↓    | ↓  | ↓         |
| 中学校         | ○   | ○ | ○  | ○          | ○                          | ○     | ↓             | ○             |      |             | ○           | ○    | ○    | ○  | ↓         |
| 高等学校<br>数学Ⅰ | ↓   | ○ | ○  | ○          | ↓                          | ○     | ↓             | ○             |      |             | ↓           | ○    | ○    | ○  | ○         |
|             |     |   |    |            |                            |       |               |               |      |             |             |      |      |    |           |
| 高等学校<br>数学Ⅱ | ↓   | ↓ | 計算 | (分野)図形と方程式 |                            |       | ↓             | 指数関数・<br>対数関数 | 三角関数 | 微分法・<br>積分法 | ↓           | ↓    | ↓    | ↓  | ↓         |
|             |     |   |    | 図形と<br>方程式 |                            |       |               |               |      |             |             |      |      |    |           |
| 高等学校<br>数学Ⅲ | ↓   | ↓ | ↓  | ↓          | ↓                          | ↓     | ↓             | 極限            | 微分法  | 積分法         | ↓           | ↓    | ↓    | ↓  | ↓         |
|             |     |   |    |            |                            |       |               |               |      |             |             |      |      |    |           |
| 高等学校<br>新科目 | 行列  |   |    |            | 幾何<br>トベ<br>ルク             |       | ↓             | 数列            |      |             | 場合の数<br>と確率 | ↓    | 推測統計 | ↓  | ↓         |
|             |     |   |    |            | 平面<br>素数と複<br>素数と複<br>素数と複 |       |               |               |      |             |             |      |      |    |           |

○：学習内容の規定あり    ↓：学習内容として明記はされていないが、学習の萌芽や継続を表している  
※区分については現行学習指導要領の学習内容をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる    ※分野・区分を横断する学習内容も存在

## 算数・数学科の分野間の関係のイメージ



# 高等学校数学科の科目構成の見直しイメージ（たたき台）

## 数学Ⅲ（選択履修）

極限

微分法

積分法

## 数学Ⅱ（選択履修）

いろいろな式

指数関数・対数関数

微分・積分の考え

図形と方程式

三角関数

## ②数学Ⅰ（必修）の改善

数学ガイダンス(仮)

（数学の全体像、社会や職業との関係、微分積分の素地等）

※ 過度な負担を避ける観点も含め、国が分かりやすい動画を作成することも検討

数と式

集合と命題（論証）

データの分析

二次関数

図形と計量

社会を読み解く数学

（数理モデルを含む）

※ ①で該当する内容を選択履修する場合は相当分を減単可能としてはどうか  
※ 数学Aの履修率が87%であることも踏まえつつ、過度な負担とならない範囲で学習内容の検討が必要

①ABCの区別をなくし、必要な学習内容の選択を容易化

（選択履修）

平面上の曲線と複素数平面

幾何ベクトル

数列

行列

（数ベクトルを含む）

統計的な推測

場合の数と確率

基礎的素養を抽出

※履修順序を想定した配置ではない

▶ 学習内容の実質的増加につながらないよう、全体の学習内容について必要な精選を図る。

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|              | 知識及び技能                                                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                   | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校・中学校・高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>数学における基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。</li> <li>事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象を数理的に捉え、解決の見通しをもって論理的、批判的に考察する力を養う。</li> <li>数学の問題解決の過程や結果を振り返ったり、既習の事柄と関連付けたりするなどして統合的・発展的に考察する力を養う。</li> <li>数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。</li> <li>他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。</li> <li>問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</li> <li>数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。</li> </ul> |

## 見方・考え方

- 事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること

# 高等学校各科目の目標（素案）

## 目標

|     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                                |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数学Ⅰ | <ul style="list-style-type: none"> <li>多項式、論証、図形の計量、関数、データの活用についての基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。</li> <li>多項式を目的に応じて整理したり、方程式や不等式を解いたり、定理を用いて三角形の辺や角の大きさを求めたり、関数の表・式・グラフを相互に関連付けたり、基本的な統計量を求めたりする技能を身に付ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象を式に表現したり図形として捉えたり関数関係に着目したりして論理的に考察する力、社会の事象などから問題を設定してデータを用いて分析し批判的に考察する力、日常生活や社会の事象における判断や意思決定に数学を活用する力を養う。</li> <li>式を用いた問題解決や証明の過程及び図形を計量する方法や関数についての考察を振り返るなどして統合的・発展的に考察する力を養う。</li> <li>集合や命題、式、グラフ、図などを用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。</li> <li>他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。</li> <li>問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</li> <li>数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。</li> </ul> |



高

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 数と式                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数・量                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                        | 式                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                            |
| 知識及び技能                                                                                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                           | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                               |
| 統合的な理解                                                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                 | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>数は、量の大きさや順序を表し、大小比較したり、計算したりできることを理解する。</li> <li>数の範囲を拡張することは、それまでの数と同じ仕組みの表現や計算として扱い、より広範な事象を考察できることを理解する。</li> <li>量は、ものの大きさを捉え、単位を基に測定して数に表したり、比べたりできることを理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>数を構成する単位や十進位取り記数法の仕組みに着目し、数の大きさの比べ方や数え方、表し方を考察し、大小比較や計算などに生かす。</li> <li>量の特徴に着目し、目的に応じて適切な単位や計器を選んで測定し、量の大きさを数に表したり、比べたりする。</li> </ul>                          | <p>式は、数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、数量の関係について説明できることを理解する。</p>                                                                                                                                                              | <p>事象における数量の関係に着目し、式の表し方について考察し、計算して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</p>                                                                                                    |
| 内容項目例                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                        | 内容項目例                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>数の構成と表し方</li> <li>整数、小数、分数</li> <li>概数、四捨五入</li> <li>量と測定についての理解の基礎【再掲】</li> <li>長さの単位と測定【再掲】</li> <li>かさの単位と測定</li> <li>重さの単位と測定</li> <li>時刻と時間</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>数を構成する単位や十進位取り記数法の仕組みに着目し、数の大きさの比べ方や数え方、表し方に関する問題として表現すること。</li> <li>量の特徴に着目し、量の大きさを表したり、比べたりして、考察の対象とすること。</li> </ul>                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>加法が用いられる式とその意味</li> <li>減法が用いられる式とその意味</li> <li>乗法が用いられる式とその意味</li> <li>除法が用いられる式とその意味</li> <li>四則を混合した式や（ ）を用いた式</li> <li>公式</li> <li>□、△ などを用いた式</li> <li>文字式</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>数量の関係に着目し、式に表して、考察の対象とすること。</li> <li>式の表し方について考察すること。</li> <li>考察した式を事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。</li> </ul>                            |
| 統合的な理解                                                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                 | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>数は、量の大きさ、順序を表し、大小比較したり、計算したりできることを理解する。</li> <li>数の範囲を拡張することは、それまでの数と同じ仕組みの表現や計算として扱えるようにし、より広範な事象を考察できることを理解する。</li> </ul>                                                  | <p>数の範囲に着目し、数の表し方や大きさの比べ方を考察し、大小比較や計算などに生かす。</p>                                                                                                                                                       | <p>文字や文字式は、数量や数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、数量や数量の関係について説明できることを理解する。</p>                                                                                                                                                   | <p>事象における数量や数量の数量の関係に着目し、文字式で表し、計算して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</p>                                                                                                    |
| 内容項目例                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                        | 内容項目例                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>正負の数</li> <li>平方根</li> </ul>                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>数の範囲に着目し、数の表し方や大きさの比べ方に関する問題として表現すること。</li> <li>数の表し方や大きさの比べ方を考察し、数の範囲を拡張すること。</li> <li>拡張した数を具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。</li> <li>整数の性質について考察すること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>文字を用いることの必要性和意味</li> <li>文字式</li> </ul>                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>数量や数量の関係を文字式で表して考察の対象とすること。</li> <li>文字式を目的に合った形に変形し、事象を論理的に考察すること。</li> <li>数や数量に関して考察した結果を具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。</li> </ul> |

小学校

中学校

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |     | 数と式    |              |                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                      |
|------|-----|--------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 数・量    |              | 式                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                      |
|      |     | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 知識及び技能                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                         |
| 高等学校 | 数学Ⅰ | 統合的な理解 | 総合的な発揮       | 統合的な理解                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                               |
|      |     |        |              | 式は、数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表現し、推測した事柄が常に成り立つことを説明できることを理解する。                                                     | 事象における数量の関係に着目し、式で表し、計算して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                                                                             |
|      |     | 内容項目例  |              | 内容項目例                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                      |
|      |     |        |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>数量の関係を多項式で表したり、多項式の意味を読み取ったりすること</li> <li>等式や不等式の証明【再掲】</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における数量の関係などを、多項式に表して考察の対象とすること。</li> <li>多項式を目的に合った形に変形し、事象を論理的に考察すること。</li> <li>考察した多項式を事象に即して解釈したり、推論の過程を振り返って新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察したりすること。</li> </ul> |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|      |     | 数と式                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                               |
|------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 計算                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                              | 方程式・不等式                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                               |
|      |     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                 | 知識及び技能                                                                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                  |
| 小学校  |     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                                       | 統合的な理解                                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                                                                                                        |
|      |     | 計算は、数を構成する単位や十進位取り記数法、計算に関して成り立つ性質に基づいており、一定の手順にしたがって数量を正しく処理できることを理解する。                                                                                                                             | 数を構成する単位や十進位取り記数法、計算に関して成り立つ性質に着目し、計算の仕方について考察し、問題の解決に生かす。                                                                                                   |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                               |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                              | 内容項目例                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                               |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>加法、減法、乗法、除法</li> <li>四則に関して成り立つ性質</li> <li>そろばん</li> </ul>                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事象や既習の計算の仕方と関連付け、計算の仕方を考察すること。</li> <li>考察した計算の仕方について、具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。</li> </ul>                     |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                               |
| 中学校  |     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                                       | 統合的な理解                                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                                                                                                        |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>拡張した数の計算は、既習の四則計算や計算に関して成り立つ性質に基づいており、一定の手順にしたがって数量を正しく処理できることを理解する。</li> <li>文字式の計算は、既習の四則計算や計算に関して成り立つ性質に基づいており、一定の手順にしたがって目的に応じた形に整理できることを理解する。</li> </ul> | 計算に関して成り立つ性質に着目し、拡張した数や文字式の計算の仕方について考察し、拡張した数や式の計算を問題の解決に生かす。                                                                                                | 方程式は、等しい数量の関係を表し、条件を満たす値を正確に求められることを理解する。                                                                                                               | 事象における等しい数量の関係に着目し、方程式で表し、変形して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                                                 |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                              | 内容項目例                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                               |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>正の数と負の数の四則計算</li> <li>一次式の加法、減法、乗法の計算</li> <li>数の平方根を含む簡単な式の計算</li> <li>単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法</li> <li>式の展開と因数分解</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事象や既習の計算の仕方と関連付けて、拡張した数や文字式の計算の仕方について考察すること。</li> <li>拡張した数や文字式の計算の仕方について、具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>方程式の必要性和意味</li> <li>方程式の中の文字や解の意味</li> <li>一元一次方程式</li> <li>二元一次方程式</li> <li>連立二元一次方程式</li> <li>二次方程式</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>数量の関係を方程式で表して考察の対象とすること。</li> <li>等式の性質を基にして、方程式を解く方法について考察すること。</li> <li>求めた解を事象に即して解釈したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。</li> </ul>        |
| 高等学校 | 数学Ⅰ | 統合的な理解                                                                                                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                                       | 統合的な理解                                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                                                                                                        |
|      |     | 式の計算は、既習の四則計算や計算に関して成り立つ性質に基づいており、一定の手順にしたがって目的に応じた形に整理できることを理解する。                                                                                                                                   | 計算に関して成り立つ性質に着目し、式の計算の仕方について考察し、その計算を問題の解決に生かす。                                                                                                              | 不等式は、数量の大小関係についての条件を表し、その条件を満たす値の範囲を求められることを理解する。                                                                                                       | 事象における数量の大小関係に着目し、不等式で表し、変形して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                                                  |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                              | 内容項目例                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                               |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>多項式の展開と因数分解</li> </ul>                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の計算の仕方と関連付けて、多項式の計算の仕方を考察すること。</li> </ul>                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>不等式の解の意味や不等式の性質</li> <li>一次不等式の解を求めること</li> </ul>                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>数量の大小関係を一次不等式で表して考察の対象とすること。</li> <li>不等式の性質を基にして、一次不等式を解く方法について考察すること。</li> <li>求めた解を事象に即して解釈したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げた、すること。</li> </ul> |

# 資質・能力の全体構造（素案）

| 小学校 | 図形                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 図形の性質                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                       | 図形の計量                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                             |
|     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                          | 知識及び技能                                                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                |
|     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                | 統合的な理解                                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                      |
|     | 図形の性質は、図形を構成する要素や位置関係、図形間の関係に成り立つ関係や特徴であり、図形を分類したり、構成したりできることを理解する。                                                                                                                                        | 図形を構成する要素、位置関係、図形間の関係に着目し、図形の構成の仕方や性質を考察し、それらを他の図形に広げたり、図形の計量に生かしたりする。                                                                                                                                                | 図形の計量は、図形を角度、面積、体積などの数値として捉えることであり、平面や空間における様々な問題を数量的に扱えることを理解する。                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における形・大きさ・位置関係などに着目し、公式を用いて処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li> <li>事象を考察した過程や結果を基に一般化し、公式を導く。</li> </ul>                                                                                                |
| 小学校 | 内容項目例                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                       | 内容項目例                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                             |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>図形についての理解の基礎</li> <li>三角形や四角形などの図形</li> <li>二等辺三角形、正三角形などの図形</li> <li>平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形</li> <li>平面図形の性質</li> <li>立体図形の性質</li> <li>縮図や拡大図、対称な図形</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>ものの形や図形の構成要素、位置関係、図形間の関係に着目し、図形の性質に関する問題として表現すること。</li> <li>図形の性質について考察したり、考察した性質をもとに、図形を分類したり構成したりすること。</li> <li>考察した性質を、他の図形にも広げ、新たな性質について考察すること。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>量と測定についての理解の基礎【再掲】</li> <li>長さの単位と測定【再掲】</li> <li>平面図形の面積</li> <li>角の大きさ</li> <li>平面図形の面積</li> <li>立体図形の体積</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会の事象などを、形・大きさ・位置関係などに着目して捉え、図形の計量に関する問題として表現すること。</li> <li>既習の図形の面積や体積の求め方と関連付け、図形の面積や体積の求め方を考察すること。また、角度の求め方を考察すること。</li> <li>考察した面積や体積の求め方と、計量の過程や結果を振り返って一般化して、図形の計量に関する公式を導くこと。</li> </ul> |
|     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                | 統合的な理解                                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                      |
|     | 図形の性質は、図形を構成する要素や位置関係、図形間に成り立つ関係や特徴であり、図形を分類したり、構成したりできることを理解する。                                                                                                                                           | 図形を構成する要素、位置関係、図形間の関係に着目し、図形の構成の仕方や性質を考察し、それらを他の図形に広げたり、図形の計量に生かしたりする。                                                                                                                                                | 図形の計量は、図形を長さや角度、面積、体積などの数値として捉えることであり、直接測れない長さや角度を求めたり、平面や空間における様々な問題を数量的に扱ったりできることを理解する。                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における形・大きさ・位置関係などに着目し、定理や公式を用いて処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li> <li>事象を考察した過程や結果を基に一般化し、定理や公式を導く。</li> </ul>                                                                                          |
| 中学校 | 内容項目例                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                       | 内容項目例                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                             |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>作図</li> <li>平行移動、対称移動及び回転移動</li> <li>空間における直線や平面の位置関係</li> <li>直線や平面図形の運動と空間図形</li> <li>空間図形と平面上の表現</li> <li>平行線や角の性質の意味</li> <li>多角形の角</li> <li>円周角と中心角</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象から図形の性質や関係を推測し、図形の性質や関係に関する問題として表現すること。</li> <li>図形の性質に着目し、基本的な作図の方法を考察すること</li> <li>図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察すること</li> <li>考察した図形の性質を具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>扇形の弧の長さや面積、柱体や錐体、球の表面積と体積</li> <li>相似な図形の相似比と面積比や体積比</li> <li>三平方の定理</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会の事象などを、形・大きさ・位置関係などに着目して捉え、図形の計量に関する問題として表現すること。</li> <li>図形の構成要素の関係に着目し、図形の長さや角度、面積の求め方を考察すること。</li> <li>計量の過程や結果を振り返って一般化して、図形の計量に関する定理や公式を導くこと。</li> <li>導いた定理や公式を事象の考察に活用すること。</li> </ul> |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |     | 図形     |              |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|-----|--------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 図形の性質  |              | 図形の計量                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                               |
|      |     | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 知識及び技能                                                                                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                  |
|      |     | 統合的な理解 | 総合的な発揮       | 統合的な理解                                                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                        |
| 高等学校 | 数学Ⅰ |        |              | 図形の計量は、図形を長さや角度、面積、体積などの数値として捉えることであり、直接測れない長さや角度を効率的に求めたり、平面や空間における様々な問題を数量的に扱ったりできることを理解する。                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における形・大きさ・位置関係などに着目し、定理や公式を用いて処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li> <li>事象を考察した過程や結果を基に拡張・一般化し、定理や公式を導く。</li> </ul>                                                                                         |
|      |     | 内容項目例  |              | 内容項目例                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                               |
|      |     |        |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>鋭角の三角比</li> <li>三角比の鈍角まで拡張</li> <li>鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法</li> <li>正弦定理、余弦定理、正弦を用いた面積公式を用いて三角形の辺や角の大きさ、面積を求めること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会の事象などを、形・大きさ・位置関係などに着目して捉え、図形の計量に関する問題として表現すること。</li> <li>図形の構成要素の関係に着目し、図形の長さや角度、面積の求め方を考察すること。</li> <li>計量の過程や結果を振り返って拡張・一般化し、図形の計量に関する定理や公式を導くこと。</li> <li>導いた定理や公式を事象の考察に活用すること。</li> </ul> |



## 資質・能力の全体構造（素案）

| 変化と関係                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 割合と比                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                              | 関数                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 知識及び技能                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                 | 知識及び技能                                                                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                     |
| 統合的な理解                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                       | 統合的な理解                                                                                                                                          | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                           |
| 単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を表し、二つの数量の関係を基に比べ、判断できることを理解する。                                             | 日常生活や社会の事象などについて、二つの数量の關係に着目し、比べ方を考察し、判断に生かす。                                                                                                                                                                                | 伴って変わる二つの数量は、数量の変化と対応の關係によって特徴づけられ、事象の変化を把握したり予測したりして、判断できることを理解する。                                                                             | 日常生活や社会の事象などについて、伴って変わる二つの数量の關係に着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                                                                                                        |
| 内容項目例                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                              | 内容項目例                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>簡単な場合についての割合</li><li>異種の二つの量の割合</li><li>割合</li><li>比</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>事象における二つの数量の關係に着目し、ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係を比べる問題として表現すること。</li><li>ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係との比べ方を、図や式などを用いて考察すること。</li><li>考察したある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係との比べ方を、様々な事象にも活用して適用範囲を広げること。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>伴って変わる二つの数量変化</li><li>表や式、グラフ</li><li>簡単な場合の比例、反比例</li></ul>                                              | <ul style="list-style-type: none"><li>事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの關係に着目し、伴って変わる二つの数量を用いた問題として表現すること。</li><li>伴って変わる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、数量の変化や対応の様子などを考察すること。</li><li>具体的な事象に即して変化や対応の特徴を考え、説明するとともに、類似の事象にも活用して適用範囲を広げること。</li></ul>         |
| 統合的な理解                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                       | 統合的な理解                                                                                                                                          | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                              | 関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の關係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりして判断できることを理解する。                                                                        | 日常生活や社会の事象などについて、伴って変わる二つの数量の關係に着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                                                                                                        |
| 内容項目例                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                              | 内容項目例                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"><li>関数、座標の意味、表、式、グラフ</li><li>比例、反比例</li><li>一次関数、二元一次方程式を関数を示す式とみること</li><li>関数 <math>y=ax^2</math></li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの關係を関数と仮定すること。</li><li>伴って変わる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べたり、相互に関連付けて捉えたりすることによって、数量の変化や対応の様子などを考察すること。</li><li>数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。</li></ul> |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |     | 変化と関係  |              |                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|-----|--------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 割合と比   |              | 関数                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|      |     | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 知識及び技能                                                                                                                                                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 高等学校 | 数学Ⅰ | 統合的な理解 | 総合的な発揮       | 統合的な理解                                                                                                                                                                                     | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                             |
|      |     |        |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応関係として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりして判断できることを理解する。</li> <li>関数のグラフは、方程式や不等式の解を、軸や他のグラフとの位置関係として視覚的に捉えられることを理解する。</li> </ul> | 日常生活や社会の事象などについて、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                                                                                                                          |
|      |     | 内容項目例  |              | 内容項目例                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|      |     |        |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>二次関数の値の変化やグラフの特徴</li> <li>二次関数の最大値や最小値</li> <li>二次関数と二次方程式及び二次不等式の解</li> </ul>                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を二次関数と仮定すること。</li> <li>二次関数の式とグラフの関係について、表と関連付けたりするなどして考察すること。</li> <li>二次方程式や二次不等式の解について、二次関数のグラフと関連付けて考察すること。</li> <li>数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。</li> </ul> |

# 資質・能力の全体構造（素案）

| データと確からしさ                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                            |                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 場合の数と確率                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                 | 記述統計                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 推測統計                                                       |                                                                                                                                                                                            |
| 知識及び技能                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                    | 知識及び技能                                                                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                     | 知識及び技能                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                               |
| 統合的な理解                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                          | 統合的な理解                                                                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                           | 統合的な理解                                                     | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                     |
| 場合の数は、漏れや重複がないように効率よく数え上げた起り得る場合の総数を表し、複雑な事象を構造的に整理できることを理解する。                                                      | 事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、漏れや重複なく調べる方法を考察し、起り得る場合を整理する。                                                                                                                                                                          | データは、身の回りの事象を数量的に捉え、目的に応じて表やグラフなどを用いて表すことにより、データに依拠した根拠に基づいて判断したり、主張したりできることを理解する。                                                                                    | 事象におけるデータの特徴や傾向に着目し、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりして分析し、データに基づいた判断や主張をする。                                                                                                                                                                                                            |                                                            |                                                                                                                                                                                            |
| 内容項目例                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                 | 内容項目例                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 内容項目例                                                      |                                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>場合の数</li> </ul>                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象の特徴に着目し、起り得る場合を調べることを、数学的に考察する対象とすること。</li> <li>順序よく整理するための観点を決めて、漏れや重複なく調べるための方法を考察し、起り得る場合を整理すること。</li> <li>考察した漏れや重複なく調べるための方法を、条件を変えて発展的に考えたり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>絵や図を用いた数量の表現</li> <li>簡単な表やグラフ</li> <li>表と棒グラフ</li> <li>データの分類整理</li> <li>円グラフや棒グラフ</li> <li>測定値の平均</li> <li>データの考察</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて統計的に解決可能な問題を設定すること。</li> <li>問題を解決するために必要なデータを収集する計画を立てること。</li> <li>データを収集、整理し、目的に応じてデータの特徴や傾向について考察すること。</li> <li>データの特徴や傾向に基づく判断や主張について説明し、その妥当性について考察すること。</li> <li>概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法を考え、それを学習や日常生活に生かすこと。</li> </ul> |                                                            |                                                                                                                                                                                            |
| 統合的な理解                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                          | 統合的な理解                                                                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                           | 統合的な理解                                                     | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                     |
| 確率は、ある事象の起りやすさを数値で表し、不確定な事象を予測したり、判断したりできることを理解する。                                                                  | 事象の起りやすさに着目し、数値で表して把握することにより、未知の状況について予測したり判断したりする。                                                                                                                                                                             | データの分布は、値の集まり方や散らばり具合の様子を表し、データに依拠した根拠に基づいて判断したり、主張したりできることを理解する。                                                                                                     | 事象におけるデータの分布に着目し、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりして分析し、データに基づいた判断や主張をする。                                                                                                                                                                                                               | 標本調査は、無作為に抽出した標本から母集団の傾向を調べ、一部のデータに基づいて全体の傾向を推測できることを理解する。 | 事象における母集団と標本の関係に着目し、母集団の傾向を推測して判断したり、調査の方法や結果の妥当性について考察したりする。                                                                                                                              |
| 内容項目例                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                 | 内容項目例                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 内容項目例                                                      |                                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>多数の観察や多数回の試行によって得られる確率</li> <li>場合の数を基にして得られる確率</li> <li>簡単な場合の確率</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象に0以上1以下の数に対応させ、数学的に考察する対象とすること。</li> <li>確率の求め方について考察すること。</li> <li>確率を用いて不確定な事象の起りやすさの傾向を読み取り、その結果の妥当性を判断すること。</li> </ul>                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒストグラム、相対度数</li> <li>四分位範囲、箱ひげ図</li> </ul>                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて統計的に解決可能な問題を設定すること。</li> <li>問題を解決するために必要なデータを収集する計画を立てること。</li> <li>データを収集、整理し、目的に応じてデータの特徴や傾向について考察すること。</li> <li>データの特徴や傾向に基づく判断や主張について説明し、その妥当性について考察すること。</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>標本調査</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて、標本調査によって解決可能な問題を設定すること。</li> <li>母集団から標本を抽出して整理し、標本の特徴や傾向について考察すること。</li> <li>標本の特徴や傾向に基づく判断や主張をすること。</li> <li>標本調査の方法や結果を考察すること。</li> </ul> |

## 資質・能力の全体構造（素案）

| データと確からしさ |              |                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                               |                                                                                                                                                                              |
|-----------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 場合の数と確率   |              | 記述統計                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                  | 推測統計                                                                          |                                                                                                                                                                              |
| 知識及び技能    | 思考力、判断力、表現力等 | 知識及び技能                                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                     | 知識及び技能                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                 |
| 統合的な理解    | 総合的な発揮       | 統合的な理解                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                           | 統合的な理解                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                                                                                       |
|           |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>データの分布は、値の集まり方や散らばり具合の様子を表し、データに依拠した根拠に基づいて判断したり、主張したりできることを理解する。</li> <li>データの相関は、二つの変量の間の直線的な関係の向きや強さを表し、二つの変量の間の関係性について判断できることを理解する。</li> </ul> | 事象におけるデータの分布や二つの変量の関係などに着目し、目的に応じて複数の種類のデータを収集したり適切な手法を選択したりして分析して、データに基づいた判断や主張をする。                                                                                                                                             | 仮説検定は、ある仮定のもとで、観測された値及びそれ以上に極端な値が得られる確率を求めることにより、データとその仮定の矛盾の程度を評価できることを理解する。 | 事象における不確実性に着目し、データと仮定の矛盾の程度を評価するとともに、調査の前提や評価の限界を踏まえて主張の妥当性を考察する。                                                                                                            |
| 内容項目例     |              | 内容項目例                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                  | 内容項目例                                                                         |                                                                                                                                                                              |
|           |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>分散、標準偏差</li> <li>散布図、相関係数</li> <li>デジタルツールの利活用</li> </ul>                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて統計的に解決可能な問題を設定すること。</li> <li>問題を解決するために必要なデータを収集する計画を立てること。</li> <li>データを収集、整理し、データの散らばり具合や傾向を数値化する方法について考察すること。</li> <li>データの散らばり具合や傾向に基づく判断や主張について説明し、その妥当性について考察すること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>仮説検定の考え方</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて、不確実性に着目し、主張に関する仮定を設定すること。</li> <li>仮定に基づいて求めた確率を、あらかじめ定めた基準に照らして解釈し、データと仮定の矛盾の程度を評価すること。</li> <li>主張の妥当性について考察すること。</li> </ul> |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |     | 論証                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                           |
|------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                              |
| 小学校  |     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                    |
|      |     |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                           |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                           |
| 中学校  |     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                    |
|      |     | 証明は、既に正しいと認められた事柄を基にして、論理的に結論を導くことであり、性質が常に成り立つことを説明できることを理解する。                                                                                                                                                                                                  | 事象から性質などを推測したり、推測された性質などを証明したりするとともに、その仮定や結論を振り返って新たな性質を推測し、元の事象と関連付けて考察する。                                                                                                               |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                           |
| 高等学校 | 数学Ⅰ | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                    |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>証明及びその方法の必要性と意味</li> <li>文字式を用いて説明することの必要性と意味</li> <li>平面図形の合同及び三角形の合同条件の意味</li> <li>平面図形の相似及び三角形の相似条件の意味</li> </ul>                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象から数や図形の性質、関係を推測し、数や図形の性質、関係に関する問題として表現すること。</li> <li>性質や定理を活用して論理的に考察すること。（※反証も含む）</li> <li>推論の過程を振り返って、新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察すること。</li> </ul> |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                           |
| 高等学校 | 数学Ⅰ | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                    |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>集合は、ある条件を満たす対象を一つのまとまりとして扱い、集合間の関係を論理的に考察できることを理解する。</li> <li>命題は、証明する対象を真偽の定まる文や式として表し、仮定と結論の関係を明示的に取り扱えることを理解する。</li> <li>証明は、対象とする集合を明確にして、既に正しいと認められた事柄を基にして論理的に結論を導くことであり、その集合において命題が真であることを説明できることを理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象から性質などを推測し、命題として表し、その真偽について証明するとともに、その過程や結論を振り返って新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察する。</li> </ul>                                                          |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                           |
| 高等学校 | 数学Ⅰ | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                    |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>集合</li> <li>命題と証明</li> <li>等式や不等式の証明【再掲】</li> </ul>                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象から性質などを推測し、命題として表現すること。</li> <li>集合に基づいたり同値性に基づいたりして命題の真偽について証明すること。</li> <li>証明の過程に着目し、新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察すること。</li> </ul>                 |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                           |



## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |     | 社会を読み解く数学                                                                                                                                       |                                                                                                                                                      |
|------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 知識及び技能                                                                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                         |
| 小学校  |     | 統合的な理解                                                                                                                                          | 総合的な発揮                                                                                                                                               |
|      |     |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                      |
|      |     |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                      |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                           |                                                                                                                                                      |
| 中学校  |     | 統合的な理解                                                                                                                                          | 総合的な発揮                                                                                                                                               |
|      |     |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                      |
|      |     |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                      |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                           |                                                                                                                                                      |
| 高等学校 | 数学Ⅰ | 統合的な理解                                                                                                                                          | 総合的な発揮                                                                                                                                               |
|      |     | 数理モデルは、日常生活や社会の事象を条件や仮定に基づいて数式などで表し、そのモデルを用いることにより、事象の仕組みを説明したり結果を予測したり、よりよい判断や意思決定を検討したりできることを理解する。                                            | 日常生活や社会の事象における数学的な構造に着目し、数学の問題として表して解決するとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                   |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                           |                                                                                                                                                      |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会の事象などを数学化し、数学的に問題を解決する方法</li> <li>金融と等比数列、漸化式</li> <li>データを表現する数ベクトルとその内積</li> <li>期待値</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会の事象を、数・量やそれらの関係などに着目して捉え、想化したり単純化したりして問題を数学的に表現すること。</li> <li>問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察すること。</li> </ul> |

# 高等学校各科目の目標（素案）

## 目標

|     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                                |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数学Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> <li>式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分についての基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。</li> <li>式を目的に応じて整理したり、指数関数・対数関数及び三角関数の表・式・グラフを相互に関連付けたり、導関数や不定積分及び定積分の値を求めたりする技能を身に付ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>図形を方程式に表現して図形の性質などについて論理的、批判的に考察する力、関数関係や関数の局所的な変化に着目したりして事象を論理的、批判的に考察する力を養う。</li> <li>方程式を用いた図形の性質に関する考察やいろいろな関数を用いた問題解決の過程を振り返るなどして統合的・発展的に考察する力を養う。</li> <li>方程式やいろいろな関数の式・グラフなどを用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。</li> <li>他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。</li> <li>問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</li> <li>数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。</li> </ul> |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|      |     | 数と式                                                                                                                                                               |                                                                                                                              | 図形と方程式                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                       |
|------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |     | 式                                                                                                                                                                 |                                                                                                                              | 図形と方程式                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                       |
|      |     | 知識及び技能                                                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                 | 知識及び技能                                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                          |
|      |     | 統合的な理解                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                       | 統合的な理解                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                |
| 高等学校 | 数学Ⅱ | 式の計算は、既習の四則計算や計算に関して成り立つ性質に基づいており、一定の手順にしたがって目的に応じた形に整理できることを理解する。                                                                                                | 計算に関して成り立つ性質に着目し、式の計算の仕方について考察し、その計算を問題の解決に生かす。                                                                              | 図形を座標と方程式によって表すことは、図形と式とを対応させて扱い、式の計算によって図形の位置関係や性質を調べられることを理解する。                                                                | <ul style="list-style-type: none"><li>事象における図形と式の関係に着目し、式を用いて処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li><li>図形の位置関係や性質について、式を用いて証明する。</li></ul>                                                    |
|      |     | 内容項目例                                                                                                                                                             |                                                                                                                              | 内容項目例                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                       |
|      |     | <ul style="list-style-type: none"><li>三次の乗法公式及び因数分解の公式</li><li>多項式の除法</li><li>分数式の四則計算</li><li>因数定理と簡単な高次方程式</li><li>複素数の範囲での因数定理や高次方程式</li><li>解と係数の関係</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>既習の計算の仕方と関連付けて、式の計算の仕方を考察すること。</li><li>式の計算について、具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>座標平面上の線分を内分点、外分点、二点間の距離</li><li>座標平面上の直線や円の方程式</li><li>簡単な場合の軌跡</li><li>簡単な場合の領域</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>日常生活や社会の事象などを、形・大きさ・位置関係などに着目して捉え、座標と方程式によって表現すること。</li><li>図形の性質について、座標と方程式を用いて考察すること。</li><li>方程式を用いて処理した結果を、図形や具体的な事象に照らして意味づけること。</li></ul> |

# 資質・能力の全体構造（素案）

| 変化と関係                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 指数関数・対数関数                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                             | 三角関数                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                  | 微分法・積分法                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 知識及び技能                                                                                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                | 知識及び技能                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 統合的な理解                                                                                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                      | 統合的な理解                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                           | 統合的な理解                                                                                                                                                                                | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>指数関数は、一定の倍率で変化する関係を表し、急激に増減する事象の変化について予測したり、判断したりできることを理解する。</li> <li>対数関数は、ある数とそれに対応する底の指数の関係を表し、積や累乗の計算、急激な増減などを扱いやすくてできることを理解する。</li> </ul> | <p>事象における一定の倍率で増減する量や桁の大きさの違いに着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</p>                                                                                                                                                                                 | <p>三角関数は、角度とそれに対応する数値の関係を表し、周期的な事象の変化について予測したり、判断したりできることを理解する。</p>                           | <p>事象における周期性に着目し、表、式、グラフを活用して処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</p>                                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>微分は、関数の各値における局所的な変化率を表す関数を求めることであり、それは関数の変化の様子を明らかにできることを理解する。</li> <li>積分は、微分して与えられた関数になるような関数を求めることであり、関数のグラフが形作る面積を求められることを理解する。</li> </ul> | <p>事象における局所的な変化に着目し、関数を用いて問題を解決し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</p>                                                                                                                                                                                                             |
| 内容項目例                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                             | 内容項目例                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                  | 内容項目例                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>指数</li> <li>指数法則</li> <li>指数関数</li> <li>対数</li> <li>対数の計算</li> <li>対数関数</li> </ul>                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を指数関数や対数関数と仮定すること。</li> <li>指数の拡張について考察すること。</li> <li>指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、指数と対数を相互に関連付けするなどして考察すること。</li> <li>数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>弧度法</li> <li>三角関数</li> <li>三角関数の相互関係の基本的な性質</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を三角関数と仮定すること。</li> <li>三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察すること。</li> <li>数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。</li> <li>三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>微分係数や導関数</li> <li>関数の導関数</li> <li>関数の値の増減や極大・極小、グラフの概形</li> <li>不定積分及び定積分</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を多項式関数と仮定すること。</li> <li>関数とその導関数との関係について考察すること。</li> <li>微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察すること。</li> <li>数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。</li> </ul> |

# 高等学校各科目の目標（素案）

## 目標

|     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                          | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                                |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数学Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> <li>極限、微分法、積分法についての基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。</li> <li>簡単な数列の極限を求めたり、導関数を用いて関数の値の増減やグラフの凹凸を調べたり、定積分を用いていろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積などを求めたりする技能を身に付ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>関数の局所的な変化や大局的な変化及び微分と積分の関係に着目するなどして関数関係をより深く捉え、事象を論理的、批判的に考察する力を養う。</li> <li>極限やいろいろな関数の局所的・大局的な性質などを用いた問題解決の過程を振り返ったり、既習の事柄と関連付けたりするなどして、統合的・発展的に考察する力を養う。</li> <li>いろいろな関数の式・グラフや一般的な関数の表記などを用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。</li> <li>他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。</li> <li>問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</li> <li>数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。</li> </ul> |



## 資質・能力の全体構造（素案）

| 変化と関係                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 極限                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                  | 微分法                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 積分法                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 知識及び技能                                                                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                         | 知識及び技能                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 統合的な理解                                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                           | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                         | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                               | 統合的な理解                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 極限は、数列や関数の値がある値に限りなく近づいていく状態であり、連続的な変化や無限に続く過程を捉えることを理解する。                                                                                                                        | 数列や関数の値の極限に着目し、問題を解決し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                                                                                                                      | 微分法は、いろいろな関数を局所的に一次関数で近似して捉える方法であり、複雑な変化の様子を明らかにできることを理解する。                                                                                                                                                                    | 関数の局所的な変化に着目し、問題を解決し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                                                                                                                                                                           | 積分法は、連続的に変化する量を微小な変化量の和の極限として扱い、その値を微分との関係に基づいて計算する方法であり、面積・体積や変化する量の総和などを求められることを理解する。                                   | 微分と積分との関係に着目し、問題を解決し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 内容項目例                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 内容項目例                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>数列の極限</li> <li>無限級数の収束、発散、及び無限級数の和</li> <li>簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴</li> <li>合成関数や逆関数の意味、及び簡単な場合についてそれらを求めること</li> <li>関数の値の極限</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察すること。</li> <li>既に学習した関数の性質と関連付けて、簡単な分数関数と無理関数のグラフの特徴を多面的に考察すること。</li> <li>事象を、数列や関数の値の極限に着目して捉えること。</li> <li>数列や関数の値の極限を、事象に照らして意味づけること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>微分可能性、関数の積及び商の導関数</li> <li>関数の和、差、積及び商の導関数</li> <li>合成関数の導関数</li> <li>三角関数、指数関数及び対数関数の導関数</li> <li>導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかくたりすること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を、既習の関数と関連付けて数学的に考察する対象とすること。</li> <li>導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察すること。</li> <li>関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や第二次導関数の関係について考察すること。</li> <li>数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>不定積分及び定積分</li> <li>置換積分法及び部分積分法</li> <li>いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を、既習の関数と関連付けて数学的に考察する対象とすること。</li> <li>関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察すること。</li> <li>極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察すること。</li> <li>数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。</li> </ul> |

# 高等学校各科目の目標（素案）

## 目標

|     | 知識及び技能                                                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                       | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                                |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新科目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>数学におけるいろいろな概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学を活用した問題解決や数学的な表現の工夫について認識を広げ、深める。</li> <li>事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象を数理的に捉え、見通しをもって論理的、批判的に考察したり、判断・意思決定したりする力を養う。</li> <li>数学の問題解決の過程や結果を振り返ったり、既習の事柄と関連付けたりするなどして統合的・発展的に考察する力を養う。</li> <li>数学的な表現を工夫したり複数の表現を相互に関連付けたりするなどして事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それらを用いて論理的に説明する力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。</li> <li>他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。</li> <li>問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</li> <li>数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。</li> </ul> |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|  |  | データと確からしさ |  | 数と式  |  |
|--|--|-----------|--|------|--|
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列   |  |
|  |  | 推測統計      |  | 行列</ |  |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|             |  | 変化と関係                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                          | 図形                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |  | 数列                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                          | 幾何ベクトル                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                            | 平面上の曲線と複素数平面                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|             |  | 知識及び技能                                                                                                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                             | 知識及び技能                                                                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                               | 知識及び技能                                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|             |  | 統合的な理解                                                                                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                   | 統合的な理解                                                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                     | 統合的な理解                                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 高等学校<br>新科目 |  | <ul style="list-style-type: none"><li>数列は、自然数を定義域とする関数や項どうしの関係により定まる数の並びを表し、局所的な変化から大域的な変化を捉えられることを理解する。</li><li>数学的帰納法は、自然数に関する命題について、全ての自然数について成り立つと結論づける証明方法であることを理解する。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>事象における離散的な変化や再帰関係に着目し、式を用いて処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li><li>事象から性質などを推測し、命題として表し、その真偽について証明するとともに、その過程や結論を振り返って新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察する。</li></ul>                              | 幾何ベクトルは、方向と大きさを持つ量を図的に表し、平面や空間における図形の位置や方向、長さや角度の関係を統一的に扱えることを理解する。                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"><li>事象における方向と大きさに着目し、式を用いて表現するとともに処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</li><li>図形の性質や位置関係について、式を用いて証明する。</li></ul>                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"><li>媒介変数表示や極座標は、平面上の点の位置や曲線の表し方の一つであり、直交座標表示では扱いにくい曲線を描いたり、その性質を調べたりできることを理解する。</li><li>複素数平面は、複素数を平面上の点に対応させる表し方であり、平面上の回転を計算で処理できることを理解する。</li></ul> | 図形の表し方に着目し、式を用いて表現するとともに処理し、得られた結果を意味づけたり活用したりする。                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|             |  | 内容項目例                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                          | 内容項目例                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                            | 内容項目例                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|             |  | <ul style="list-style-type: none"><li>等差数列と等比数列の一般項と和</li><li>いろいろな数列の一般項や和を求める方法</li><li>漸化式</li><li>数学的帰納法</li></ul>                                                               | <ul style="list-style-type: none"><li>事象における離散的な変化や再帰関係に着目して、数学的に考察する対象とすること。</li><li>離散的な変化の規則性を数学的に表現し考察すること。</li><li>数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用して適用範囲を広げること。</li><li>自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明すること。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示</li><li>ベクトルの内積及びその基本的な性質</li><li>座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できること</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>事象を方向と大きさに着目して捉え、ベクトルによって表現すること。</li><li>実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察すること。</li><li>図形の性質について、ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて考察すること。</li><li>ベクトルを用いて処理した結果を、図形や具体的な事象に照らして意味づけること。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>曲線の媒介変数表示</li><li>極座標、極方程式</li><li>複素数</li><li>二次方程式</li><li>複素数平面と複素数の極形式</li><li>ド・モアブルの定理</li></ul>                                             | <ul style="list-style-type: none"><li>事象を図形の表し方に着目して捉え、媒介変数表示や極座標表示として表現すること。</li><li>媒介変数表示や極座標表示による点の位置や曲線の表し方を考察すること。</li><li>媒介変数表示や極座標を用いて処理した結果を、図形や具体的な事象に照らして意味づけること。</li><li>事象を図形の表し方に着目して捉え、複素数平面において表現すること。</li><li>複素数平面における図形の移動などと関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察すること。</li><li>複素数平面を用いて処理した結果を、図形や具体的な事象に照らして意味づけること。</li></ul> |



**理科WGにおける議論の補足イメージ  
及び教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**



# 理科の分野・領域の再編について

（現行）

| 分野   | （中学校）第 1 分野                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                   | （中学校）第 2 分野                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                           |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 領域   | エネルギー                                                                                                                                                                                                                             | 粒子                                                                                                                                                                                | 生命                                                                                                                                                                                                                              | 地球                                                                                                                                                                                                                        |
| 小学校  | <ul style="list-style-type: none"><li>・風とゴムの力の働き</li><li>・磁石の性質</li><li>・電流の働き</li><li>・電流がつくる磁力</li><li>・電気の利用</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・光と音の性質</li><li>・電気の通り道</li><li>・振り子の運動</li><li>・てこの規則性</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・物と重さ</li><li>・金属、水、空気と温度</li><li>・物の溶け方</li><li>・水溶液の性質</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・空気と水の性質</li><li>・燃焼の仕組み</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・身の回りの生物</li><li>・人の体のつくりと運動</li><li>・植物の発芽、成長、結実</li><li>・動物の誕生</li><li>・植物の養分と水の通り道</li><li>・生物と環境</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・季節と生物</li><li>・人の体のつくりと働き</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・太陽と地面の様子</li><li>・雨水の行方と地面の様子</li><li>・天気の様子</li><li>・流れる水の働きと土地の変化</li><li>・天気の変化</li><li>・月と太陽</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・月と星</li><li>・土地のつくりと変化</li></ul> |
| 中学校  | <ul style="list-style-type: none"><li>・身近な物理現象</li><li>・電流とその利用</li><li>・運動とエネルギー</li><li>・科学技術と人間【分野横断】</li></ul>                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・身の回りの物質</li><li>・化学変化と原子・分子</li><li>・化学変化とイオン</li><li>・科学技術と人間【分野横断】</li></ul>                                                             | <ul style="list-style-type: none"><li>・いろいろな生物とその共通点</li><li>・生物の体のつくりと働き</li><li>・生命の連続性</li><li>・科学技術と人間【分野横断】</li></ul>                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"><li>・大地の成り立ちと変化</li><li>・気象とその変化</li><li>・地球と宇宙</li><li>・科学技術と人間【分野横断】</li></ul>                                                                                                        |
| 高等学校 | 《物理基礎》 <ul style="list-style-type: none"><li>・物体の運動とエネルギー</li><li>・様々な物理現象とエネルギーの利用</li></ul>                                                                                                                                     | 《化学基礎》 <ul style="list-style-type: none"><li>・化学と人間生活</li><li>・物質の構成</li><li>・物質の変化とその利用</li></ul>                                                                                | 《生物基礎》 <ul style="list-style-type: none"><li>・生物の特徴</li><li>・ヒトの体の調節</li><li>・生物の多様性と生態系</li></ul>                                                                                                                              | 《地学基礎》 <ul style="list-style-type: none"><li>・地球のすがた</li><li>・変動する地球</li></ul>                                                                                                                                            |
|      | 《物理》 <ul style="list-style-type: none"><li>・様々な運動</li><li>・波</li><li>・電気と磁気</li><li>・原子</li></ul>                                                                                                                                 | 《化学》 <ul style="list-style-type: none"><li>・物質の状態と平衡</li><li>・物質の変化と平衡</li><li>・無機物質の性質</li><li>・有機化合物の性質</li><li>・化学が果たす役割</li></ul>                                             | 《生物》 <ul style="list-style-type: none"><li>・生物の進化</li><li>・生命現象と物質</li><li>・遺伝情報の発現と発生</li><li>・生物の環境応答</li><li>・生態と環境</li></ul>                                                                                                | 《地学》 <ul style="list-style-type: none"><li>・地球の概観</li><li>・地球の活動と歴史</li><li>・地球の大気と海洋</li><li>・宇宙の構造</li></ul>                                                                                                            |
|      |                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                           |
| 分野   | 物理分野                                                                                                                                                                                                                              | 化学分野                                                                                                                                                                              | 生物分野                                                                                                                                                                                                                            | 地学分野                                                                                                                                                                                                                      |

（改訂案）

※学習内容例については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる。

# 理科の各分野の区分と分野横断的な学習について

（現行）

| 分野 | （中学校）第1分野 |             |              |       |       |        |            | （中学校）第2分野 |        |           |              |            |          |
|----|-----------|-------------|--------------|-------|-------|--------|------------|-----------|--------|-----------|--------------|------------|----------|
| 領域 | エネルギー     |             |              | 粒子    |       |        |            | 生命        |        |           | 地球           |            |          |
|    | エネルギーの捉え方 | エネルギーの変換と保存 | エネルギー資源の有効利用 | 粒子の存在 | 粒子の結合 | 粒子の保存性 | 粒子の持つエネルギー | 生物の構造と機能  | 生命の連続性 | 生物と環境の関わり | 地球の内部と地表面の変動 | 地球の大気と水の循環 | 地球と天体の運動 |

（改訂案）

| 分野        | 物理分野                                                                             |            |          | 化学分野  |       |         | 生物分野        |        |           | 地学分野         |            |          |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------|------------|----------|-------|-------|---------|-------------|--------|-----------|--------------|------------|----------|
| 区分        | 作用と変化                                                                            | 保存とエネルギー変換 | 空間における伝搬 | 物質の構成 | 物質の性質 | 物質の化学変化 | 生物の構造と機能    | 生命の連続性 | 生物と環境の関わり | 地球の内部と地表面の変動 | 地球の大気と水の循環 | 地球と天体の運動 |
| 横断的学習内容例※ | (中学校) エネルギーと物質                                                                   |            |          |       |       |         | (中学校) 生物と環境 |        |           |              |            |          |
|           | (小学校) 理科と日常生活（仮称）【新設】<br>(中学校) 自然環境の保全と科学技術の利用<br>(高等学校) 科学ガイダンス（仮称）、科目「科学と人間生活」 |            |          |       |       |         |             |        |           |              |            |          |

※中高の学習内容例については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる。

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

### 目標

|              | 知識及び技能                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                               | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                         |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校・中学校・高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。</li> </ul> |

### 見方・考え方

- 自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること

# 資質・能力の全体構造（素案）

|     | 作用と変化                                                                                                                                                  |                                                        | 保存とエネルギー変換                                                                                                                                |                                                             | 空間における伝搬                                                                                                     |                                                           |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
|     | 知識及び技能                                                                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                           | 知識及び技能                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                | 知識及び技能                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                              |
|     | 統合的な理解                                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                                 | 統合的な理解                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                      | 統合的な理解                                                                                                       | 総合的な発揮                                                    |
| 小学校 | 力には種類があること、力が働くと運動が変化することを理解する。                                                                                                                        | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。              | 電流の流れ方には特徴があること、エネルギーは変換できることを理解する。                                                                                                       | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。                   | 光と音は空間を伝わり、その伝わり方には特徴があることを理解する。                                                                             | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。                 |
|     | 内容項目例                                                                                                                                                  |                                                        | 内容項目例                                                                                                                                     |                                                             | 内容項目例                                                                                                        |                                                           |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>力の働き・磁石の性質・電流が作る磁力・この規則性・理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul>                                                           | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>電気の通り道・光と音の性質・電流の働き・電気の利用・理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul>                                             | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、保存とエネルギー変換についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>光と音の性質</li> <li>理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul>                          | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、空間における伝搬についての特徴を見いだして表現すること。 |
| 中学校 | 統合的な理解                                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                                 | 統合的な理解                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                      | 統合的な理解                                                                                                       | 総合的な発揮                                                    |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>力は物体の運動状態を変化させることを理解する。</li> <li>電流と磁場には関係があることを理解する。</li> </ul>                                                | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。              | <ul style="list-style-type: none"> <li>電気回路における電圧、電流及び抵抗の間には規則性があることを理解する。</li> <li>エネルギーは変換されたり保存されたりすることを理解する。</li> </ul>               | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。                   | 光と音の伝わり方には規則性があることを理解する。                                                                                     | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。                 |
|     | 内容項目例                                                                                                                                                  |                                                        | 内容項目例                                                                                                                                     |                                                             | 内容項目例                                                                                                        |                                                           |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>力の働き</li> <li>電流</li> <li>電流と磁場</li> <li>力のつり合いと合成・分解</li> <li>運動の規則性</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>電流</li> <li>力学的エネルギー</li> <li>エネルギーと物質【分野横断】</li> <li>断】</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、保存とエネルギー変換についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>光と音</li> <li>エネルギーと物質【分野横断】</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、空間における伝搬についての特徴を見いだして表現すること。 |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|     | 物質の構成                                                                                                                                                           |                                                    | 物質の性質                                                                                                                                                                         |                                                    | 物質の化学変化                                                                                                                                                             |                                                      |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
|     | 知識及び技能                                                                                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                       | 知識及び技能                                                                                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                       | 知識及び技能                                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                         |
| 小学校 | 統合的な理解                                                                                                                                                          | 総合的な発揮                                             | 統合的な理解                                                                                                                                                                        | 総合的な発揮                                             | 統合的な理解                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                               |
|     | 物質が粒子で構成されていることを理解する。                                                                                                                                           | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。            | 空気や水、金属の性質には共通点や相違点があることを理解する。                                                                                                                                                | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。            | 化学反応によって物質が変化することを理解する。                                                                                                                                             | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。              |
|     | 内容項目例                                                                                                                                                           |                                                    | 内容項目例                                                                                                                                                                         |                                                    | 内容項目例                                                                                                                                                               |                                                      |
| 中学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>物と重さ</li> <li>空気と水の性質</li> <li>金属、水、空気と温度</li> <li>物の溶け方</li> <li>燃焼の仕組み</li> <li>理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul>           | 観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の構成の特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>空気と水の性質</li> <li>金属、水、空気と温度</li> <li>物の溶け方</li> <li>燃焼の仕組み</li> <li>水溶液の性質</li> <li>理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul>                       | 観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の性質の特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>燃焼の仕組み</li> <li>水溶液の性質</li> <li>理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul>                                                                 | 観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の化学変化の特徴を見いだして表現すること。 |
|     | 統合的な理解                                                                                                                                                          | 総合的な発揮                                             | 統合的な理解                                                                                                                                                                        | 総合的な発揮                                             | 統合的な理解                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                               |
|     | 物質を、原子・分子、イオンと関連付けて理解する。                                                                                                                                        | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。            | 物質の性質は、原子や分子の状態によって変化することを理解する。                                                                                                                                               | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。            | 化学反応においては、反応の前後で原子の数が保存されること、反応には熱が関係していることを理解する。                                                                                                                   | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。              |
|     | 内容項目例                                                                                                                                                           |                                                    | 内容項目例                                                                                                                                                                         |                                                    | 内容項目例                                                                                                                                                               |                                                      |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>水溶液</li> <li>物質の成り立ち</li> <li>水溶液とイオン</li> <li>化学変化と電池</li> <li>エネルギーと物質【分野横断】</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の構成の特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>物質のすがた</li> <li>状態変化</li> <li>化学変化</li> <li>水溶液とイオン</li> <li>化学変化と電池</li> <li>エネルギーと物質【分野横断】</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の性質の特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>化学変化</li> <li>化学変化と物質の質量</li> <li>水溶液とイオン</li> <li>化学変化と電池</li> <li>エネルギーと物質【分野横断】</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の化学変化の特徴を見いだして表現すること。 |



# 資質・能力の全体構造（素案）

| 小学校 | 生物の構造と機能                                                                                                                                                           |                                                           | 生命の連続性                                                                                                                                                                   |                                                         | 生物と環境の関わり                                                                                                               |                                                            |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
|     | 知識及び技能                                                                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                              | 知識及び技能                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                            | 知識及び技能                                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                               |
|     | 統合的な理解                                                                                                                                                             | 総合的な発揮                                                    | 統合的な理解                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                  | 統合的な理解                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                     |
|     | 生物には基本的な体のつくりと働きがあることを理解する。                                                                                                                                        | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。              | 植物と動物の成長の過程を通して、生命の連続性があることを理解する。                                                                                                                                        | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。            | 生物と環境の間には関係性があることを理解する。                                                                                                 | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。               |
| 小学校 | 内容項目例                                                                                                                                                              |                                                           | 内容項目例                                                                                                                                                                    |                                                         | 内容項目例                                                                                                                   |                                                            |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの生物</li> <li>ヒトの体のつくりと運動</li> <li>ヒトの体のつくりと働き</li> <li>植物の植物の養分と水の通り道</li> <li>理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul>             | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物の構造と機能についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの生物・季節と生物</li> <li>植物の発芽、成長、結実</li> <li>動物の誕生</li> <li>理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul>                                           | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生命の連続性についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの生物</li> <li>季節と生物</li> <li>生物と環境</li> <li>理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul>      | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物と環境の関わりについての特徴を見いだして表現すること。 |
|     | 統合的な理解                                                                                                                                                             | 総合的な発揮                                                    | 統合的な理解                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                  | 統合的な理解                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                     |
| 中学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生物は多様であるが、共通点をもつことを理解する。</li> <li>生物の体のつくりと働きには特徴や関係性があり、これらのつくりと働きによって生命活動が行われていることを理解する。</li> </ul>                       | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。              | 生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴や規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解する。                                                                                                                       | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。            | <ul style="list-style-type: none"> <li>自然界には、生物どうしの関係や生物と環境との間に関係があることを理解する。</li> <li>自然界のつり合いが重要であることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。               |
|     | 内容項目例                                                                                                                                                              |                                                           | 内容項目例                                                                                                                                                                    |                                                         | 内容項目例                                                                                                                   |                                                            |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>生物の観察と分類の仕方</li> <li>生物の体の共通点と相違点</li> <li>生物と細胞</li> <li>植物の体のつくりと働き</li> <li>動物の体のつくりと働き・自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物の構造と機能についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生物の観察と分類の仕方</li> <li>生物と細胞</li> <li>生物の成長と殖え方</li> <li>遺伝の規則性と遺伝子</li> <li>生物の種類の多様性と進化</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生命の連続性についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生物の観察と分類の仕方</li> <li>生物と環境【分野横断】</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul>       | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物と環境の関わりについての特徴を見いだして表現すること。 |

# 資質・能力の全体構造（素案）

| 小学校 | 地球の内部と地表面の変動                                                                                                                                                              |                                                               | 地球の大気と水の循環                                                                                                                                                      |                                                             | 地球と天体の運動                                                                                                         |                                                           |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
|     | 知識及び技能                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                  | 知識及び技能                                                                                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                | 知識及び技能                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                              |
|     | 統合的な理解                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                        | 統合的な理解                                                                                                                                                          | 総合的な発揮                                                      | 統合的な理解                                                                                                           | 総合的な発揮                                                    |
|     | 流水の働きや火山、地震などによって、地表が変化することを理解する。                                                                                                                                         | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。             | 天気が時間とともに変化することを理解する。                                                                                                                                           | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。           | 太陽や月などの天体があり、それが見える位置は時間とともに移動することを理解する。                                                                         | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。         |
| 中学校 | 内容項目例                                                                                                                                                                     |                                                               | 内容項目例                                                                                                                                                           |                                                             | 内容項目例                                                                                                            |                                                           |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>雨水の行方と地面の様子</li> <li>流れる水の働きと土地の変化</li> <li>土地のつくりと変化</li> <li>理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul>                                        | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の内部と地表面の変動についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>太陽と地面の様子</li> <li>雨水の行方と地面の様子</li> <li>天気の様子</li> <li>流れる水の働きと土地の変化</li> <li>天気の変化</li> <li>理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の大気と水の循環についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>太陽と地面の様子</li> <li>月と星</li> <li>月と太陽</li> <li>理科と日常生活（仮称）【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球と天体の運動についての特徴を見いだして表現すること。 |
|     | 統合的な理解                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                        | 統合的な理解                                                                                                                                                          | 総合的な発揮                                                      | 統合的な理解                                                                                                           | 総合的な発揮                                                    |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>地層から、過去の様子を知ることができることを理解する。</li> <li>地球内部の活動に起因する地震や火山活動などが、日本列島に影響を与えていることを理解する。</li> </ul>                                       | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。             | <ul style="list-style-type: none"> <li>霧や雲の発生などの天気の変化が起きる理由を理解する。</li> <li>日本列島の気象は、周囲の海洋の影響を受けていることを理解する。</li> </ul>                                           | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。           | 太陽系には地球を含む様々な天体があること、太陽系の天体の動きと地球からの見え方を理解する。                                                                    | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。         |
| 中学校 | 内容項目例                                                                                                                                                                     |                                                               | 内容項目例                                                                                                                                                           |                                                             | 内容項目例                                                                                                            |                                                           |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地形や地層、岩石の観察</li> <li>地層の重なりと過去の様子</li> <li>火山と地震</li> <li>自然の恵みと火山災害・地震災害・生物と環境【分野横断】</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul> | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の内部と地表面の変動についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>気象観測</li> <li>天気の変化</li> <li>日本の気象</li> <li>自然の恵みと気象災害</li> <li>生物と環境【分野横断】</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul>    | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の大気と水の循環についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>天体の動きと地球の自転</li> <li>公転・太陽系と恒星</li> <li>自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】</li> </ul>  | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球と天体の運動についての特徴を見いだして表現すること。 |

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|         | 知識及び技能                                                                               | 思考力、判断力、表現力等             | 学びに向かう力、人間性等                                                       |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 科学と人間生活 | 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 | 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 | 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。 |

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                              | 思考力、判断力、表現力等             | 学びに向かう力、人間性等                                              |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 物理基礎 | 日常生活や社会との関連を図りながら、物理的な事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 | 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 | 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。 |
| 物理   | 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。                      | 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 | 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。 |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |      | 作用と変化                                                                                                                 |                                                        | 保存とエネルギー変換                                                                                                                                   |                                                             | 空間における伝搬                                                                                          |                                                           |
|------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
|      |      | 知識及び技能                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                           | 知識及び技能                                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                | 知識及び技能                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                              |
|      |      | 統合的な理解                                                                                                                | 総合的な発揮                                                 | 統合的な理解                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                                      | 統合的な理解                                                                                            | 総合的な発揮                                                    |
| 高等学校 | 物理基礎 | 物体に作用する力と物体の運動状態の間には規則性があることを理解する。                                                                                    | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。              | エネルギーは変換されたり保存されたりすることを理解する。                                                                                                                 | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。                   | 波は振動の伝搬であることを理解する                                                                                 | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。                 |
|      |      | 内容項目例                                                                                                                 |                                                        | 内容項目例                                                                                                                                        |                                                             | 内容項目例                                                                                             |                                                           |
|      | 物理   | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動の表し方</li> <li>様々な力とその働き</li> <li>物理学が拓く世界</li> </ul>                         | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>力学的エネルギー</li> <li>熱</li> <li>電気</li> <li>エネルギーとその利用</li> <li>物理学が拓く世界</li> </ul>                      | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、保存とエネルギー変換についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>波</li> <li>物理学が拓く世界</li> </ul>                             | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、空間における伝搬についての特徴を見いだして表現すること。 |
|      |      | 統合的な理解                                                                                                                | 総合的な発揮                                                 | 統合的な理解                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                                      | 統合的な理解                                                                                            | 総合的な発揮                                                    |
| 高等学校 | 物理   | <ul style="list-style-type: none"> <li>力学的な力と電磁気学的な力には共通性があることを理解する。</li> <li>荷電と電場や磁場との間には、規則性があることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。              | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量やエネルギーは保存することを理解する。</li> <li>直流回路と交流回路には特徴があることを理解する。</li> <li>質量とエネルギーには等価性があることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>波で生じる現象を理解する。</li> <li>電子や光は波と粒子の二重性をもつことを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。                 |
|      |      | 内容項目例                                                                                                                 |                                                        | 内容項目例                                                                                                                                        |                                                             | 内容項目例                                                                                             |                                                           |
|      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な運動</li> <li>電気と磁気</li> <li>原子</li> </ul>                                    | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な運動</li> <li>電気と磁気</li> <li>原子</li> </ul>                                                           | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、保存とエネルギー変換についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>波</li> <li>電気と磁気</li> <li>原子</li> </ul>                    | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、空間における伝搬についての特徴を見いだして表現すること。 |



## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                              | 思考力、判断力、表現力等             | 学びに向かう力、人間性等                                              |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 化学基礎 | 日常生活や社会との関連を図りながら、化学的な事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 | 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 | 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。 |
| 化学   | 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。                       | 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 | 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。 |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|      |      | 物質の構成                                                                                                                                 |                                                    | 物質の性質                                                                                                                                   |                                                                                                      | 物質の化学変化                                                                                                                      |                                                      |
|------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
|      |      | 知識及び技能                                                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                       | 知識及び技能                                                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                                                         | 知識及び技能                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                         |
|      |      | 統合的な理解                                                                                                                                | 総合的な発揮                                             | 統合的な理解                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                               | 統合的な理解                                                                                                                       | 総合的な発揮                                               |
| 化学基礎 | 化学基礎 | <ul style="list-style-type: none"> <li>原子の性質は、原子核を構成する陽子と中性子、電子配置により特徴付けられることを理解する。</li> <li>物質の量を原子や分子などの個数として捉えることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。            | <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の性質は、元素の組成や構成原子の電子の状態により特徴付けられることを理解する。</li> <li>物質の状態は、構成する原子や分子の熱運動と関係があることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>化学反応は、物質量（原子や分子の数）で捉える必要があること理解する。</li> <li>化学反応は、物質間の電子の授受が関係していることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。              |
|      |      | 内容項目例                                                                                                                                 |                                                    | 内容項目例                                                                                                                                   |                                                                                                      | 内容項目例                                                                                                                        |                                                      |
|      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>化学と物質</li> <li>物質の構成粒子</li> <li>物質量と化学反応式</li> <li>化学が拓く世界</li> </ul>                          | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の構成の特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>化学と物質</li> <li>物質と化学結合</li> <li>物質量と化学反応式</li> <li>化学反応</li> <li>化学が拓く世界</li> </ul>              | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の性質の特徴を見いだして表現すること。                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>物質量と化学反応式</li> <li>化学反応</li> <li>化学が拓く世界</li> </ul>                                   | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の化学変化の特徴を見いだして表現すること。 |
|      |      | 統合的な理解                                                                                                                                | 総合的な発揮                                             | 統合的な理解                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                               | 統合的な理解                                                                                                                       | 総合的な発揮                                               |
| 化学   | 化学   | 元素は、電子配置の特徴によって整理できることを理解する。                                                                                                          | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。            | <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の状態とその変化は、分子間力や化学結合、状態間の平衡と関係があることを理解する。</li> <li>無機物質や有機化合物の性質を理解する。</li> </ul>               | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の化学反応は、エネルギーや化学平衡と関係があることを理解する。</li> <li>無機物質や有機化合物における反応の特徴を理解する。</li> </ul>       | 科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。              |
|      |      | 内容項目例                                                                                                                                 |                                                    | 内容項目例                                                                                                                                   |                                                                                                      | 内容項目例                                                                                                                        |                                                      |
|      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>無機物質の性質</li> <li>有機化合物の性質</li> <li>化学が果たす役割</li> </ul>                                         | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の構成の特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の状態と平衡</li> <li>無機物質の性質</li> <li>有機化合物の性質</li> <li>化学が果たす役割</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の性質の特徴を見いだして表現すること。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の変化と平衡</li> <li>無機物質の性質</li> <li>有機化合物の性質</li> <li>化学が果たす役割</li> </ul>              | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の化学変化の特徴を見いだして表現すること。 |
|      |      | 統合的な理解                                                                                                                                | 総合的な発揮                                             | 統合的な理解                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                               | 統合的な理解                                                                                                                       | 総合的な発揮                                               |

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                            | 思考力、判断力、表現力等             | 学びに向かう力、人間性等                                                      |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 生物基礎 | 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 | 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 | 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。 |
| 生物   | 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。                 | 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 | 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。 |

# 資質・能力の全体構造（素案）

| 生物の構造と機能 |                                                                                                                                                                             | 生命の連続性                                                    |                                                                                                                                                                 | 生物と環境の関わり                                               |                                                                                                               |                                                            |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 知識及び技能   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                | 知識及び技能                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                    | 知識及び技能                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                  |                                                            |
| 統合的な理解   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                      | 統合的な理解                                                    | 総合的な発揮                                                                                                                                                          | 統合的な理解                                                  | 総合的な発揮                                                                                                        |                                                            |
| 生物基礎     | <ul style="list-style-type: none"><li>生物は多様でありながら、「細胞が基本的な単位である」、「エネルギーを利用する」という共通性をもっていることを理解する。</li><li>ヒトの体は、神経系と内分泌系による調節や免疫の働きなどによって調節され、生命活動が行われていることを理解する。</li></ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。              | 生物は多様でありながら、「遺伝物質としてDNAがあり自己複製する」という共通性をもっていることを理解する。                                                                                                           | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。            | <ul style="list-style-type: none"><li>生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を理解する。</li><li>生態系の保全の重要性について理解する。</li></ul>  | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。               |
|          | 内容項目例                                                                                                                                                                       |                                                           | 内容項目例                                                                                                                                                           |                                                         | 内容項目例                                                                                                         |                                                            |
|          | <ul style="list-style-type: none"><li>生物の特徴</li><li>神経系と内分泌系による調節</li><li>免疫</li></ul>                                                                                      | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物の構造と機能についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"><li>生物の特徴</li><li>遺伝子とその働き</li></ul>                                                                                          | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生命の連続性についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"><li>生物の特徴</li><li>植生と遷移</li><li>生態系とその保全</li></ul>                          | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物と環境の関わりについての特徴を見いだして表現すること。 |
| 生物       | 統合的な理解                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                    | 統合的な理解                                                                                                                                                          | 総合的な発揮                                                  | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                                     |
|          | <ul style="list-style-type: none"><li>生物の体内には生命を維持するために必要な物質や細胞があり、そこで化学反応が起こることによって生命活動が行われていることを理解する。</li><li>生物は環境変化に対して反応したり、行動したりすることを理解する。</li></ul>                  | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。              | <ul style="list-style-type: none"><li>生物の進化は蓄積された遺伝子の変化の結果であることを理解する。</li><li>遺伝子の情報が発現することによって細胞や生物が特有の性質をもつことを理解する。</li><li>発生は遺伝子発現が関わっていることを理解する。</li></ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。            | <ul style="list-style-type: none"><li>生態系における個体群内の関係性と個体群間の関係性を理解する。</li><li>生態系における物質生産と物質循環を理解する。</li></ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。               |
|          | 内容項目例                                                                                                                                                                       |                                                           | 内容項目例                                                                                                                                                           |                                                         | 内容項目例                                                                                                         |                                                            |
|          | <ul style="list-style-type: none"><li>生物の進化</li><li>生命現象と物質</li><li>生物の環境応答</li></ul>                                                                                       | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物の構造と機能についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"><li>生物の進化</li><li>遺伝情報の発現と発生</li></ul>                                                                                        | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生命の連続性についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"><li>生物の進化</li><li>生物の環境応答</li><li>生態と環境</li></ul>                           | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物と環境の関わりについての特徴を見いだして表現すること。 |

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等             | 学びに向かう力、人間性等                                                 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 地学基礎 | 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 | 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 | 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。 |
| 地学   | 地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。                       | 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 | 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。 |



# 資質・能力の全体構造（素案）

|      |  | 地球の内部と地表面の変動                                                                                                                                |                                                               | 地球の大気と水の循環                                                                                                                             |                                                             | 地球と天体の運動                                                                                                      |                                                           |
|------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 地学基礎 |  | 知識及び技能                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                  | 知識及び技能                                                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                                | 知識及び技能                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                              |
|      |  | 統合的な理解                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                        | 統合的な理解                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                                      | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                                    |
|      |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>プレートの運動によって、地震や火山活動が生じていることを理解する。</li> <li>古生物の活動と地球環境は相互に影響を及ぼしていたことを理解する。</li> </ul>               | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。             | 地球における様々なエネルギーの出入りや移動について、全体としてエネルギーの収支はつりあっていることを理解する。                                                                                | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>宇宙、太陽系、地球の誕生について理解する。</li> <li>地球には生命が生まれる条件が備わっていたことを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。         |
|      |  | 内容項目例                                                                                                                                       |                                                               | 内容項目例                                                                                                                                  |                                                             | 内容項目例                                                                                                         |                                                           |
| 高等学校 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>惑星としての地球・活動する地球</li> <li>地球の変遷</li> <li>地球の環境</li> </ul>                                             | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の内部と地表面の変動についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>大気と海洋</li> <li>地球の変遷</li> <li>地球の環境</li> </ul>                                                  | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の大気と水の循環についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地球の変遷</li> </ul>                                                       | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球と天体の運動についての特徴を見いだして表現すること。 |
|      |  | 統合的な理解                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                        | 統合的な理解                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                                      | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                                    |
|      |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地球の形状や内部構造は、重力や地震波などによって推測できることを理解する。</li> <li>地球の歴史を通して、地球内部の活動によって、地表が大きく変化してきたことを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。             | <ul style="list-style-type: none"> <li>大気や海洋は層構造をしていることを理解する。</li> <li>日本や世界の気象は、地形に加え、大気と海洋の大循環や大規模な現象によって影響を受けていることを理解する。</li> </ul> | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。           | 地球上での視運動から天体運動の規則性を見いだすことができることを理解する。                                                                         | 科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。         |
|      |  | 内容項目例                                                                                                                                       |                                                               | 内容項目例                                                                                                                                  |                                                             | 内容項目例                                                                                                         |                                                           |
| 地学   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地球の概観</li> <li>地球の活動と歴史</li> </ul>                                                                   | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の内部と地表面の変動についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地球の活動と歴史</li> <li>地球の大気と海洋</li> </ul>                                                           | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の大気と水の循環についての特徴を見いだして表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地球の活動と歴史</li> <li>宇宙の構造</li> </ul>                                     | 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球と天体の運動についての特徴を見いだして表現すること。 |
|      |  | 内容項目例                                                                                                                                       |                                                               | 内容項目例                                                                                                                                  |                                                             | 内容項目例                                                                                                         |                                                           |



**体育・保健体育、健康、安全WGにおける  
議論の補足イメージ及び  
教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**

# 体育・保健体育等を学ぶ意義・価値について(第1回・第2回の委員発表をもとに作成)

## 幸福な人生 よりよい社会

### 学ぶ過程の中で 見方・考え方

が徐々に資質・能力の育成を導くようになってともに、よりよい社会や幸福な人生に繋がっていく

### 資質・能力 が身に付く

【知識及び技能に関する統合的な理解】  
【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】

### 主体的・対話的で 深い学び

学校における学び

## 幸福な人生

- 生涯を通じた持続的な身体的・精神的・社会的に良い状態(ウェルビーイングな状態)の実現
- 運動・スポーツとの「する、みる、支える、集まる、つながる」等の関わり方を通じた、生涯にわたる楽しさや喜びの享受と自身の可能性を最大化する豊かなスポーツライフの実現
- 自他が安全で安心し、健康を保持増進する人生

## よりよい社会

- 活力あふれる健康長寿社会・共生社会を実現し社会全体が持続的にウェルビーイングである状態
- 運動・スポーツを通じた地域・経済の活性化、人々の豊かな繋がり、新たな価値創造の実現
- 人々が健康・安全で、未知の課題にも柔軟かつ持続的に対応できる能力を備え、豊かな人生を送ることのできる社会を含む環境づくりに、様々な担い手が主体的・協働的に参画する社会

## 学校で体育・保健体育等を学ぶ「本質的意義」

### 体育

- 身体を媒介に運動学習を行うという独特の学習方法を有し、「運動・スポーツの価値」を体感できるとともに、非認知能力を含む身体的・社会的・情意的スキルの育成に大きな力を発揮する強みがある。
- 全ての子供に運動・スポーツとの多様な関わりを保証するとともに、人と関わりながら自分らしく健康で生き生きとした人生を送る基盤づくりに貢献する、知・徳・体のバランスを支える不可欠な学び。
- デジタル技術が発展する中で、「身体を通じた人間性の醸成」「社会性の育成」「自己理解の深化」の場としての意義・価値を有する。
- 授業における多様性の包摂を通じて、自らの豊かなスポーツライフを舵取りする力と、スポーツを通した誰も取り残さない共生社会の創り手の育成の両方を目指すことができる。

### 健康・安全

- 学齢期の健康や安全に関する課題の克服、リスクの軽減に資するとともに、生涯を通じて、身体的・精神的・社会的に良い状態で豊かな生活を送る上での基礎を培う役割がある。なお、学校は、発達段階を踏まえつつ、保健について計画的かつ系統的に学ぶことのできる最適な場所と考えられる。
- 知識の集積に止まらない健康に関する原則・概念を習得することにより、健康に関わる自己決定能力を育み、未知の健康課題にも対応できる柔軟で持続的なコンピテンシーを身に付けることができる。
- 学習内容を日常生活で行動化する実践力を身に付けることで、現代的課題を含めた様々な課題に対応することができるようになってともに、保健・安全に関するより良い社会を含む環境の創造に主体的・協働的に参画できる力を育てることにつながる。

「未来社会を生き抜く  
人間力」の育成に直結

# 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                          | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動の特性等に応じた運動の行い方や自他の運動への関わり方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動や健康についての課題を見付け、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動との多様な楽しみ方や自己の心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。</li> <li>自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や健康の保持増進を目指し、明るく楽しい生活を営む態度を養う。</li> </ul>                              |
| 中学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動の特性等に応じた運動に関する技能や自他の運動への豊かな関わり方及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、合理的に考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたる運動との多様な楽しみ方や自他の心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。</li> <li>自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</li> </ul>                        |
| 高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動の特性等に応じた運動に関する技能や生涯にわたる自他の運動への豊かな関わり方及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する技能を身に付けるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、合理的、計画的に考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたる運動との継続的で多様な楽しみ方や自他の心身の健康やそれを支える社会づくりに関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。</li> <li>自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や健康の回復・保持増進を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</li> </ul> |

## 見方・考え方

- 【体育】・運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。
- 【保健】・保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに関わる原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。



# 資質・能力の全体構造（素案）

| 体づくり運動系、体づくり運動                                                                                                       |                                                                                                                                         | 器械運動系、器械運動                                                                                                                                  |                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 知識及び技能                                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                            | 知識及び技能                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                  |
| 統合的な理解                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                  | 統合的な理解                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                        |
| 心と体の関係に気付いたり仲間と関わり合ったりすることにより、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすることができることを理解する                                               | 心身の状態等に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ                                                                             | 器具等を使い、回転したり、支持したり、逆位になったり、懸垂したりするなどの動きや技に挑戦し、各自の課題に応じた動きや技ができるようになることにより、楽しさや喜びを一層味わうことができることを理解する                                         | 器具等を使う運動について、自己の課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ   |
| 内容項目例                                                                                                                |                                                                                                                                         | 内容項目例                                                                                                                                       |                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>体ほぐしの運動遊び・運動</li> <li>多様な動きをつくる運動遊び・運動</li> <li>体の動きを高める運動</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>心と体の状態等に応じて運動の課題や行い方を選ぶこと</li> <li>誰もが気付きや関わり合いが深まる運動や、体の動きを高めるために適した運動の行い方を工夫したりすること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>固定施設を使った運動遊び</li> <li>マットを使った運動遊び・運動</li> <li>鉄棒を使った運動遊び・運動</li> <li>跳び箱を使った運動遊び・運動</li> </ul>       | 器具等を使う運動について、自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすること                 |
| 統合的な理解                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                  | 統合的な理解                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                        |
| 心と体の関係や自身の状況等を踏まえ、仲間と関わり合ったり、計画的に生活に運動を取り入れたりすることで、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすることができることを理解する                      | 心身の状況等から、自他が体を動かす楽しさや心地よさを味わったり体の動きを高めたりするために必要なことを考え、運動を通して仲間と関わる方法や運動の組み合わせを工夫する                                                      | 器具の特性等に応じて、回転したり、支持したり、懸垂したり、バランスをとったりするなどの技に挑戦し、各自の課題に応じた技ができるようになることにより、自他が楽しさや喜びを一層味わうことができることを理解する                                      | 器具の特性等から、自他が器械運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技を習得する練習方法や演技構成を工夫する          |
| 内容項目例                                                                                                                |                                                                                                                                         | 内容項目例                                                                                                                                       |                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>体ほぐしの運動</li> <li>体の動きを高める運動</li> <li>実生活に生かす運動の計画</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>動きの組み合わせ方や仲間との関わり合いなどの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>マット運動の基本的な技</li> <li>鉄棒運動の基本的な技</li> <li>平均台運動の基本的な技</li> <li>跳び箱運動の基本的な技</li> </ul>                 | 器具等を使う運動について、技の行い方や技の組み合わせ方などの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること                        |
| 統合的な理解                                                                                                               | 総合的な発揮                                                                                                                                  | 統合的な理解                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                        |
| 心と体の関係や自身の状況等を踏まえ、仲間と主体的に関わり合ったり、計画的に生活に運動を取り入れたりすることで、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、生涯にわたる健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図ることができることを理解する | 心身の状況等から、自他が体を動かす楽しさや心地よさを味わったり体の動きを高めたりするために必要なことを考え、運動を通して仲間と関わる方法や運動の組み合わせを合理的、計画的に工夫する                                              | 器具の特性等に応じて、回転したり、支持したり、懸垂したり、バランスをとったりするなどの技に挑戦し、各自の課題に応じて技が滑らかに安定してできるようになることにより、自他が楽しさや喜びを一層味わうことができることを理解する                              | 器具の特性等から、自他が器械運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技を習得する練習方法や演技構成を、合理的、計画的に工夫する |
| 内容項目例                                                                                                                |                                                                                                                                         | 内容項目例                                                                                                                                       |                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>体ほぐしの運動</li> <li>実生活に生かす運動の計画</li> </ul>                                      | 運動の行い方や運動の実生活への取り入れ方の課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>マット運動の基本的な技と発展技</li> <li>鉄棒運動の基本的な技と発展技</li> <li>平均台運動の基本的な技と発展技</li> <li>跳び箱運動の基本的な技と発展技</li> </ul> | 器具等を使う運動について、技や演技、仲間との関わり方など課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること        |



# 資質・能力の全体構造（素案）

|      | 陸上運動系、陸上競技                                                                                                |                                                                                                   | 水泳運動系、水泳                                                                              |                                                                                        |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 知識及び技能                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                      | 知識及び技能                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                           |
| 小学校  | 統合的な理解                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                            | 統合的な理解                                                                                | 総合的な発揮                                                                                 |
|      | 走ったり、バトンの受け渡しをしたり、リズムカルにハードルを走り越えたり、リズムカルな助走から踏み切ったりして、記録に挑戦したり、相手と競争したりすることにより、一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する | 走・跳等に関する自己の課題の解決の仕方や競争・記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ                        | 泳ぐ距離や浮いている時間を伸ばしたり、記録を達成したりすることにより、水の中での活動で一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                  | 水の中での活動に関する自己の課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ             |
|      | 内容項目例                                                                                                     |                                                                                                   | 内容項目例                                                                                 |                                                                                        |
| 中学校  | 統合的な理解                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                            | 統合的な理解                                                                                | 総合的な発揮                                                                                 |
|      | 走・跳に関する基本的な動きや効率的な動きで、記録に挑戦したり相手と競争したりすることで、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                                  | 走・跳の特性等を踏まえ、自他が陸上運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら基本的な動きや効率的な動きを習得する練習方法や競争の仕方を工夫する              | 泳法の特性等に応じて、効率的な泳ぎで、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりすることにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する        | 泳法の特性等から、自他が水泳運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な動きや長く泳ぐための動きの習得方法を工夫する             |
|      | 内容項目例                                                                                                     |                                                                                                   | 内容項目例                                                                                 |                                                                                        |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                            | 統合的な理解                                                                                | 総合的な発揮                                                                                 |
|      | 走・跳・投に関する合理的・効率的な動きで、記録に挑戦したり相手と競争したりすることで、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                                   | 走・跳・投の特性等を踏まえ、自他が陸上競技の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら合理的・効率的な動きを習得する練習方法や競争の仕方を合理的、計画的な解決に向けて工夫する | 泳法の特性等に応じて、効率的でバランスを保った泳ぎで続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりすることにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する | 泳法の特性等から、自他が水泳の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な動きや長く泳ぐための動きの習得方法を合理的、計画的な解決に向けて工夫する |
|      | 内容項目例                                                                                                     |                                                                                                   | 内容項目例                                                                                 |                                                                                        |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                            | 統合的な理解                                                                                | 総合的な発揮                                                                                 |
|      | 短距離走・リレー、長距離走、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げ、やり投げ                                                                 | 陸上競技に関して、合理的・効率的な動きなどの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること                                  | クロールや平泳ぎ等の泳法、複数の泳法                                                                    | 各泳法の合理的な動きなどの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること                                |
|      | 内容項目例                                                                                                     |                                                                                                   | 内容項目例                                                                                 |                                                                                        |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|      | ボール運動系、球技                                                                                              |                                                                                                                       | 武道                                                                                                            |                                                                                                               |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 知識及び技能                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                          | 知識及び技能                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                  |
|      | 統合的な理解                                                                                                 | 総合的な発揮                                                                                                                | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                        |
| 小学校  | ゲームの特性等に応じて、自身の動きやボールに関する操作及び仲間と連携したゲームを展開することにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                         | ゲームの特性等から、自他が運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と伝え合いながらルールや作戦、運動の取り組み方等を工夫する                                                 |                                                                                                               |                                                                                                               |
|      | 内容項目例                                                                                                  |                                                                                                                       | 内容項目例                                                                                                         |                                                                                                               |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>ボールゲーム、鬼遊び</li> <li>ゴール型（ゲーム）、ネット型（ゲーム）、ベースボール型（ゲーム）</li> </ul> | ゲーム等を行うにあたっての自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすること                                                         |                                                                                                               |                                                                                                               |
| 中学校  | 統合的な理解                                                                                                 | 総合的な発揮                                                                                                                | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                        |
|      | ゲームの特性等に応じて、自身の動きやボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで、攻防を展開し、勝敗を競うことにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                | ゲームの特性等から、自他がボール運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を工夫する                                                  | 攻防の特性等に応じて、自分の力や相手の力を効率的に使う基本的な技を仕掛けたり相手の動きを制御したりして簡易な攻防を展開し、勝敗を競い合い互いに高め合うことにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する | 攻防の特性等から、自他が武道の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技の習得方法や簡易な攻防の展開を工夫する                                            |
|      | 内容項目例                                                                                                  |                                                                                                                       | 内容項目例                                                                                                         |                                                                                                               |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴール型での攻防</li> <li>ネット型での攻防</li> <li>ベースボール型での攻防</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>ボール操作やボールを持たないときの動きなどの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>柔道の簡易な攻防</li> <li>剣道の簡易な攻防</li> <li>相撲の簡易な攻防</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>技の習得や簡易な攻防などの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること</li> </ul>                       |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                                                 | 総合的な発揮                                                                                                                | 統合的な理解                                                                                                        | 総合的な発揮                                                                                                        |
|      | ゲームの特性等に応じて、作戦や状況に応じた自身の動きやボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで、攻防を展開し、勝敗を競うことにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する       | ゲームの特性等から、自他が球技の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を合理的、計画的な解決に向けて工夫する                                       | 攻防の特性等に応じて、自分の力や相手の力を効率的に使う得意技を仕掛けたり相手の動きを制御したりして攻防を展開し、勝敗を競い合い互いに高め合うことにより、自他が一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する      | 攻防の特性等から、自他が武道の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技の習得方法や攻防の展開を合理的、計画的な解決に向けて工夫する                                 |
|      | 内容項目例                                                                                                  |                                                                                                                       | 内容項目例                                                                                                         |                                                                                                               |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴール型での攻防</li> <li>ネット型での攻防</li> <li>ベースボール型での攻防</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>攻防やボール操作、ボールを持たないときの動きなどの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>柔道の攻防</li> <li>剣道の攻防</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>技の習得や攻防、合理的な動きなどの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること</li> </ul> |

# 資質・能力の全体構造（素案）

| 表現運動系、ダンス |                                                                                                          | 体育理論                                                                                                               |                                                                                                                    |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知識及び技能    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                             | 知識及び技能                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                       |
| 統合的な理解    | 総合的な発揮                                                                                                   | 統合的な理解                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                                                             |
| 小学校       | 自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入して踊ることにより、楽しさや喜びを味わうことができることを理解する                                              | 表現やダンスの特性等に応じて、自己の課題の解決の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して表現に取り組むことができるような発表・交流の仕方を工夫する                                        |                                                                                                                    |
|           | 内容項目例                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                              |                                                                                                                    |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現遊び、リズム遊び</li> <li>表現、リズムダンス</li> <li>フォークダンス</li> </ul>         | 表現や交流を行うにあたっての自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすること                                                     |                                                                                                                    |
| 中学校       | 統合的な理解                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                             | 統合的な発揮                                                                                                             |
|           | 様々なダンスの特性等に応じて、リズムやイメージ、踊りの特徴等を捉えて仲間とともに踊ったり自己を表現したりすることにより、自他が一層喜びや楽しさを味わうことができることを理解する                 | 表現やダンスの特性等から、表現運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら表現の方法や構成を工夫する                                                     | スポーツの文化としての側面や合理的な運動実践に必要なこと等、自他の豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な関わり方について考えを深めることができることを理解する |
|           | 内容項目例                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                              |                                                                                                                    |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>創作ダンス</li> <li>フォークダンス</li> <li>現代的なリズムのダンス</li> </ul>            | 表現や交流などの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること                                                                                   |                                                                                                                    |
| 高等学校      | 統合的な理解                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                             | 統合的な発揮                                                                                                             |
|           | 様々なダンスの特性等に応じて、リズムやイメージ、踊りの特徴等を捉えて、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを深めて自己を表現したりすることにより、自他が一層喜びや楽しさを味わうことができることを理解する | ダンスの特性等から、自他がダンスの楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら表現の方法や構成を合理的、計画的な解決に向けて工夫する                                        | スポーツ文化の創造や合理的な運動実践に必要なこと等、自他の豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を多角的に身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な関わり方について考えを深めることができることを理解する |
|           | 内容項目例                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                              |                                                                                                                    |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>創作ダンス</li> <li>フォークダンス</li> <li>現代的なリズムのダンス</li> </ul>            | 表現や交流、発表などの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること                                                              |                                                                                                                    |
| 高等学校      | 統合的な理解                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                             | 統合的な発揮                                                                                                             |
|           | 様々なダンスの特性等に応じて、リズムやイメージ、踊りの特徴等を捉えて、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを深めて自己を表現したりすることにより、自他が一層喜びや楽しさを味わうことができることを理解する | スポーツ文化の創造や合理的な運動実践に必要なこと等、自他の豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を多角的に身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な関わり方について考えを深めることができることを理解する | スポーツ文化の創造や豊かなスポーツライフの継続のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツとの関わり方を工夫する                                                      |
|           | 内容項目例                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                              |                                                                                                                    |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>創作ダンス</li> <li>フォークダンス</li> <li>現代的なリズムのダンス</li> </ul>            | 表現や交流、発表などの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること                                                              |                                                                                                                    |
| 高等学校      | 統合的な理解                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                             | 統合的な発揮                                                                                                             |
|           | 様々なダンスの特性等に応じて、リズムやイメージ、踊りの特徴等を捉えて、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを深めて自己を表現したりすることにより、自他が一層喜びや楽しさを味わうことができることを理解する | スポーツ文化の創造や合理的な運動実践に必要なこと等、自他の豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を多角的に身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な関わり方について考えを深めることができることを理解する | スポーツ文化の創造や豊かなスポーツライフの継続のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツとの関わり方を工夫する                                                      |
|           | 内容項目例                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                              |                                                                                                                    |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>創作ダンス</li> <li>フォークダンス</li> <li>現代的なリズムのダンス</li> </ul>            | 表現や交流、発表などの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること                                                              |                                                                                                                    |
| 高等学校      | 統合的な理解                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                             | 統合的な発揮                                                                                                             |
|           | 様々なダンスの特性等に応じて、リズムやイメージ、踊りの特徴等を捉えて、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを深めて自己を表現したりすることにより、自他が一層喜びや楽しさを味わうことができることを理解する | スポーツ文化の創造や合理的な運動実践に必要なこと等、自他の豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を多角的に身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な関わり方について考えを深めることができることを理解する | スポーツ文化の創造や豊かなスポーツライフの継続のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツとの関わり方を工夫する                                                      |
|           | 内容項目例                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                              |                                                                                                                    |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>創作ダンス</li> <li>フォークダンス</li> <li>現代的なリズムのダンス</li> </ul>            | 表現や交流、発表などの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること                                                              |                                                                                                                    |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|      | 【全ての領域共通】運動との関わり方                                                                                      |                                                                                         |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校  | 知識及び技能                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                                                            |
|      | 統合的な理解                                                                                                 | 総合的な発揮                                                                                  |
|      | 運動等の特性等に応じて、公正、協力、責任、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が運動に豊かに親しむことができることを理解する                          | 運動等の特性等から、自他が運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、自らの運動や仲間との関わり方などを工夫する                             |
|      | 内容項目例                                                                                                  |                                                                                         |
|      | 公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する概念や方法等                                                                        | 運動の行い方に関する共生等に関する課題の発見や解決                                                               |
| 中学校  | 統合的な理解                                                                                                 | 総合的な発揮                                                                                  |
|      | 運動等の特性等に応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が自らの人生において運動に豊かに親しむことができることを理解する              | 運動等の特性等から、自他が運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、自らの運動や仲間との関わり方や安全の確保の仕方などを工夫し、生活に適用する             |
|      | 内容項目例                                                                                                  |                                                                                         |
|      | 公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する概念や方法等                                                                        | 運動実践につながる公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する課題の発見や解決                                              |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                                                 | 総合的な発揮                                                                                  |
|      | 運動等の特性等に応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が自らの人生において他者によりよく関わりながら運動に豊かに親しむことができることを理解する | 運動等の特性等から、自他が運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、自らの運動や仲間との関わり方や安全の確保の仕方などを工夫し、生涯にわたる視野を踏まえ生活に適用する |
|      | 内容項目例                                                                                                  |                                                                                         |
|      | 公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する概念や方法等                                                                        | 運動実践につながる公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する課題の発見や解決                                              |



# 資質・能力の全体構造（素案）

|      | 健康な生活、健康な生活と現代社会                                                                     |                                                        | 心の健康、心の健康と対策                                                       |                                                                  |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
|      | 知識及び技能                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                           | 知識及び技能                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                     |
| 小学校  | 統合的な理解                                                                               | 総合的な発揮                                                 | 統合的な理解                                                             | 総合的な発揮                                                           |
|      | 健康の状態には、生活の仕方や生活空間の環境が関わっており、毎日を健康に過ごすためには、生活の仕方や生活環境を整えることが必要であることを理解する             | 健康な生活の仕方を考え、身近な生活に適用する                                 | 心は発達すること、心と体は密接な関係があること等の特徴を踏まえ、不安や悩みに対処することで、心の健康を保つことができることを理解する | 心をよりよく発達させたり、不安や悩みに対処する方法を考え、身近な生活に適用する                          |
|      | 内容項目例                                                                                |                                                        | 内容項目例                                                              |                                                                  |
| 中学校  | 統合的な理解                                                                               | 総合的な発揮                                                 | 統合的な理解                                                             | 総合的な発揮                                                           |
|      | 健康の状態には、個人の生活行動や社会環境が関わっており、人が健康に過ごすためには、生活行動を整えたり、より良い社会環境を目指すことが必要であることを理解する       | 健康を保持増進する方法を見だし、自他の生活に適用する                             | 精神と身体は互いに影響し合うこと等の特徴を踏まえ、欲求やストレスに適切に対処することで、心の健康を保持増進できることを理解する    | 精神機能を発達させたり、欲求やストレスへの適切な対処法を考え、自他の生活に適用する                        |
|      | 内容項目例                                                                                |                                                        | 内容項目例                                                              |                                                                  |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                               | 総合的な発揮                                                 | 統合的な理解                                                             | 総合的な発揮                                                           |
|      | 健康は、個人の生活行動と社会環境等の相互作用の下に成立しており、現代社会における健康課題に対応するためには、こうした相互作用を踏まえた行動選択が必要であることを理解する | 健康を保持増進するための個人や社会の取組の意義を見だし、社会生活に適用する                  | 精神疾患の疾病概念やその対処方法など、心の健康を維持したり回復したりするために必要なことを理解する                  | 心の健康を維持・回復するために必要な個人の取組や社会的な対策について考え、社会生活に適用する                   |
|      | 内容項目例                                                                                |                                                        | 内容項目例                                                              |                                                                  |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                               | 総合的な発揮                                                 | 統合的な理解                                                             | 総合的な発揮                                                           |
|      | 健康の成り立ち<br>生活習慣と健康                                                                   | 健康な生活に関する自他の課題の発見<br>生活の質を高める方法を見いだすこと                 | 精神機能の発達と自己形成<br>欲求やストレスへの心身への影響<br>ストレスへの対処                        | 自他の心の健康に関わる課題の発見<br>心の健康を保持増進する方法を見いだすこと<br>ストレスへの適切な対処の方法を考えること |
|      | 内容項目例                                                                                |                                                        | 内容項目例                                                              |                                                                  |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                               | 総合的な発揮                                                 | 統合的な理解                                                             | 総合的な発揮                                                           |
|      | 健康の成り立ち<br>健康の考え方<br>様々な保健活動や社会的対策                                                   | 健康に関わる自他や社会の課題の発見<br>生活の質の向上に向けた課題解決の方法を整理し、それらを表現すること | 精神疾患の特徴<br>精神疾患への対処<br>心の健康を維持・回復するための方法や対策                        | 自他や社会の心の健康に関わる課題の発見<br>心の健康に関する課題を解決する方法を考えること                   |
|      | 内容項目例                                                                                |                                                        | 内容項目例                                                              |                                                                  |



# 資質・能力の全体構造（素案）

|      | けが・傷害の防止、安全な社会生活                                                             |                                                   | 病気・疾病の予防、疾病の予防と対策                                    |                                                                                          |
|------|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 知識及び技能                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                      | 知識及び技能                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                             |
| 小学校  | 統合的な理解                                                                       | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                               | 総合的な発揮                                                                                   |
|      | けがは、人の行動や生活環境が関わって発生していることを踏まえ、要因に対応した防止方法について身に付けることで、けがの防止につながることを理解する     | 危険の予測や回避の方法を考え、身近な生活に適用する                         | 身近な病気の要因を踏まえた予防方法をとることで、その予防につながることを理解する             | 病気の原因や予防の原則から、病気の予防方法を考え、身近な生活に適用する                                                      |
|      | 内容項目例                                                                        |                                                   | 内容項目例                                                |                                                                                          |
| 中学校  | 統合的な理解                                                                       | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                               | 総合的な発揮                                                                                   |
|      | 傷害は、人の行動や生活環境及びそれらの相互によって発生していることを踏まえ、要因に対応した防止方法を身に付けることで、傷害の防止につながることを理解する | 危険の予測や回避の方法を多面的に考え、自他の生活に適用する                     | 疾病の要因を踏まえた予防方法をとることで、既存の病気に加え、未知の疾病の予防にも活用できることを理解する | 疾病概念や予防の原則を拡張し、疾病の予防方法を考え、自他の生活に適用する                                                     |
|      | 内容項目例                                                                        |                                                   | 内容項目例                                                |                                                                                          |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                       | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                               | 総合的な発揮                                                                                   |
|      | 事故の要因や予防の考え方について身に付け、社会的な対策を講じることで、安全な社会の形成につなげられることを理解する                    | 自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避する方法を考え、社会生活に適用する             | 疾病の特徴を踏まえた社会的な対策を講じることで、生涯の各段階の疾病の予防につながることを理解する     | 疾病の概念や予防の原則を拡張し、疾病の特徴や生涯の各段階に応じた予防や回復の方法、社会的な対策を選択し、社会生活に適用する                            |
|      | 内容項目例                                                                        |                                                   | 内容項目例                                                |                                                                                          |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                       | 総合的な発揮                                            | 統合的な理解                                               | 総合的な発揮                                                                                   |
|      | 事故の発生要因<br>安全な社会の形成に必要なこと<br>速やかで適切な応急手当                                     | 安全な社会生活に関わる課題の発見<br>自他や社会の危険予測、回避方法<br>傷害の悪化の防止方法 | 感染症の疾病概念と予防方法<br>生活習慣病やがんの疾病概念と予防と回復の方法              | 疾病の予防に関する自他や社会の課題の発見<br>疾病の特徴に応じてリスクを軽減し健康を保持増進するための個人の取組や社会的な対策を考えること<br>生涯の各段階に応じた課題解決 |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|      | 体の発育・発達、身体機能の発達、生涯を通じる健康                                                                                 |                                                                                                                                                   | 健康と環境、健康を支える環境づくり                                                                                                                                                |                                                                                                                          |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 知識及び技能                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                      | 知識及び技能                                                                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                             |
|      | 統合的な理解                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                            | 統合的な理解                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                   |
| 小学校  | 思春期の体の変化を踏まえた適切な生活の仕方を身に付けることで、体をよりよく成長させられることを理解する                                                      | 体をよりよく発育・発達させる方法について考え、身近な生活に適用する                                                                                                                 |                                                                                                                                                                  |                                                                                                                          |
|      | 内容項目例                                                                                                    |                                                                                                                                                   | 内容項目例                                                                                                                                                            |                                                                                                                          |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>体の発育・発達</li> <li>思春期の体の変化</li> <li>体をよりよく発育・発達させるための生活</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>体の発育・発達に関わる事象から課題を見付けること</li> <li>体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方を考えること</li> </ul>                                  |                                                                                                                                                                  |                                                                                                                          |
| 中学校  | 統合的な理解                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                            | 統合的な理解                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                   |
|      | 身体機能の発達を踏まえた適切な生活行動について身に付けることで、よりよい成長や行動選択ができるようになることを理解する                                              | 身体機能の発達や適切な生活行動について考え、自他の生活に適用する                                                                                                                  | 衛生等の環境が、人の健康の保持増進に関連があることを理解する                                                                                                                                   | 健康と環境に関わる概念や原則を生活環境から社会に関わる環境まで拡張し、健康を保持増進する方法を考え、自他の生活に適用する                                                             |
|      | 内容項目例                                                                                                    |                                                                                                                                                   | 内容項目例                                                                                                                                                            |                                                                                                                          |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能の発達</li> <li>生殖に関わる機能の成熟</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能発達に関する自他の課題の発見</li> <li>発達の状況に応じた健康を保持増進する方法を見いだすこと</li> </ul>                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>身体的环境に対する適応能力・至適範囲</li> <li>飲料水や空気の衛生的管理</li> <li>生活に伴う廃棄物の衛生的管理</li> <li>健康を守る社会の取組</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康と環境に関する自他の課題の発見</li> <li>健康と環境に関わる課題や情報を整理して、健康を保持増進する方法を見いだすこと</li> </ul>      |
| 高等学校 | 統合的な理解                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                            | 統合的な理解                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                   |
|      | 生涯の各段階の健康課題を踏まえた健康管理や環境づくりを行うことで、生涯を通じた健康の保持増進や回復につながることを理解する                                            | 生涯を通じる健康について考え、社会生活に適用する                                                                                                                          | 健康を支える環境づくりが、自他の健康の保持増進に関連があることを理解する                                                                                                                             | 健康と環境に関わる概念や原則を健康を支える環境づくりまで拡張し、全ての人が健康に生きていくための環境について考え、社会生活に適用する                                                       |
|      | 内容項目例                                                                                                    |                                                                                                                                                   | 内容項目例                                                                                                                                                            |                                                                                                                          |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯の各段階における健康</li> <li>労働と環境</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯の各段階における自他や社会の課題の発見</li> <li>生涯の各段階に応じて健康を保持増進するための個人の取組や社会的な対策を考えること</li> <li>生涯の各段階に応じた課題解決</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスプロモーションの考え方</li> <li>環境・食品と健康</li> <li>保健・医療制度及び地域の保健・医療機関</li> <li>様々な保健活動や社会的対策</li> <li>健康に関する環境づくりと社会参加</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康を支える環境づくりに関する自他や社会の課題の発見</li> <li>健康を支える環境づくりについて、個人の取組や社会的な対策を考えること</li> </ul> |



**芸術WGにおける議論の補足イメージ  
及び教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**

# 目標及び見方・考え方等の改善の方向性①



## 芸術系教科における現状と課題例

第1回及び第2回WGにおける委員の意見や学習指導要領実施状況調査の分析などにより、芸術系教科として以下の現状と課題が考えられる。

- 我が国の文化芸術に関する教育の充実が求められていること
- 教師からの働きかけが強く、子供が自律的に学習を進められていない状況が一部に見られること
- 表現及び鑑賞の活動の相互の関連付けが適切に行われていない状況があること
- 児童生徒が芸術系教科・科目の学びの意義について、十分に実感できている状況に至っていないこと
- 芸術系教科・科目での学びを、豊かな社会の創造にどのようにつなげていけるのか

子供たちが正解を求めることなく、芸術のよさや面白さを感じようとする意識をもつことができていないのではないか

子供たちが諸感覚を働かせて感じたことを、知識を基に説明したり、教師が多様な子供の視点や考え方に目を向けることができていないのではないかと

子供たちに、学校教育で身に付けた資質・能力を生活や社会などへ関わらせていく視座が形成できていないのではないかと

など

### 文化芸術基本法（平成13年12月7日法律第148号）（抄）

（学校教育における文化芸術活動の充実）

第二十四条 国は、学校教育における文化芸術活動の充実を図るため、**文化芸術に関する体験学習等文化芸術に関する教育の充実**、芸術家等及び文化芸術団体による学校における文化芸術活動に対する協力への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

### 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果の例

・「音楽の授業で学んだことは、私たちの生活や社会でいかすことができると思う」  
→ 肯定的に回答する児童の割合が55.5%

・「図画工作の時間で学習したことを、ふだんの生活の中に生かしている」  
→ 肯定的に回答する児童の割合が60.1%

### 第1回、第2回ワーキンググループにおける委員の意見の例

- ・子供自身が考えることができる指導が重要。指導過多でもなく放任でもなく、教師が指導することと子供が考えることとのバランスを考えると、学習の過程を重視した指導が求められる。
- ・創造性は今むしろ社会との関わりにおいてベクトルは外に向かうのだということが非常に重要になってきている。
- ・子供自らが問いを立てて課題を解決できるような授業を考えることが大切。



## 改善の方向性（案）

現状と課題を踏まえ、目標及び見方・考え方、高次の資質・能力等について、以下の改善の方向性が考えられる。

- ① **捉えたり、感じたりしたことを、要素・特徴※や背景にある文化との関わりで理解したり思考・判断・表現したりすることができるようにすること（○）**  
※ 音楽を形づくっている要素、造形的な特徴、書を構成する要素
- ② **表現したいことをどのように形にできるか、他者に伝えることができるか、という自分の思いや考えをもつことができることや、諸感覚を働かせつつ身体性を伴った技能により表現することを重視（▲）**
- ③ **表現及び鑑賞の学習において、正解は一つではなく、児童生徒一人一人のありようが尊重されるべきものであること（△、◆、▲、■）**
- ④ **表現及び鑑賞の学習において、工夫したことや感じたことを伝え合うなどの言語活動等を通して、感じ方や考え方を深めるようにすること（■）**
- ⑤ **他者とともに協働する学習を通じて、共感したり多様な視点で考えたりできるようにすること（■）**
- ⑥ **生活や社会、文化などとの関わりや、意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりするなど豊かな社会の創造や幸福な人生につなげていくことについて示すこと（◇）**

（次期学習指導要領に向けた基本的な考え方）

- ・主体的・対話的で深い学びの実装（○）
- ・多様性の包摂（△）
- ・実現可能性の確保
- ・自らの人生の舵取りをする力と民主的な社会の創り手育成（◇）

（学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ）

- ・学びを方向付ける人間性
  - ・初発の思考や行動を起こす力・好奇心（▲）
  - ・他者との対話や協働（■）
  - ・学びの主体的な調整（◆）
- ※主として考えられる関係性を記号で示している

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|     | 知識及び技能                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                     | 学びに向かう力、人間性等                                                                                   |
|-----|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする            | 音楽表現について考え思いや意図をもったり、曲や演奏のよさや楽しさなどを見いだしながら味わって聴いたりすることができるようにする  | 楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しむ態度を養い、豊かな情操を培う              |
| 中学校 | 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする | 表したい音楽表現について考え思いや意図をもったり、曲や演奏の価値などを考えながら音楽を味わって聴いたりすることができるようにする | 楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う |

## 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと



## 資質・能力の全体構造（素案）

| 小学校 | A 表現  | 歌唱・器楽  | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮                                                                                                         | 内容項目例                                                                                                                                                                                                       |
|-----|-------|--------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |       |        |              | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる      | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考える<br><br>・ 思いや意図をもつ                                                                                                    |
|     |       | 知識及び技能 | 知識及び技能       | 統合的な理解                                                                                                         | 内容項目例                                                                                                                                                                                                       |
|     |       |        |              | 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱や器楽で表現できることを理解している                        | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素について理解する<br>・ 音符、休符、記号や用語について理解する<br><br>・ 曲想と音楽の構造などの関わりについて理解する<br>・ 声や楽器の音色、響きと歌い方や演奏の仕方の関わりについて理解する<br>・ 聴唱や視唱、聴奏や視奏する技能を身に付ける<br>・ 発音、発声、奏法の技能を身に付ける<br>・ 声や音を合わせて演奏する技能を身に付ける |
|     | 音楽づくり | 音楽づくり  | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮                                                                                                         | 内容項目例                                                                                                                                                                                                       |
|     |       |        |              | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる               | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考える<br><br>・ 音楽づくりの発想を得る<br>・ 思いや意図をもつ                                                                                   |
|     |       | 知識及び技能 | 知識及び技能       | 統合的な理解                                                                                                         | 内容項目例                                                                                                                                                                                                       |
|     |       |        |              | 個々の感じ方や考え方等に応じて音の組み合わせやつなげ方などについて捉えながら、即興的に音を出して試したり音楽の仕組みを用いたりすることにより、発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現できることを理解している | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素について理解する<br>・ 音符、休符、記号や用語について理解する<br><br>・ 音の響きやそれらの組み合わせの特徴について理解する<br>・ 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について理解する<br>・ 音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付ける<br>・ 音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付ける                |

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 小学校 | B<br>鑑賞 | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な発揮                                                                               | 内容項目例                                                                                                           |
|-----|---------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |         |                      | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える<br><br>・ 曲や演奏のよさなどを見いだす |
|     |         | 知識及び技能               | 統合的な理解                                                                               | 内容項目例                                                                                                           |
|     |         |                      | 個々の感じ方や考え方等に基づいて音楽の特徴などを捉えることにより、よさなどを見いだすことができることを理解している                            | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素について理解する<br>・ 音符、休符、記号や用語について理解する<br>・ 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する                          |

# 資質・能力の全体構造（素案）

|     |      |    |        |                                                                                                                    |                                                                                                                                        |
|-----|------|----|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | A 表現 | 歌唱 | 総合的な発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かし自分のイメージと関わらせた表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる | 〔共通事項〕<br>・ 知覚したことと感受したこととの関わりについて考える<br><br>・ 思いや意図をもち                                                                                |
|     |      |    | 統合的な理解 | 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している                               | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素とそれらに関わる記号や用語について理解する<br><br>・ 曲想と音楽の構造との関わり、声の音色や響きと曲種に応じた発声との関わりなどについて理解する<br>・ 発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能などを身に付ける |
|     |      | 器楽 | 総合的な発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かし自分のイメージと関わらせた表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる | 〔共通事項〕<br>・ 知覚したことと感受したこととの関わりについて考える<br><br>・ 思いや意図をもち                                                                                |
|     |      |    | 統合的な理解 | 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している                               | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素とそれらに関わる記号や用語について理解する<br><br>・ 曲想と音楽の構造との関わり、楽器の音色や響きと奏法との関わりなどについて理解する<br>・ 楽器の奏法、身体の使い方などの技能などを身に付ける         |
|     |      | 創作 | 総合的な発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる          | 〔共通事項〕<br>・ 知覚したことと感受したこととの関わりについて考える<br><br>・ 思いや意図をもち                                                                                |
|     |      |    | 統合的な理解 | 音や音同士の関係の特徴などを個々の感じ方や考え方等に応じて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している                    | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素とそれらに関わる記号や用語について理解する<br><br>・ 音のつながり方、音素材、音の重なり方、構成上の特徴などについて理解する<br>・ 課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける           |

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 中学校 | B<br>鑑賞 | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | 総合的な発揮                                                                                    | 内容項目例                                                                                                    |
|-----|---------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |         |                      | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる | 〔共通事項〕<br>・ 知覚したことと感受したこととの関わりについて考える<br><br>・ 音楽を評価しながら聴く                                               |
|     |         | 知識及び技能               | 統合的な理解                                                                                    | 内容項目例                                                                                                    |
|     |         |                      | 音楽の特徴や背景などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、よさや美しさなどを見いだすことができることを理解している                    | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素とそれらに関わる記号や用語について理解する<br><br>・ 曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる歴史や文化などとの関わりなどについて理解する |

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|     | 知識及び技能                                                     | 思考力、判断力、表現力等                                                                    | 学びに向かう力、人間性等                                                            |
|-----|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | 対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、創造的についたり見たりすることができるようにする | 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする | つくりだす喜びを味わいながら主体的・協働的に活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う |

## 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと



# 資質・能力の全体構造（素案）

|     |      |            |              |        |                                                                                              |                                                                                                                              |
|-----|------|------------|--------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | A 表現 | 造形遊び（仮）    | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | 形や色などを基に自分のイメージをもちながら、材料や場所などを基に、豊かに発想や構想をすることができる                                           | 〔共通事項〕<br>・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつ<br><br>・ 身近な自然物や人工の材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するかについて考える                                |
|     |      |            | 知識及び技能       | 統合的な理解 | 自分の感覚や行為を通して造形的な特徴などを捉えながら、材料や用具を使い、活動を工夫してつくることにより、創造的に表現できることを理解している                       | 〔共通事項〕<br>・ 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解する<br><br>・ 材料や用具を活用するとともに、材料や用具についての経験を生かし、活動を工夫してつくるなどの技能に関する事項を身に付ける           |
|     |      | 絵や立体、工作（仮） | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | 形や色などを基に自分のイメージをもちながら、感じたことや想像したことなどから、豊かに発想や構想をすることができる                                     | 〔共通事項〕<br>・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつ<br><br>・ 感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考える                                      |
|     |      |            | 知識及び技能       | 統合的な理解 | 自分の感覚や行為を通して造形的な特徴などを捉えながら、材料や用具を使い、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを理解している            | 〔共通事項〕<br>・ 自分の感覚や行為を通して形や色などや、造形の働きについて理解する<br><br>・ 材料や用具を活用するとともに、材料や用具についての経験を生かし、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すなどの技能に関する事項を身に付ける |
|     | B 鑑賞 |            | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | 形や色などを基に自分のイメージをもちながら、作品などの造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりすることができる | 〔共通事項〕<br>・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつ<br><br>・ 自分たちの作品や親しみのある美術作品などのよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める          |
|     |      |            | 知識及び技能       | 統合的な理解 | 自分の感覚や行為を通して造形的な特徴などを捉えながら、作品などを工夫して見ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している                               | 〔共通事項〕<br>・ 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解する<br><br>・ 自分たちの作品や、親しみのある美術作品などを、経験を生かし、体全体の感覚を働かせ、方法を工夫して見る                    |

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

### 目標

|     | 知識及び技能                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                                  | 学びに向かう力、人間性等                                                                              |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | 対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解するとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、美術作品などの情報を読み取ることができるようにする | 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする | 創造活動の喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

## 資質・能力の全体構造（素案）

|     |      |                |              |                                                                                                                              |                                                                                                                                                                              |
|-----|------|----------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | A 表現 | 自分と美術（仮）       | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮<br>対象や事象を自己との関わりの視点に立って見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、豊かに発想や構想をすることができる                                                | 内容項目例<br>・ 感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出す<br>・ 創造的な構成を工夫し、表現の構想を練る                                                                                                                |
|     |      |                | 知識及び技能       | 総合的な理解<br>造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、材料や用具の生かし方などを身に付け、自分との関わりの視点から意図に応じて表現方法を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを理解している | 内容項目例<br>〔共通事項〕<br>・ 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する<br>・ 美術の働きや美術文化について理解する<br><br>・ 材料や用具の特性を生かし、創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける<br>・ 制作の順序を考えながら見通しをもって表すなどの技能に関する事項を身に付ける |
|     |      | 身近な生活や社会と美術（仮） | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮<br>対象や事象を身近な生活や社会的な視点に立って見つめ、目的や条件などを基に主題を生み出し、豊かに発想や構想をすることができる                                                      | 内容項目例<br>・ 目的や条件などを基に主題を生み出す<br>・ 調和のとれた美しさなどを考えて表現の構想を練る                                                                                                                    |
|     |      |                | 知識及び技能       | 総合的な理解<br>造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、材料や用具の生かし方などを身に付け、客観的な視点から自分の意図に応じて表現方法を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを理解している  | 内容項目例<br>〔共通事項〕<br>・ 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する<br>・ 美術の働きや美術文化について理解する<br><br>・ 材料や用具の特性を生かし、創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける<br>・ 制作の順序を考えながら見通しをもって表すなどの技能に関する事項を身に付ける |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|     |                |          |                                                                                                        |                                                                                                                                                              |       |
|-----|----------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 中学校 | B<br>鑑賞        | 自分と美術（仮） | 思考力、判断力、表現力等                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                       | 内容項目例 |
|     |                |          | 自分との関わりの視点に立って美術作品などを見つめ、造形的なよさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる                     | <ul style="list-style-type: none"><li>造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深める</li></ul>                                                              |       |
|     | 身近な生活や社会と美術（仮） | 知識及び技能   | 総合的な理解                                                                                                 | 内容項目例                                                                                                                                                        |       |
|     |                |          | 造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現された美術作品などの情報を読み取るにより、創造的に鑑賞できることを理解している | <div>〔共通事項〕</div> <ul style="list-style-type: none"><li>形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する</li><li>美術の働きや美術文化について理解する</li><li>視覚的な特徴などの情報を読み取る</li></ul> |       |
| 中学校 | B<br>鑑賞        | 自分と美術（仮） | 思考力、判断力、表現力等                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                       | 内容項目例 |
|     |                |          | 身近な生活や社会的な視点に立って美術作品などを見つめ、目的や機能などとの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる           | <ul style="list-style-type: none"><li>目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深める</li></ul>                                                      |       |
|     | 身近な生活や社会と美術（仮） | 知識及び技能   | 総合的な理解                                                                                                 | 内容項目例                                                                                                                                                        |       |
|     |                |          | 造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、目的や機能などを基に表現された美術作品などの情報を読み取るにより、創造的に鑑賞できることを理解している         | <div>〔共通事項〕</div> <ul style="list-style-type: none"><li>形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する</li><li>美術の働きや美術文化について理解する</li><li>視覚的な特徴などの情報を読み取る</li></ul> |       |

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                | 思考力、判断力、表現力等                                             | 学びに向かう力、人間性等                                                      |
|------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする | 創造的な表現の工夫について考えたり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする | 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること



## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                             | 学びに向かう力、人間性等                                                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする | 自己のイメージに基づいた音楽表現について考え表現意図をもつことや、曲や演奏を解釈したり評価したりしながら音楽を味わって聴くことができるようにする | 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                               | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする | 個性豊かな音楽表現について考え表現意図をもつことや、明確な根拠をもって曲や演奏を解釈したり評価したりしながら音楽を味わって聴くことができるようにする | 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、創造的に音楽や音楽文化と関わり親しんでいくとともに、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                                             | 学びに向かう力、人間性等                                                                                     |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かし、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする | 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現について考え表現意図をもつことや、曲や演奏を解釈したり評価したりしながら音楽を味わって聴くことができるようにする | 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽や音楽文化を尊重し、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |      |    |        |                                                                                                              |                                                                                                                                                         |
|------|------|----|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | A 表現 | 歌唱 | 総合的な発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる          | 〔共通事項〕<br>・ 知覚したことと感受したこととの関わりについて考える<br><br>・ 表現意図をもち                                                                                                  |
|      |      |    | 統合的な理解 | 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表現できることを理解している                          | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素と音楽関する記号や用語について理解する<br><br>・ 曲想と音楽の構造との関わり、声の音色や響きと曲種に応じた発声との関わりなどについて理解する<br>・ 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能などを身に付ける             |
|      |      | 器楽 | 総合的な発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる          | 〔共通事項〕<br>・ 知覚したことと感受したこととの関わりについて考える<br><br>・ 表現意図をもち                                                                                                  |
|      |      |    | 統合的な理解 | 曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で表現できることを理解している                          | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する<br><br>・ 曲想と音楽の構造との関わり、楽器の音色や響きと奏法との関わりなどについて理解する<br>・ 曲にふさわしい楽器の奏法、身体の使い方などの技能などを身に付ける                    |
|      |      | 創作 | 総合的な発揮 | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、構成を生かした統一感のある音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる | 〔共通事項〕<br>・ 知覚したことと感受したこととの関わりについて考える<br><br>・ 表現意図をもち                                                                                                  |
|      |      |    | 統合的な理解 | 音や音同士の関係の特徴などを個々の感じ方や考え方等に応じて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音楽をつくり変奏や編曲をしたりすることにより、表現意図を創作で表現できることを理解している              | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する<br><br>・ 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型、構成上の特徴について理解する<br>・ 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能、変奏したり編曲したりする技能などを身に付ける |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |         |              |                                                                                                  |                                                                                                       |
|------|---------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | B<br>鑑賞 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮                                                                                           | 内容項目例                                                                                                 |
|      |         |              | 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる | 〔共通事項〕<br>・ 知覚したことと感受したこととの関わりについて考える<br>・ 音楽を解釈したり評価したりしながら聴く                                        |
|      |         | 知識及び技能       | 統合的な理解                                                                                           | 内容項目例                                                                                                 |
|      |         |              | 音楽の特徴や文化的・歴史的背景などを個々の感じ方や考え方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、よさや美しさなどを見いだすことができることを理解している                    | 〔共通事項〕<br>・ 音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する<br>・ 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解する |



## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                            | 学びに向かう力、人間性等                                                                                       |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について幅広く理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことや、美術作品などの情報を幅広く読み取ることができるようにする | 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする | 主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                             | 学びに向かう力、人間性等                                                                                           |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことや、美術作品などの情報を深く読み取ることができるようにする | 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする | 主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                    | 学びに向かう力、人間性等                                                                                           |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことや、美術作品などの情報を精査しながら深く読み取ることができるようにする | 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする | 主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |      |          |              |        |       |
|------|------|----------|--------------|--------|-------|
| 高等学校 | A 表現 | 自分と美術（仮） | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | 内容項目例 |
|      |      |          | 知識及び技能       | 統合的な理解 | 内容項目例 |
|      |      | 社会と美術（仮） | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮 | 内容項目例 |
|      |      |          | 知識及び技能       | 統合的な理解 | 内容項目例 |

対象や事象を自分との関わりの視点に立って深く見詰め、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生成し、創造的に発想や構想をすることができる

- （絵画・彫刻、映像メディア表現）
- ・ 自然や自己、生活などを見詰め感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成する
  - ・ 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練る

造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、自分との関わりの視点から意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し主題を追求して表すことにより、創造的に表現できることを理解している

- 〔共通事項〕
- ・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する
  - ・ 美術の働きや美術文化について理解する
  - ・ 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かす
  - ・ 主題を追求し創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける

対象や事象を社会的な視点に立って深く見詰め、目的や条件などを基に主題を生成し、創造的に発想や構想をすることができる

- （デザイン、映像メディア表現）
- ・ 目的や条件、機能などを考え、主題を生成する
  - ・ 創造的な表現の構想を練る

造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、客観的な視点から自分の意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し主題を追求して表すことにより、創造的に表現できることを理解している

- 〔共通事項〕
- ・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する
  - ・ 美術の働きや美術文化について理解する
  - ・ 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かす
  - ・ 目的や計画を基に創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |          |          |              |                                                                                                                     |                                                                                                                                                  |
|------|----------|----------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | B鑑賞      | 自分と美術（仮） | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮<br>自分との関わりの視点に立って美術作品などを深く見つめ、造形的なよさや美しさなどを感じ取り、価値意識をもって作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる          | 内容項目例<br>（絵画・彫刻、映像メディア表現）<br>・ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な表現の工夫などを考えて、見方や感じ方を深める                                                            |
|      |          |          | 知識及び技能       | 統合的な理解<br>造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現された美術作品などの情報を幅広く読み取るにより、創造的に鑑賞できることを理解している | 内容項目例<br>〔共通事項〕<br>・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する<br>・ 美術の働きや美術文化について理解する<br>・ 視覚的な特徴などの情報を読み取る<br>・ 背景や文脈などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取る |
|      | 社会と美術（仮） |          | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮<br>社会的な視点に立って美術作品などを深く見つめ、目的や機能などとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、価値意識をもって作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる | 内容項目例<br>（デザイン、映像メディア表現）<br>・ 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な工夫などを考えて、見方や感じ方を深める                                                        |
|      |          |          | 知識及び技能       | 統合的な理解<br>造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、目的や機能などを基に表現された美術作品などの情報を幅広く読み取るにより、創造的に鑑賞できることを理解している         | 内容項目例<br>〔共通事項〕<br>・ 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する<br>・ 美術の働きや美術文化について理解する<br>・ 視覚的な特徴などの情報を読み取る<br>・ 背景などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取る    |



## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                            | 学びに向かう力、人間性等                                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、工芸作品などの情報を幅広く読み取ることができるようにする | 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする | 主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                    | 学びに向かう力、人間性等                                                                                               |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことや、工芸作品などの情報を深く読み取ることができるようにする | 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする | 主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                                                           | 学びに向かう力、人間性等                                                                                               |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことや、工芸作品などの情報を精査しながら深く読み取ることができるようにする | 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、思いや願いなどから個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて工芸に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする | 主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |      |          |              |                                                                                                                   |                                                                                                                                                       |
|------|------|----------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | A 表現 | 身近な生活と工芸 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮                                                                                                            | 内容項目例                                                                                                                                                 |
|      |      |          |              | 対象や事象を身近な生活の視点に立って深く見つめ、自然や素材、自分の思いなどから心豊かに発想や構想をすることができる                                                         | （身近な生活の視点に立った発想や構想）<br>・ 自然や素材、自己の思いなどから、心豊かな発想をする<br>・ 制作の構想を練る                                                                                      |
|      |      |          | 知識及び技能       | 統合的な理解                                                                                                            | 内容項目例                                                                                                                                                 |
|      |      |          |              | 造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身近な生活の視点に立って、意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味し表すことにより、創造的に表現できることを理解している | 〔共通事項〕<br>・ 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する<br>・ 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する<br><br>・ 意図に応じて材料や用具を生かす<br>・ 手順や技法などを吟味し、創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける |
| 高等学校 | A 表現 | 社会と工芸    | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮                                                                                                            | 内容項目例                                                                                                                                                 |
|      |      |          |              | 対象や事象を社会的な視点に立って深く見つめ、使う人や生活環境などから心豊かに発想や構想をすることができる                                                              | （社会的な視点に立った発想や構想）<br>・ 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をする<br>・ 制作の構想を練る                                                                                      |
|      |      |          | 知識及び技能       | 統合的な理解                                                                                                            | 内容項目例                                                                                                                                                 |
|      |      |          |              | 造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、社会的な視点に立って、意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味し表すことにより、創造的に表現できることを理解している   | 〔共通事項〕<br>・ 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する<br>・ 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する<br><br>・ 意図に応じて材料や用具を生かす<br>・ 手順や技法などを吟味し、創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |     |          |              |                                                                                                         |                                                                                                                                          |
|------|-----|----------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | B鑑賞 | 身近な生活と工芸 | 表現力、思考力、判断力等 | 総合的な発揮                                                                                                  | 内容項目例                                                                                                                                    |
|      |     |          |              | 身近な生活の視点に立って工芸作品などを深く見つめ、よさや美しさを感じ取り、価値意識をもって作者の心情や意図と制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる               | （身近な生活の視点に立って考える鑑賞）<br>・ 工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考えて、見方や感じ方を深める                                           |
|      | B鑑賞 | 社会と工芸    | 知識及び技能       | 総合的な理解                                                                                                  | 内容項目例                                                                                                                                    |
|      |     |          |              | 造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身近な生活の視点に立って表現された工芸作品などの情報を幅広く読み取るにより、創造的に鑑賞できることを理解している | 〔共通事項〕<br>・ 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する<br>・ 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する<br>・ 視覚的な特徴などの情報を読み取る<br>・ 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取る |
| 高等学校 | B鑑賞 | 社会と工芸    | 表現力、思考力、判断力等 | 総合的な発揮                                                                                                  | 内容項目例                                                                                                                                    |
|      |     |          |              | 社会的な視点に立って工芸作品などを深く見つめ、よさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる                         | （社会的な視点に立って考える鑑賞）<br>・ 工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考えて、見方や感じ方を深める                                             |
| 高等学校 | B鑑賞 | 社会と工芸    | 知識及び技能       | 総合的な理解                                                                                                  | 内容項目例                                                                                                                                    |
|      |     |          |              | 造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働きや工芸の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、社会的な視点に立って表現された工芸作品などの情報を幅広く読み取るにより、創造的に鑑賞できることを理解している   | 〔共通事項〕<br>・ 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する<br>・ 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する<br>・ 視覚的な特徴などの情報を読み取る<br>・ 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取る |



## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                          | 学びに向かう力、人間性等                                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、感興や意図を創造的に表したり、作品や書から美に関する情報を読み取ったりするための基礎的な技能を身に付けることができるようにする | 作品や書の美と、その伝統と文化の意味や価値を考え、意図に基づいて創造的に構想し表現を工夫したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする | 主体的・協働的に書道の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                | 学びに向かう力、人間性等                                                                                           |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について理解を深めるとともに、感興や意図を創造的、個性的に表したり、作品や書から美に関する情報を読み取ったりするための技能を身に付けることができるようにする | 作品や書の美と、その伝統と文化の意味や価値を考え、意図に基づいて創造的、個性的に構想し表現を工夫したり、価値意識をもって書のよさや美しさを深く味わい捉えたりすることができるようにする | 主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性をさらに高め、書の伝統と文化を尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                | 学びに向かう力、人間性等                                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 書の表現の方法や形式、多様性、書の伝統と文化について理解を深めるとともに、感興や意図を創造的、個性的に表したり、作品や書から美に関する情報を読み取ったりするための技能を身に付けることができるようにする | 作品や書の美と、その伝統と文化の意味や価値を考え、意図に基づいて創造的、個性的に構想し表現を工夫したり、価値意識をもって書のよさや美しさを深く味わい捉えたりすることができるようにする | 主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う |

### 見方・考え方

- 感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 高等学校 | A 表現 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                         | 内容項目例                                                                                                                                     |
|------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                                                                                                               | 自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、作品や書の美について深く考えながら、自らの意図に基づいて構想し、その実現のために表現を工夫することができる | <漢字仮名交じりの書> <ul style="list-style-type: none"> <li>名筆を生かした表現や現代に生きる表現、自らの意図に基づく創造的、個性的な表現を構想し工夫する</li> </ul>                              |
|      |      |                                                                                                               |                                                                                | <漢字の書> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書の伝統と文化に基づく表現、自らの意図に基づく創造的、個性的な表現を構想し工夫する</li> </ul>                                     |
|      |      |                                                                                                               |                                                                                | <仮名の書> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の書の伝統と文化に基づく表現、自らの意図に基づく創造的、個性的な表現を構想し工夫する</li> </ul>                                     |
|      |      | 知識及び技能                                                                                                        | 統合的な理解                                                                         | 内容項目例                                                                                                                                     |
|      |      | 作品や書の表現や書風における美の構造やその働き、書文化について実感を伴って捉えながら、意図に基づいて書の表現性、表現効果と関わる用筆・運筆などの要素を働かせて表すことにより、創造的、個性的に表現できることを理解している |                                                                                | [共通事項] <ul style="list-style-type: none"> <li>書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する</li> <li>書を構成する要素について、相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解する</li> </ul>           |
|      |      |                                                                                                               |                                                                                | <漢字仮名交じりの書> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字仮名交じりの書及びその美を構成する要素の働き、多様な表現について理解する</li> <li>意図に基づいて漢字仮名交じりの書を表す技能を身に付ける</li> </ul> |
|      |      |                                                                                                               |                                                                                | <漢字の書> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書及びその美を構成する要素の働き、漢字の書の多様な書風について理解する</li> <li>意図に基づいて漢字の書を表す技能を身に付ける</li> </ul>           |
|      |      |                                                                                                               |                                                                                | <仮名の書> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の書及びその美を構成する要素の働き、仮名の書の多様な書風について理解する</li> <li>意図に基づいて仮名の書を表す技能を身に付ける</li> </ul>           |

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 高等学校 | B<br>鑑賞 | 思考力、判断力、表現力等 | 総合的な発揮                                                                                                 | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|---------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |         |              | 書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりを通して、作品や書の美、その伝統と文化の意味や価値について深く考え、書のよさや美しさを味わうことができる                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>作品や書の価値とその根拠、書の美の意味や価値、書の普遍的価値について考える</li> <li>生活や社会における文字や書の働きや効用、書の美の働きや効用、現代における作品や書の意味や価値について考える</li> </ul>                                                                                                         |
|      |         | 知識及び技能       | 統合的な理解                                                                                                 | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                          |
|      |         |              | 書の伝統と文化、書の美の多様性と関わらせて、書の美を捉える視点や方法について実感を伴って捉えながら、作品や書から情報を読み取ることにより、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している | <p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する</li> <li>書を構成する要素について、相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解する</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>書を鑑賞するための方法や多様な背景との関わりについて理解する</li> <li>作品や書から美に関する情報を読み取る技能を身に付ける</li> </ul> |





**家庭WGにおける議論の補足イメージ  
及び教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**

# 家庭科等の目標の在り方について＜改善案＞

現行の学習指導要領の系統性の明確化を図るという方向性は引継ぎつつ、総則・評価特別部会の整理を踏まえ、構成を見直すとともに、空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がりや、社会が複雑化・多様化する中で、実践を多角的に評価・改善することにより、生活をよりよくするための適切な判断をする力を育成する視点を重視した見直しを行ってはどうか。

(参考)

- ・空間軸の視点：小学校は、自分と家族・家庭、中学校は、家族・家庭や地域、高校は、家族・家庭、地域及び社会
- ・時間軸の視点：小学校は、現在及びこれまでの生活、中学校は、これからの生活を展望した現在の生活、高校は、生涯を見通した生活

※赤字は第2回WGにおける追記案。緑字は第2回WGにおける意見や今回資料等を踏まえた修正案。

## 目標・柱書

|     | 知識及び技能                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                               | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                  |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | 自分や家族・家庭の生活をよりよくしようと工夫する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。                 |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                               |
| 中学校 | 家族・家庭や地域における生活をよりよくしようと工夫し創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。           |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                               |
| 高校  | 家族・家庭、地域及び社会における生活をよりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。          |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                               |
| 小学校 | 家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。              | 自分や家族・家庭の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を多角的に評価・改善し、考えたことを表現するなど、日常生活の課題を解決する力を養う。                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活を大切にすることを育むとともに、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。</li> <li>・自分や家族・家庭の生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>            |
| 中学校 | 家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生活の自立に向けて必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。          | 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生活の自立に向けて課題を解決する力を養う。             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や地域の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>             |
| 高校  | 家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 | 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul> |

## 家庭科等の見方・考え方の在り方について〈改善案〉

新たな「見方・考え方」については、側面②の「各教科等を学ぶ本質的な意義」という観点を踏まえ、**家庭科の本質を示す事項に焦点化して端的に示す**とともに、**小・中・高等学校を通じて統一的に示す**方向で見直してはどうか。

一方、従前の「見方・考え方」で示していた側面①の「各教科等の学びの深まり」を促す事項（「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」など）については、**高次の資質・能力の構造化の中で具体的に示す**こととしてはどうか。

### 現行の見方・考え方

小・中・  
高等学校

家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を営むために工夫すること

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

### 新しい見方・考え方（案）

小・中・  
高等学校

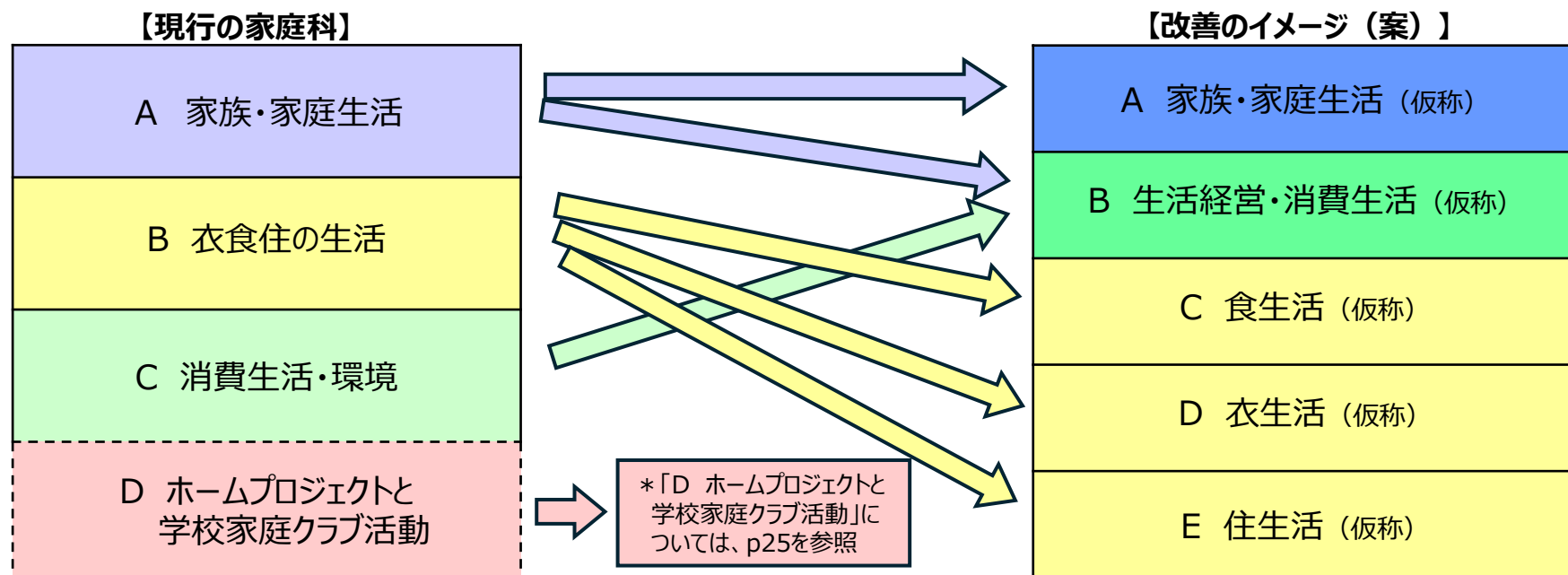
自分や家族の生活（当該教科で扱う事象や対象）を、主体的に改善し、持続的なものとする視点から多角的（当該教科固有の物事を捉える視点）に捉え、よりよい生活を創り出す（当該教科固有の考え方や判断の仕方）こと

# 小・中・高等学校家庭科における領域の見直しのイメージ図（案）

第3回WG資料より

現状の課題等を踏まえつつ、家庭科として必要な概念の習得に繋がるよう、現在の小・中・高等学校における系統性の在り方を、各領域の系統性を高める方向で以下のとおり見直してはどうか

- ①「生活の基盤に関する事項」（生活を営む主体となる「人」に関する指導領域と生活を営む上での「営み方」（マネジメント）に関する指導領域）と「生活を構成する要素に関する事項」（衣食住に関する指導領域）の2つに分類
- ②生活を営む主体となる「人」に関する指導領域は「家族・家庭生活（仮称）」、生活を営む上での営み方（マネジメント）に関する指導領域は「生活経営・消費生活（仮称）」。なお、「消費者教育（金融経済教育含む）」は、現行の表記の在り方と同様に「生活経営」に併記
- ③「衣食住に関する指導領域」は、食育の重要性なども踏まえつつ、家政学の諸領域を参考に「食生活（仮称）」「衣生活（仮称）」「住生活（仮称）」の順の3領域
- ④家庭科の領域については、「生活の基盤に関する事項」の2領域の後、「生活を構成する要素に関する事項」の3領域



\* 小・中・高等学校の領域の正式な名称については、p27・28を参照

\* 上記の図は、イメージであり各領域の分量・時数を示すものではない。

# 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|      | 知識及び技能                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                            | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                    |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校  | 家族・家庭生活，生活経営・消費や衣食住などについて，日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。                  | 自分や家族・家庭の生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，実践を多角的に評価・改善し，考えたことを表現するなど，日常生活の課題を解決する力を養う。                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活を大切にする心情を育むとともに，家族の一員として，生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。</li> <li>自分や家族・家庭の生活の中から問題を見だし，その解決に向けて，対話や協働により考えを広げ深め，工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>                |
| 中学校  | 家族・家庭生活，生活経営・消費や衣食住などについて，生活の自立に向けて必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。              | 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を多角的に評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなど，生活の自立に向けて課題を解決する力を養う。                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>家族や地域の一員として，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし，その解決に向けて，対話や協働により考えを広げ深め，工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>                 |
| 高等学校 | 家族・家庭生活，生活経営・消費や衣食住などについて，生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。     | 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を多角的・総合的に評価・改善し，考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。      | <ul style="list-style-type: none"> <li>家族・家庭や地域及び社会の一員として，よりよい社会の構築に向けて，生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし，その解決に向けて，対話や協働により考えを広げ深め，工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>     |
|      | 家族・家庭生活，生活経営・消費や衣食住などについて，生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。     | 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を多角的・総合的に評価・改善し，考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。      | <ul style="list-style-type: none"> <li>家族・家庭や地域及び社会の一員として，よりよい社会の構築に向けて，生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし，その解決に向けて，対話や協働により考えを広げ深め，工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>     |
|      | 家族・家庭生活，生活経営・消費や衣食住などについて，生涯にわたり率先して生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。 | 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を深めながら多角的・総合的に評価・改善し，考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>家族・家庭や地域及び社会の一員として，よりよい社会の構築に向けて，率先して生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし，その解決に向けて，対話や協働により考えを広げ深め，工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul> |

## 見方・考え方

- 自分や家族の生活の営み，地域や社会との関わりの中で持続的なものとする視点から総合的・多角的に捉え，主体的によりよい生活を創り出すこと。



## 資質・能力の全体構造（素案）

|     | A 家族・家庭生活（仮称）                                                                                                                                        |                                                               | B 生活経営・消費生活（仮称）                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                           |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 知識及び技能                                                                                                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                  | 知識及び技能                                                                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                              |
| 小学校 | 統合的な理解                                                                                                                                               | 総合的な発揮                                                        | 統合的な理解                                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                    |
|     | 自分が家族の一員であることを自覚し、生活の中で自分にできることを考え取り組むことで、家庭生活をよりよくできることについて理解する。                                                                                    | 家族の一員として、家族や地域の人々と協力し合う中で自分の生活上の課題を見いだし、よりよい生活に向けて工夫することができる。 | 生活を営む上で必要な資源を効果的に活用することで、自分の生活をよりよくできることについて理解する。                                                                                                                                           | 家族の一員として、生活を営む上で必要な資源を効果的に活用しながら、自分の生活上の課題を見いだし、よりよい生活に向けて工夫することができる。                                                                                     |
|     | 内容項目例                                                                                                                                                |                                                               | 内容項目例                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                           |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の成長の自覚</li> <li>家庭生活と家族の大切さ</li> <li>家族との触れ合いや団らん</li> <li>地域の人々との協力</li> </ul>                             | 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活を支える仕事と生活時間の有効な使い方</li> <li>買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さと計画的な使い方、身近な物の選び方、買い方、購入するために必要な情報の収集・整理</li> <li>自分の生活と身近な環境との関わり、環境に配慮した物の使い方</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の仕事の計画を考え、工夫すること</li> <li>購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫すること</li> <li>環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること</li> </ul> |
| 中学校 | 統合的な理解                                                                                                                                               | 総合的な発揮                                                        | 統合的な理解                                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                    |
|     | 自分が家族や地域を支える一員であることを自覚し、生活の中で自分にできることを考え取り組むことで、家庭生活をよりよくできることについて理解する。                                                                              | 家族や地域の人々と協力・協働する中で自分の生活上の課題を見いだし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。 | 生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、自分の生活をよりよくできることについて理解する。                                                                                                                                      | 生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、自分の生活上の課題を見いだし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。                                                                                  |
|     | 内容項目例                                                                                                                                                |                                                               | 内容項目例                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                           |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の成長と家族や家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働</li> <li>幼児の発達と生活の特徴、幼児との関わり方</li> <li>地域の人々との関わり方</li> </ul> | 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること             | <ul style="list-style-type: none"> <li>家族の互いの立場や役割</li> <li>購入方法や支払いの特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理</li> <li>消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること</li> <li>身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動について考え、工夫すること</li> </ul>              |



## 資質・能力の全体構造（素案）

|     | C 食生活（仮称）                                                                                    |                                                                                              | D 衣生活（仮称）                                                                     |                                                                                     | E 住生活（仮称）                                                       |                                                       |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
|     | 知識及び技能                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                 | 知識及び技能                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                        | 知識及び技能                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                          |
| 小学校 | 統合的な理解                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                       | 統合的な理解                                                                        | 総合的な発揮                                                                              | 統合的な理解                                                          | 総合的な発揮                                                |
|     | 栄養バランスを考えた食事を楽しむことで、自分の食生活をよりよくできることについて理解する。                                                | 自分の食生活上の課題を見だし、健康でよりよい食生活に向けて工夫することができる。                                                     | 衣服を手入れしながら着用したり、製作を楽しんだりすることで、自分の衣生活をよりよくできることについて理解する。                       | 自分の衣生活上の課題を見だし、健康・快適でよりよい衣生活に向けて工夫することができる。                                         | 季節の変化を感じつつ、日頃から住まいを整えておくことで、自分の住生活をよりよくできることについて理解する。           | 自分の住生活上の課題を見だし、快適でよりよい住生活を工夫することができる。                 |
|     | 内容項目例                                                                                        |                                                                                              | 内容項目例                                                                         |                                                                                     | 内容項目例                                                           |                                                       |
| 中学校 | 統合的な理解                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                       | 統合的な理解                                                                        | 総合的な発揮                                                                              | 統合的な理解                                                          | 総合的な発揮                                                |
|     | 健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、自分の目的や希望に応じて食生活をよりよくできることについて理解する。                               | 自分の食生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい食生活を工夫し、創造することができる。                                 | 衣服を選択し手入れしながら計画的に着用することや、製作した物が生活に役立つとともに、自分の衣生活をよりよくできることについて理解する。           | 自分の衣生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・快適でよりよい衣生活を工夫し、創造することができる。                                  | 自分や家族が快適・安全に過ごせるよう日頃から住まいを整えておくことで、自分や家族の住生活をよりよくできることについて理解する。 | 自分や家族の住生活上の課題を見だし、自立に向けて快適・安全でよりよい住生活を工夫し、創造することができる。 |
|     | 内容項目例                                                                                        |                                                                                              | 内容項目例                                                                         |                                                                                     | 内容項目例                                                           |                                                       |
| 中学校 | 統合的な理解                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                       | 統合的な理解                                                                        | 総合的な発揮                                                                              | 統合的な理解                                                          | 総合的な発揮                                                |
|     | 中学生の栄養の特徴と健康によい食習慣<br>中学生の1日分の献立作成の方法<br>食品の選択や保存、調理（焼く、煮る、蒸す、生肉・生魚の扱い）の仕方と調理計画、地域の食文化と和食の調理 | 健康によい食習慣について考え、工夫すること<br>中学生の1日分の献立について考え、工夫すること<br>日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること | 衣服と社会生活との関わり、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用、材料や状態に応じた日常着の手入れ<br>製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い | 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方考え、工夫すること<br>資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること | 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方                       | 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること                         |

## 資質・能力の全体構造（素案）

| A 家族・家庭生活（仮称）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                  | B 生活経営・消費生活（仮称）                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                      |
| 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                           | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                            |
| 自立した生活者を営む主体として、様々な人々の生活を理解し、共に協力し合うことで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                      | 家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだし、自立した生活を営む主体として、よりよい生活を創造することができる。                                                                                                                                        | 自立した生活を営む主体として、生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、生涯にわたって生活をよりよくできることについて理解する。                                                                                                                                                                                                                   | 生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだし、適切に意思決定し、自立した生活を営む主体として、よりよい生活を創造することができる。                                                                     |
| 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                  | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生、自己と他者、社会との関わりと様々な生き方</li> <li>生涯発達の視点からの青年期の課題、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わり</li> <li>乳幼児期の心身の発達、乳幼児期の生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能</li> <li>高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の孫g年と自立生活の支援や介護、生活支援に関する基礎的な技能</li> <li>生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく行動</li> <li>子供を生み育てることの意義、子供の発達のための親や家族及び地域や社会の果たす役割</li> <li>家族や地域及び社会の果たす役割の重要性</li> <li>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもっとともに支え合って生活することの重要性</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理</li> <li>生涯を見通した生活課題に対応した意思決定</li> <li>家族・家庭の機能と家族関係</li> <li>家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理</li> <li>消費者の権利と責任、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定、契約の重要性、消費者保護の仕組み、生活情報の適切な収集・整理</li> <li>生活と環境との関わり、持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、生活設計</li> <li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性</li> <li>責任ある消費</li> <li>安心で安全な生活と消費</li> </ul> |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |      | C 食生活（仮称）                                                                                                                                                        |                                                                                    | D 衣生活（仮称）                                                                                                                           |                                                                                      | E 住生活（仮称）                                                                             |                                                                                      |
|------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      | 知識及び技能                                                                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                       | 知識及び技能                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                         | 知識及び技能                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                         |
|      |      | 統合的な理解                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                             | 統合的な理解                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                               | 統合的な理解                                                                                | 総合的な発揮                                                                               |
| 高等学校 | 家庭基礎 | 自立した生活を営む主体として、科学的な根拠を基に、健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、ライフステージに応じて食生活をよりよくできることについて理解する。                                                                           | 自分や家族及び地域における食生活上の課題を見だし、自立した生活を営む主体として、生涯にわたって健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい食生活を創造することができる。 | 自立した生活を営む主体として、科学的な根拠を基に、健康・快適・安全な衣生活や日本の衣文化の大切さとともに、ライフステージに応じて衣生活をよりよくできることについて理解する。                                              | 自分や家族及び地域における衣生活上の課題を見だし、自立した生活を営む主体として生涯にわたって健康・快適・安全で衣文化を大切にしたいよりよい衣生活を創造することができる。 | 自立した生活を営む主体として科学的な根拠を基に、健康・快適・安全な住生活や日本の住文化の大切さとともに、ライフステージに応じて住生活をよりよくできることについて理解する。 | 自分や家族及び地域における住生活上の課題を見だし、自立した生活を営む主体として生涯にわたって健康・快適・安全で住文化を大切にしたいよりよい住生活を創造することができる。 |
|      |      | 内容項目例                                                                                                                                                            |                                                                                    | 内容項目例                                                                                                                               |                                                                                      | 内容項目例                                                                                 |                                                                                      |
|      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>ライフステージに応じた栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能</li> <li>おいしさの構成要素、食品の調理上の性質、食品衛生、目的に応じた調理に必要な技能</li> </ul> | 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理</li> <li>材料、被服構成、被服衛生、被服の計画・管理に必要な技能</li> </ul> | 被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理、目的に応じた着装                                               | ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能、適切な住居の計画・管理に必要な技能                              | 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わり、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境の工夫                                    |

## 資質・能力の全体構造（素案）

| A 家族・家庭生活（仮称）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                    | B 生活経営・消費生活（仮称）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                                       | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                        |
| 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                                             | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                                                                                                              |
| 家庭や地域の生活を率先して、上させる主体として、様々な人々の生活を理解し、共に協力し合うことで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の課題を見だし、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、よりよい生活を創造することができる。                                                                                                                                                               | 家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                    | 生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の課題を見だし、適切に意思決定し、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、よりよい生活を創造することができる。                                                            |
| 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生、自己と他者、社会との関わりと様々な生き方</li> <li>生涯発達の視点からの各ライフステージの特徴と課題、青年期の課題、意思決定の重要性</li> <li>家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題</li> <li>乳幼児期の心身の発達、乳幼児期の生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援、子供の発達に応じて適切に関わるための技能</li> <li>子供の福祉</li> <li>高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能</li> <li>高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題、高齢者福祉</li> <li>生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援</li> <li>家庭と地域との関わり、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく責任のある行動</li> <li>子供を生み育てることの意義、保育の重要性、子供の発達のための親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性、子供との適切な関わり方</li> <li>高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方</li> <li>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を見通した生活課題に対応した意思決定</li> <li>生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源、情報の収集・整理</li> <li>家計の管理、生活における経済と社会との関わり</li> <li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方、情報の収集・整理</li> <li>消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定、責任ある消費、生活情報の収集・整理</li> <li>消費者の権利と責任、消費者問題や消費者の自立と支援、契約の重要性、消費者保護の仕組み</li> <li>生活と環境との関わり、持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、生活設計</li> <li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性</li> <li>責任ある消費行動</li> <li>安全で安心な生活と消費</li> </ul> |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |      | C 食生活（仮称）                                                                                                                                                                                                           |                                                                                             | D 衣生活（仮称）                                                                                                                                                                                         |                                                                                             | E 住生活（仮称）                                                                                                                                                                                                              |                                                                                             |
|------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                | 知識及び技能                                                                                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                |
|      |      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                              | 総合的な発揮                                                                                      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                 | 総合的な発揮                                                                                      |
|      |      | 家族や地域の食生活を支える人材として、健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、家族や地域の人々のライフステージに応じて食生活をよりよくできることについて理解する。                                                                                                                           | 自分や家族や地域における食生活上の課題を解決し、家庭や地域の生活を支える人材として、食文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・安全でよりよい食生活を創造することができる。 | 家族や地域の衣生活を支える人材として、健康で快適な衣生活や日本の衣文化の大切さとともに、家庭や地域の人々のライフステージに応じて衣生活をよりよくできることについて理解する。                                                                                                            | 自分や家族や地域における衣生活上の課題を解決し、家庭や地域の生活を支える人材として、衣文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・快適でよりよい衣生活を創造することができる。 | 家族や地域の住生活を支える人材として、健康・快適・安全な住生活や日本の住文化の大切さとともに家庭や地域の人々のライフステージに応じて住生活をよりよくできることについて理解する。                                                                                                                               | 自分や家族や地域における衣生活上の課題を解決し、家庭や地域の生活を支える人材として、住文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・快適でよりよい住生活を創造することができる。 |
|      |      | 内容項目例                                                                                                                                                                                                               |                                                                                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                             |                                                                                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                             |
| 高等学校 | 家庭総合 | <ul style="list-style-type: none"> <li>食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化、食と人との関わり</li> <li>ライフステージの特徴や課題、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能</li> <li>おいしさの構成要素、食品の調理上の性質、食品の衛生、目的に応じた調理に必要な技能</li> </ul> | 健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造、日本の食文化の継承・創造                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化、被服と人との関わり</li> <li>ライフステージの特徴や課題、身体特性と被服の機能及び着装、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の管理・計画に必要な情報の収集・整理</li> <li>被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生、被服管理</li> </ul> | 目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装、日本の衣文化の継承・創造、目的や個性の応じた健康で快適、機能的な着装、日本の衣文化の継承・創造                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化、住まいと人との関わり</li> <li>ライフステージの特徴や課題、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能、住生活の計画・管理に必要な機能</li> <li>家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報の収集・整理</li> </ul> | ライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造                                  |





**生活、総合的な学習・探究の時間WGにおける  
議論の補足イメージ及び  
教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**

P.3の「1. 現状と課題、期待される学び」を踏まえ、生活科の本質的意義を明確にし、それが学校教育において発揮する教育的価値、位置付けを明らかにするとともに、深い学びを実装するための視点として「4つの本質的意義」を体系的に整理する。

## 2. 生活科がもつ4つの〈本質的意義〉

人間的な学びを実現するために、以下の4つの観点を本質的意義として位置付けてはどうか。

### ① 身体性 — 身体で世界を捉える（実感）

- 対象との関わり方として、触る、動かす、試すなど諸感覚を通して対象を捉えるとともに、単に「分かった気がする」でなく納得感を伴って「分かった」「できた」という手応え（実感）を得られるようになる。AIが提供する情報だけでは得られない、「身体で世界を捉える」体験や活動が、自分の外に広がる世界と確かな接点をもつ出発点となる。

### ② 対象と自分との関わり — 身近な世界に働きかけ、気付く（好奇心・探究心）

- 自分が触る、動かす、試すといった働きかけによって、身近なものごとの様子や変化に心を向けることを通して、身近なものごとが変化することを実感する中で、「自分が動くとき対象となる世界が変わる」という手応えを得る。その経験が、「なぜ？」「どうして？」という好奇心や探究心を生み出し、自分との関わりで対象を捉える。
- 児童が自ら世界に働きかけることで、身近な人々、社会及び自然のよさや特徴などに気付くとともに、それらを身近に感じ、大切に思いながら関わっていけるようになる。

### ③ 他者と自分との関わり — 他者の思いや願いを尊重し、共に生活する（協働性・共感）

- 他者との関わりを通して、自分一人ではできないことも、互いに力を出し合うことでできるようになる経験を重ねる中で、相手の思いに気付き、受けとめ、尊重する態度が育まれる。他者との関わりから生まれる協働・共感の経験は、社会で共に生活するために重要であり、こうした経験を重ねることで、児童の学びは身近な人から地域・社会へと関係が広がっていくことになる。

### ④ 自己認識 — 自分という存在に気付く（主体性・自立性）

- 生活科の学びで、「自分はどう感じるか」「何が好きか」「何をしたいか」に気付き、その気付きが、自分で考え行動する主体性や自立性を育む。「自分はこう感じる」「自分はこう考える」からこそ、自分自身のよさや可能性、成長に気付けるようになる。

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

### 目標

|     | 知識及び技能                                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                       |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>活動や体験の過程において、自分自身や身近な人々、社会及び自然の特徴やよさに気付くとともに、他者との関わりを通してそれらの気付きを深め、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、気付きや実感を基に自分自身や自分の生活について考えを巡らせ、多様に表現することができるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、他者と協働し、状況に応じて関わり方を調整するとともに、意欲や自信をもって、学びや生活をより豊かにしようとする態度を養う。</li> </ul> |

### 見方・考え方

- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりや、自分と他者との関係の中で捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする  
こと

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 小学校 | 学校、家庭及び地域の生活に関する内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 自分自身の生活や成長に関する内容                                                                                                                                                                   |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                           |
|     | 身近な人々、社会及び自然に親しみや愛着をもち、集団や社会の一員として安全で適切な行動することに向かうように、自分と生活とのつながりを繰り返し考え、多くの人々や場所と関わって成り立っていることへの気づきを深めている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 自分たちの生活をよりよくすることに向かうように、自分と生活とのつながりを広げたり深めたりしながら考え、身近な人々、社会及び自然との関わりが自分たちの生活につながっていることへの気づきを深めている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 意欲と自信を高めながら生活することに向かうように、自分の生活を振り返る中で、これまでの出来事や関わりを手掛かりに、自分の成長や身近な人々の支えについて考え、自分のよさや可能性への気づきを深めている。                                                                                |
|     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 内容項目例                                                                                                                                                                              |
|     | <p>(1) 学校と生活</p> <p>学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全に登下校をしたりしようとする。</p> <p>(2) 家庭と生活</p> <p>家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。</p> <p>(3) 地域と生活</p> <p>地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。</p> | <p>(4) 公共物や公共施設の利用</p> <p>公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。</p> <p>(5) 季節の変化と生活</p> <p>身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることなどに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。</p> <p>(6) 自然や物を使った遊び</p> <p>身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。</p> <p>(7) 動植物の飼育・栽培</p> <p>動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。</p> <p>(8) 生活や出来事の伝え合い</p> <p>自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。</p> | <p>(9) 自分の成長</p> <p>自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。</p> |

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

### 目標

|     | 知識及び技能                                                                                                                                          | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                          |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>活動や体験の過程において、自分との関わりを通して、自分自身や身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、自分と対象や他者との関係に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、気付きや実感を基に自分自身や自分の生活について考えを巡らせ、多様に表現することができるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、他者とともに協働し、状況に応じて関わり方を調整するとともに、意欲や自信をもって、学びや生活をより豊かにしようとする態度を養う。</li> </ul> |

### 見方・考え方

- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりや、自分と他者との関係の中で捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする  
こと



## 資質・能力の全体構造（素案）

| 小学校 | 学校、家庭及び地域の生活に関する内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 身近な人々、社会及び自然に関する内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 自分自身の生活や成長に関する内容                                                                                                                                                                |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                        |
|     | 集団や社会の一員として安全で適切な行動をすることへ向かうように、身近な人々、社会及び自然に親しみや愛着をもって考え、学校、家庭及び地域の生活に関わることの気づきを高めること。                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 自分たちの生活をよりよくすることに向かうように、自分との関わりの中で工夫を重ねながら捉え直し、身近な人々、社会及び自然と関わることの気づきを高めること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 意欲と自信を高めながら生活することに向かうように、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考え、自分や他者との関わりの中でそれらを捉え直し、自分のよさや可能性の気づきを高めること。                                                                                     |
|     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 内容項目例                                                                                                                                                                           |
|     | <p>(1) 学校と生活<br/>学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全に登下校をしたりしようとする。</p> <p>(2) 家庭と生活<br/>身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。</p> <p>(3) 地域と生活<br/>自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活するようにする。</p> | <p>(4) 公共物や公共施設の利用<br/>公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで作るものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。</p> <p>(5) 季節の変化と生活<br/>身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることなどに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。</p> <p>(6) 自然や物を使った遊び<br/>身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。</p> <p>(7) 動植物の飼育・栽培<br/>動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命を持っていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。</p> <p>(8) 生活や出来事の伝え合い<br/>自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。</p> | <p>(9) 自分の成長<br/>自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。</p> |

## 目標、見方・考え方（素案）

## 目標

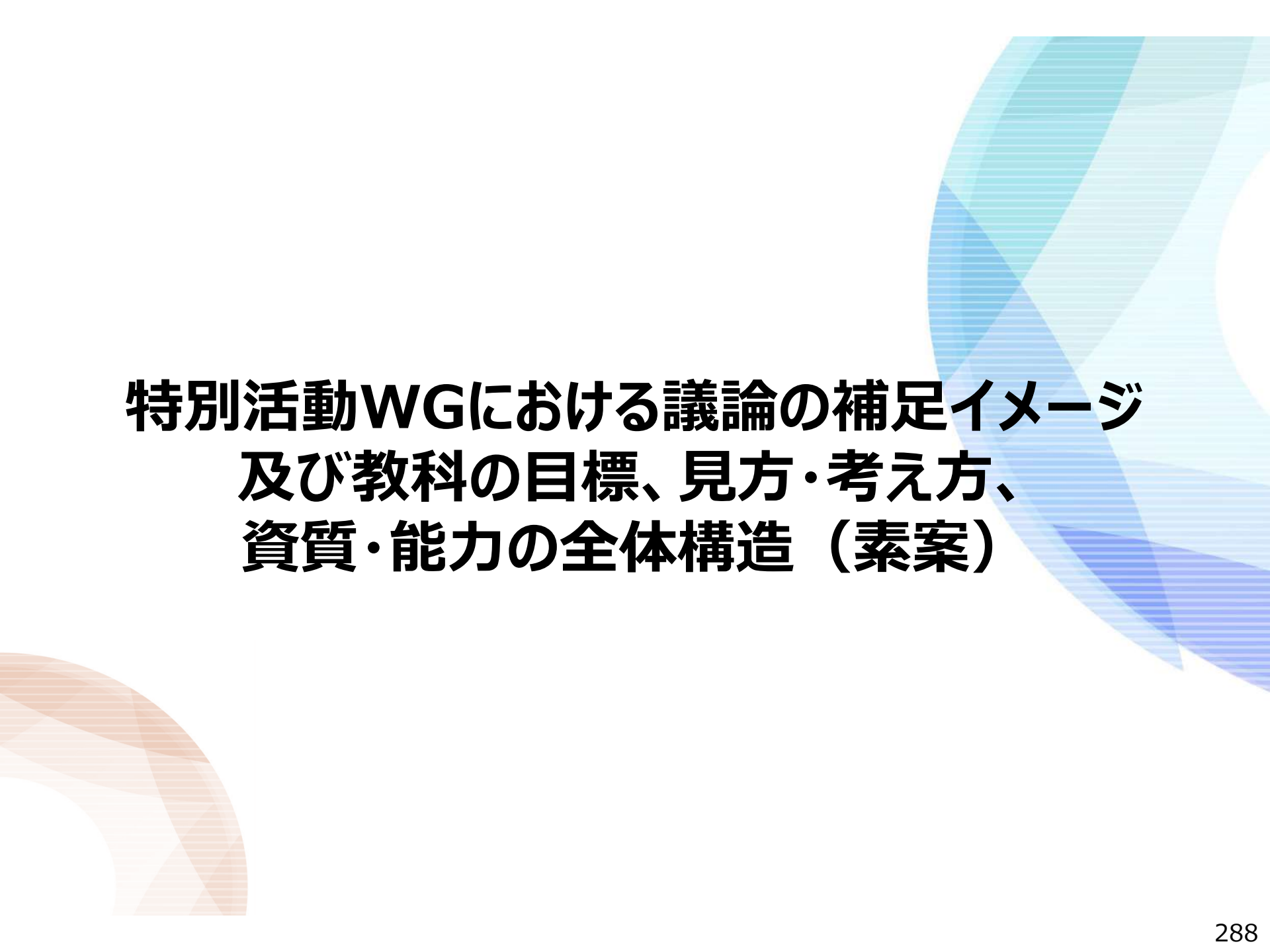
|      | 知識及び技能                                                               | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校  | 探究の過程において、課題の発見・解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究のよさを理解できるようにする。     | 実社会・実生活と自己との関わりから問いを見だし、必要な知識及び技能、様々な方略を活用しながら、探究の過程を通じて課題を解決し、自分なりの新たな意味や理解の深まりを表現できるようにする。                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、自己にとっての意味の視点で捉え、探究の過程で課題として洗練しようとする</li> <li>・他者との対話や協働によって、よりよく課題を解決しようとする</li> <li>・探究の進め方を工夫したり、探究の過程を振り返ったりして、自らの学びを調整しようとする</li> <li>・自己の生き方についての考えを深め、探究を通じて豊かな人生や持続可能な社会を実現しようとする</li> </ul>                  |
| 中学校  | 探究の過程において、課題の発見・解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義を理解できるようにする。     | 実社会・実生活と自己との関わりから問いを見だし、必要な知識及び技能、様々な方略を効果的に活用しながら、課題に応じた探究の過程を通じて課題を解決し、自分なりの新たな意味や理解の深まりを表現できるようにする。      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、自己や他者にとっての意味の視点で捉え、探究の過程で課題として洗練しようとする</li> <li>・多様な他者との対話や協働によって、よりよく課題を解決しようとする</li> <li>・探究の進め方を工夫したり、探究の過程を振り返ったりして、自覚的に学びを調整しようとする</li> <li>・自己の生き方についての考えを深め、探究を通じて豊かな人生や持続可能な社会の実現に向けて行動しようとする</li> </ul>     |
| 高等学校 | 探究の過程において、課題の発見・解決に必要な知識及び技能を身に付け、統合的に課題に関わる概念を形成し、探究の意義を理解できるようにする。 | 実社会・実生活と自己との関わりから問いを見だし、必要な知識及び技能、様々な方略を総合的に活用しながら、課題に応じた探究の過程を通じて課題を解決し、自己や他者にとっての新たな意味や理解の深まりを表現できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、自己や他者、社会及び将来にとっての意味の視点で捉え、探究の過程で課題として洗練しようとする</li> <li>・多様な他者との対話や協働によって、よりよく課題を解決しようとする</li> <li>・探究の進め方を工夫したり、探究の過程を振り返ったりして、自律的に学びを調整しようとする</li> <li>・自己の在り方生き方についての考えを深め、探究を通じて豊かな人生や持続可能な社会を創造しようとする</li> </ul> |

## 見方・考え方

- ・ 実社会・実生活との関わりの中で見いだす興味・関心や問題意識に基づく課題を、横断的・総合的な視点から捉え、新たな価値を創造し、自分らしい生き方を問い続けること

## 資質・能力の全体構造（素案）

| 小学校 | 情報の領域（仮称）                                                                 |                                                                              |
|-----|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
|     | 知識及び技能                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                 |
|     | 統合的な理解                                                                    | 総合的な発揮                                                                       |
|     | 情報技術の正負の側面を含む特性の理解をもとに、情報技術を適切かつ効果的に活用することで、デジタル社会における様々な課題を解決できることを理解する。 | 情報技術の正負の側面を踏まえ、情報技術を情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などに適切かつ効果的に活用して、デジタル社会における身近な課題を解決できる。 |
|     | 内容項目例                                                                     | 内容項目例                                                                        |
|     | ①情報技術の活用<br>②情報技術の適切な取扱い<br>③情報技術の特性の理解                                   | ①情報技術の活用<br>②情報技術の適切な取扱い<br>③情報技術の特性の理解                                      |



# **特別活動WGにおける議論の補足イメージ 及び教科の目標、見方・考え方、 資質・能力の全体構造（素案）**

## 目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                                                              | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                                       | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生活や身近な社会、人間関係をよりよくすることの意義について理解する。</li> <li>多様な他者とよりよく合意形成や意思決定を行ったり協働的に実践したりするための行動の仕方を身に付ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生活や身近な社会、人間関係についての課題を見だし、根拠を持って自己の意見や立場を形成し、表現することができるようにする。</li> <li>多様な個性や特性、背景を有する他者の考えや価値観を尊重し、対立や葛藤を乗り越えながら合意形成や意思決定を行い、実践を通して価値の創造を行うことや、振り返りを通して新たな課題を見いだすことができるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、興味・関心に応じて役割や責任を担おうとする。</li> <li>多様な他者との対立や葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる。</li> <li>省察により思考や感情、行動を調整する。</li> <li>自己の生き方についての考えを深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする。</li> </ul>       |
| 中学校  |                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、社会との関係において役割や責任を担おうとする。</li> <li>多様な他者との対立や葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる。</li> <li>省察により思考や感情、行動を調整する。</li> <li>人間としての生き方についての考えを深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする。</li> </ul>   |
| 高等学校 |                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、社会における役割や責任を担おうとする。</li> <li>多様な他者との対立や複雑な葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる。</li> <li>省察により思考や感情、行動を調整する。</li> <li>人間としての在り方生き方についての自覚を深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする。</li> </ul> |

## 見方・考え方

- 自己の生活や身近な社会における課題を社会創造、自己実現及びそれらの基盤としての人間関係形成の視点から捉え、社会を形成する当事者として多様な他者と協働し、自他のよりよい人生や社会生活につなげること。

## 資質・能力の全体構造（素案）

## 学級活動/ホームルーム活動 （１）学級や学校における生活づくりへの参画

## 高次の資質・能力

学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

## 内容項目例

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

## 高次の資質・能力

学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

## 内容項目例

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

## 高次の資質・能力

ホームルームや学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

## 内容項目例

- ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
- イ ホームルーム内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上



## 資質・能力の全体構造（素案）

| 学級活動/ホームルーム活動（2）日常の生活や学習への適応と自己成長及び健康安全、（3）一人一人のキャリア形成と自己実現 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校                                                         | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                                                             | 学級での話し合いを生かして現在と将来の自己実現に向けて意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする<br>○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する                                                                                                                          |
|                                                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                                             | <div> <p>(2)</p> <p>ア 基本的な生活習慣の形成</p> <p>イ よりよい人間関係の形成</p> <p>ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成</p> <p>エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成</p> </div> <div> <p>(3)</p> <p>ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成</p> <p>イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成</p> <p>ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用</p> </div>                                                       |
| 中学校                                                         | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                                                             | 学級での話し合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 社会との関わりでの自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする<br>○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する                                                                                                    |
|                                                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                                             | <div> <p>(2)</p> <p>ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成</p> <p>イ 男女相互の理解と協力</p> <p>ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応</p> <p>エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成</p> <p>オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成</p> </div> <div> <p>(3)</p> <p>ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用</p> <p>イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成</p> <p>ウ 主体的な進路の選択と将来設計</p> </div>   |
| 高等学校                                                        | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                                                             | ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。<br>○ 社会の形成者としての自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の在り方生き方につなげようとする<br>○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする<br>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する                                                                                            |
|                                                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                                             | <div> <p>(2)</p> <p>ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成</p> <p>イ 男女相互の理解と協力</p> <p>ウ 国際理解と国際交流の推進</p> <p>エ 青年期の悩みや課題とその解決</p> <p>オ 生命の尊重と心身共に健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</p> </div> <div> <p>(3)</p> <p>ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解</p> <p>イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館等の活用</p> <p>ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成</p> <p>エ 主体的な進路の選択決定と将来設計</p> </div> |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校  | 児童会/生徒会活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|      | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|      | <p>異年齢の児童で協力し、学校生活の充実と向上を図るため、計画を立て役割を分担し、協力して取り組むことを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする</li> <li>○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる</li> <li>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する</li> </ul>                       |
|      | <p>内容項目例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営</li> <li>(2) 異年齢集団による交流</li> <li>(3) 学校行事への協力</li> </ul>                                                                                                                                                                                         |
| 中学校  | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|      | <p>異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする</li> <li>○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる</li> <li>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する</li> </ul>         |
|      | <p>内容項目例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営</li> <li>(2) 学校行事への協力</li> <li>(3) ボランティア活動などの社会参画</li> </ul>                                                                                                                                                                                    |
|      | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 高等学校 | <p>異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする</li> <li>○ 身近な生活上の課題や地域社会の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる</li> <li>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する</li> </ul> |
|      | <p>内容項目例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営</li> <li>(2) 学校行事への協力</li> <li>(3) ボランティア活動などの社会参画</li> </ul>                                                                                                                                                                                    |
|      | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校  | 学校行事                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|      | <p>高次の資質・能力</p> <p>全校又は学年の児童で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見だし担おうとする</li> <li>○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする</li> <li>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する</li> </ul> |
|      | <p>内容項目例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 儀式的行事</li> <li>(2) 文化的行事</li> <li>(3) 健康安全・体育的行事</li> <li>(4) 遠足・集団宿泊的行事</li> <li>(5) 勤労生産・奉仕的行事</li> </ul>                                                                                                                                                         |
| 中学校  | <p>高次の資質・能力</p> <p>全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見だし担おうとする</li> <li>○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする</li> <li>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する</li> </ul> |
|      | <p>内容項目例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 儀式的行事</li> <li>(2) 文化的行事</li> <li>(3) 健康安全・体育的行事</li> <li>(4) 旅行・集団宿泊的行事</li> <li>(5) 勤労生産・奉仕的行事</li> </ul>                                                                                                                                                         |
|      | <p>高次の資質・能力</p> <p>全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見だし担おうとする</li> <li>○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする</li> <li>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する</li> </ul> |
| 高等学校 | <p>内容項目例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 儀式的行事</li> <li>(2) 文化的行事</li> <li>(3) 健康安全・体育的行事</li> <li>(4) 旅行・集団宿泊的行事</li> <li>(5) 勤労生産・奉仕的行事</li> </ul>                                                                                                                                                         |
|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | クラブ活動                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|     | 高次の資質・能力                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|     | <p>異年齢の児童で協力し、共通の興味・関心を追求する活動を計画し、主体的に運営することを通して、以下の資質・能力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共通の興味・関心をよりよく追求するため、主体的に役割を見だし担おうとするとともに、自他の個性の伸長を図ろうとする</li> <li>○ 共通の興味・関心を追求する上での対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら協働して活動しようとする</li> <li>○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する</li> </ul> |
|     | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

- (1) クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営
- (2) クラブを楽しむ活動
- (3) クラブの成果の発表



**道徳WGにおける議論の補足イメージ  
及び教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**

## 目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|     | 特別の教科 道徳                                                                                                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校 | 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。          |
| 中学校 | 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 |





**情報・技術WGにおける議論の補足イメージ  
及び教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**

# 中学校情報・技術科（仮称）で扱う領域の改善イメージ

## 現状

学校教育法に規定する「情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養う」観点から、現代社会で活用されている多様な技術を四つの領域に整理し、内容を構成

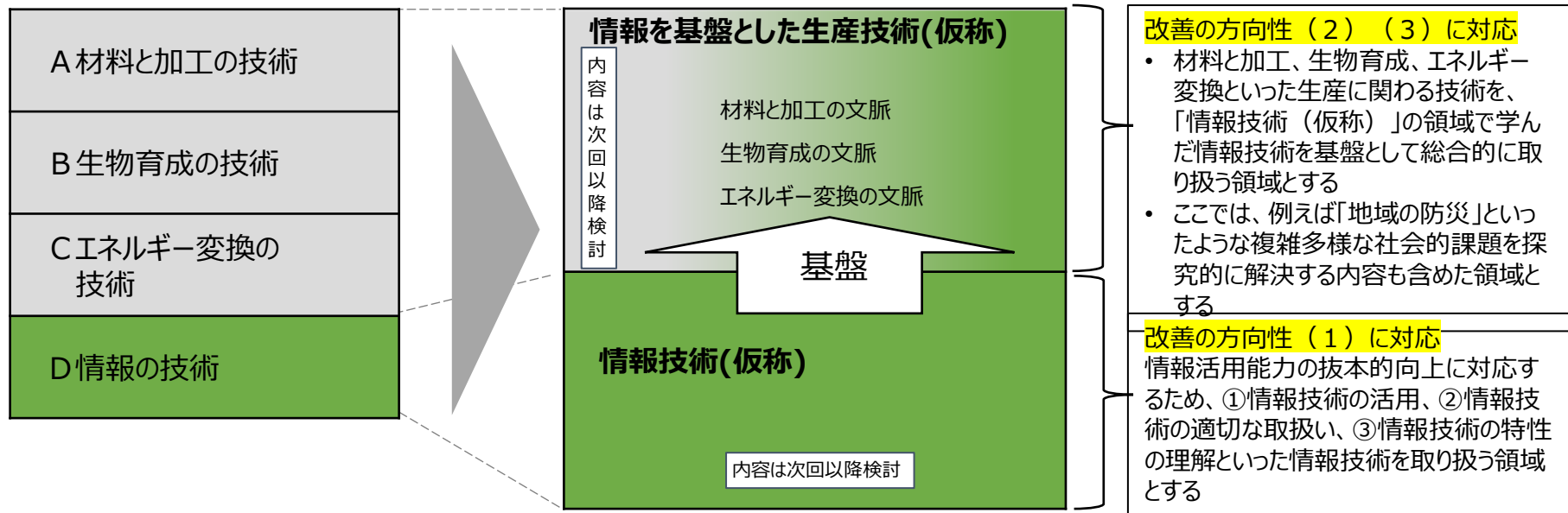
## 領域設置の考え方

- デジタル技術が急速に発展している中、これからの時代を生きる子供たちは、社会の重要なインフラとなる情報技術をより広範かつ深く学ぶ必要性が格段に高まっており、論点整理も踏まえ、情報技術を重点的に扱う独立の領域を設置する必要
- 一方、情報技術以外の生産技術（現行のA材料と加工の技術・B生物育成の技術・Cエネルギー変換の技術）も、情報技術が生み出す価値を現実の生活や社会で具体化する、引き続き不可欠な技術(※1)
- 生産技術のニーズが情報技術を発展させる側面もあり(※2)、両者は相互に補完しながら豊かな生活や社会を実現する関係にある。社会のデジタル化が進む中、情報技術と生産技術と掛けあわせた学びがより一層重要
- 加えて、生産技術の3領域も、多様化・複雑化する生活や社会の問題に対応できるよう、それぞれを単独で扱うのではなく、横断的かつ探究的に学習(※3)を進めることが不可欠
- 以上を踏まえ、情報・技術科（仮称）では、生産技術を基盤として支える「**情報技術（仮称）**」の領域を設置するとともに、情報のみならず生産技術間も横断して、探究的に学ぶことも重視する観点も踏まえ、「情報を基盤とした生産技術（仮称）」の領域を設置し、2つの領域構成に改善してはどうか

※ 1 例えば、3D CADなどで設計した複雑な形状の部品を3Dプリンタを活用して具現化する

※ 2 例えば、より小型化・軽量化された電子部品を開発することで、それを利用したより高度な計測・制御機器の開発が可能になるなど

※ 3 地域防災などに活用するA・C領域を横断した人命救助ロボットの開発や、作物の育成環境を最適に調整するためのA・B・C領域を横断したスマート農業など



※ 名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意

## 中学校情報・技術科（仮称）の内容構成（案）

- 各内容項目の中で技術の学習過程（①技術の原理と仕組み、②技術による問題解決（問題と課題の設定→構想→制作等→評価・改善）、③技術の社会における吟味と活用）を順序性（(ア)～(ウ)）をもって示すとともに、それぞれの下に個別の「知識及び技能」やそれに対応する「思考力、判断力、表現力等」が列挙される階層構造としてはどうか
- また、学習過程を分かりやすく捉えられるよう、以下の通り見出し化（(ア)～(ウ)）するとともに、的確な用語で共通性を示してはどうか（※本資料では現行の A 領域を例示しているが、B～D 領域も同様の構成）

### 現行の内容項目

技術の学習過程は、A～Dの各領域に通底して働く基本的な考え方であるが、現行の記載では、その共通性が必ずしも十分に表現されていない

#### A 材料と加工の技術

- (1) 生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

- ア 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。（知識・技能）  
イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。（思考力・判断力・表現力等）

内容項目の見出しが端的でなく学習過程を示す記述もないため、**見出しだけでは学習過程（左記であれば、①技術の原理と仕組み）を把握しづらい**

- (2) 生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

- ア ～個別の（知識・技能）に関する文章～  
イ ～個別の（思考力・判断力・表現力等）に関する文章～

- (3) これからの社会の発展と材料と加工の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

- ア ～個別の（知識・技能）に関する文章～  
イ ～個別の（思考力・判断力・表現力等）に関する文章～

### 新しい内容項目（案）

#### 1. 情報技術(仮称)

- (1) 計測・制御のプログラミングとシステム化（仮称）**

- (ア) 情報技術の原理と仕組み（仮称）**  
**(イ) 情報技術による問題解決（仮称）**  
**(ウ) 社会における情報技術の吟味と活用（仮称）**

※その他の内容項目においても同様の構造とし共通性を表現  
※(ア)～(ウ)のそれぞれに個別の（知識・技能）と（思考力・判断力・表現力等）がぶら下がる

(ア)：情報技術に関する原理や法則、基礎的な仕組みを理解する

(イ)：解決すべき課題の設定、解決策の構想・具体化、解決のための制作、解決策の評価・改善をする

(ウ)：(イ)までの学習を通じて、当該情報技術の概念の理解を深め、豊かで包摂的な生活や社会の実現に向けた**技術の吟味、選択、管理・運用、改良、応用**について考える

- (2) コンテンツとデータ（仮称）**      **(3) 情報技術の発展と社会（仮称）**

情報活用能力育成の観点から整理した資質・能力の体系性に基づき、必要な内容を漏れなく(1)～(3)の3つの分野に配置

既習の内容を踏まえ、技術の領域や分野にとらわれず、**実生活・実社会の課題に対し最適な技術を判断・活用して探究的に解決する内容**（※論点整理の改善の方向性（3）に対応）

#### 2. 情報を基盤とした生産技術(仮称)

- (1) 材料と加工(仮称)**      **(2) 生物育成(仮称)**      **(3) エネルギー変換(仮称)**      **(4) 総合実習（仮称）**

# 高等学校情報科の科目構成の改善イメージ

## 現状

情報活用能力を全ての生徒に育む共通必修科目としての情報Ⅰと、情報Ⅰで培った基礎の上にコンテンツを創造する力などを育む選択科目としての情報Ⅱを設置

## 改善の方向性

- 抜本的に充実する中学校 情報・技術科（仮称）に内容を一部移行するが、一方で、高等教育の数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルを概観できるよう内容を充実することを踏まえると、指導内容の分量は現行と大きく変わらないことが見込まれることから、引き続き**情報Ⅰを存置**しつつ、生徒が興味関心をもって学べるよう実践的・探究的な内容を充実させてはどうか
- また、情報Ⅰが共通必修科目となったのは前回改訂時であること、大学入学共通テストに追加されたのは令和 7 年度であることから、**安易な科目構成の変更は現場の混乱を招くことも考慮する必要**

### 情報Ⅰ

- |                      |
|----------------------|
| (1)情報社会の問題解決         |
| (2)コミュニケーションと情報デザイン  |
| (3)コンピュータとプログラミング    |
| (4)情報通信ネットワークとデータの活用 |

### 情報Ⅰ

※名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意

### 【現状】

- 平成30年改訂では、初めての共通必修科目として「情報Ⅰ」を設けられた
- 令和 7 年度入試より、大学入学共通テストに「情報Ⅰ」が追加された

- 情報Ⅰで培った基礎の上に選択科目としての**情報Ⅱを設置**する考え方は維持してはどうか
- その上で、現場のニーズに応じて、**より高度な情報活用能力の育成を図れるようにし**、生徒や地域の実情に応じた**特色・魅力ある教育を実現**するため、情報Ⅱは**各学校において、実社会の課題を探究的に解決する内容を充実**させられるよう(※)、一定の幅の範囲内で**単位数を配当**できることとしてはどうか

### 情報Ⅱ

- |                      |
|----------------------|
| (1)情報社会の進展と情報技術      |
| (2)コミュニケーションとコンテンツ   |
| (3)情報とデータサイエンス       |
| (4)情報システムとプログラミング    |
| (5)情報と情報技術を活用した問題発見・ |

### 情報Ⅱ

※理数探究や総合的な探究の時間も一定の幅の範囲内で単位数を配当する仕組みとなっている。

**教師の指導力向上や環境整備など指導体制の改善が必要**  
(※今後のWGで検討)

### 【課題】 解決の探究

- 学校や地域の実情によって設置率に大きな格差があると考えられる
- 一方、「情報Ⅱ」を設置している学校には、生徒の特性に応じてさらに**探究的な学びを増やしたい**等のニーズがある

例えば、仮に上限まで配当した場合、地域に実在する課題に対し、データやAIを活用し、ユーザ調査などからシステムの実装、評価まで行うような、応用基礎レベルのPBL学習を長期的に展開できる

## 高等学校情報科の内容構成の改善イメージ

- 現行の内容構成には以下のような課題が存在
  - 高等教育の数理・データサイエンス・AI教育との関係を踏まえると、AIやデータの扱いについて学ぶ内容が不十分（①）
  - 探究的・実践的な学びが不十分（②）
  - 一部内容（ex.情報やコンピュータ等）を複数の項目で扱っているため重複が発生しており、体系的が不明確（③）
- 内容構成について、現状の課題（①～③）を改善しつつ、第二回情報・技術WGにおいて整理した体系を基に引き続き扱うべき内容項目を高度化（※）すること（④）を踏まえ、例えば次ページのように組み替えることを検討してはどうか  
（※）小・中において抜本的に内容を充実することから、その接続として、高校段階でもより高度な内容を扱える
- なお、情報活用能力育成の抜本的充実として小・中との系統性がより一層重要となることを踏まえ、情報科では引き続き学習内容を基に分類する構成としてよい

## 科目構成・内容構成イメージを踏まえた情報Ⅰ・Ⅱの関係性

- 科目構成の改善イメージや内容構成の改善イメージを踏まえた、情報Ⅰと情報Ⅱの各内容項目の関係性は以下のとおり考えられる

### （1）情報の仕組みと社会との関わり（仮称）

中学までの学習の全体とAIの基本と社会とのかかわりを概念的に理解する

### （2）情報デザインとデザイン思考（仮称）

情報を効果的に伝える手法等を知り、ユーザーを意識した作品制作を学ぶ

### （3）データ分析とモデル化・シミュレーション（仮称）

データ分析の基本を学び、問題解決のためのモデルを考えてシミュレーションする

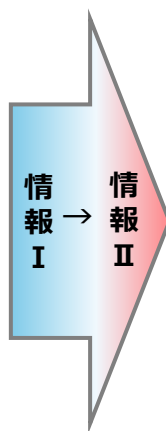
### （4）アルゴリズムとシステム開発（仮称）

ユーザーへの影響を考慮してアルゴリズムを考え、システム開発をする

### （5）情報及び情報技術を活用した課題探究（仮称）

探究的な学びを通して上記を総合的に発揮する

※名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意



### （1）社会課題とデータサイエンス（仮称）

Ⅰの発展的な内容と社会課題に資するデータサイエンスの手法を深く学ぶ

### （2）コンテンツデザイン（仮称）

Ⅰの内容を活かし、設計や評価の手法を学び質の高いコンテンツ制作をする

### （3）AI（仮称）

ⅠとⅡ（1）データサイエンスの内容を活かし、大量のデータを扱う機械学習等のAIの仕組み・ガバナンス等を学ぶ

### （4）先端技術と情報システムデザイン（仮称）

ⅠとⅡ（1）～（3）の内容を活かし、メタバースやAIなどの先端技術を複数組合せてシステムを開発し実装する

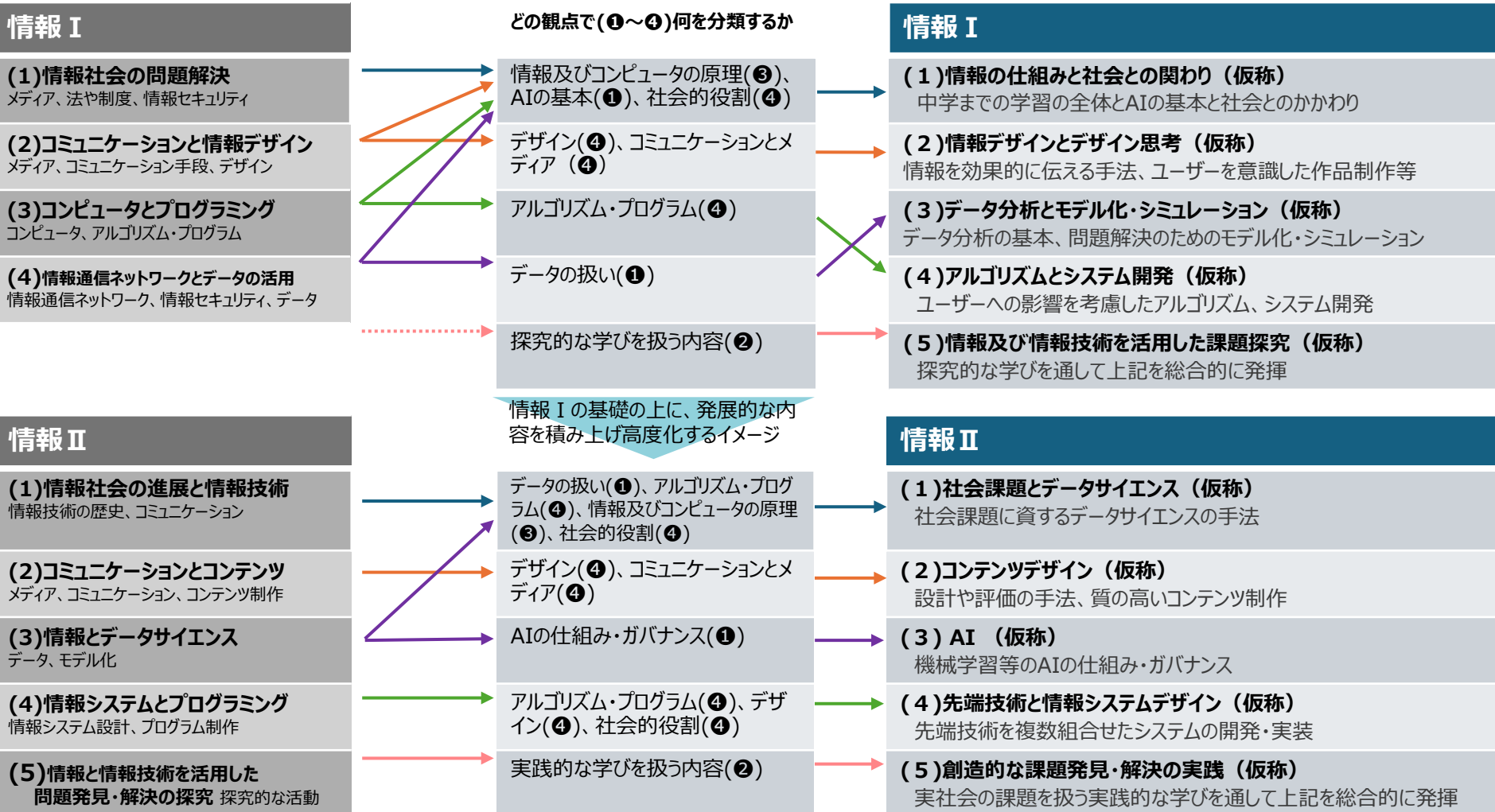
### （5）創造的な課題発見・解決の実践（仮称）

実社会の課題を扱う実践的な学びを通して上記を総合的に発揮する



# 高等学校情報科の内容構成の改善イメージ図

● 前頁で示した検討の方向性に基づいた内容構成の改善イメージを以下のとおり図示



※高校段階で特に重視する「③情報技術の特性の理解」を中心に学習内容ベースで取り扱う内容を例示

※名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意



## 情報活用能力として育成すべき資質・能力を体系的に整理するイメージ

- 情報活用能力の学習の基盤としての位置付け、情報活用能力の範囲、情報技術の変動性に留意しつつ、情報活用能力の構成要素別に（情報技術の①活用、②適切な取扱い、③特性の理解）、各学校段階で育成すべき主な資質・能力の例を以下のとおり「**知識及び技能**」と「**思考力、判断力、表現力等**」に整理してはどうか

### 小学校

### 中学校

### 高等学校

知識及び技能    思考力、判断力、表現力等    知識及び技能    思考力、判断力、表現力等    知識及び技能    思考力、判断力、表現力等

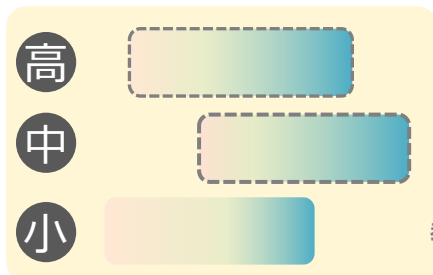
| ①<br>課題の設定<br>情報の収集<br>整理・分析<br>まとめ・表現<br>基本的な操作                                        | 小学校                                                                                                                                                           |                                                                                                              | 中学校                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                   | 高等学校                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                         | 知識及び技能                                                                                                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                 | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                      | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                       |
| ①<br>課題の設定<br>情報の収集<br>整理・分析<br>まとめ・表現<br>基本的な操作                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な情報収集の方法を身に付ける</li> <li>・情報やデータを整理し傾向を把握する方法を身に付ける</li> <li>・目的に応じた表現技能を身に付ける</li> <li>・情報技術の適切な操作を身に付ける</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な方法で情報やデータを収集・整理し傾向を明らかにしたうえで、目的に応じて効果的に表現し、身近な課題を解決できる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な情報収集の方法を身に付ける</li> <li>・情報やデータの統計的な分析の方法を身に付ける</li> <li>・複数の情報技術を組み合わせた表現技能を身に付ける</li> </ul>                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の手段により効果的に収集した情報やデータを統計的に分析し根拠を判断したうえで、適切な情報の加工をもって課題を解決できる</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・組み合わせによる効果的な情報収集の方法を身に付ける</li> <li>・情報やデータを構造化し科学的に分析し論理的に考察する方法を身に付ける</li> <li>・情報技術を統合した効果的な表現技能を身に付ける</li> </ul>                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報技術の特性や信頼の多面性を踏まえ、情報やデータを統計的・多角的に分析し根拠を判断したうえで、解決策を論理的に構成・適切に表現し、効果的な議論を経て課題を解決できる</li> </ul>                                             |
| ②<br>法や制度<br>倫理<br>安全                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の権利やルール、マナー、セキュリティを理解する</li> <li>・生活や健康への影響、安全管理を理解する</li> <li>・メディアにより情報や印象が異なること、誤情報・悪意のある情報もあることを理解する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・権利と責任、ルールとマナー、セキュリティ、情報技術の活用による影響等を踏まえて適切に行動することができる</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・権利に係る基本的な法制度や責任を理解する</li> <li>・倫理的配慮や情報セキュリティの基本を理解する</li> <li>・心身を含むリスク評価と適切な対処を理解する</li> </ul>                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法や倫理等を多面的に考え、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスクを評価して適切に行動することができる</li> </ul>                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法・制度の意義や責任を理解する</li> <li>・倫理的な配慮を踏まえた適切な活用に関し理解する</li> <li>・情報セキュリティを踏まえたリスクと利便性の評価・管理を理解する</li> </ul>                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法・制度の意義や倫理的課題を考察し責任をもつことや、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスク、利便性、信頼性等を評価して適切に行動することができる</li> </ul>                                                    |
| ③<br>情報及びコンピュータの原理<br>AI<br>アルゴリズム・プログラミング<br>デザイン<br>データの扱い<br>コミュニケーションやメディア<br>社会的役割 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生成AIを含む情報技術の基本的な仕組みや特性を理解する</li> <li>・コンピュータに指示するために必要な手順を理解する</li> </ul>                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報技術の特性を踏まえ、プログラミング的思考に基づき、身近な課題の解決策を表現することができる</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報技術の仕組みを理解する</li> <li>・AIの仕組みと社会での活用を理解する</li> <li>・アルゴリズムの理解と構造的な表現方法を身に付ける</li> <li>・ユーザ視点の情報デザインを理解する</li> <li>・データの効率的な管理・活用の仕方を身に付ける</li> <li>・メディア特性が受信・発信に与える影響を理解する</li> <li>・技術による社会のシステム化を理解する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報技術の仕組みや特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、メディアの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における課題を多面的に分析して解決策を構想・表現することができる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報技術の原理を科学的に理解する</li> <li>・AIの特性と課題を踏まえた活用の方法を身に付ける</li> <li>・アルゴリズムやシステム構築の設計と評価の方法を身に付ける</li> <li>・ユーザ中心の情報設計・評価の方法を身に付ける</li> <li>・データの科学的分析・解釈や、モデル化、シミュレーションを理解する</li> <li>・メディア・ツールの統合・活用の方法を身に付ける</li> <li>・技術発展の影響を多面的に理解する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先端技術を含む情報技術の原理や特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、モデリング、シミュレーション、メディア・ツールの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における専門的な課題を分析的に捉えて、解決策を創造的に構想・表現することができる</li> </ul> |

# 情報活用能力の育成に係る各教科等の関係

## 情報活用能力の育成を担う核となる教科等

### 現行の学習指導要領

指導内容が不十分  
小中高校通じた育成体系が不明確



主に情報科で育成

主に技術・家庭科の技術分野の  
一領域（情報の技術）で育成

教科等に明確な位置付けがない

デジタル学習基盤が前提となっていない

### 次の学習指導要領

情報活用能力を体系的に整理し、  
主として核となる教科等で育成する  
(※)ただし、一部教科では当該教科の資質・能力  
育成の観点から引き続き担うものもある



情報科の内容をさらに充実

情報・技術科（仮称）を創設

総合に情報の領域（仮称）を付加

デジタル学習基盤が学習の前提

情報活用能力を体系的に整理・構造  
化し、育成すべき資質・能力を明確に

## 核となる教科等以外の各教科等

### 現行の学習指導要領

各教科等の指導の中で、当該学習活  
動に必要な情報活用能力のみ取り扱う



各教科等で  
効果的に機能  
できていない

核となる教科等

各教科等

例) 小学校 社会 第 5 学年  
聞き取り調査をしたり映像や新  
聞などの各種資料で調べたりし  
て、まとめることを学ぶ際、  
コンピュータなどを適切に使って  
情報を集める技能も身に付ける  
ようにすることが大切とされており  
（解説）、社会の授業でコン  
ピュータなどを使った情報収集  
の方法を指導している

### 次の学習指導要領

情報活用能力は核となる教科等において  
育成されている前提で、各教科等を指導



各教科等で  
効果的に機能

核となる教科等

左記の例の場合、コンピュータなどを使  
った情報収集に関する内容は、小  
学校総合の情報の領域（仮称）で  
学ぶこととなり、社会ではこれを学んで  
いる前提で、調べまとめる学習を行え  
る

その他、小学校算数におけるプログラ  
ミング教育などもこれに該当

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|     | 知識及び技能                                                                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                           | 学びに向かう力・人間性等                                                                                                                                                                                                      |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術や生産技術の特性及び適切な取扱いについて理解する。</li> <li>情報技術や生産技術でものを生み出す方法を理解し、必要な技能を身に付ける。</li> <li>情報技術や生産技術の発達と生活や社会、環境との関係についての理解を深める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会の問題を技術の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、情報技術や生産技術を活用して、課題を設定する力を養う。</li> <li>検証等を通じて探究的に解決策を構想・具体化する力を養う。</li> <li>仕組みや価値を創造して課題を解決するとともに、そうした実践を評価・改善する力を養う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会の技術に関心や好奇心を持ち、多様な他者の発想や価値観を尊重し協働しながら試行錯誤と改善を繰り返し、より良い問題解決に向かおうと探究する態度を養う。</li> <li>包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術や生産技術の在り方を責任を持って多角的に判断し、進んで活用、創造しようとする意思や感性を育む。</li> </ul> |

## 見方・考え方

- 生活や社会における問題を、技術的視点から正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術及び生産技術を適切に活用したり、創造したりすること

## 資質・能力の全体構造（素案）

|     |          |                            | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                                            |
|-----|----------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | 情報技術（仮称） | （１）計測・制御のプログラミングとシステム化（仮称） | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                  |
|     |          |                            | 情報技術により情報処理の手順を自動化することで、人の判断や活動を助け、利便性を高められることを理解する。                                                                                                                                                                                                         | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、自動化する情報処理の手順を設計し、人の判断や活動を助ける仕組みを表現、評価・改善できる。                                                                                                                                                           |
|     |          |                            | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                        | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                   |
|     |          |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータ、情報のデジタル化、ネットワーク、AIの仕組み、アルゴリズムとプログラム</li> <li>著作権、肖像権などの権利、基本的な法・制度とその責任</li> <li>効率的かつ注意深く情報を収集する方法</li> <li>アジャイルでのプログラミングによる問題解決の方法と技能</li> <li>コンピュータやネットワーク、AIと生活や社会、環境との関係の理解</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータやネットワーク、AI等の仕組みと取扱いを考え表現すること</li> <li>コンピュータやネットワーク、AI等の仕組みと取扱いを踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、処理の手順を自動化することで解決するものを設計して構築する</li> <li>情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える</li> </ul>       |
|     |          |                            | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                  |
|     |          |                            | 情報やデータから新たな関係や意味を批判的に見いだしたり、利用者の立場で情報を吟味・設計したりすることで、分析結果や自分の考えを分かりやすく伝えられることを理解する。                                                                                                                                                                           | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報やデータの分析結果を批判的に判断し表現したり、利用者にとって分かりやすい情報を吟味・設計し表現、評価・改善したりできる。                                                                                                                                         |
|     | 情報技術（仮称） | （２）コンテンツとデータ（仮称）           | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                        | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                   |
|     |          |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ視点の情報デザイン</li> <li>データの管理と活用</li> <li>エコーチェンバー・フィルターバブルといったメディア特性が受信・発信に与える影響</li> <li>偽情報・誤情報の判別や必要な情報の精査</li> <li>情報やデータの統計的な分析の方法</li> <li>コンテンツによる問題解決の方法と技能</li> <li>データやメディアを扱う技術と生活や社会、環境との関係の理解</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>コンテンツやメディア等を実現する技術の仕組みや特性を踏まえた適切な取扱いを考え表現する</li> <li>コンテンツやメディア等を実現する技術の仕組みや特性を踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、情報を加工することで解決する表現の手段を設計して表す</li> <li>情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える</li> </ul> |
|     |          |                            | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                                                       | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                                  |
|     |          |                            | 情報技術や多様な技術が組み合わさり情報システムが構築されることを捉え、情報技術を活用して情報システムを情報の信頼性や社会に与える影響に配慮しながら評価・改善することで、包摂的で豊かな生活や社会につながることを理解する。                                                                                                                                                | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報技術を基盤とする多様な技術を組み合わせ、倫理・法・社会の観点を考慮して問題を解決するための情報システムを構築し表現、評価・改善できる。                                                                                                                                  |
|     |          | （３）情報技術の発展と社会（仮称）          | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                                                        | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                   |
|     |          |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の情報技術を組み合わせた表現技能</li> <li>健康への影響など心身を含むリスク評価と適切な対処の理解</li> <li>技術による社会のシステム化の理解</li> <li>プログラミングなどによる技術の統合</li> <li>情報技術によるシステム化と生活や社会、環境との関係の理解</li> </ul>                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術によるシステム化の仕組みと取扱いを考え表現する</li> <li>情報技術によるシステム化の仕組みや特性を踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、情報技術によって技術同士をつなぐことによって解決するものを構想してモデルを提示する</li> <li>情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える</li> </ul>        |



## 資質・能力の全体構造（素案）

|     |                  | 知識及び技能                                                                                                                                                                   | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                        |
|-----|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校 | 情報を基盤とした生産技術（仮称） | （１）材料と加工（仮称）                                                                                                                                                             | （１）材料と加工（仮称）                                                                                                                                                                        |
|     |                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                              |
|     |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>材料の加工や構造を工夫することにより、身の回りのものがつくられ、安全で利便性の高い生活につながることを理解する。</li> </ul>                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>安全性等に配慮しつつ、材料を選択・設計し、意図した形や構造に加工することで、生活に役立つものを製作し表現できる。</li> </ul>                                                                          |
|     |                  | 内容項目例                                                                                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                                                                                               |
|     |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>材料と加工の技術の役割と特性の理解</li> <li>人間工学に基づいた機能、構造、形状の設計とCADの操作</li> <li>製作の技能</li> <li>材料と加工の技術と生活や社会、環境との関係の理解</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>材料と加工の技術の仕組みと取扱いを考え表現する</li> <li>技術の正負の影響を踏まえて、問題を見い出して課題を設定し、解決策となる材料や形状、構造等をデジタル加工機の利用も考慮して設計し、製作する</li> <li>技術を吟味し、その活用や創造を考える</li> </ul> |
|     |                  | （２）生物育成（仮称）                                                                                                                                                              | （２）生物育成（仮称）                                                                                                                                                                         |
|     |                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                              |
|     |                  | 生物の育成環境を調整することで、一定の食料の供給や、環境の保全を実現し、安定的な生活を目指すことを理解する。                                                                                                                   | 環境負荷等に配慮しつつ、育成環境の調整方法を計画し、収量と品質を高めるための方策を判断し実践できる。                                                                                                                                  |
|     |                  | 内容項目例                                                                                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                                                                                               |
|     |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>生物育成の技術の役割と特性の理解</li> <li>データを利用した環境調整と育成計画</li> <li>状況に応じた管理作業</li> <li>生物育成の技術と生活や社会、環境との関係の理解</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>生物育成の技術の仕組みと取扱いを考え表現する</li> <li>技術の正負の影響を踏まえて、問題を見い出して課題を設定し、データ等を参考に生物の育成環境を人為的に調整する方法を計画し、作業を実行する</li> <li>技術を吟味し、その活用や創造を考える</li> </ul>   |
|     |                  | （３）エネルギー変換（仮称）                                                                                                                                                           | （３）エネルギー変換（仮称）                                                                                                                                                                      |
|     |                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                              |
|     |                  | エネルギーを変換することで、人の作業を助け、発電電や交通等の生活基盤の利便性につながることを理解する。                                                                                                                      | 経済性等に配慮しつつ、エネルギーを変換する仕組みを設計し、安全で安定した動作を製作し表現できる。                                                                                                                                    |
|     |                  | 内容項目例                                                                                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                                                                                               |
|     |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー変換の技術の役割や特性の理解</li> <li>シミュレーションを用いた回路や機構の設計とCADの操作</li> <li>組み立て、実装、保守・点検の技能</li> <li>エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関係の理解</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー変換の技術の仕組みと取扱いを考え表現する</li> <li>技術の正負の影響を踏まえて、問題を見い出して課題を設定し、シミュレーションを利用してエネルギー変換する仕組みを設計し、製作する</li> <li>技術を吟味し、その活用や創造を考える</li> </ul>    |
|     |                  | （４）総合実習（仮称）                                                                                                                                                              | （４）総合実習（仮称）                                                                                                                                                                         |
|     |                  | 統合的な理解                                                                                                                                                                   | 総合的な発揮                                                                                                                                                                              |
|     |                  | 情報技術を基盤とする多様な技術が組み合わさり構築された仕組みを評価・改善することで、豊かな生活や社会につながることを理解する。                                                                                                          | 安全性や環境負荷、経済性等に配慮しつつ、多様な技術を組み合わせ、問題を解決するための仕組みを探究的に設計し表現できる。                                                                                                                         |
|     |                  | 内容項目例                                                                                                                                                                    | 内容項目例                                                                                                                                                                               |
|     |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>問題と課題の定義</li> <li>技術の統合</li> <li>技術の役割と影響</li> <li>アイデアの創出と検証</li> <li>成果の評価と改善・修正</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>技術の正負の影響を踏まえて、社会から問題を見い出して課題を設定し、情報技術を基盤として技術を統合することで解決するモデルを設計し、具体化する</li> <li>技術を吟味し、その活用や創造を考える</li> </ul>                                |

# 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                                                                         | 思考力、判断力、表現力等                                                                              | 学びに向かう力・人間性等                                                                                                                                                                                                          |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術の仕組みや情報の特性、情報技術を活用して問題を見・解決したり価値を創造したりする方法などを理解し技能を身に付ける。</li> <li>社会における情報技術の役割や関係する法や制度、倫理的課題への理解を深める。</li> </ul> | <p>生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり価値を創造したりする力を養う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会を情報の観点から進んで捉えて関心をもち問題を発見し、他者の多様な視点を取り入れながら協働的に解決策や表現を考えるとともに、試行錯誤と評価・改善を重ね、次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。</li> <li>情報技術の活用を通して、包摂的で豊かな社会の実現に向けて責任ある行動を取ろうとする情意・感性を養う。</li> </ul> |

## 見方・考え方

- 事象を、情報とその結び付きの視点から正負両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、価値を創造したりすること



## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                                                                                 | 思考力、判断力、表現力等                                                                                           | 学びに向かう力・人間性等                                                                                                                                                                                                          |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータや情報通信ネットワークの仕組み、情報の特性、情報デザイン、データの活用、アルゴリズム、AI、情報セキュリティなどを理解し技能を身に付ける。</li> <li>情報技術と社会とのかかわり、関係する法や制度への理解を深める。</li> </ul> | <p>生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、論理的に分析・整理し、根拠に基づいて問題の解決や価値の創造につなげる力を養う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会を情報の観点から進んで捉えて関心をもち問題を発見し、他者の多様な視点を取り入れながら協働的に解決策や表現を考えるとともに、試行錯誤と評価・改善を重ね、次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。</li> <li>情報技術の活用を通して、包摂的で豊かな社会の実現に向けて責任ある行動を取ろうとする情意・感性を養う。</li> </ul> |

### 見方・考え方

- 事象を、情報とその結び付きの視点から正負両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、価値を創造したりすること

## 資質・能力の全体構造（素案）

|      |     |                             | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                            | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                           |
|------|-----|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | 情報Ⅰ | (1) 情報の仕組みと社会との関わり（仮称）      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                 |
|      |     |                             | 情報技術の仕組みや社会との関係を全体的に捉えることで、安全や社会的責任に配慮して情報を活用できることを理解する。                                                                                                                                                                          | 生活や社会を支える情報技術の正負の側面に配慮し、社会的責任を考慮して情報を活用できる。                                                                                                                                            |
|      |     |                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                  |
|      |     |                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータ・ネットワークの基本構成</li> <li>AI等の先端技術の利点と限界</li> <li>個人情報保護、著作権</li> <li>情報セキュリティ、モラル</li> <li>情報技術と社会や生活とのかかわり</li> <li>情報の信頼性や妥当性</li> <li>偽情報・誤情報といった情報のリスク</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報処理や通信の仕組みから利便性とリスクを多面的に考えること</li> <li>コンピュータや通信技術の発展が社会に与える影響と活用の可能性を考えること</li> <li>情報技術の活用において他者の権利や社会的責任を考慮し、安全で公正な行動を考えること</li> </ul>      |
|      | 情報Ⅰ | (2) 情報デザインとデザイン思考（仮称）       | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                 |
|      |     |                             | 情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく情報を表現することが、受け手の円滑な理解や行動を促すことを理解する。                                                                                                                                                                      | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって適切な理解や行動を促す情報を吟味・設計・表現し、評価・改善できる。                                                                                                                           |
|      |     |                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                  |
|      |     |                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報表現の構造</li> <li>ユーザー中心設計の基礎</li> <li>ユーザビリティ、アクセシビリティ</li> <li>情報デザインに関するツールや技法</li> <li>生成AIを活用した文章・画像・音声生成</li> <li>デザイン思考の考え方</li> <li>プロトタイピングの基本</li> <li>フィードバックの収集と評価方法</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的やユーザーの課題を整理し、解決策を設計・表現すること</li> <li>目的に応じたツールや方法を検討し、適切な表現を論理的に構成すること</li> <li>フィードバックを根拠に改善すること</li> </ul>                                   |
|      | 情報Ⅰ | (3) データ分析とモデル化、シミュレーション（仮称） | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                            | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                 |
|      |     |                             | データを整理・分析して批判的に関係を見いだしたり、事柄の特徴を抽出して単純化したりすることが、未知の傾向や結果の予測につながることを理解する。                                                                                                                                                           | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、データから見いだした関係や単純化した事柄から傾向や結果を予測し、批判的に傾向や結果を予測し、判断・表現できる。                                                                                                               |
|      |     |                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                                                             | 内容項目例                                                                                                                                                                                  |
|      |     |                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>データの種類や特徴</li> <li>表やグラフを用いた可視化の方法</li> <li>分析結果の整理</li> <li>モデル化の方法</li> <li>シミュレーションの方法</li> </ul>                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>必要なデータを判断して収集・整理し、分かりやすく可視化すること</li> <li>データの妥当性を判断すること</li> <li>複数のデータを比較・分析し、結果の意味を解釈すること</li> <li>現実の事象をモデル化し、シミュレーションを踏まえて判断すること</li> </ul> |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|                           |                                                                                                                                        | 知識及び技能                                                                                                                                             | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                             |
|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校                      | 情報Ⅰ                                                                                                                                    | 統合的な理解                                                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                                                                   |
|                           |                                                                                                                                        | 情報システムの構成を捉え、手順や条件に分解することで、その妥当性や改善可能性を判断できることを理解する。                                                                                               | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報システムを手順や条件に分解して表現し、評価・改善できる。                                                                          |
|                           |                                                                                                                                        | 内容項目例                                                                                                                                              | 内容項目例                                                                                                                    |
|                           | (4) アルゴリズムとシステム開発（仮称）                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"><li>アルゴリズムを表現・記述する方法</li><li>プログラミングの方法</li><li>小規模なシステムの設計・開発、テスト・デバック</li><li>プログラムの改善</li></ul>               | <ul style="list-style-type: none"><li>ユーザーへの影響を考慮し、処理の手順や条件を工夫してアルゴリズムを表現すること</li><li>システムを開発し、実装結果を分析して改善すること</li></ul> |
|                           |                                                                                                                                        | 統合的な理解                                                                                                                                             | 総合的な発揮                                                                                                                   |
|                           |                                                                                                                                        | 一定の制約の下でプロジェクトを管理・進行して評価・改善し、目的を達成するプロセスを、情報技術の活用により探究的に試行することで、実社会における課題解決や価値創造できることを理解する。                                                        | プロジェクトを管理・進行して評価・改善し、目的を達成するプロセスを、情報技術の活用により探究的に試行することを通して、実社会の課題の解決や価値を創造する方策を考察し表現できる。                                 |
| (5) 情報及び情報技術を活用した課題探究（仮称） | 内容項目例                                                                                                                                  | 内容項目例                                                                                                                                              |                                                                                                                          |
|                           | <ul style="list-style-type: none"><li>プロジェクト・マネジメントの方法</li><li>情報デザイン、データ分析、アルゴリズムやシステムの考え方などを組み合わせて、情報を収集・整理・分析し、検証・改善を行う方法</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>生活や社会の課題解決について、他者と協働しながら探究的に進めること</li><li>情報技術を活用して課題解決や価値創造に向けた検証や改善を行うこと</li><li>成果をわかりやすく発信すること</li></ul> |                                                                                                                          |

## 高等学校各科目の目標（素案）

### 目標

|      | 知識及び技能                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                            | 学びに向かう力・人間性等                                                                                                                                                                                                          |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスやAI、デザイン、システムなどの理解を発展的に深め技能を身に付ける。</li> <li>情報技術が社会の発展にもたらす影響、関係する法や制度への理解を深める。</li> </ul> | <p>生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、論理的・構造的に分析・整理し、根拠に基づいて問題の解決や価値を創造する力を養う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会を情報の観点から進んで捉えて関心をもち問題を発見し、他者の多様な視点を取り入れながら協働的に解決策や表現を考えるとともに、試行錯誤と評価・改善を重ね、次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。</li> <li>情報技術の活用を通して、包摂的で豊かな社会の実現に向けて責任ある行動を取ろうとする情意・感性を養う。</li> </ul> |

### 見方・考え方

- 事象を、情報とその結び付きの視点から正負両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、価値を創造したりすること

# 資質・能力の全体構造（素案）

|      |                       | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                                           | 思考力、判断力、表現力等                                                                                                                                                                                              |
|------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校 | データサイエンス<br>(仮称)      | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                    |
|      |                       | 多様なデータを整理・分析して得られる新しい傾向や予測を批判的に考察し、社会的責任に配慮した課題解決の方策を見いだせることを理解する。                                                                                                                                                               | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、データを整理・分析して得られた傾向や予測を批判的に考察し、社会的責任を考慮して課題解決の方策を判断できる。                                                                                                                                    |
|      |                       | 内容項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスによる課題解決</li> <li>データハンドリング</li> <li>データ構造</li> <li>プログラミングを用いたデータ処理</li> <li>時系列・テキスト・画像データの分析</li> <li>種類に応じた分析手法</li> <li>複数の分析結果の整理・統合方法</li> </ul>                      | 内容項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>データや処理方法を判断し、プログラミングにより分析すること</li> <li>データの信頼性を判断すること</li> <li>適切なデータ分析手法を選択し、結果を基に課題の本質を分析すること</li> <li>モデルやデータ分析を活用して本質を解析し、最適で実行可能な解決策を考察すること</li> </ul>  |
|      | (2) コンテンツデザイン<br>(仮称) | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                    |
|      |                       | 情報を吟味・設計・表現し、評価・改善を繰り返すことで、情報の受け手により良い価値を提供できることを理解する。                                                                                                                                                                           | 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって最適な理解や行動を促す価値ある作品を設計・表現し、評価・改善を繰り返すことができる。                                                                                                                                     |
|      |                       | 内容項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ中心設計による整理と設計</li> <li>情報構造、画面構成、表現方法などを考慮したコンテンツ設計方法</li> <li>ユーザビリティやアクセシビリティなどの観点からコンテンツの評価方法</li> <li>設計・制作・評価・改善を繰り返すプロセスの意義</li> <li>プロトタイプを用いて改善を重ねる方法と制作への活用方法</li> </ul> | 内容項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザーの立場に立って利用場面を想定し、目的に応じた構成や表現を判断して設計すること</li> <li>評価や検証の結果を基に課題を分析し、価値を高める改善策を判断すること</li> <li>ユーザー中心の設計・評価・検証・改善を繰り返し、目的や状況に応じて価値あるコンテンツを制作すること</li> </ul> |
|      | (3) AI<br>(仮称)        | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                                           | 総合的な発揮                                                                                                                                                                                                    |
|      |                       | AIの大量の情報を扱える利点と、偏りやバイアスを生む特性を捉えることで、出力を批判的に評価し、倫理・法・社会の観点を考慮しつつ、利点を十分に生かして活用できることを理解する。                                                                                                                                          | AIの利点や負の側面を捉え、出力を批判的に評価し、倫理・法・社会の観点を考慮して適切に活用できる。                                                                                                                                                         |
|      |                       | 内容項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>機械学習の基本的な仕組み</li> <li>学習データ</li> <li>教師あり学習と教師なし学習の違い</li> <li>AIの活用に伴う倫理的・法的・社会的な課題</li> <li>データの偏りやバイアスがAIの判断へ与える影響</li> <li>AIを安全かつ適切に活用するためのガバナンスの考え方</li> </ul>                | 内容項目例 <ul style="list-style-type: none"> <li>AIの特性や限界を踏まえて適切に活用する判断をすること</li> <li>目的や課題に応じて教師あり・教師なし学習を選択し、AIを適切に活用する判断をすること</li> <li>AIの正負の両面に配慮し、社会的影響を踏まえて責任ある活用の在り方を考察し表現すること</li> </ul>              |

## 資質・能力の全体構造（素案）

|                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校                                                                                                                                                                                                                      | 情報Ⅱ                                                                                                                                                                                          | (4) 先端技術と情報システム<br>デザイン(仮称)                                                                                                                                                                                     | 知識及び技能                                                                                                                                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                                                    |
|                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                 | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                          |
|                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                 | 先端技術の、利点の発揮と弊害の抑制のために試作、検証、改善を重ねて実装される特徴を見だし、その効果を批判的に評価しつつ、有効性や限界を判断し、利点を十分に生かして適切に活用できることを理解する。                                                                                                         | 先端技術を活用した情報システムの効果や働きを、その利点や弊害等に配慮して批判的に評価し、有効性や限界を判断して適切に活用、評価・改善できる。                          |
|                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                 | 内容項目例                                                                                                                                                                                                     | 内容項目例                                                                                           |
|                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"><li>先端技術の特徴や社会での活用</li><li>複数の先端技術を組み合わせたシステム設計</li><li>データ活用、AI処理、インタフェース、ネットワークなどを統合したシステム構築</li><li>システム開発の過程における試作、検証、改善の方法</li><li>ユーザ体験の質や社会的影響を踏まえたシステムの評価方法</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>先端技術の特性を踏まえ、社会課題との関係から活用の可能性を判断すること</li><li>社会課題の解決に向けて先端技術を適切に組み合わせ、機能や制約を考慮しながらシステムを構築すること</li><li>複数の先端技術を組合せたシステムの価値を最適な形で表現・発信し、社会課題の解決につながる提案を考えること</li></ul> |                                                                                                 |
|                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                              | (5) 創造的な課題発見・解決の実践(仮称)                                                                                                                                                                                          | 統合的な理解                                                                                                                                                                                                    | 総合的な発揮                                                                                          |
|                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                 | 一定の制約の下でプロジェクトを管理・進行して価値を生み出し、実装後のフィードバックを受けて改善を重ねるプロセスを、情報技術の活用により探究的に実践することで、実社会における課題解決や価値創造できることを理解する。                                                                                                | プロジェクトを管理・進行し、実装後のフィードバックを受けて改善を重ねるプロセスを、情報技術の活用により探究的に実践することを通して、実社会の課題の解決や価値を創造する方策を考察し表現できる。 |
|                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                 | 内容項目例                                                                                                                                                                                                     | 内容項目例                                                                                           |
| <ul style="list-style-type: none"><li>課題の背景や要因を整理する方法</li><li>データ活用、システム構築、コンテンツ制作等の複数のを組合せた実行方法</li><li>実行の過程で得られた結果の検証</li><li>実行と検証を通して課題や改善点を整理する方法</li><li>他者と協働しながら改善を重ねる意義</li><li>改善の結果を踏まえた解決策や成果の整理方法</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>課題を多面的に捉え、情報技術の活用を見通した計画を考えること</li><li>情報技術を適切に組み合わせて計画を実行・検証を行い、課題解決に向けた改善点を考えること</li><li>協働的に探究しながら計画・実行・改善を繰り返し、価値ある成果を創造し、情報技術を用いて表現すること</li></ul> |                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                 |

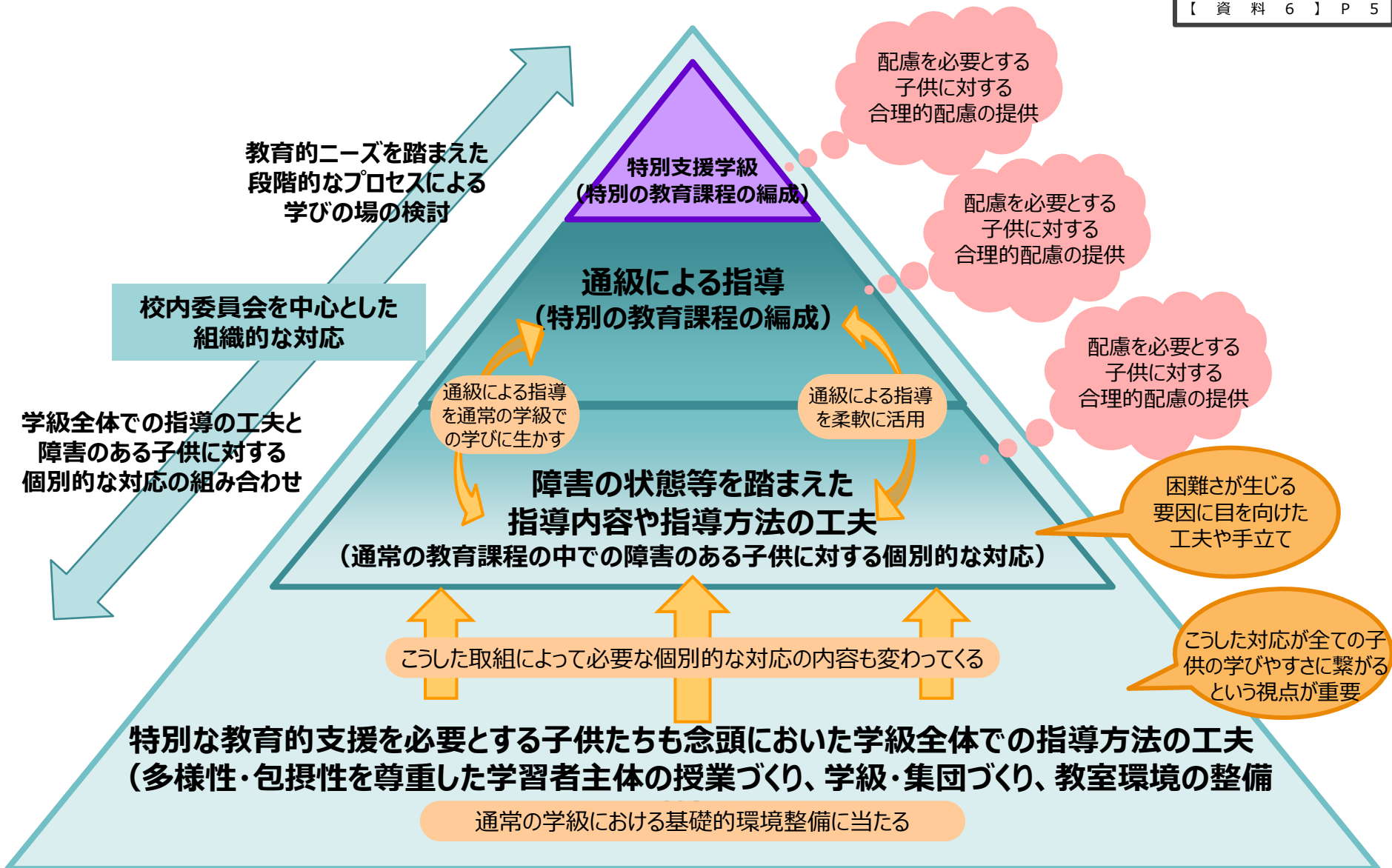




**特別支援教育WGにおける  
議論の補足イメージ及び  
教科の目標、見方・考え方、  
資質・能力の全体構造（素案）**

# 小・中学校に在籍する障害のある子供たちの学習活動の充実に向けた方策 (重層的な指導・支援のイメージ)

令和 7 年 11 月 25 日  
特別支援教育WG(第3回)  
【 資 料 6 】 P 5

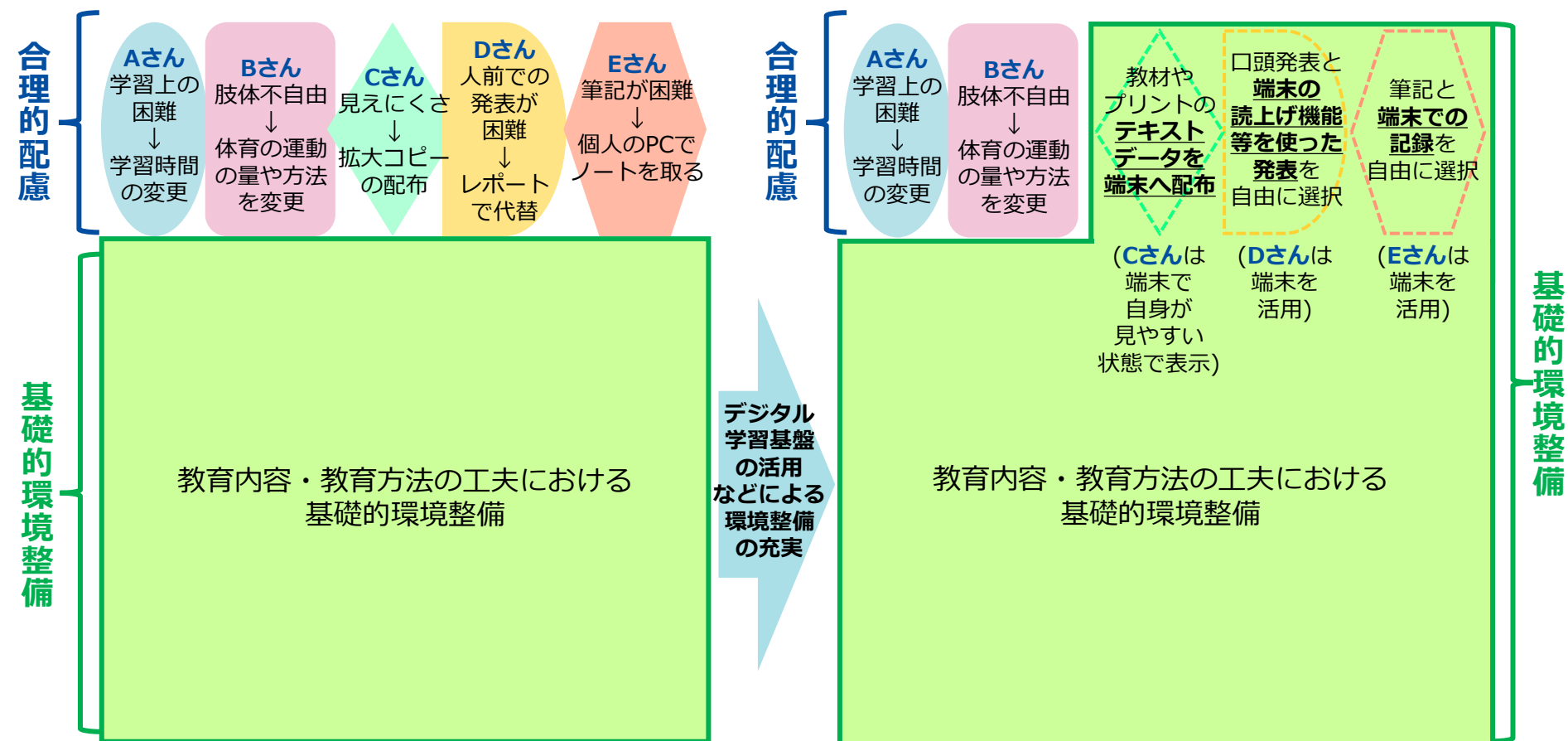


※特別支援学級の対象： 知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、自閉症・情緒障害

通級による指導の対象： 言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、難聴、学習障害、注意欠陥多動性障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱

## デジタル学習基盤の活用などによる基礎的環境整備の充実と 合理的配慮の関係（イメージ）

従来、児童生徒への個別の合理的配慮として提供する必要があった支援の中には、1人1台端末などの活用によって誰でも選択可能な学習方法となり得るものもあり、デジタル学習基盤の活用は合理的配慮の前提となる基礎的環境整備の充実に、特に不可欠なものと考えられる。



# 通級による指導を受ける場合の教育課程の特例的な取扱いの見直し（イメージ）

## 現行制度

通常の  
教育課程

各教科等

通級による指導

通級による指導を  
利用する児童生徒  
の教育課程  
(特別の教育課程)

障害による困難の  
改善・克服を目的  
とした指導 (※)

各教科等 (通常の学級での授業)

(※) 自立活動の内容を参考として目標・内容を設定。

(特に必要があるときは、障害による困難の改善・克服を目的とした指導を、各教科の内容を取り扱いながら行うことが可能)

## 検討の 方向性

通級による指導

通級による指導を  
利用する児童生徒  
の教育課程  
(特別の教育課程)

障害による困難  
の改善・克服を  
目的とした指導

各教科

(障害の状態等を踏まえ  
特に必要がある場合)

各教科等 (通常の学級での授業)

- 障害による困難の改善・克服を目的とした指導として、自立活動を取り入れることを明確に規定
- 自立活動の指導を実施した上で、特例的な措置として、障害による困難がゆえに学習に遅れをきたしている場合や、障害の特性上、特定の内容について通常の学級では学習が困難な場合に、困難さの状態に対する手立てとして、教師の持ち授業時数の増につながらないよう働き方改革にも留意しつつ、通級による指導において、各教科(※)の指導を行うことも可能としてはどうか。その場合、通級による指導が「一部の時間で障害に応じた特別の指導を実施」するものであることを踏まえ、単に補習的に各教科等の内容を教えるのではなく、あくまで個々の障害による学習上の困難の改善・克服を目的とした指導の一部として行うことを条件としてはどうか ※高校においては各教科・科目
- 合理的配慮の提供の観点も踏まえ、障害の状態等を踏まえ必要な場合には、本人・保護者と十分に意思疎通を図りつつ、各教科(※)の目標・内容の一部を、障害の状態等を考慮したものに替えることを可能としてはどうか ※高校においては各教科・科目
- 特例的な取扱いは、設置者の定めるところにより、校内委員会での組織的な検討を踏まえつつ実施するものと整理してはどうか

## 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|     | 知識及び技能                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                        | 学びに向かう力、人間性等                                                                        |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学部 | 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 | 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。 | 児童が、具体的な活動や体験を通して、自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。 |

## 見方・考え方

- 社会及び自然などの対象を自分との関わりの視点から捉え、自分自身や自分の生活について考えること。

高次の資質・能力（素案）

|     | 学校・家庭での基本的な生活習慣<br>（仮）                                                         | 社会での人とのかかわり<br>（仮）                                                          | 社会や地域でのくらし<br>（仮）                                                                           | 身近な自然やものはたらき<br>（仮）                                                               |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
|     | 高次の資質・能力                                                                       | 高次の資質・能力                                                                    | 高次の資質・能力                                                                                    | 高次の資質・能力                                                                          |
| 小学部 | よりよい毎日の生活を送る上で必要となることを考えて行動する中で、健康で規則正しい安全な生活習慣を身に付けることにより、健康で自立した生活を送ることができる。 | 身近な人や社会と関わる上で必要となることを考えて行動する中で、社会で他者と円滑に関わる力を身に付けることにより、社会的に豊かな生活を送ることができる。 | 社会や地域で暮らす上で必要となることを考えて行動したり表現したりする中で、きまりを守って社会資源を適切に利用する力を身に付けることにより、秩序を保った共同的な生活を送ることができる。 | 物事を論理的に考えたり、分かったことを表現したりする中で、関心をもった事象に自ら働きかける力を身に付けることにより、探究的な学びにつながる生活を送ることができる。 |



## 教科の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

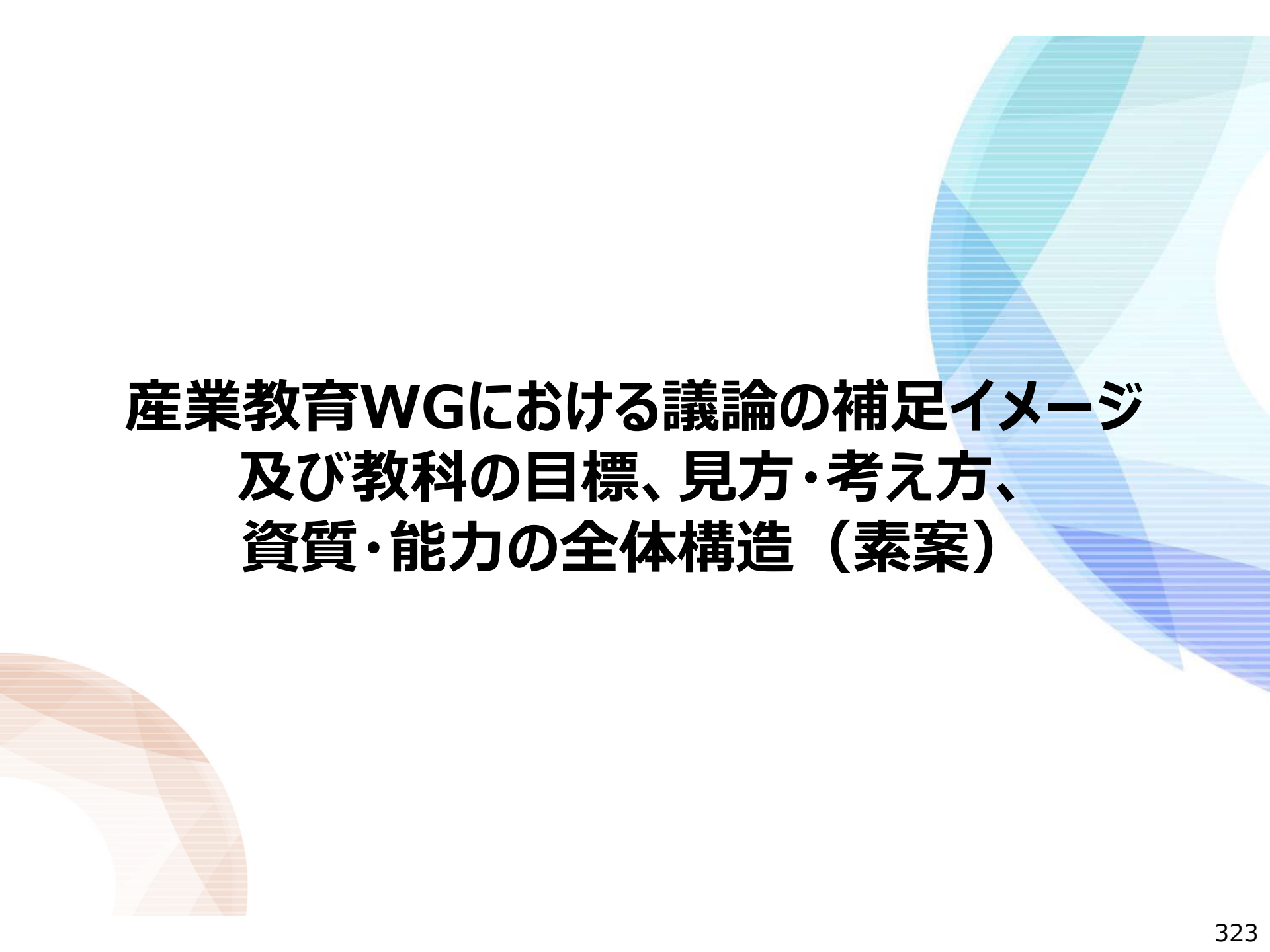
|         | 知識及び技能                                      | 思考力、判断力、表現力等                                                           | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                               |
|---------|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学部・高等部 | 職業に対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。 | 将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自らが、実践的・体験的な活動を通して、知識及び技能を身に付け、それらを活用して職業生活の自立につながるようにする。</li> <li>自分の生活の営み等が地域社会に影響を与えることに気付き、よりよい将来の職業生活の実現に向けて、工夫し考えようとする実践的な態度を養う。</li> </ul> |

## 見方・考え方

- 職業に係る事象を、職業分野で取り扱う内容と将来の生活や生き方をつなげて考え、よりよい職業生活や社会生活を営むための工夫を行うこと。

## 高次の資質・能力（素案）

| 中学部・高等部 | A 職業生活                                                                                                  |                                                                            | B 情報機器・情報技術の活用（仮）                                                             |                                                                                          | C 産業現場等における実習                                                                         |                                                                                     |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|         | 知識及び技能                                                                                                  | 思考力、判断力、表現力等                                                               | 知識及び技能                                                                        | 思考力、判断力、表現力等                                                                             | 知識及び技能                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                                        |
|         | 統合的な理解                                                                                                  | 総合的な発揮                                                                     | 統合的な理解                                                                        | 総合的な発揮                                                                                   | 統合的な理解                                                                                | 総合的な発揮                                                                              |
|         | 働くことの意義や働くために必要な技能についての理解を深め、自己実現を図ったり社会の一員としての役割を果たしたりするために必要な力を身に付けることにより、将来のよりよい職業生活につなげていけることを理解する。 | よりよい職業生活を送るために、実際の場面において必要となる事柄を考えるとともに、自分の長所や課題との関係から、工夫したり改善したりすることができる。 | 情報機器・技術の効果的な活用の仕方や、情報機器・技術の適切な取扱い方を理解することにより、それらを職業生活の充実に結びつける力を身に付けることを理解する。 | 情報機器・技術の活用を通して情報を集めたり整理したりして、自分の思いや考えを表すことにより、職業生活と結び付けた情報機器・技術の活用についての自分の課題を解決することができる。 | 実践的な知識や技能に触れることを通して学習したことを、自分の希望する職業や進路と関係付ける力を身に付けることにより、自分の将来の職業や進路につなげていけることを理解する。 | 働く人と直接関わった経験を通して、自分の成長や自己の進路について考えたり、考えを表したりする力を身に付けることにより、自分の進路についての課題を解決することができる。 |



# **産業教育WGにおける議論の補足イメージ 及び教科の目標、見方・考え方、 資質・能力の全体構造（素案）**

# 学びの深まりや資質・能力を意識した 主体的・対話的で深い学びの一層の充実のための改善

## 現 行

### 第29 建築構造

#### 2 内容

1 に示す資質・能力を身に付けることができるよう、次の〔指導項目〕を指導する。

#### 〔指導項目〕

##### (1) 建築構造の概要

知識・技術

思・判・表

##### (2) 建築材料

・  
・  
・

知識・技術

思・判・表

## 改善イメージ

(現行学習指導要領をもとにしたイメージ)

### 第29 建築構造

#### 2 内容

##### (1) 建築構造の概要

建築物の構造について、技術の進展に対応した建築物の構法や構造の種類、歴史的な発達過程と特徴に着目し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 建築物の構造について、建築構造の種類と特徴を踏まえて理解すること。

イ 建築物の力学的な特性に着目して、建築物の構造に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善すること。

##### (2) 建築材料

建築材料について、種類と特徴、規格と性能に着目し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 建築材料について、種類と特徴、規格と性能を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。

イ 物理的・化学的性質と用途に着目して、建築材料に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善すること。

## 各教科における、各領域・分野における学びの体系の整理

### 現行

原則履修科目【課題研究等】

卒業年次に履修

選択履修科目（その他専門科目）

領域・分野

領域・分野

領域・分野

...

原則履修科目【基礎的な科目】

入学年次に履修

### 改善案

原則履修科目【課題研究等】

探究的・実践的な学びの積み重ね

選択履修科目（その他専門科目）

領域・分野

学習の深まり・積み重ね

領域・分野

学習の深まり・積み重ね

領域・分野

学習の深まり・積み重ね

...

領域・分野の整理、学びの関連性・可視化

原則履修科目【基礎的な科目】

入学年次に履修

## 産業教育の目標、見方・考え方（素案）

## 目標

|      | 知識及び技能                                                                                | 思考力、判断力、表現力等                                                          | 学びに向かう力、人間性等     |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|------------------|
| 産業教育 | 各職業分野について社会的な意義や役割を踏まえ、体系的・系統的に理解するとともに、各職業分野の発展及び職業人としての自己の成長のために必要となる技能を身に付けるようにする。 | 各職業分野に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | ※「別紙 1」を踏まえ更に検討。 |

※産業教育の目標、見方・考え方を踏まえ、各教科において更に検討。

## 見方・考え方

- 社会や産業に関する事象を、職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、職業人としての自己の成長と、社会や産業の発展につなげること。

## ＜各教科における見方・考え方の整理＞

|    |                                                                           |
|----|---------------------------------------------------------------------------|
| 農業 | 農業や農業関連産業に関する事象を、生産・環境・資源の統合的な視点で捉え、職業人としての自己の成長と、農業や農業関連産業の持続的な発展につなげること |
| 工業 | 工業に関する事象を、よりよいものづくりを創出する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、社会の発展につなげること                  |
| 商業 | 企業活動に関する事象を、利益の追求と社会的責任の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、ビジネスの持続的な発展につなげること            |
| 水産 | 水産や海洋に関する事象を、海洋資源を持続的に利用する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、水産業及び海洋関連産業の持続的な発展につなげること   |
| 家庭 | 生活産業に関する事象を、生活の質の向上の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、生活産業の発展につなげること                    |
| 看護 | 健康に関する事象を、当事者の考えや健康レベルの視点で捉え、職業人としての自己の成長と、より健康的な生活の実現や保健医療の発展につなげること     |
| 情報 | 情報に関する事象を、課題解決や価値創造の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、情報及び情報技術を活用したよりよい社会の実現につなげること     |
| 福祉 | 日常生活に関する事象を、人間の尊厳と自立の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、地域共生社会の推進につなげること                 |



# 原則履修科目（基礎的な科目）の目標（素案）

## 目標

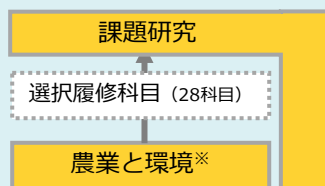
|      | 知識及び技能                                                                                    | 思考力、判断力、表現力等                                                              | 学びに向かう力、人間性等     |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 基礎科目 | 各職業分野について社会的な意義や役割を踏まえ、体系的・系統的に理解するとともに、各職業分野の発展及び職業人としての自己の成長のために必要となる基礎的な技能を身に付けるようにする。 | 各職業分野に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する基礎的な力を養う。 | ※「別紙 1」を踏まえ更に検討。 |

※産業教育の目標を踏まえ、各教科・科目において更に検討。

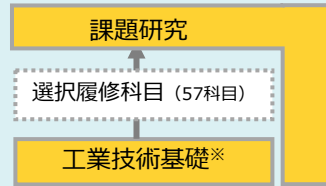
## 職業教科・科目の全体構成

（科目構成は現在検討中であるため、現行学習指導要領における科目を前提とした整理）

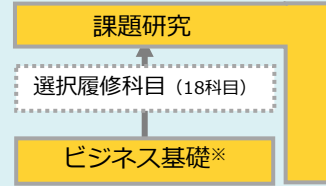
### 農業科：30科目



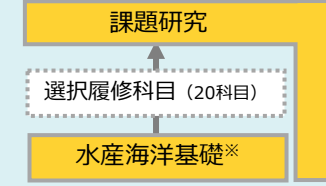
### 工業科：59科目



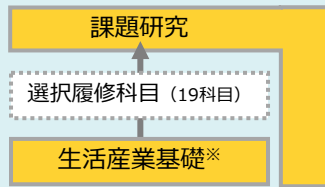
### 商業科：20科目



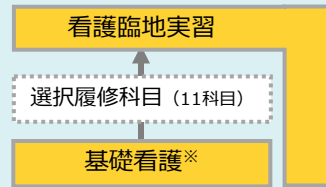
### 水産科：22科目



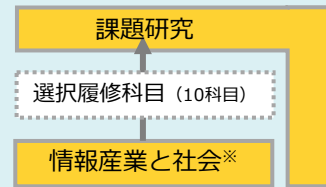
### 家庭科：21科目



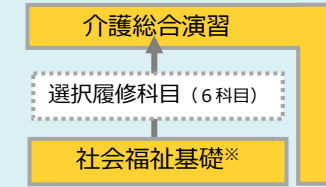
### 看護科：13科目



### 情報科：12科目



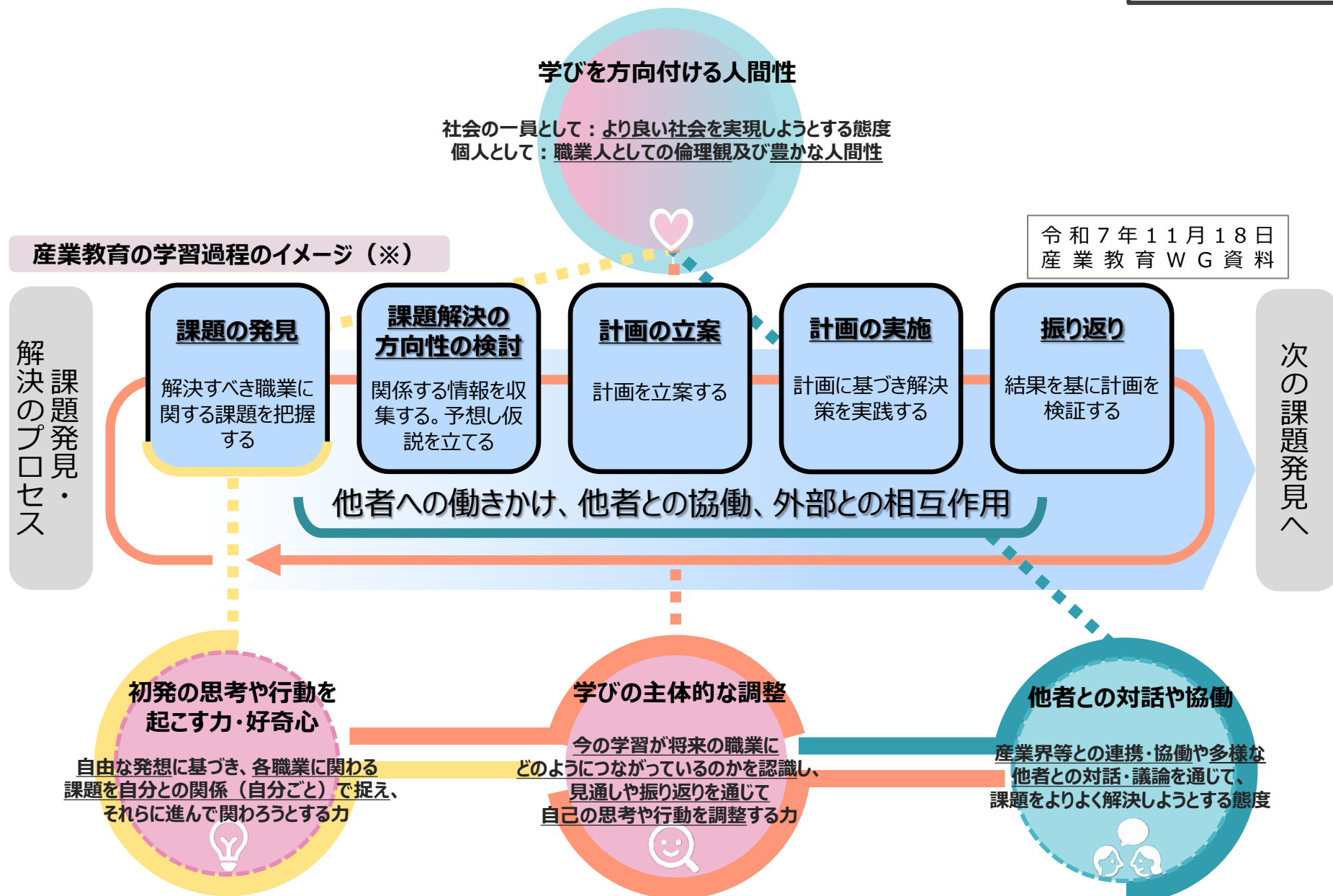
### 福祉科：8科目



※各教科の原則履修科目（基礎的な科目）

# 産業教育における「学びに向かう力、人間性等」の整理イメージ

令和7年11月18日  
産業教育WG（第2回）  
【資料3】P14



※幼稚園、小学校、中学校高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）（別添15-4）（平成28年12月21日 中央教育審議会）をもとに作成

## 職業に関する各教科における原則履修科目（基礎的な科目）の資質・能力ベースでの記述の柱立てのイメージ

**3つの柱立てのイメージを踏まえ、各教科の学習内容の状況に応じて指導項目を柔軟に設定。**

### （1）各産業の社会的な意義や役割

〇〇（産業名）が私たちの暮らしに果たしている役割について、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）〇〇（産業名）は、環境や文化と密接に関わりながら発展してきたことを理解すること。

（イ）〇〇（産業名）を支える技術の特色を理解すること。

（ウ）環境や自然、生活や文化との調和など、〇〇（各産業）の動向について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）これからの〇〇（各産業）の在り方について、実践的・探究的な活動を通して考察すること。

### （2）各教科で学習する内容の概括

〇〇（産業名）及び〇〇関連産業について、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）●●（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

（イ）■（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

（ウ）◆（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）□□に関する課題について、科学的な根拠をもって探究することを通して、合理的、創造的に解決策を見いだして表現すること。

### （3）教科全体を通じた実践的・探究的な学習

実践的・探究的な学習を進めることについて、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）実践的・探究的な学習の方法と進め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）自分で課題を立て、科学的な根拠をもって探究し、表現すること。

※本記述はイメージであり、今後本柱立てのイメージをもとに各教科においてさらに検討。

## 高次の資質・能力（素案）

|                    |                        | 知識及び技能                                                                                       | 思考力、判断力、表現力等                                                                      |
|--------------------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
|                    |                        | 統合的な理解                                                                                       | 総合的な発揮                                                                            |
| 原則履修科目<br>(基礎的な科目) | (1) 各産業の社会的な意義や役割      | 我が国において各産業が果たしてきた意義や役割、その技術を学習することで、当該産業を継承・発展・創造していくことが、私たちの暮らしをよりよくすることにつながることを理解する。       | これからの我が国の各産業の在り方に関する課題を発見し、それらを取り巻く諸問題や今後の可能性について、科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に考察することができる。 |
|                    | (2) 各教科で学習する内容の概括      | 各産業の各分野に必要な基礎的な知識や技能の習得に取り組むことで、各産業の全体像を把握するとともに、必要となる知識や技能を高め続けていくことが、よりよい課題解決につながることを理解する。 | 地域の実態を踏まえながら各産業の各分野に関する課題を発見し、それらを科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に解決することができる。                 |
|                    | (3) 教科全体を通じた探究的・実践的な学習 | 繰り返し課題解決に取り組むことで、未知の課題に直面しても創造的な解決につなげることができることを理解する。                                        | 各産業に関する課題を主体的に発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決に向けた選択を行うことができる。  |